

練馬区不登校に関する実態調査 報告書

令和 4 年（2022 年）11 月

練馬区教育委員会

目次

第1章 調査の概要	1
1-1 調査の背景	1
1-2 調査の目的と種類	2
1-3 調査の実施方法等	3
1-4 練馬区不登校対策会議における検討および学術研究者の協力	6
1-5 集計・分析に関する留意事項	7
第2章 不登校を経験した生徒および保護者へのアンケート調査（単純集計）	8
2-1 一次調査の回答者の属性	8
2-2 不登校の状況	11
2-2-1 学校を休み始めた時期、休んでいた日数	11
2-2-2 学校を休み始めたときのきっかけ	13
2-2-3 学校を休んでいたころの気持ち	19
2-2-4 困っていたこと、必要としていた手助け	22
2-2-5 保護者から見た中学校3年生のときの子供の様子	26
2-2-6 保護者から見た子供の病気や障害等の状況	27
2-3 不登校であったときの支援の利用状況と評価	31
2-3-1 中学校3年生のときに利用等があったもの、利用等に対する評価	31
2-3-2 保健室や相談室などの別室登校の利用状況	35
2-3-3 スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談状況	38
2-3-4 適応指導教室（トライ）の利用状況	41
2-3-5 民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）の利用状況	46
2-3-6 スクールソーシャルワーカーへの相談状況	48
2-3-7 保護者からの評価	51
2-4 中学校卒業後の状況	55
2-4-1 中学校卒業後の進路	55
2-4-2 中学校を卒業してからの困りごと、必要とした手助け等	60
2-4-3 自分を理解してくれる人の存在	64
2-4-4 現在の生活状況に対する認識	67
2-4-5 ICT 機器を活用した学習の経験、学習方法に関する考え	71
2-4-6 保護者から見た現在の子供の様子	73
2-5 今後の展望等	74
2-5-1 将来に対する夢や希望	74
2-5-2 不安や悩みごと、必要とする手助け	76
2-5-3 保護者が必要とする手助け	78

第3章 不登校を経験した生徒および保護者へのアンケート調査（クロス集計）	79
3-1 クロス集計の考え方、結果の概要	79
3-2 不登校当時の状況と様々な支援	81
3-2-1 学校を休み始めたきっかけと利用した相談・支援	81
3-2-2 学校を休み始めたきっかけとほしかった手助け	83
3-2-3 学校を休みがちだったことの感想と利用した相談・支援	85
3-2-4 利用した相談・支援と理解者の有無	87
3-2-5 利用した相談・支援の評価とほしかった手助け	89
3-3 不登校当時の状況と卒業後の進路	93
3-3-1 学校を休み始めた時期と中学校卒業後の進路	93
3-3-2 利用した支援と中学校卒業後の進路	95
3-4 不登校当時の状況・卒業後の状況と生活満足	97
3-4-1 現在の理解者の有無と最近の生活満足度	97
3-4-2 相談・支援の利用有無と生活満足度	99
3-5 不登校当時の状況・卒業後の状況と将来の夢や目標	104
3-5-1 学校を休み始めた時期と将来の夢や希望の有無	104
3-5-2 相談・支援の利用有無と将来の夢や希望の有無	105
3-5-3 中学卒業後の進路と将来の夢や希望の有無	108
3-5-4 現在の理解者の有無と将来の夢や希望の有無	109
第4章 不登校を経験した生徒へのインタビュー調査	110
4-1 インタビュー調査結果の見方	110
4-2 学校を休み始めたときのきっかけや理由	111
4-3 休んでいたときの状況、不安に思っていたことや困っていたこと等	112
4-4 相談していた場所や利用していた場所	113
4-5 中学校卒業後の状況	115
4-6 将来に関する展望・考え等	117
4-7 ICT 機器を利用した学習の経験や自分に合った使い方	118
4-8 ケースの概要	119
第5章 不登校児童生徒への対応に関する学校アンケート調査	134
5-1 学校の対応	134
5-1-1 会議の開催状況	134
5-1-2 教育相談体制の周知方法・個別相談の対応方法	136
5-1-3 不登校児童生徒の対応にかかる校内研修等の状況	137
5-1-4 スクールカウンセラー・心のふれあい相談員の働き	139
5-1-5 外部機関との連携	140
5-1-6 学習保障の状況	142

5-2 教員の対応.....	143
5-2-1 未然防止の視点で大切と思うこと、対応経験の有無.....	143
5-2-2 不登校児童生徒の対応に際しての課題.....	145
5-2-3 初期対応の時点で必要と思う内容.....	146
5-2-4 中・長期化した児童生徒への対応として必要と思う内容.....	148
5-2-5 不登校児童生徒への対応として必要と思う内容.....	149
第6章 不登校児童・生徒が通う民間の団体・施設に関する調査	150
6-1 団体情報.....	150
6-2 不登校支援に関する活動の概要	153
6-2-1 実施している活動内容、特に力を入れている支援.....	153
6-2-2 学習カリキュラム・教材.....	156
6-2-3 運営・開所の状況	157
6-2-4 受け入れ対象年齢・人数.....	161
6-2-5 会費・入会金等	165
6-2-6 スタッフ・施設の状況.....	167
6-3 利用者の進路に関する状況	170
6-4 学校や行政との連携状況.....	171
第7章 まとめ・考察.....	175
7-1 不登校の実態を把握する試みとして（調査の意義等）	175
7-2 不登校の実態について.....	176
7-2-1 学校を休み始めたときのきっかけ.....	176
7-2-2 学校を休んでいたときに困っていたこと、必要としていた手助け.....	177
7-3 不登校支援の利用状況と評価について	178
7-4 不登校生徒の卒業後の状況について.....	181
7-5 支援の充実について	182
7-6 終わりに.....	185
参考資料.....	186

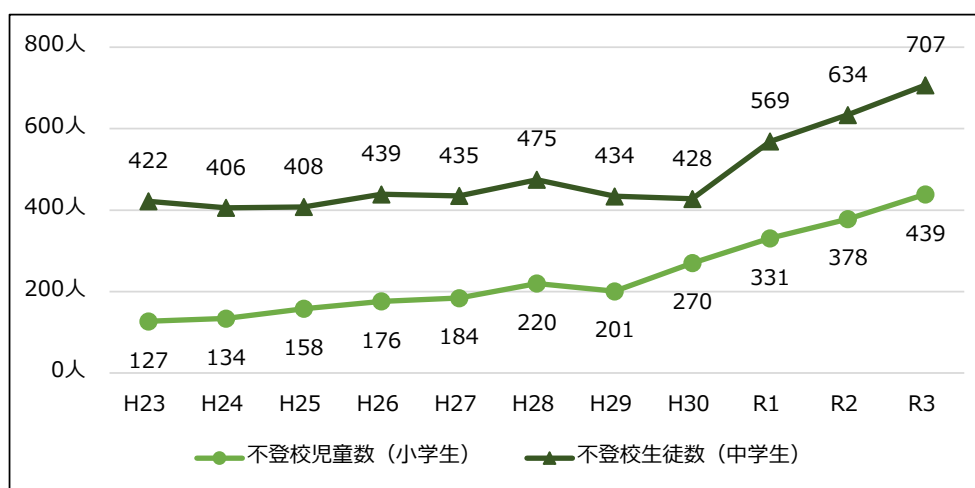
第 1 章 調査の概要

1-1 調査の背景

平成 28 年 12 月（公布）の「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」の成立は、不登校¹児童生徒への支援の大きな転換点となった。同法施行の下、国では、教育機会の確保等に関する施策を総合的に推進するための基本的な指針を策定し、平成 29 年 3 月に策定された基本指針では「不登校は、取り巻く環境によっては、どの児童生徒にも起こり得るもの」とされた。また、文部科学省が令和元年に通知した「不登校児童生徒への支援の在り方について」においては、「不登校児童生徒への支援は、『学校に登校する』という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要がある」として、不登校児童生徒への支援の視点を明確に示した。

区においても、平成 29 年 3 月に、「練馬区教員委員会 不登校対策方針」（以下「方針」という。）を策定し、平成 31 年 4 月には、こうした国の動きや区の事業進捗を反映する形で改定を行った。区では、この方針に基づき、不登校児童生徒数の減少や支援に向けた取組を推進してきたが、不登校児童生徒数は依然として増加傾向にあることから、不登校の多岐にわたる要因の分析や、これまでの取組の効果検証などが必要となった。さらに、社会的な自立に向けた支援を行う上では、区が把握しづらい高校生年代の子供たちの状況を把握した支援も重要となっている。

図表 1-1 練馬区における不登校児童生徒数の推移（平成 23 年度～令和 3 年度）



出典：練馬区「長期欠席児童・生徒調査」

¹ 不登校：文部科学省の定義では「何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況（ただし、病気や経済的理由、新型コロナウイルスの感染回避による場合を除く。）であり、連続または断続して 30 日以上欠席している状態」をいう。

○令和3年度の不登校児童数は439人(出現率は1.31%)、不登校生徒数は707人(出現率は5.23%)となった。令和元年度以降、不登校児童生徒数の増加傾向はさらに強くなっており、10年前と比べると小学生で約3.5倍、中学生で約1.7倍に達している。

○出現率は、在籍児童生徒に占める不登校児童生徒の割合であり、おおよそ小学生76人に1人、中学生19人に1人の割合で不登校になっている。

○令和3年度の全国および東京都全体の出現率と比較すると、小学生は東京都(1.33%)よりは低い
が全国(1.30%)よりは高く、中学生も東京都(5.76%)よりは低い
が全国(5.00%)よりは高い水準となっている²。

1-2 調査の目的と種類

本調査の目的は、不登校の実態を把握し、これまで区が行ってきた不登校対策の効果等について検証するとともに、調査結果を今後の安心な学校づくりに向けて、不登校児童生徒への支援の充実や取り組むべき施策を検討するための基礎資料とすることである。このため、令和3年度から令和4年度にかけて、不登校を経験した区立中学校卒業生徒への調査をはじめ、下記の5種類の調査を実施した。

図表 1-2 実施した調査の種類・概要

調査名	内容
安心な学校づくりのためのアンケート調査（一次調査）	○平成28年度から令和2年度の5年間に於いて、区立中学校3年生で不登校を経験した方およびその保護者を対象に実施 ○現在の就学等の状況、不登校当時の振り返り（不登校の理由や利用した支援等）を質問し、不登校の実態を把握
安心な学校づくりのための追加アンケート調査（二次調査）	○一次調査で追加調査の協力を得られた方に対して、より詳細なアンケート調査を実施
安心な学校づくりのためのインタビュー調査（二次調査）	○一次調査で追加調査の協力を得られた方に対して、より詳細な聞き取り調査を実施
不登校児童生徒への対応に関する学校アンケート調査	○区立小中学校の学校管理職および教員に対して、不登校に対する学校の取組、教員の対応を把握する調査を実施
不登校児童生徒が通う民間の団体・施設に関するアンケート調査	○区立小中学校の児童生徒が通っていたフリースクール等民間団体・施設を対象に実施 ○各団体等の活動内容や受入れ数、在籍校との連携状況等を把握

² 練馬区の不登校児童生徒数と出現率および東京都の出現率は公立の結果であり、全国の出現率は国公立全体の結果であることに留意が必要である。

1-3 調査の実施方法等

1 安心な学校づくりのためのアンケート調査（一次調査）

(1) 調査対象者

平成 28 年度から令和 2 年度の 5 年間に、中学校 3 年生時に不登校であった練馬区立中学校の卒業生本人およびその保護者

- 総配布数：867 件
- 実配布数（総配布数から郵送戻りを除いた数）：775 件

(2) 調査方法

郵送および Web 調査

(3) 調査期間

令和 3 年 11 月 30 日（火）～ 令和 3 年 12 月 21 日（火）

(4) 回収状況

調査票	有効回答数	回答方法	実配布数を分母とした回収率
本人票	計 188 件	郵送：82 件	24.3%
		Web：101 件	
		面前 ³ ：5 件	
保護者票	計 206 件	郵送：98 件	26.6%
		Web：108 件	

※うち、本人票および保護者票を共に回収しているもの（世帯一致）は 158 件

2 安心な学校づくりのための追加アンケート調査（二次調査）

(1) 調査対象者

一次調査（本人票）の追加調査への協力可否を尋ねた設問において、「アンケートなら協力できる」と回答した方など⁴

- 総配布数：85 件
- 実配布数（総配布数から郵送戻りを除いた数）：84 件

(2) 調査方法

郵送および Web 調査

³ 練馬区の支援機関に来所した方に、直接アンケートの回答をいただいた件数。

⁴ 一次調査では、主に選択肢により回答できる形式を設定したため、二次調査で、支援の利用状況やそれに対する評価等に関して、さらに詳細な情報を把握できるよう、内容を深める自由記述形式の設問を主としたアンケート調査を実施した。なお、「アンケートでも、インタビューでも協力できる」と回答した方には、アンケート調査ではなく、聞き取りによる状況把握を行った（第 4 章を参照。なお、二次調査において対象者は重複していない）。

(3) 調査期間

令和4年2月8日（火）～令和4年3月2日（水）

(4) 回収状況

有効回答数	回答方法	実配布数を分母 とした回収率
計 52 件	郵送：14 件	61.9%
	Web：38 件	

3 安心な学校づくりのためのインタビュー調査（二次調査）

(1) 調査対象者

一次調査（本人票）の追加調査への協力可否を尋ねた設問において、「アンケートでも、インタビューでも協力できる」と回答した方 40 名

(2) 調査方法

対面、電話、またはオンライン会議形式による、1 人当たり約 1 時間のインタビュー調査

(3) 調査期間

令和4年3月4日（金）～令和4年3月22日（火）

(4) 実施状況

調査対象者のうち、改めてインタビュー調査への同意を確認し、日程調整が可能であった方 25 名に対してインタビュー調査を行った。

実施形式	実施件数
対面	16 件
電話	3 件
オンライン会議	6 件

4 不登校児童生徒への対応に関する学校アンケート調査

(1) 調査対象者

練馬区立小中学校および小中一貫教育校の学校管理職および教員（抽出校の常勤の教員で養護教諭含む）を対象として、不登校児童生徒への対応についてアンケートを実施した。

(2) 調査方法

Web 調査

(3) 調査期間

令和4年5月17日（火）～令和4年6月3日（金）

(4) 実施・回答状況

調査内容	回答数
学校管理職を対象とした不登校児童生徒への対応についてのアンケート	小学校 65 校 中学校 33 校 ※小中一貫教育校である大泉桜学園は、小学校・中学校それぞれで 1 校とカウントしている。
教員を対象とした不登校児童生徒への対応についてのアンケート	小学校 抽出校 23 校（679 名対象） 回答数 402 名（回収率 59.2%） 中学校 抽出校 12 校（363 名対象） 回答数 123 名（回収率 33.9%）

5 不登校児童生徒が通う民間の団体・施設に関するアンケート調査

(1) 調査対象者

練馬区立小中学校の児童生徒が通所していたフリースクール等を運営する団体や施設
20 団体⁵

(2) 調査方法

郵送およびメール調査

(3) 調査期間

令和 4 年 6 月 1 日（水）～令和 4 年 6 月 22 日（水）

(4) 回収状況

有効回答数	回答方法	回収率
計 14 件	郵送： 1 件	70.0%
	メール： 13 件	

⁵ 不登校の児童生徒を対象に、学習や様々な活動を行う、学校や、行政が設置している適応指導教室とは異なる機関や施設で、いわゆる「フリースクール」と総称されている団体。「フリースクール」の規模や活動内容は非常に多様である一方、具体的な活動実態を把握することが難しい。そこで、練馬区立小中学校の児童生徒が通所していたフリースクールを対象に、活動内容や受入れ人数、在籍校との連携状況等を把握するための調査を行った。

1-4 練馬区不登校対策会議における検討および学術研究者の協力

本調査の実施および調査報告書の作成については、練馬区不登校対策会議において、令和3年度から令和4年度にかけて、計7回の会議を開催し、検討と協議を進めた上で行った。練馬区不登校対策会議は、練馬区立学校の不登校児童生徒の減少に向け、分析、検証を行い、実効性ある取組を推進するために設置され会議体で、構成員は、練馬区の教育振興部長を委員長、学識経験者を副委員長に、不登校対策に識見を有する者、小学校長、中学校長、教育指導課長、学校教育支援センター所長となっている。

また、本調査のうち、「安心な学校づくりのための調査（一次調査・二次調査）」および「不登校児童生徒が通う民間の団体・施設に関するアンケート調査」の実施に当たっては、調査の信頼性・有効性をより高めるため、次に記載する学術研究者と協定を締結した上で協力を得ている。

具体的には、調査の方法、設問の設定および調査結果の分析に関する助言並びにインタビュー調査におけるインタビュアーとして協力を得た。

- ・加藤 美帆（東京外国語大学総合国際学研究院 教授）
- ・木村 文香（東京家政学院大学現代生活学部現代家政学科 准教授）
- ・酒井 朗（上智大学総合人間科学部教育学科 教授）
- ・保坂 亨（千葉大学教育学部附属教員養成開発センター 教授）
- ・松岡 靖子（川村学園女子大学文学部心理学科 専任講師）

※五十音順 肩書は協定締結時のもの。

1-5 集計・分析に関する留意事項

- アンケート調査の設問には、主に、選択肢から該当するものを一つ選択する単一回答形式の設問と、該当するものを複数選択することが可能な複数回答形式の設問がある。
- 回答の比率（％）は、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、単一回答の設問において各選択肢の回答に関する数値の合計が 100.0%にならない場合がある。
- 回答の比率（％）は、その質問の回答者数を基礎として算出しているため、複数回答形式の設問は全ての比率を合計すると、100.0%を超える場合がある。
- 回答の比率（％）を足し合わせた数値に言及する場合、原則として、小数点以下第 2 位を四捨五入した数値を基に計算を行い、和の小数点第 1 位を四捨五入した数値について言及している。
- 図表内の「n=○○」はその設問についての集計対象件数を示している。

第2章 不登校を経験した生徒および保護者へのアンケート調査 (単純集計)

2-1 一次調査の回答者の属性

一次調査の本人票の回答者は、「あて名の練馬区立中学校卒業生の方本人」が約9割、「代理の方」が約1割であった（図表 2-1-1）。「代理の方」は8割以上が「母親」（図表 2-1-2）で、代理回答の理由として、「本人が当時のことを思い出したくないから」などがあった。

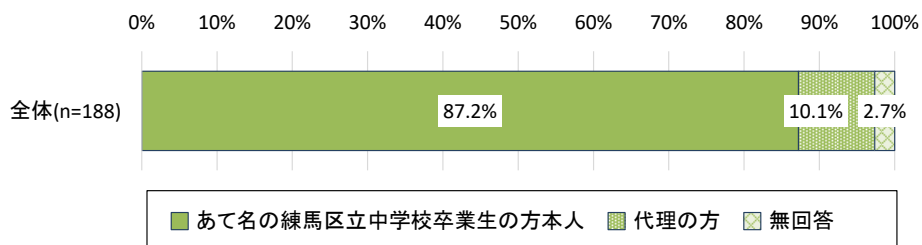
本人票回答者の性別は男女で同一の割合であった（図表 2-1-3）。また、卒業年度が新しくなるにつれて、回答者数が増える傾向があった（図表 2-1-4）。

保護者票の回答者は、9割以上が「母親」であった（図表 2-1-5）。

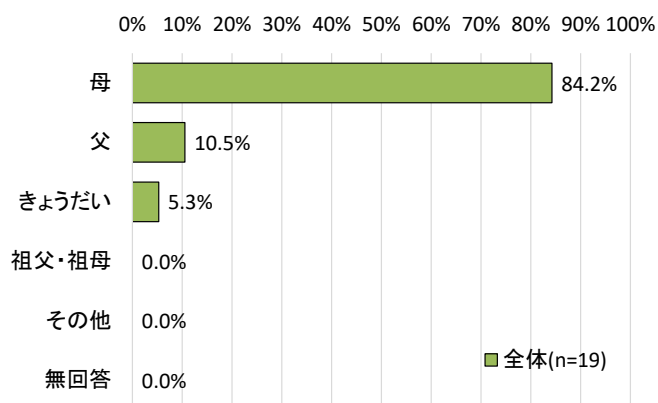
【一次本人・問1】（単一回答）

このアンケートに回答いただくのは、あて名の練馬区立中学校卒業生の方本人ですか。代理の方が回答する場合には、差しつかえなければ、どなたが回答いただいたかや、代理で回答される理由についても教えてください。

図表 2-1-1 アンケート調査の回答者（一次本人）



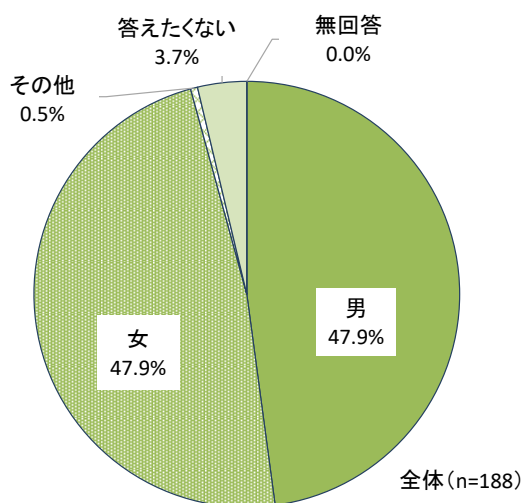
図表 2-1-2 代理での回答者(一次本人)⁶



【一次本人・問 2】(単一回答)

あなたの性別をお答えください。⁷

図表 2-1-3 アンケート対象者の性別(一次本人)



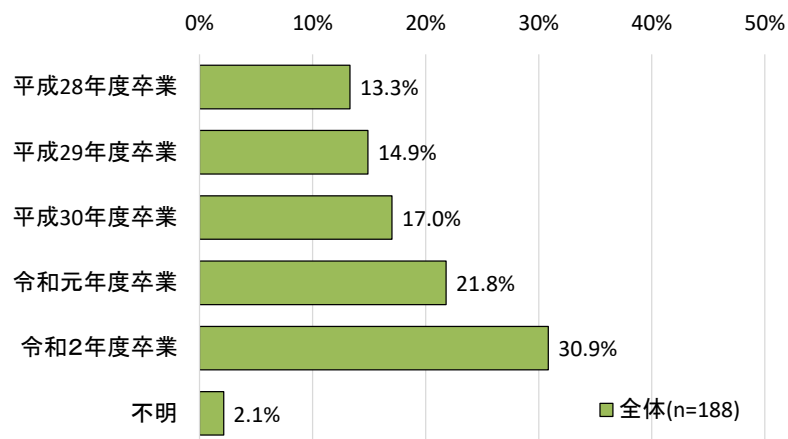
⁶ 選択肢の順番を、回答割合が高い順に掲載しているグラフがある。そのため、選択肢の順番が調査票と異なる場合がある。(以下同様)

⁷ 代理回答の場合であっても、「あなた」は、アンケート対象の練馬区立中学校卒業生の方のことを指す。(以下同様)

【一次本人・問3】（数値で回答）

あなたの生まれた年月をお答えください。⁸

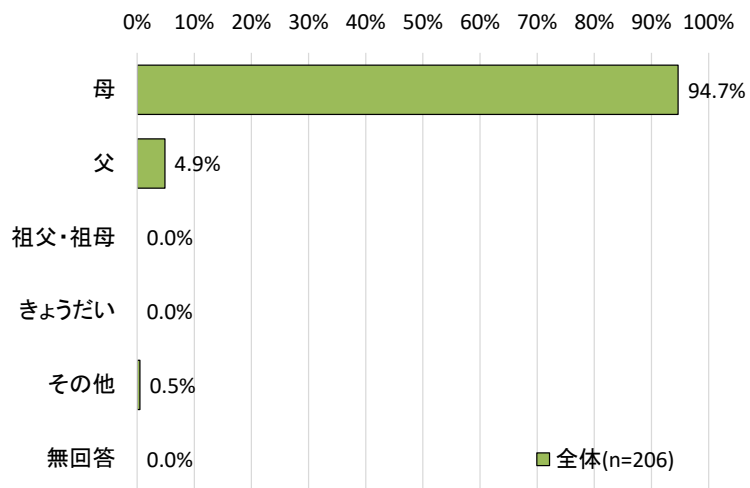
図表 2-1-4 アンケート対象者の卒業年度（一次本人）



【一次保護者・問1】（単一回答）

このアンケートに回答いただくのは、あて名のお子さん（練馬区立中学校卒業生の方）からみてどなたにあたりますか。

図表 2-1-5 保護者票の回答者（一次保護者）



⁸ 生年月日の回答から卒業年度を判別した。

2-2 不登校の状況

2-2-1 学校を休み始めた時期、休んでいた日数

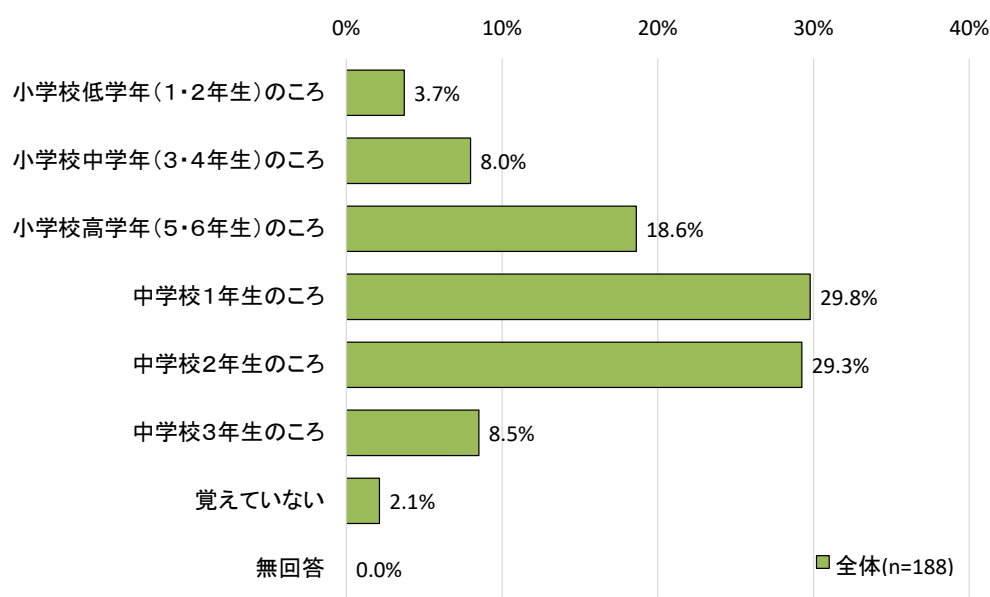
学校を休み始めた時期に関しては、「中学校 1 年生のころ」、「中学校 2 年生のころ」が多く、合わせて約 6 割となっている。他方で、小学生のころから休み始めている方も約 3 割いる。この回答は保護者票でもほぼ同様である（図表 2-2-1-1、図表 2-2-1-2）。

欠席日数は、学年が上がるにつれて長くなる傾向にあり、中学校 3 年生のときには、半数以上の方が 1 年間で「180 日以上」欠席していた（図表 2-2-1-3）⁹。

【一次本人・問 10】（単一回答）

あなたが学校をよく休み始めたのは、何年生のころですか。

図表 2-2-1-1 学校を休み始めた時期（一次本人）

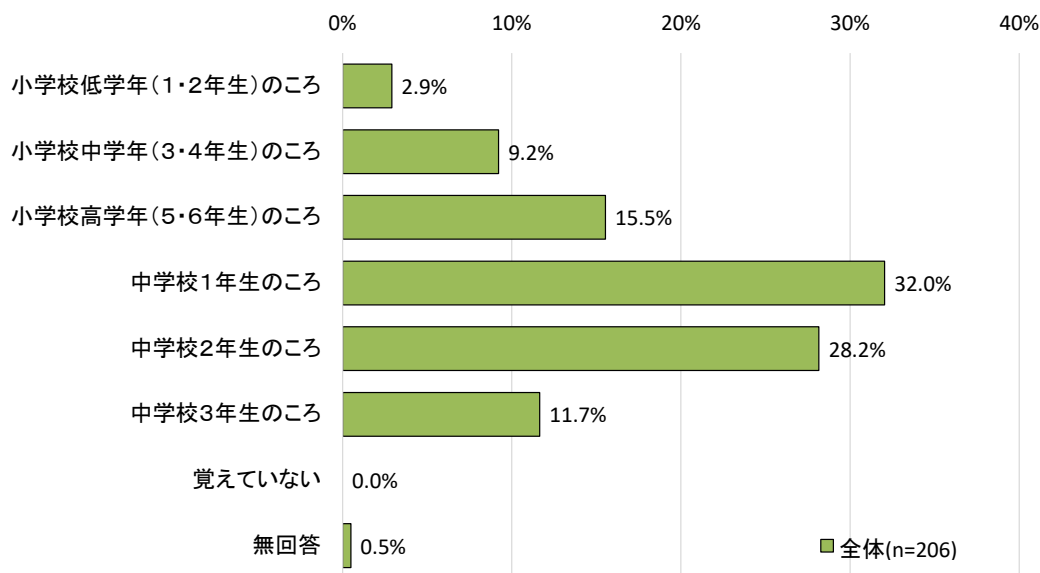


⁹ 今回の調査では、中学校 3 年生時に不登校であった方を対象としている点に留意が必要である。なお、欠席日数については、不登校ではなかった学年も含まれることや、保護者の認識による回答のため、欠席日数が「0 日～30 日くらい」と、本来の不登校の定義には該当しない場合の回答結果も得られている。

【一次保護者・問3】（単一回答）

お子さんが学校をよく休み始めたのは、何年生のころですか。

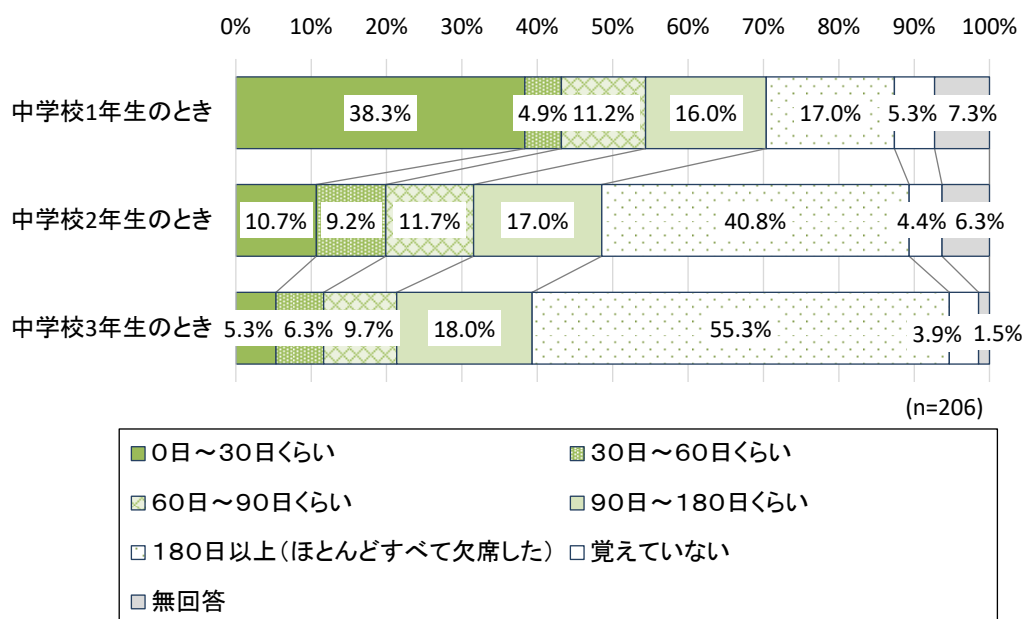
図表 2-2-1-2 学校を休み始めた時期(一次保護者)



【一次保護者・問2】（単一回答）

お子さんが中学生のとき、1年間で学校を欠席した日数（病気やけがによる欠席や夏休み等の長期休暇中は除く）をそれぞれお答えください。

図表 2-2-1-3 中学校での欠席日数(一次保護者)



2-2-2 学校を休み始めたときのきっかけ

学校を休み始めたきっかけは多岐にわたる。本人の回答として最も割合が高かったのは「身体の不調」(50%)で、次いで「学校やクラスに合わなかった」(43%)、「友達のこと(いやがらせや、いじめがあった)」(38%)、「先生のこと」(35%)となっている(図表 2-2-2-1)。

保護者の回答としては、「身体の不調」、「友達のこと(いやがらせや、いじめがあった)」の回答割合が高い傾向は本人と同様であった。一方で「学校やクラスに合わなかった」は本人よりも低く(27%)、反対に「先生のこと」は本人よりも高かった(42%) (図表 2-2-2-2)。

本人・保護者ともに約9割が「学校のこと」のいずれかがきっかけと回答した(図表 2-2-2-3)。

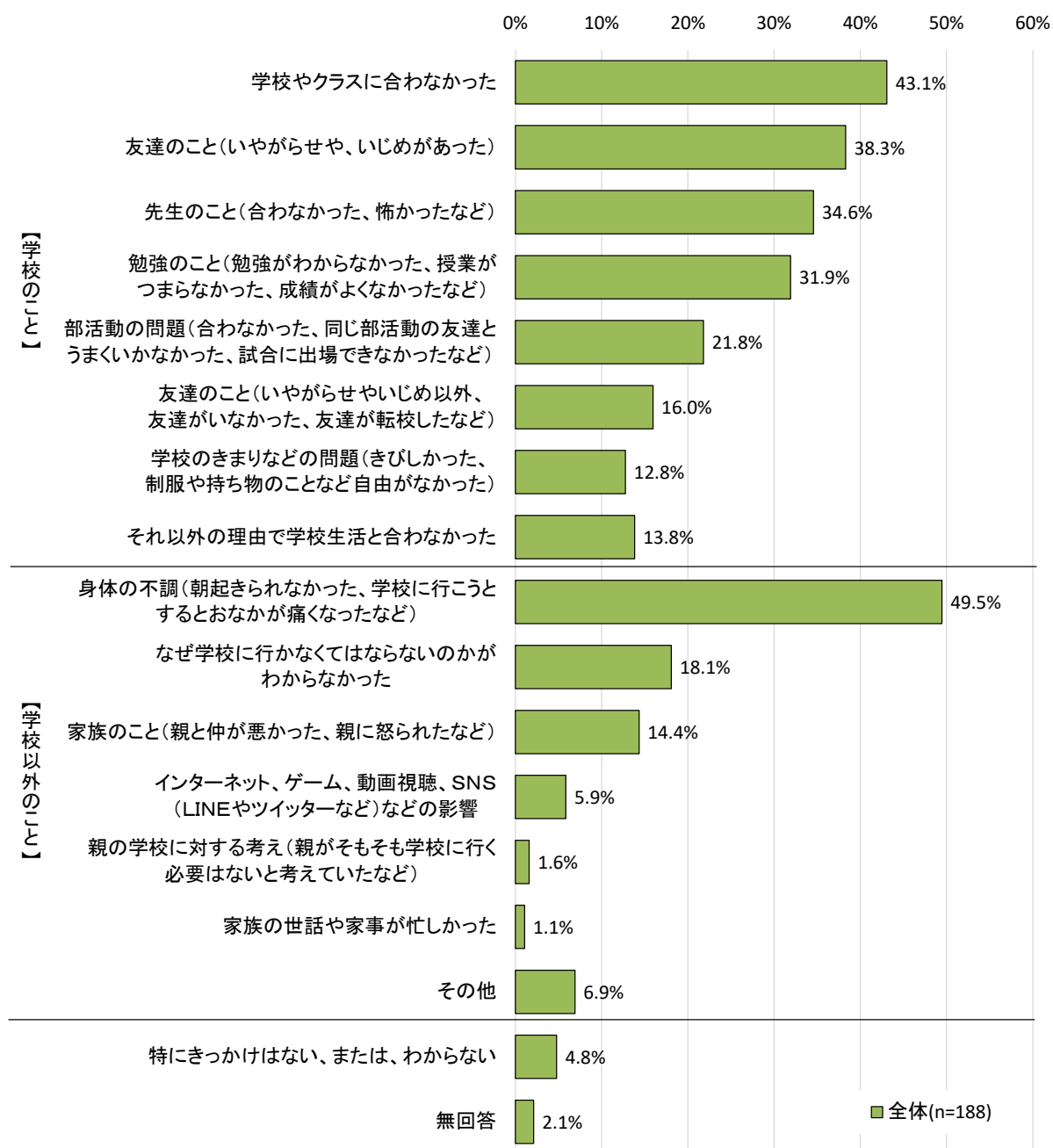
二次調査でも、本人の回答として、「いじめ・いやがらせ等」や「人間関係、学校やクラスの雰囲気」、「先生との関係」に関する回答が比較的多く見られた¹⁰ (図表 2-2-2-4、図表 2-2-2-5)。

¹⁰ 一次調査が複数回答形式であるのに対して、二次調査は自由記述による回答である。「身体の不調」に関して二次調査で該当件数が相対的に少ないのは、主要因であるか副次的な要因であるかの違いであろうと推察される。

【一次本人・問 12】（複数回答）

あなたが学校を休み始めたときのきっかけは何ですか。

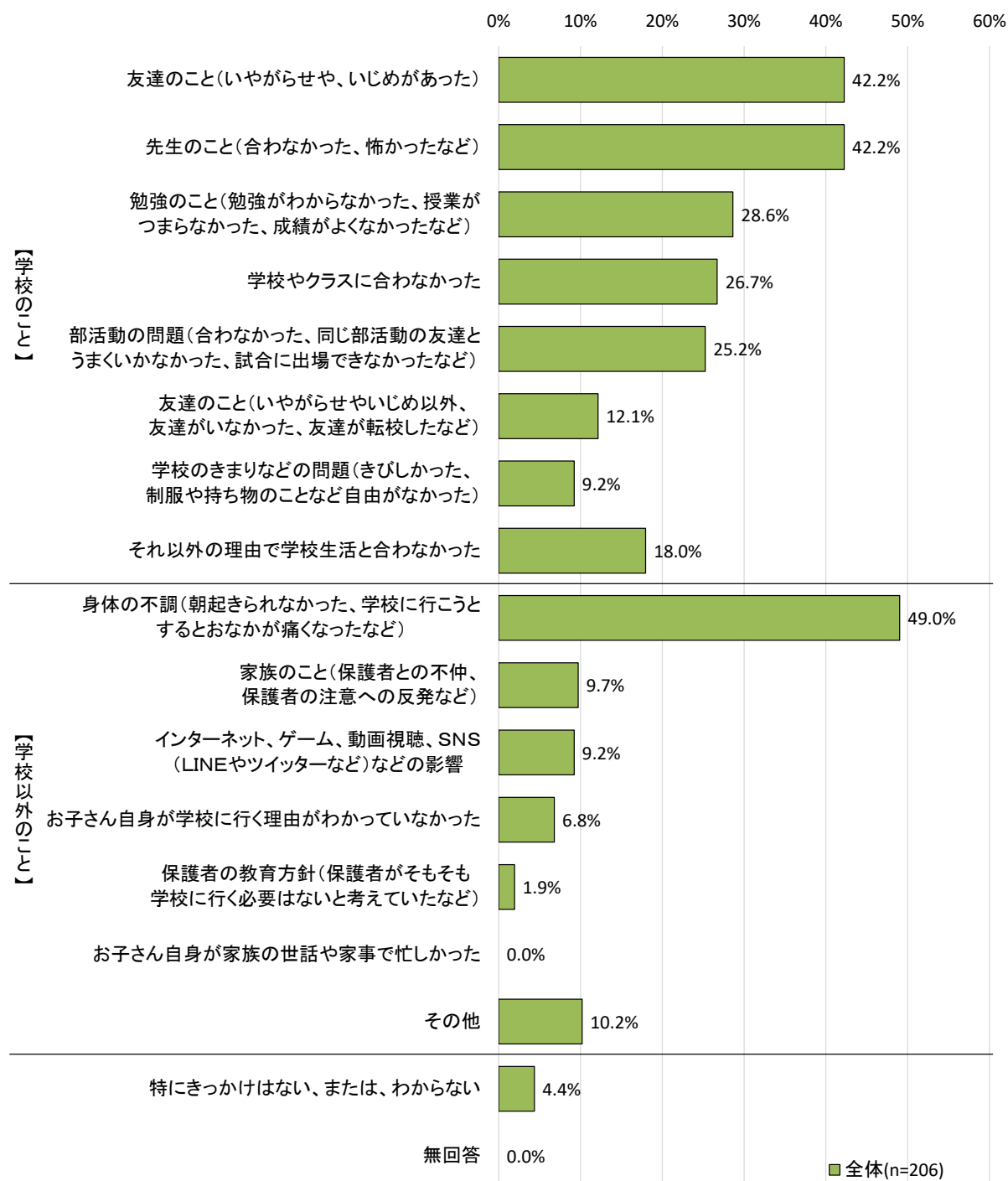
図表 2-2-2-1 学校を休み始めたときのきっかけ(一次本人)



【一次保護者・問4】（複数回答）

お子さんが学校を休み始めたときのきっかけは何だと考えますか。

図表 2-2-2-2 学校を休み始めたときのきっかけ（一次保護者）



図表 2-2-2-3 学校を休み始めたときのきっかけ（一次本人、一次保護者）

分類	本人 (n=188)	保護者 (n=206)
学校のこと ¹¹	85.6%	88.8%
学校以外のこと ¹²	64.4%	60.7%

¹¹ 「友達のこと（いやがらせや、いじめがあった）」、「友達のこと（いやがらせやいじめ以外、友達がいなかった、友達が転校したなど）」、「先生のこと（合わなかった、怖かったなど）」、「勉強のこと（勉強がわからなかった、授業がつまらなかった、成績がよくなかったなど）」、「部活動の問題（合わなかった、同じ部活動の友達とうまくいかなかった、試合に出場できなかったなど）」、「学校のきまりなどの問題（きびしかった、制服や持ち物のことなど自由がなかった）」、「学校やクラスに合わなかった」、「それ以外の理由で学校生活と合わなかった」のいずれかを回答した場合。

¹² 「家族のこと（親と仲が悪かった、親に怒られたなど）」、「親の学校に対する考え（親がそもそも学校に行く必要はないと考えていたなど）」、「家族の世話や家事が忙しかった」、「身体の不調（朝起きられなかった、学校に行こうとするとおなかが痛くなったなど）」、「インターネット、ゲーム、動画視聴、SNS（LINEやツイッターなど）などの影響」、「なぜ学校に行かなくてはならないのかわからなかった」、「その他」のいずれかを回答した場合（保護者の場合は一部表現が異なる）。

【二次・問1】（自由記述回答）

あなたが学校を休み始めたときのきっかけや理由はどのようなことでしたか。できるだけ具体的に教えてください。

図表 2-2-2-4 学校を休み始めたときのきっかけや理由(二次、自由記述回答を分類)¹³

分類	該当件数
いじめ・いやがらせ等	17
人間関係、学校やクラスの雰囲気	15
先生との関係	11
勉強の遅れ	6
体調不良	6
自分でも分からない	4
面倒になった	3
その他	7
無回答（回答欄空欄）	2

※52 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

¹³ 「分類」は、自由記述の回答内容を確認・判別し、分類したもの。「該当件数」は、分類別に該当件数をカウントしたもの。一人の人が複数の分類に該当する内容を回答している場合は、それぞれの分類でカウントしている。（以下、二次調査の自由記述回答について同様）

図表 2-2-2-5 学校を休み始めたときのきっかけや理由(二次、自由記述の代表的な回答例)

分類	回答内容例
いじめ・いやがらせ等	いじめ。1人のクラスメイトから嫌がらせが毎日あった。
	嫌がらせ(同級生の)に耐えきれなくなったため。悪口や暴力など。
	いつも一緒にいた子ともめてしまい、仲間外れにされて学校に行きづらくなった。
人間関係、学校やクラスの雰囲気	クラスに友達がいなかったから。
	人間関係で気の合わない人と関わることが嫌になり、段々と行かなくなった。
	他人とうまく話すことができず、気疲れしてしまったからです。
先生との関係	授業で自分がやらなくてはいけないことが分からず、困惑していたら怒られました。なぜ怒られたか分からず、周りも注目したためとても恥ずかしく、それからその先生を避けるため休みが増え、段々ほかの授業も遅れを取り、学校に行くのが嫌になりました。
	保健室登校をした後、教室に行く途中、担任に挨拶に行ったところ激しいお怒りにあい、トラウマになり学校に行かなくなりました。
勉強の遅れ	授業に追いつけなかった。
体調不良	起立性調節障害になり、朝起きることが苦痛になったことがきっかけです。
自分でも分からない	理由はよく分からない。そのため、解決策が見つからなかった。
面倒になった	面倒になって徐々に休み始めた。

2-2-3 学校を休んでいたころの気持ち

中学校 3 年生のときに学校を休んでいたころの気持ちについて、「あてはまる」と「少しあてはまる」を合わせた割合を見ると、「自由な時間が増えてうれしかった」(53%) や「ほっとした・楽な気持ちだった」(51%) が 5 割程度あるが、「進路・進学に対する不安があった」(73%) や「自分が他の人にどう思われているかが不安だった」(70%)、「勉強の遅れに対する不安があった」(69%) など、不安があったことの方が約 7 割と高い(図表 2-2-3-1)。

中学校 3 年生のときに学校を休みがちだったことをどう思うかについては、「学校に行けばよかった」の割合は約 2 割で、「学校に行かないのはしかたがなかった」や「学校に行かなくてよかった」との割合もそれぞれ約 2 割程度と、多様な回答が得られた(図表 2-2-3-2)。

中学校 3 年生のときに、勉強を続けやすかったと思う方法については、「適応指導教室(トライ、ぱれっと、つむぎ)に通う」¹⁴が約 4 割、「保健室や相談室など学校内の別室で学習する」が約 3 割と高い。「配信された授業などの動画を好きなときに視聴する」や「デジタル教材や学習アプリを使って学習する」、「オンライン授業にリアルタイムで参加する」など ICT 機器を活用した学習方法については約 2 割から約 3 割となっている(図表 2-2-3-3)。

¹⁴ 適応指導教室：区内在住の不登校児童生徒に対して、心の安定を図るための相談支援や集団生活への適応を図るためのグループ活動、児童生徒一人一人が希望する学習活動を行い、社会的自立ができるよう支援を行う事業。練馬区では小学生対象の事業を「フリーマインド」、中学生対象の事業を「トライ」と呼称している。

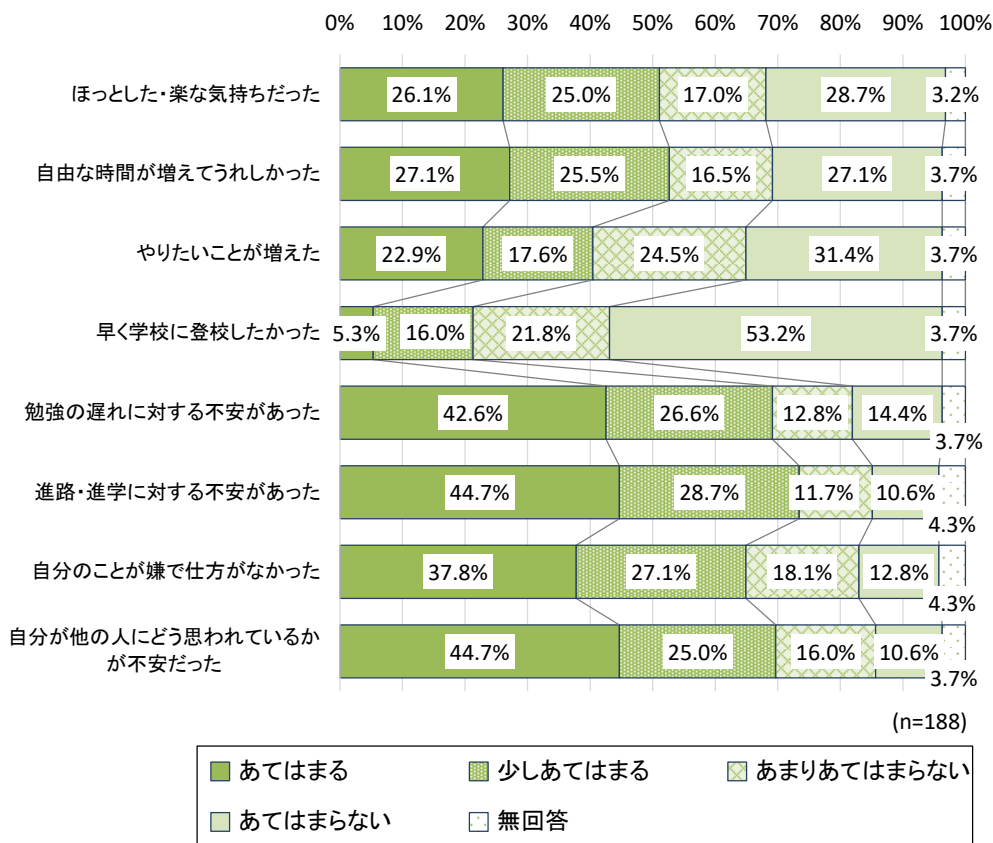
居場所ぱれっと：適応指導教室への通室や学校内の別室登校が困難な不登校の児童生徒が過ごせる場所として生活習慣、学習習慣の形成や社会性を育成するための支援を行う事業。「ぱれっと」と呼称している。

光が丘第一分室つむぎ：特別な支援を要する区内在住の不登校児童生徒に対して個別の学習支援を行う適応指導教室事業。「つむぎ」と呼称している。

【一次本人・問 11】（単一回答）

あなたが中学校 3 年生のときに学校を休んでいたころの気持ちとして、あてはまるものをそれぞれ選んでください。

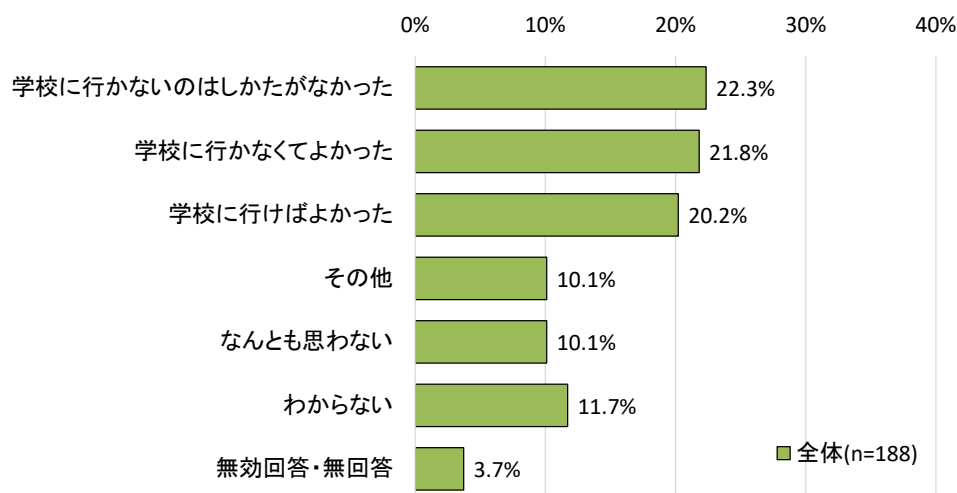
図表 2-2-3-1 中学校 3 年生のときに学校を休んでいたころの気持ち(一次本人)



【一次本人・問 17】（単一回答）

いま考えると、中学校 3 年生のとき、学校を休みがちだったことをどう思いますか。

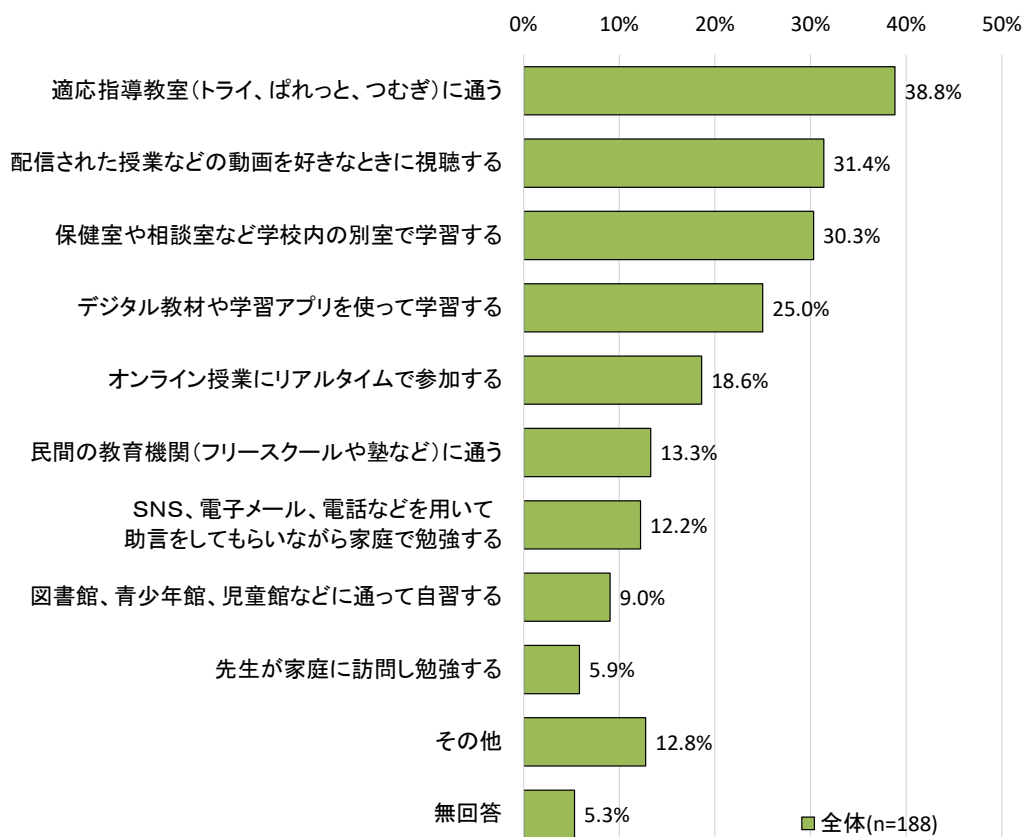
図表 2-2-3-2 中学校3年生のときに学校を休みがちだったことをどう思うか(一次本人)



【一次本人・問 14】（複数回答）

あなたが中学校 3 年生だったとき、どのような方法だったら勉強を続けやすかったと思いますか。

図表 2-2-3-3 中学校 3 年生のときに勉強を続けやすかったと思う方法(一次本人)



2-2-4 困っていたこと、必要としていた手助け

中学校 3 年生のときに相談したいと思ったり、手助けなどがあればいいのと思ったこととしては、「進学について」(47%)、「学校の勉強について」(45%)、「人間関係について」(42%)、「自分の気持ちをはっきりと表現したり、人とうまくつきあったりするための方法について」(37%) が上位にあがっている(図表 2-2-4-1)。

二次調査でも、不安だったり困ったりしていたこととして、「進路・受験のこと」や「勉強のこと」に関する回答が見られた(図表 2-2-4-2、図表 2-2-4-3)。また、欲しかった手助けとしては、「教室以外の居場所や勉強できる場所」、「一人で過ごせる場所など」といった回答が見られた(図表 2-2-4-4、図表 2-2-4-5)。

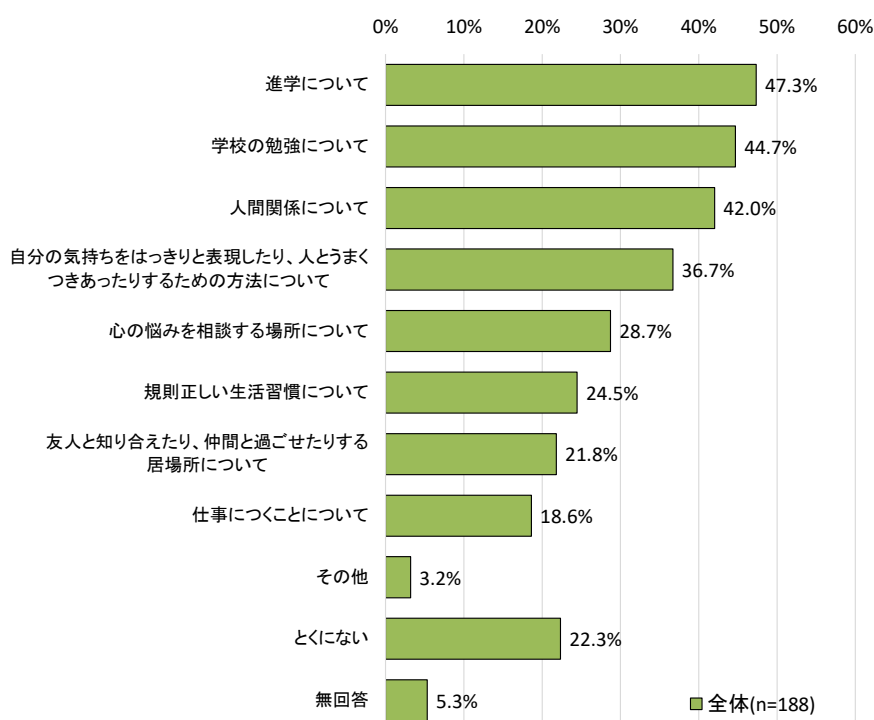
一方で、どちらの調査でも、「手助けなどがあればいいのと思ったこと」や「欲しかった手助け」について、2 割程度は「特にない」と回答している(図表 2-2-4-1、図表 2-2-4-4)。

保護者が、誰かに相談できたり、手助けがあればいいのと思ったことでは、「進学について」の割合が最も高いが、ほかの回答も比較的多く、支援や相談のニーズがある(図表 2-2-4-6)。

【一次本人・問 16】(複数回答)

あなたが中学校 3 年生のとき、次のようなことについて誰かに相談したいと思ったり、手助けなどがあればいいのと思ったことがありますか。

図表 2-2-4-1 中学校 3 年生のときに、誰かに相談したいと思ったり、手助けがあればいいのと思ったこと(一次本人)



【二次・問2】（自由記述回答）

あなたが学校をよく休んでいたところに、不安だったり困ったりしていたことがあれば、教えてください。

図表 2-2-4-2 学校をよく休んでいたところに、不安だったり困ったりしていたこと
（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
進路・受験のこと	16
勉強のこと	14
(漠然とした) 将来のこと、これからのこと	12
体調のこと	10
周りの反応	8
どうしてよいか分からなかった	5
人に対する恐怖心	3
孤独感	3
生活リズムの乱れがあった	2
罪悪感	2
その他	9
特になし	3
無回答（回答欄空欄）	2

※52 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

図表 2-2-4-3 学校をよく休んでいたところに、不安だったり困ったりしていたこと
(二次、自由記述の代表的な回答例)

分類	回答内容例
進路・受験のこと	どこの高校に入学できるのか、全然勉強していなかったのが不安だった。
	進学できるか、進学先に毎日通うことができるか不安だった。
	3年間の半数以上を休んでいたため、進路の不安が大きく、自分は進学も就職も一生できないんじゃないかと、毎日不安だった。
勉強のこと	同級生と学力の差がでてくるのが不安だった。
	学校を休んでいたのが人との勉強の差があって不安だった。
(漠然とした) 将来のこと、これからのこと	将来、普通と呼ばれる仕事や生活ができるのか不安だった。
	これからどうなるのかなーとは思っていた。
体調のこと	考えても分からないことばかり考えてしまうようになり、体調もどこかすっきりせず、不快感を常に感じていた。
	これからの人生このままの体調だったらどうしようという不安。
周りの反応	休んでいることをほかの人はどう思っているんだろうと怖い気持ちがありました。
どうしてよいか分からなかった	不安でどうしたらよいのか、何をしたらよいのか分からなかった。
人に対する恐怖心	将来の不安がありつつも人や環境が怖くなりなかなか外に出られなかった。
孤独感	勉強面でも精神面でも周りの同級生から置いていかれている感じがした。孤独だなど日々思っていました。
生活リズムの乱れがあった	生活リズムが崩れてしまったことで、高校についていけるか不安だった。
罪悪感	周りの人（先生や家族）に心配かけていたことが悲しかった。

【二次・問3】(自由記述回答)

あなたが学校をよく休んでいたところを振り返って、「あの時にこのような手助けがほしかった」と思うことがあれば、教えてください。

図表 2-2-4-4 学校をよく休んでいたところに「このような手助けがほしかった」と思うこと
(二次、自由記述回答を分類)

分類	該当件数
教室以外の居場所や勉強できる場所	8
一人で過ごせる場所など	7
相談相手	5
進路や将来のことについての支援	2
その他	10
特になし	12
無回答(回答欄空欄)	13

※52件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

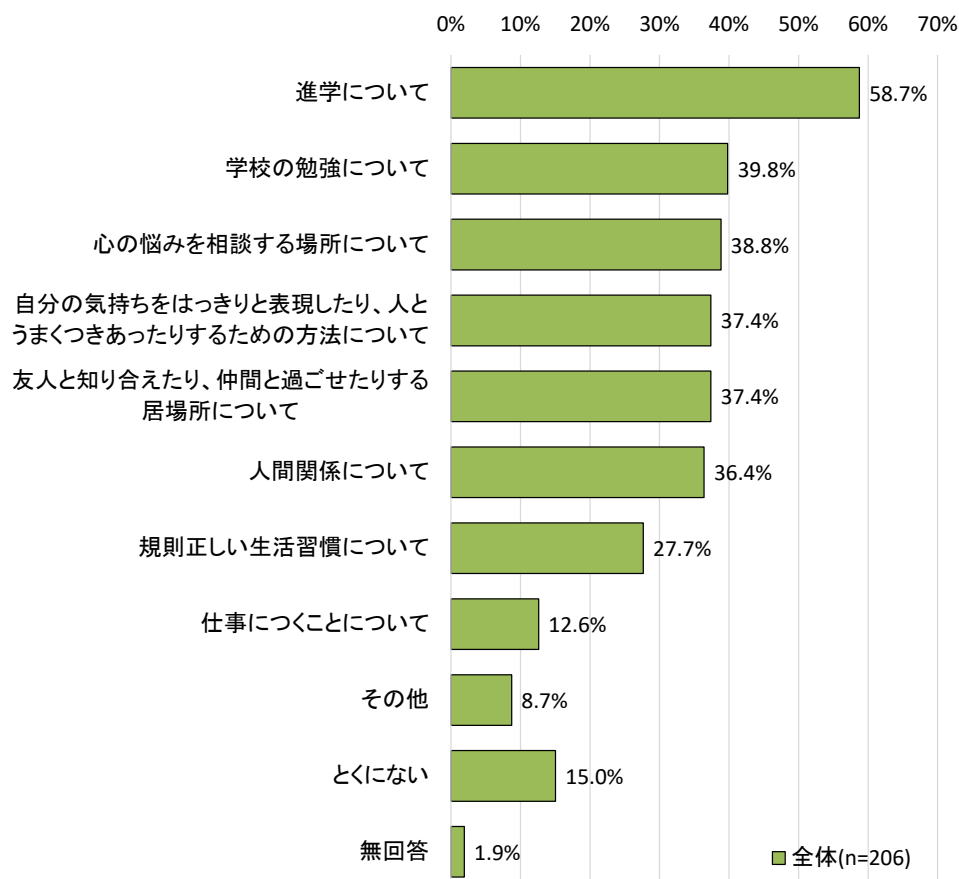
図表 2-2-4-5 学校をよく休んでいたところに「このような手助けがほしかった」と思うこと
(二次、自由記述の代表的な回答例)

分類	回答内容例
教室以外の居場所や勉強できる場所	学校の授業を家や学校の相談室等で受けることができればよかった。 周りの目を気にしないで勉強できて、何か分からないことがあれば教えてくれる、自習室みたいな場所が欲しかった。
一人で過ごせる場所など	家でもどこでも一人で過ごせて、気持ちの整理をつける環境が欲しかった。
相談相手	気楽に何でも話せる先生、場所が欲しかった。仲間に入れるように手伝ってくれる大人が欲しかった。
進路や将来のことについての支援	学校を休んでいても進学できる高校があることをもっと早く知りたかった。

【一次保護者・問9】(複数回答)

お子さんが中学校3年生のときに、お子さんに関する次のようなことについて、保護者の方ご自身が、誰かに相談できたり、手助けなどがあればいいのと思ったことがありますか。

図表 2-2-4-6 子供が中学校3年生のときに、子供のことについて、保護者自身が誰かに相談できたり、手助けがあればいいのと思ったこと(一次保護者)



2-2-5 保護者から見た中学校 3 年生のときの子供の様子

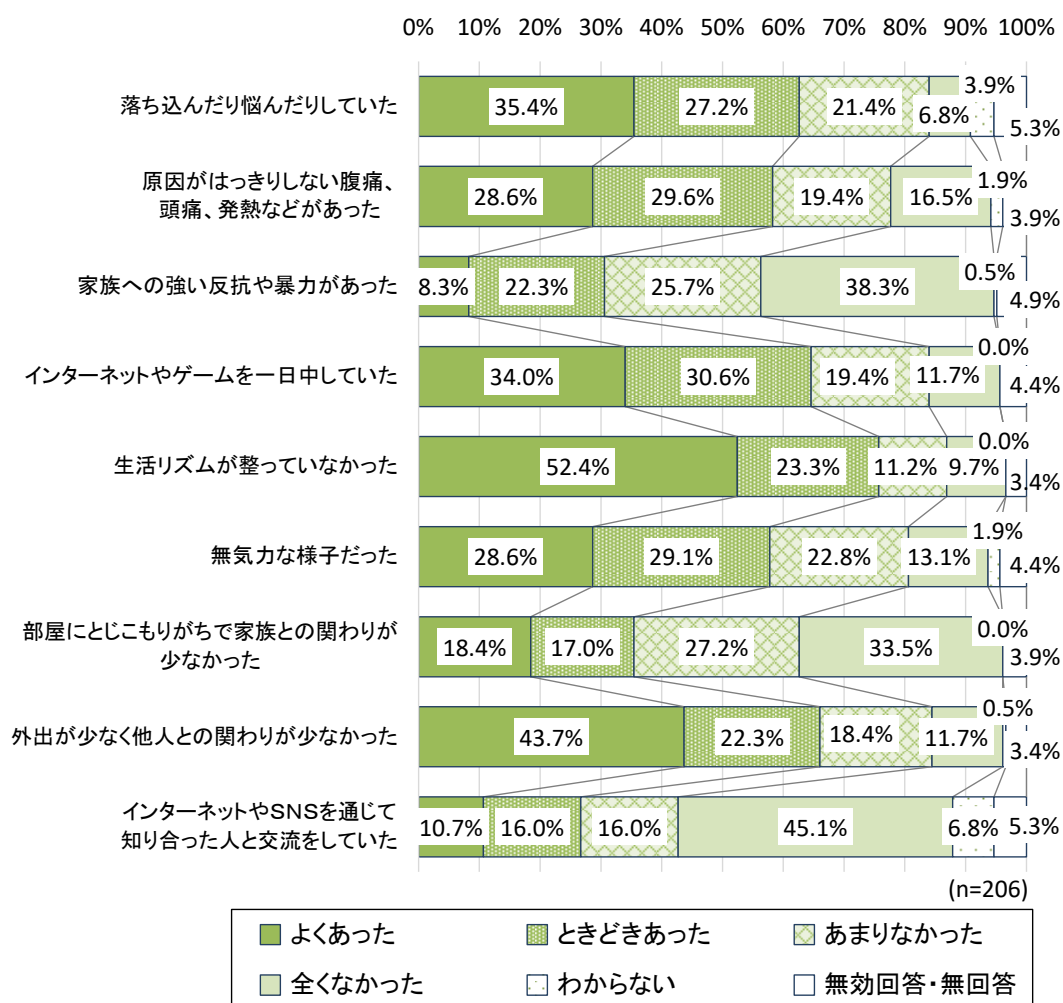
保護者から見た、中学校 3 年生のときの子供の様子について、「よくあった」と「ときどきあった」を合わせた割合を見ると、「生活リズムが整っていなかった」(76%)、「外出が少なく他人との関わりが少なかった」(66%)、「インターネットやゲームを一日中していた」(65%)、「落ち込んだり悩んだりしていた」(63%)、「原因がはっきりしない腹痛、頭痛、発熱などがあった」(58%)、「無気力な様子だった」(58%) が 5 割以上と高い。

一方、「インターネットや SNS を通じて知り合った人と交流をしていた」(27%) の割合はあまり高くないが、その性質上、保護者が十分に認知できていない可能性もある(図表 2-2-5)。

【一次保護者・問 5】(単一回答)

お子さんが中学校 3 年生のときに学校を休みがちだったころのことについてお聞きます。次のようなことは、お子さんにどのくらいありましたか。

図表 2-2-5 保護者から見た中学校 3 年生のときに学校を休みがちだったころの子供の様子
(一次保護者)



2-2-6 保護者から見た子供の病気や障害等の状況

子供に病気や障害があること、またはその可能性を心配したことがあったかについては、65%の保護者が「あった」「よくあった」(36%) + 「ときどきあった」(29%))と回答している(図表 2-2-6-1)。また、そのうち 6 割以上が「医療機関等を受診した」ほか、約 4 割が「区のエducational相談室やスクールソーシャルワーカーに相談した」¹⁵や「学校の担任やスクールカウンセラーに相談した」¹⁶と回答している(図表 2-2-6-2)。

なお、日本財団の調査¹⁷によると、12 歳～15 歳の不登校の子供がいる保護者のうち 27%が「(子ども本人が) 医師による診断はなされていないが、学習面や運動面、行動面において何かしらの困難がある」と回答し、22%が「(子ども本人が) 心身または発達上障害があると医師の診断を受けている」と回答している(図表 2-2-6-3)。

また、文部科学省が平成 24 年に全国の公立小中学校で実施した調査¹⁸では、通常学級に在籍する児童生徒のうち、推定値 6.5%が「知的発達に遅れはないものの学習面または行動面で著しい困難を示す」とされている(図表 2-2-6-4)。

¹⁵ 教育相談室：区内に 4 か所の教育相談室を設け、専門の相談員が、区内在住の幼児、児童、生徒の発達の過程で生じた諸問題の相談に応じている。

スクールソーシャルワーカー：児童生徒の家庭環境による問題に対処するため、子ども家庭支援センターや総合福祉事務所等関係機関との連携や、教員の支援を行う福祉の専門職で、学校教育支援センターに配置している。

¹⁶ スクールカウンセラー：区立小中学校に配置している臨床心理士などの心理の専門家で、児童や生徒、その保護者、学校全体を、その専門知識を生かして支援している。

¹⁷ 日本財団「不登校傾向にある子どもの実態調査」(平成 30 年 12 月)

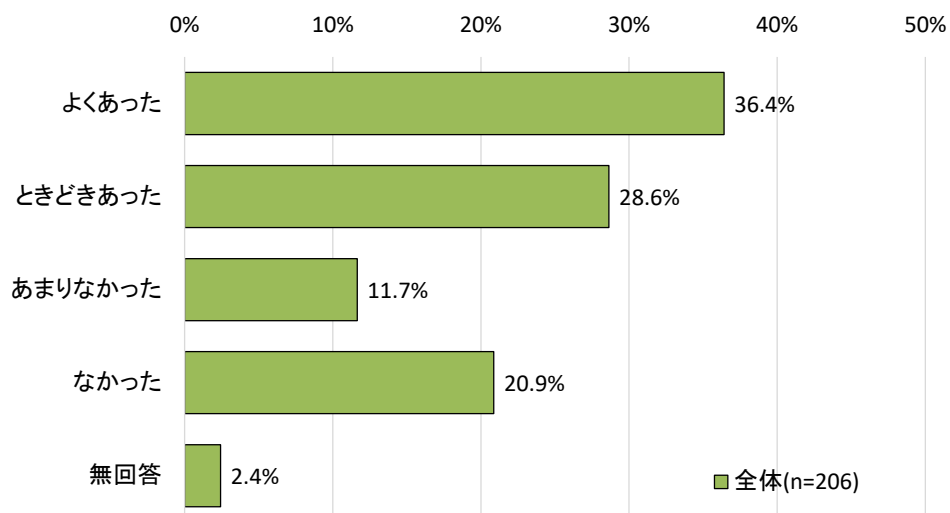
<https://www.nippon-foundation.or.jp/who/news/information/2018/20181212-6917.html>

¹⁸ 文部科学省「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」(平成 24 年 12 月) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1328729.htm

【一次保護者・問 8】（単一回答）

お子さんが中学校 3 年生のとき、病気や障害があること、または病気や障害がある可能性について、心配したことがありましたか。

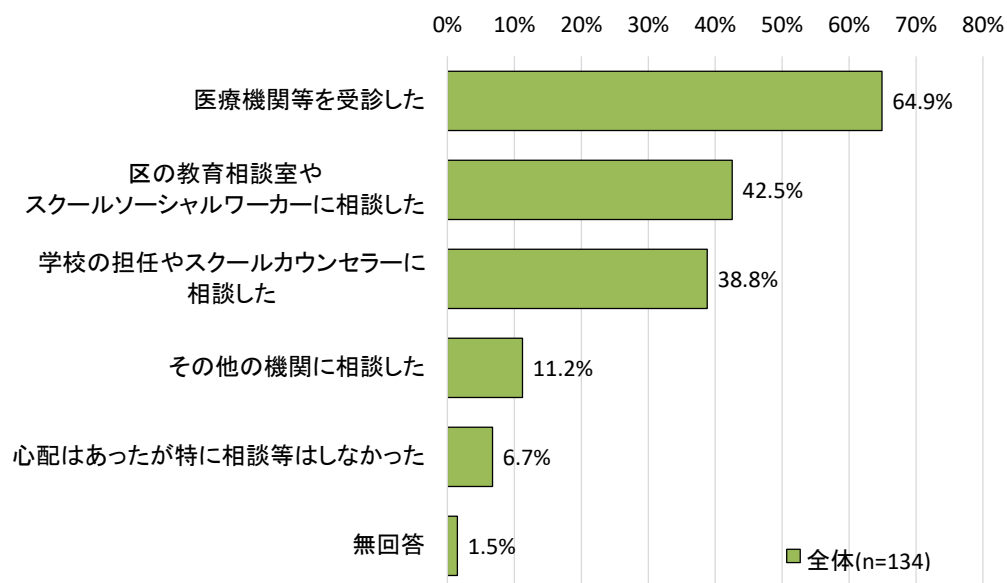
図表 2-2-6-1 子供の病気や障害を心配したことの有無（一次保護者）



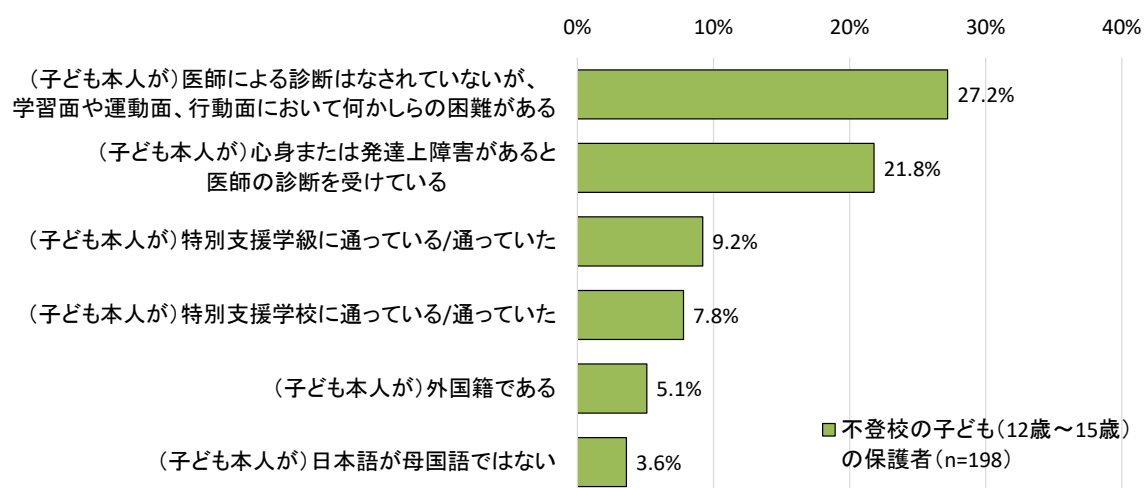
【一次保護者・問 8-1】（複数回答）

（「よくあった」または「ときどきあった」と答えた場合）そのときにどうされましたか。

図表 2-2-6-2 子供の病気や障害を心配した時の対応（一次保護者）

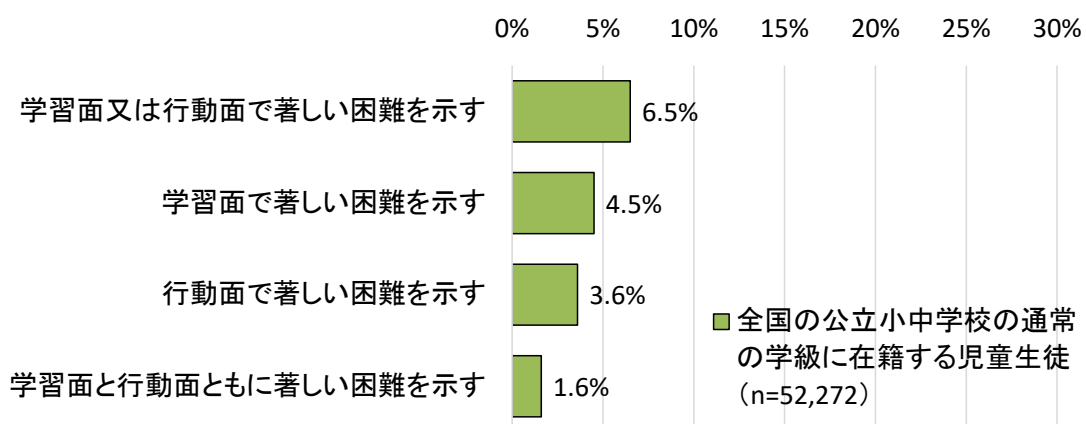


図表 2-2-6-3 参考:不登校の子供の障害等に関する状況



出典：日本財団「不登校傾向にある子どもの実態調査」(平成 30 年 12 月)より練馬区作成

図表 2-2-6-4 参考:児童生徒の困難の状況¹⁹



出典：文部科学省「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」（平成 24 年 12 月）より練馬区作成

¹⁹ 岩手県、宮城県、福島県の公立小中学校の児童生徒は調査対象外となっている。

2-3 不登校であったときの支援の利用状況と評価

2-3-1 中学校3年生のときに利用等があったもの、利用等に対する評価

学校内の支援では、「学校の先生からの電話などの連絡」(90%)、「学校の先生・保健室の先生との相談」(70%)が多く行われており、「保健室や相談室などの別室登校」(50%)、「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談」²⁰(53%)は約5割、「学校の先生による家庭訪問」(41%)は約4割の方に利用されていた。

学校外の支援として、「適応指導教室(トライ)」(56%)は約6割、「練馬区教育相談室」(28%)は約3割、「スクールソーシャルワーカーへの相談」(19%)は約2割の利用となっている(図表2-3-1-1)。

また、支援の利用状況について、「学校内・学校外両方の支援を利用」(60%)した方は6割、「学校内の支援のみを利用」(23%)した方は約2割となっている(図表2-3-1-2)。

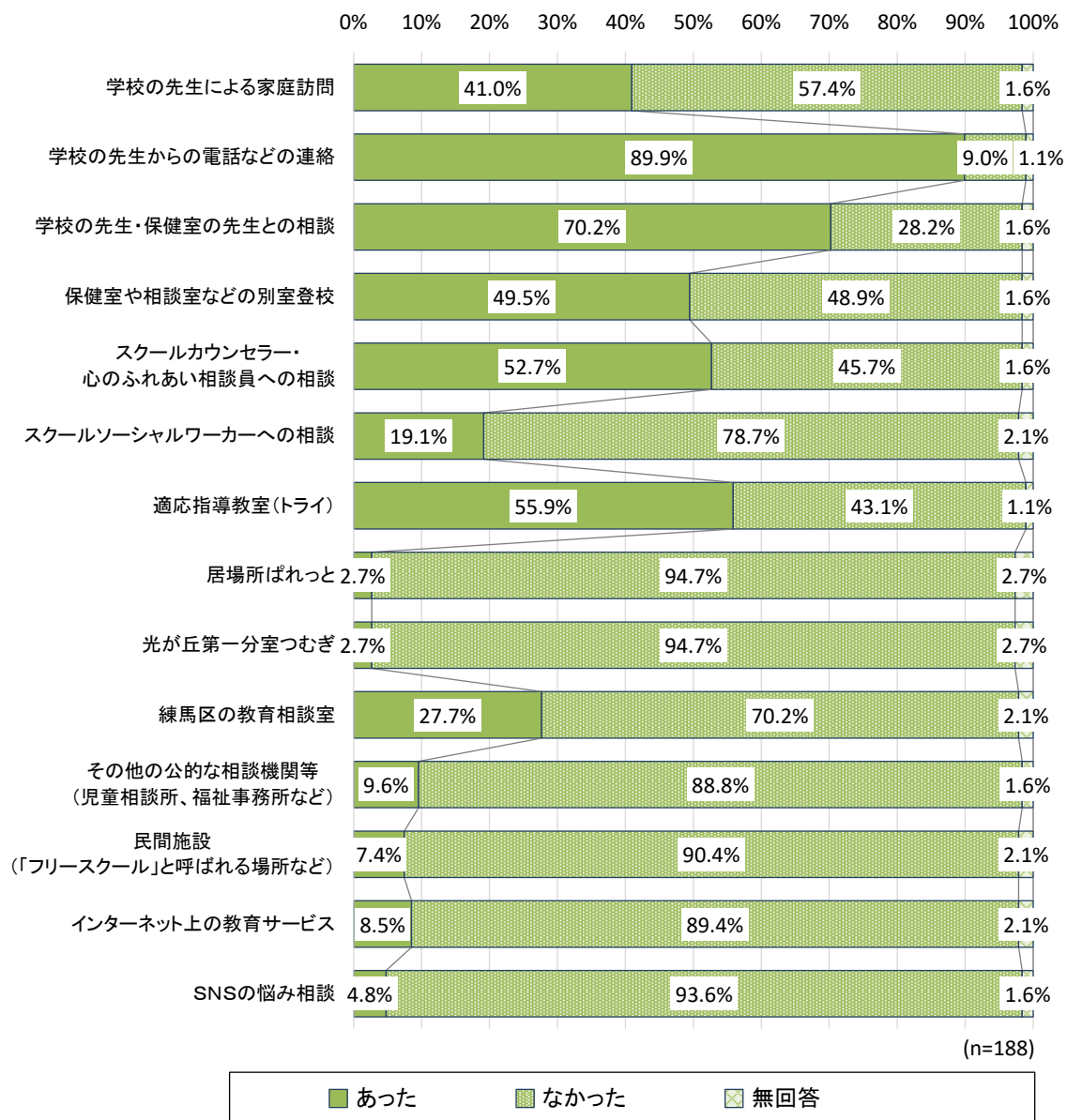
利用者数が一定数いたもので、実施・利用があったものの評価として、「よかった」と「どちらかといえばよかった」を合わせた割合を見ると、「適応指導教室(トライ)」(87%)、「練馬区教育相談室」(87%)、「スクールソーシャルワーカーへの相談」(78%)、「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談」(75%)、「学校の先生・保健室の先生との相談」(70%)については7割以上の評価を得ている。「学校の先生からの電話などの連絡」(58%)、「学校の先生による家庭訪問」(48%)は5割前後の方が評価している(図表2-3-1-3)。

²⁰ 心のふれあい相談員：スクールカウンセラーの職務を補完する有償ボランティアで、区立小中学校に配置している。

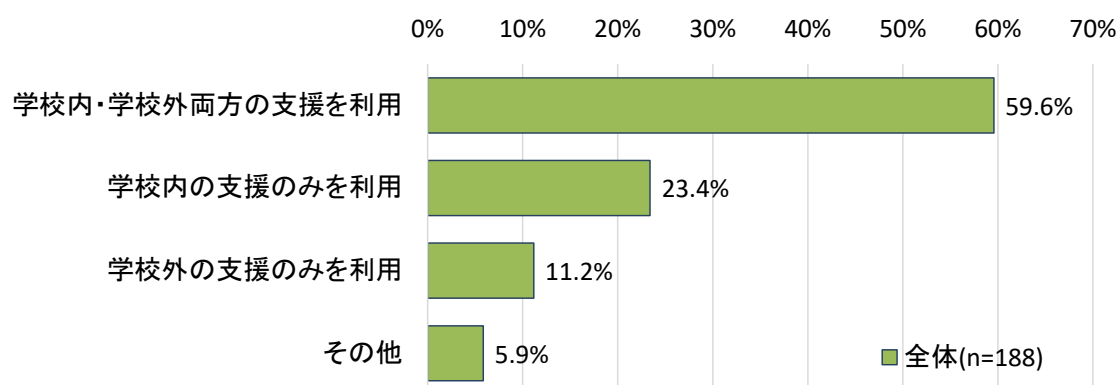
【一次本人・問 15】（単一回答）

あなたが中学校 3 年生のとき、次のようなことはありましたか。

図表 2-3-1-1 中学校 3 年生のときに実施・利用があったもの（一次本人）



図表 2-3-1-2 学校内の支援・学校外の支援の利用状況(一次本人)



※学校内の支援：

「学校の先生による家庭訪問」、「保健室や相談室などの別室登校」、「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談」のうち、いずれか1つでも「あった」と回答した場合。

(「学校の先生からの電話などの連絡」および「学校の先生・保健室の先生との相談」は練馬区内の公立中学校でおおむね実施されていると考えられたため、「学校内の支援」の定義から除いている。)

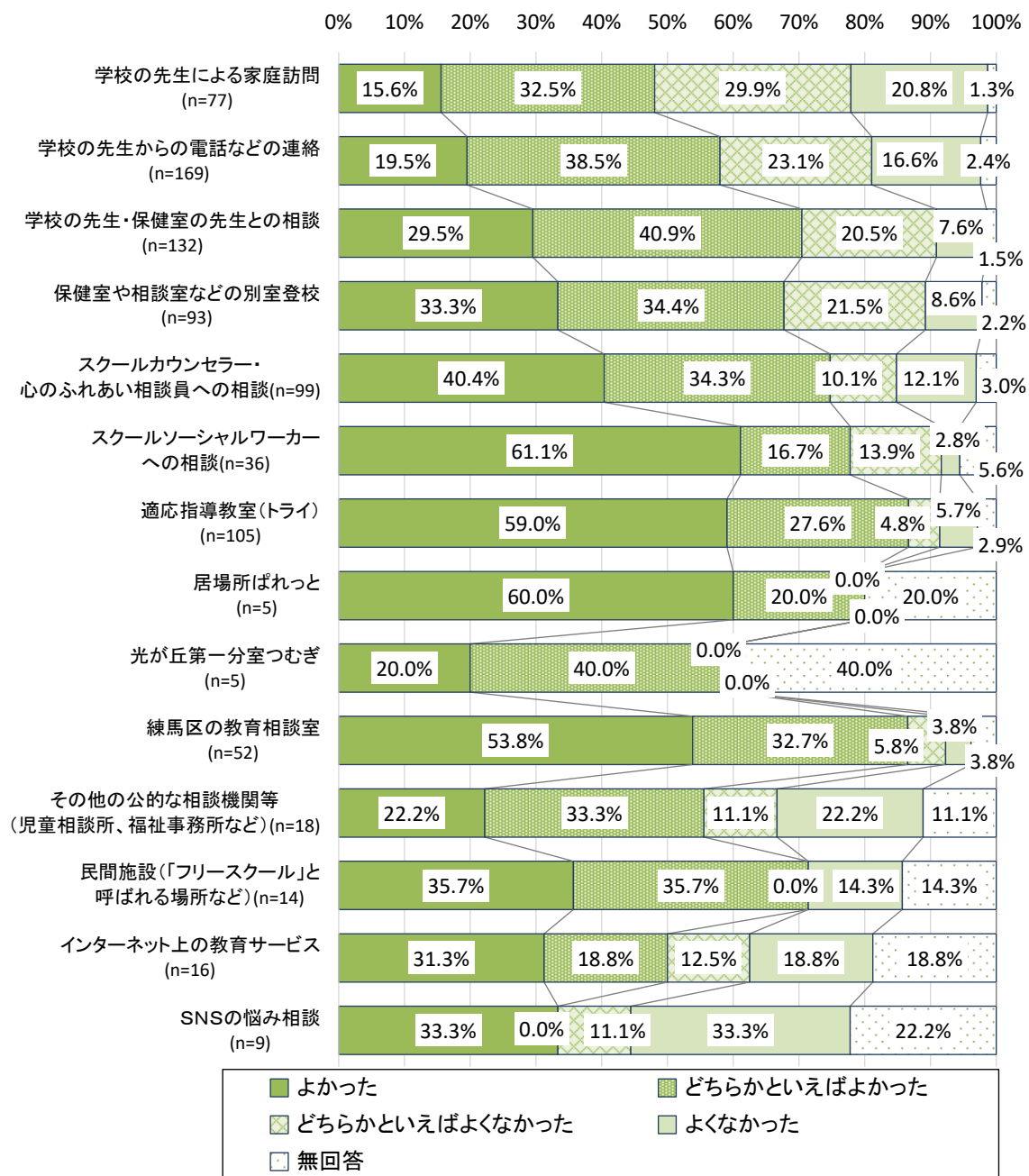
※学校外の支援：

「スクールソーシャルワーカーへの相談」、「適応指導教室(トライ)」、「居場所ぱれっと」、「光が丘第一分室つむぎ」、「練馬区の教育相談室」、「その他の公的な相談機関等(児童相談所、福祉事務所など)」、「民間施設(「フリースクール」と呼ばれる場所など)」のうち、いずれか1つでも「あった」と回答した場合。

【一次本人・問 15】（単一回答）

あなたが中学校 3 年生のとき、次のようなことはありましたか。また、「あった」場合、そのことについてよかったと思いますか。

図表 2-3-1-3 中学校 3 年生のときに実施・利用があったものについての評価（一次本人）²¹



※集計対象は、それぞれ、実施・利用が「あった」場合のみ。

²¹ 「居場所ぱれっと」、「光が丘第一分室つむぎ」、「その他の公的な相談機関等（児童相談所、福祉事務所など）」、「民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）」、「インターネット上の教育サービス」、「SNS の悩み相談」については、実施・利用が「あった」と回答の方が少なく、データの件数が少ない点に留意が必要である。

2-3-2 保健室や相談室などの別室登校の利用状況

「保健室や相談室などの別室登校」は、二次調査の回答でも、利用の割合は約 5 割となっている（図表 2-3-2-1）。利用頻度は「週に 1 日」の割合が約 5 割と最も高いが、他方で「週に 5 日」も約 2 割となっている（図表 2-3-2-2）。

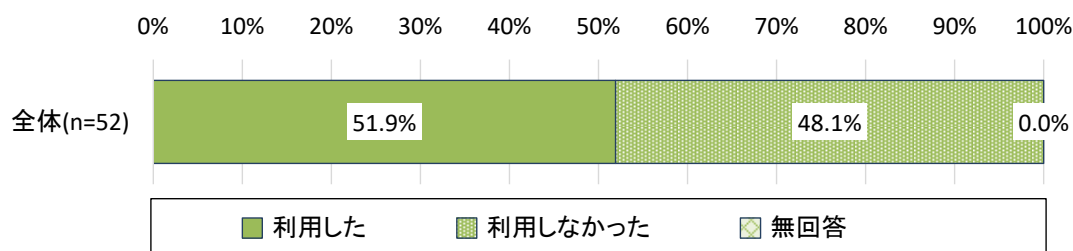
利用のきっかけは「教員等のすすめ」であることが多く（図表 2-3-2-3）、「相談・コミュニケーションができた」、「学校に行けた」など肯定的な評価が得られている（図表 2-3-2-4、図表 2-3-2-5）。

他方で、「ほかの生徒や先生に会ってしまう」ことや、生徒の声が聞こえること、人の出入りがあることで「落ち着かない」といった声もあった（図表 2-3-2-6、図表 2-3-2-7）。

【二次・問 4】（単一回答）

中学校 3 年生の時、あなたは次のような相談や場所を利用しましたか。

図表 2-3-2-1 保健室や相談室などの別室登校の利用の有無(二次)

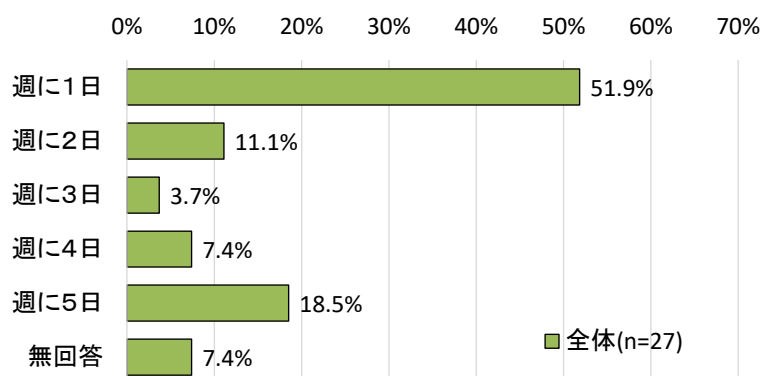


【二次・問 4】（数値で回答）

相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。

①週に何日くらい利用していたか

図表 2-3-2-2 保健室や相談室などの別室登校の利用頻度(二次)



※集計対象は、保健室や相談室などの別室登校を「利用した」と回答した場合のみ。

【二次・問 4】（自由記述回答）

相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。

②相談・利用したきっかけや目的（どのようにして知りましたか、なぜ利用しましたか）

図表 2-3-2-3 保健室や相談室などの別室登校を利用したきっかけや目的
（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
教員等のすすめ	13
登校・生活リズムに慣れるため	5
親のすすめ	4
相談・状況報告のため	3
多くの人に会わないようにするため	2
勉強・受験のため	2
その他	3
無回答（回答欄空欄）	3

※集計対象は、保健室や相談室などの別室登校を「利用した」と回答した場合のみ。

※27 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

【二次・問 4】（自由記述回答）

相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。

③相談・利用してよかったと思うこと

図表 2-3-2-4 保健室や相談室などの別室登校を利用してよかったと思うこと
（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
相談・コミュニケーションができた	10
学校に行けた	7
勉強ができた	5
安心できた	4
進路準備ができた	3
その他	3
特になし	2
無回答（回答欄空欄）	4

※集計対象は、保健室や相談室などの別室登校を「利用した」と回答した場合のみ。

※27 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

図表 2-3-2-5 保健室や相談室などを利用してよかったと思うこと
(二次、自由記述の代表的な回答例)

分類	回答内容例
相談・コミュニケーションができた	保健室で先生とたくさん話せたり相談できたこと。
	2人きりだと話せるのもあって、相談室の先生と仲良くなったのでその点は良かったです。
学校に行けた	「学校に行く」という行動を起こすことができた。
勉強ができた	毎日学校に行けて苦手な人とも合わなくて済み、先生もいっぱい来て下さり、勉強も教えてくれました。
安心できた	少人数だし、登校時間もずれているので、よかった。
進路準備ができた	担任の先生と話ができて、高校に向けての準備ができた。

【二次・問4】(自由記述回答)

相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。

④相談・利用してよくなかったと思うこと

図表 2-3-2-6 保健室や相談室などを利用したがよくなかったと思うこと
(二次、自由記述回答を分類)

分類	該当件数
ほかの生徒や先生に会ってしまう	4
落ち着かない	3
その他	7
特になし	6
無回答(回答欄空欄)	7

※集計対象は、保健室や相談室などの別室登校を「利用した」と回答した場合のみ。

※27件の回答を分類したもの。

図表 2-3-2-7 保健室や相談室などを利用したがよくなかったと思うこと
(二次、自由記述の代表的な回答例)

分類	回答内容例
ほかの生徒や先生に会ってしまう	校内で生徒と会う時間に登校させられること。
落ち着かない	利用したのが保健室で、 色々な人が出入りするので落ち着かなかった。

2-3-3 スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談状況

「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談」は、二次調査の回答でも、利用の割合は約 5 割となっている（図表 2-3-3-1）。

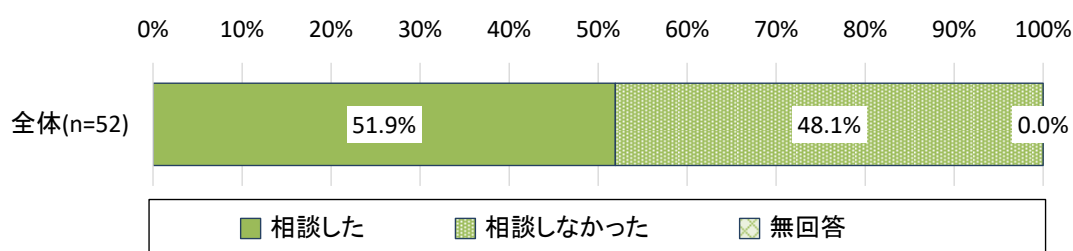
利用のきっかけは「教員等のすすめ」や「親のすすめ」であることが多く（図表 2-3-3-2）、
「相談・コミュニケーションができた」、「安心できた」など肯定的な評価が得られている（図表 2-3-3-3、図表 2-3-3-4）。

他方で、「場所・雰囲気が利用しづらい」といった声も若干あった（図表 2-3-3-5、図表 2-3-3-6）。

【二次・問 4】（単一回答）

中学校 3 年生の時、あなたは次のような相談や場所を利用しましたか。

図表 2-3-3-1 スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談の有無(二次)



【二次・問 4】（自由記述回答）

相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。²²

②相談・利用したきっかけや目的（どのようにして知りましたか、なぜ利用しましたか）

図表 2-3-3-2 スクールカウンセラー・心のふれあい相談員に相談したきっかけや目的
（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
教員等のすすめ	8
親のすすめ	5
相談・利用する機会があったから	5
コミュニケーション・話し相手として	3
その他	7
無回答（回答欄空欄）	5

※集計対象は、スクールカウンセラー・心のふれあい相談員に「相談した」と回答した場合のみ。

※27 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

²² 「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談」については、週当たりの利用日数の回答が難しいと考えられたため、①利用頻度を尋ねていない。

【二次・問4】（自由記述回答）

相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。

③相談・利用してよかったと思うこと

図表 2-3-3-3 スクールカウンセラー・心のふれあい相談員に相談してよかったと思うこと
（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
相談・コミュニケーションができた	10
安心できた	5
ためになった、参考になった	4
自分のことを考えるきっかけになった	2
その他	2
無回答（回答欄空欄）	7

※集計対象は、スクールカウンセラー・心のふれあい相談員に「相談した」と回答した場合のみ。

※27件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

図表 2-3-3-4 スクールカウンセラー・心のふれあい相談員に相談してよかったと思うこと
（二次、自由記述の代表的な回答例）

分類	回答内容例
相談・コミュニケーションができた	学校の嫌なことを打ち明けられた。
	1人で考える時間が減った。悩みをすぐ相談できた。
安心できた	孤独だと思っていたが、相談員の先生が寄り添ってくれて心のよりどころになった。
ためになった、参考になった	自分と全然違う考えですごく救われたし、今も役に立つ知識が多い。
自分のことを考えるきっかけになった	色々話をする中で自分のことを整理できた。

【二次・問 4】（自由記述回答）

相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。

④相談・利用してよくなかったと思うこと

図表 2-3-3-5 スクールカウンセラー・心のふれあい相談員に相談したがよくなかったと思うこと(二次、自由記述回答を分類)

分類	該当件数
場所・雰囲気が利用しづらい	3
その他	3
特になし	7
無回答（回答欄空欄）	14

※集計対象は、スクールカウンセラー・心のふれあい相談員に「相談した」と回答した場合のみ。

※27 件の回答を分類したもの。

図表 2-3-3-6 スクールカウンセラー・心のふれあい相談員に相談したがよくなかったと思うこと(二次、自由記述の代表的な回答例)

分類	回答内容例
場所・雰囲気が利用しづらい	学校に登校しなければならなかったこと。

2-3-4 適応指導教室（トライ）の利用状況

「適応指導教室（トライ）」は、二次調査の回答でも、利用の割合は約 6 割となっている（図表 2-3-4-1）。利用頻度は「週に 1 日」の割合が約 3 割、「週に 3 日」、「週に 5 日」の割合がそれぞれ約 2 割となっている（図表 2-3-4-2）。

利用のきっかけは「教員等のすすめ」や「親のすすめ」であることが多く（図表 2-3-4-3）、「進路準備ができた」や「勉強ができた」、あるいは、「友達ができた」や「相談・コミュニケーションができた」といった肯定的な評価が得られている（図表 2-3-4-4、図表 2-3-4-5）。

他方で、「人間関係・雰囲気」などの点でよくなかったといった声もあった（図表 2-3-4-6、図表 2-3-4-7）。

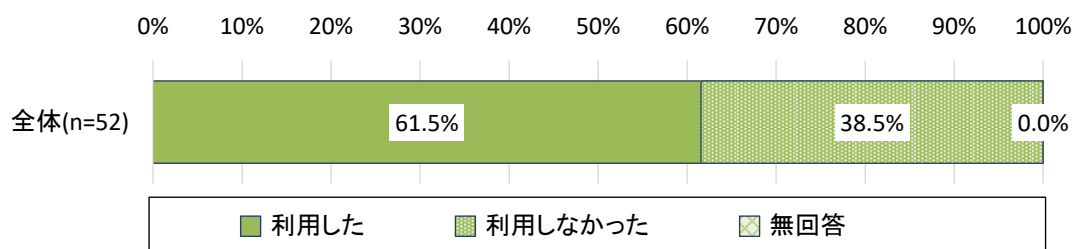
なお、「適応指導教室（トライ）」を利用しなかった方にその理由を尋ねたところ、存在を「知らなかった」方もいたが、知ってはいたが、特に同年代の人と会いたくないなど「人と関わりたくなかった、行きたくなかった」という回答が多かった（図表 2-3-4-8）。

また、「適応指導教室（トライ）」について知っていたが利用しなかったと回答した保護者にもその理由を尋ねたところ、親が検討はしたが「本人が行きたがらなかった」や「子供の状況から利用は難しいだろうと保護者が判断した」という回答が多かった（図表 2-3-4-9）。

【二次・問 4】（単一回答）

中学校 3 年生の時、あなたは次のような相談や場所を利用しましたか。

図表 2-3-4-1 適応指導教室(トライ)の利用の有無(二次)

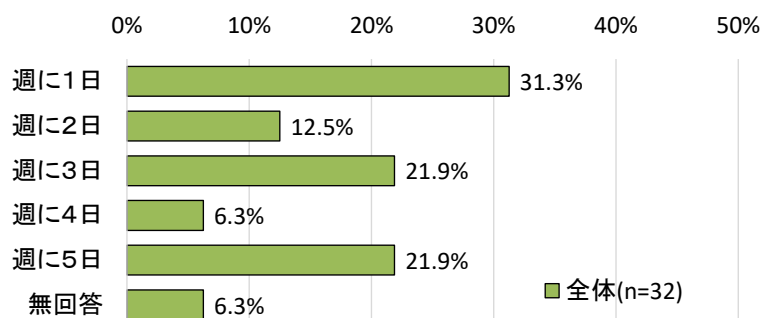


【二次・問 4】（数値で回答）

相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。

① 週に何日くらい利用していたか

図表 2-3-4-2 適応指導教室(トライ)の利用頻度(二次)



※集計対象は、適応指導教室（トライ）を「利用した」と回答した場合のみ。

【二次・問 4】（自由記述回答）

相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。

②相談・利用したきっかけや目的（どのようにして知りましたか、なぜ利用しましたか）

図表 2-3-4-3 適応指導教室(トライ)を利用したきっかけや目的(二次、自由記述回答を分類)

分類	該当件数
教員等のすすめ	8
親のすすめ	8
勉強・受験のため	7
友達が行っていた、友達ができた	4
小学校のとき行っていたから	2
その他	3
無回答（回答欄空欄）	3

※集計対象は、適応指導教室（トライ）を「利用した」と回答した場合のみ。

※32 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

【二次・問4】（自由記述回答）

相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。

③相談・利用してよかったと思うこと

図表 2-3-4-4 適応指導教室(トライ)を利用してよかったと思うこと
（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
進路準備ができた	11
勉強ができた	10
友達ができた	9
相談・コミュニケーションができた	8
外出のきっかけとなった	5
その他	8
無回答（回答欄空欄）	4

※集計対象は、適応指導教室（トライ）を「利用した」と回答した場合のみ。

※32件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

図表 2-3-4-5 適応指導教室(トライ)を利用してよかったと思うこと
（二次、自由記述の代表的な回答例）

分類	回答内容例
進路準備ができた	今後の生活や高校受験についてアドバイスをいただけたので、すごく助かった。
	進路相談は大いに役立ったと思う。
勉強ができた	ついていけないところや高校受験を手伝ってもらった。
	学習支援を受け高校に進学できた。
友達ができた	同い年や後輩の友達ができました。同じ悩みや似たような環境の子もおり、愚痴や相談など、共感し合いながら話せたのはとても助かり、うれしかった。
相談・コミュニケーションができた	人と話す機会ができたこと。
外出のきっかけとなった	勉強しに行く、先生に会いに行くなどの目的があったので外に出やすかった。学校に行くのと同じ感覚で行けたのでリハビリにもなった。

【二次・問4】（自由記述回答）

相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。

④相談・利用してよくなかったと思うこと

図表 2-3-4-6 適応指導教室(トライ)を利用したがよくなかったと思うこと
（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
人間関係・雰囲気	5
授業に関すること	2
その他	3
特になし	10
無回答（回答欄空欄）	12

※集計対象は、適応指導教室（トライ）を「利用した」と回答した場合のみ。

※32件の回答を分類したもの。

図表 2-3-4-7 適応指導教室(トライ)を利用したがよくなかったと思うこと
（二次、自由記述の代表的な回答例）

分類	回答内容例
人間関係・雰囲気	同じ空間にいる人を、傷付けないように気をつかうこと。そんなに知っている人ばかりではなかったのだ。
授業に関すること	個人的に通常教科の授業に出るハードルが高かったと感じた。

【二次・問 4-1】（自由記述回答）

あなたが、適応指導教室（トライ）を利用しなかった理由を教えてください。

図表 2-3-4-8 適応指導教室(トライ)を利用しなかった理由(二次、自由記述回答を分類)

分類	該当件数
人と関わりたくなかった、行きたくなかった	7
知らなかった	5
ほかの場所に行っていたから	2
その他	5
無回答（回答欄空欄）	2

※集計対象は、適応指導教室（トライ）を「利用しなかった」と回答した場合のみ。

※20 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

【一次保護者・問 7】（自由記述回答）

「適応指導教室（トライ）」について、「知っていたが利用しなかった」を選んだ方は、利用しなかった理由を具体的に記入してください。

図表 2-3-4-9 保護者が適応指導教室(トライ)を知っていたが、
お子さんが利用しなかった理由(一次保護者、自由記述回答を分類)

分類	該当件数
本人が行きたがらなかった	25
子供の状況から利用は難しいだろうと 保護者が判断した	8
説明・相談時の対応がよくなかった	7
外出が難しかった	5
過去に利用したが継続しなかった	5
家から遠かった	4
その他	5
無回答（回答欄空欄）	5

※集計対象は、適応指導教室（トライ）を「知っていたが利用しなかった」と回答した場合のみ。

※59 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

2-3-5 民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）の利用状況

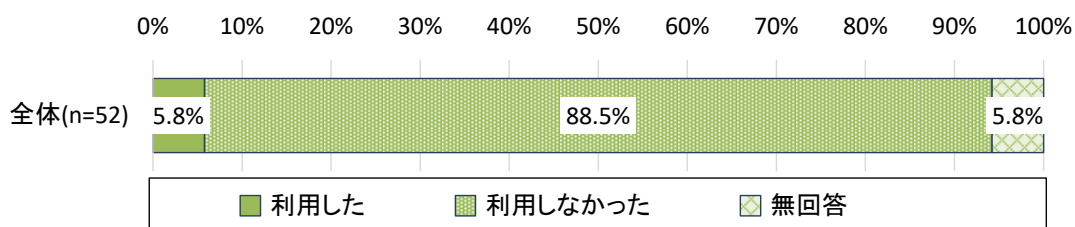
「民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）」は、二次調査の回答でも、利用の割合は1割未満（二次調査回答者での該当ケース数3件）となっている（図表 2-3-5-1）。利用頻度は「週に1日」と「週に2日」となっている（図表 2-3-5-2）。

利用のきっかけは「親のすすめ」と「勉強・受験のため」であり、（図表 2-3-5-3）、「友達ができた」、「自分の学力の程度が把握できた」という肯定的な評価があった（図表 2-3-5-4）。

【二次・問 4】（単一回答）

中学校3年生の時、あなたは次のような相談や場所を利用しましたか。

図表 2-3-5-1 民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）の利用の有無（二次）

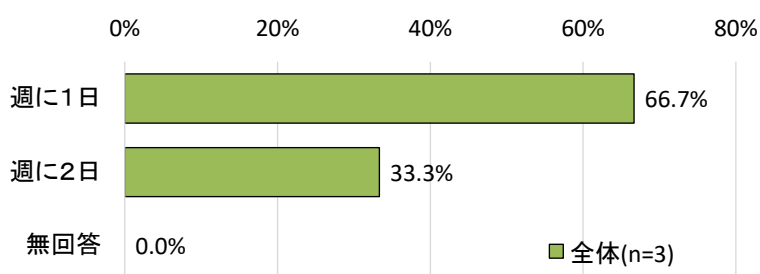


【二次・問 4】（数値で回答）

相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。

①週に何日くらい利用していたか

図表 2-3-5-2 民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）の利用頻度（二次）



※集計対象は、民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）を「利用した」と回答した場合のみ。

【二次・問 4】（自由記述回答）

相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。

②相談・利用したきっかけや目的（どのようにして知りましたか、なぜ利用しましたか）

図表 2-3-5-3 民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）を利用したきっかけや目的
（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
親のすすめ	1
勉強・受験のため	1
無回答（回答欄空欄）	1

※集計対象は、民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）を「利用した」と回答した場合のみ。

※ 3 件の回答を分類したもの。

【二次・問 4】（自由記述回答）

相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。

③相談・利用してよかったと思うこと

図表 2-3-5-4 民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）を利用してよかったと思うこと
（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
友達ができた	1
自分の学力の程度が把握できた	1
無回答（回答欄空欄）	1

※集計対象は、民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）を「利用した」と回答した場合のみ。

※ 3 件の回答を分類したもの。

【二次・問 4】（自由記述回答）

相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。

④相談・利用してよくなかったと思うこと

図表 2-3-5-5 民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）を利用したがよくなかったと
思うこと（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
特になし	1
無回答（回答欄空欄）	2

※集計対象は、民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）を「利用した」と回答した場合のみ。

※ 3 件の回答を分類したもの。

2-3-6 スクールソーシャルワーカーへの相談状況

「スクールソーシャルワーカーへの相談」は、二次調査の回答でも、利用の割合は約 2 割となっている（図表 2-3-6-1）。

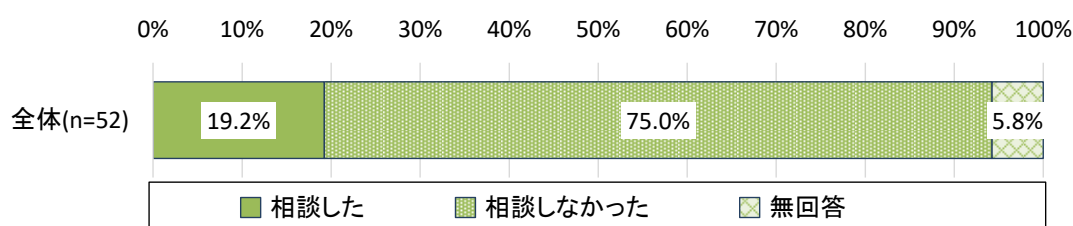
利用のきっかけとして、「教員等のすすめ」のほか、「小学校の時から相談していた」というケースが見られ（図表 2-3-6-2）、「安心できた、支えになった」、「進路準備ができた」といった肯定的な評価が得られている（図表 2-3-6-3、図表 2-3-6-4）。

よくなかった点としては、「かみ合わなかった」との意見が 1 件あった（図表 2-3-6-5）。

【二次・問 4】（単一回答）

中学校 3 年生の時、あなたは次のような相談や場所を利用しましたか。

図表 2-3-6-1 スクールソーシャルワーカーへの相談の有無(二次)



【二次・問 4】（自由記述回答）

相談・利用したのものについては、それぞれ①～④について教えてください。²³

②相談・利用したきっかけや目的（どのようにして知りましたか、なぜ利用しましたか）

図表 2-3-6-2 スクールソーシャルワーカーに相談したきっかけや目的
（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
教員等のすすめ	2
小学校の時から相談していた	2
親のすすめ	1
その他	4
無回答（回答欄空欄）	2

※集計対象は、スクールソーシャルワーカーに「相談した」と回答した場合のみ。

※10 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

²³ 「スクールソーシャルワーカーへの相談」については、週当たりの利用日数の回答が難しいと考えられたため、①利用頻度を尋ねていない。

【二次・問 4】（自由記述回答）

相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。

③相談・利用してよかったと思うこと

図表 2-3-6-3 スクールソーシャルワーカーに相談してよかったと思うこと
（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
安心できた、支えになった	4
進路準備ができた	3
特になし	1
無回答（回答欄空欄）	2

※集計対象は、スクールソーシャルワーカーに「相談した」と回答した場合のみ。

※10 件の回答を分類したもの。

図表 2-3-6-4 スクールソーシャルワーカーに相談してよかったと思うこと
（二次、自由記述の代表的な回答例）

分類	回答内容例
安心できた、支えになった	長きにわたり相談をしてくれて自分にとって大きい存在になった。学校のことでだけでなく家庭のことも相談できたし、心の支えになり人生で大きな影響を与えてくれました。
進路準備ができた	支援を受けて高校に進学できた。

【二次・問 4】（自由記述回答）

相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。

④相談・利用してよくなかったと思うこと

**図表 2-3-6-5 スクールソーシャルワーカーに相談したがよくなかったと思うこと
（二次、自由記述回答を分類）**

分類	該当件数
かみ合わなかった	1
特になし	5
無回答（回答欄空欄）	4

※集計対象は、スクールソーシャルワーカーに「相談した」と回答した場合のみ。

※10 件の回答を分類したもの。

2-3-7 保護者からの評価

子供への学校の対応として、保護者の回答でも、「学校の先生からの電話などの連絡」（85%）は約 9 割、「学校の先生・保健室の先生との相談」（77%）は約 8 割で実施されている。「学校の先生による家庭訪問」（38%）は約 4 割で実施されていたが、一方で約 5 割の保護者は「行われなくてよかった」と回答している（図表 2-3-7-1）。

対応への評価として、「よかった」と「どちらかといえばよかった」を合わせた割合を見ると「学校の先生・保健室の先生との相談」（85%）、「学校の先生による家庭訪問」（82%）、「学校の先生からの電話などの連絡」（79%）と、いずれも約 8 割の評価を得ている（図表 2-3-7-2）。

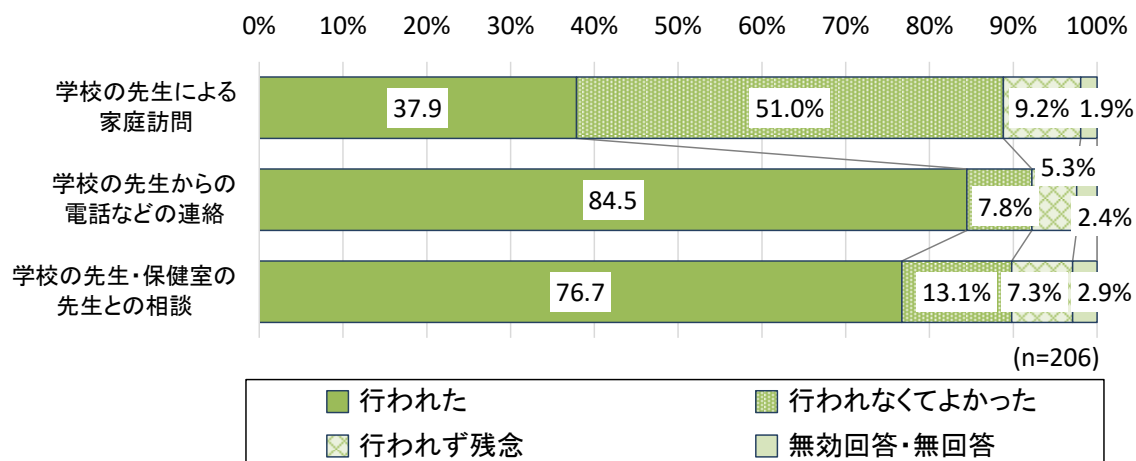
それ以外の学校の対応や支援機関の支援について、「利用した」と「知っていたが利用しなかった」を合わせた割合を見ると、「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談」（94%）、「保健室や相談室などの別室登校」（89%）、「適応指導教室（トライ）」（84%）については、8 割以上が利用の有無は別として存在を認知していた。「スクールソーシャルワーカーへの相談」、「居場所ぱれっと」、「光が丘第一分室つむぎ」は、それらに比べると「知らなくて利用しなかった」割合が高くなるが、これらは利用者が限られる支援であることによると考えられる（図表 2-3-7-3）。

また、利用者が一定数いた支援に対する評価として、「よかった」と「どちらかといえばよかった」を合わせた割合を見ると「練馬区の教育相談室」（87%）、「スクールソーシャルワーカーへの相談」（84%）、「適応指導教室（トライ）」（83%）、「保健室や相談室などの別室登校」（83%）で 8 割を超えている（図表 2-3-7-4）。

【一次保護者・問6】（単一回答）

お子さんが中学校3年生のとき、次のような対応が行われたり、支援機関などを利用したりしましたか。
そのときの対応や利用について、状況や評価をお教えてください。

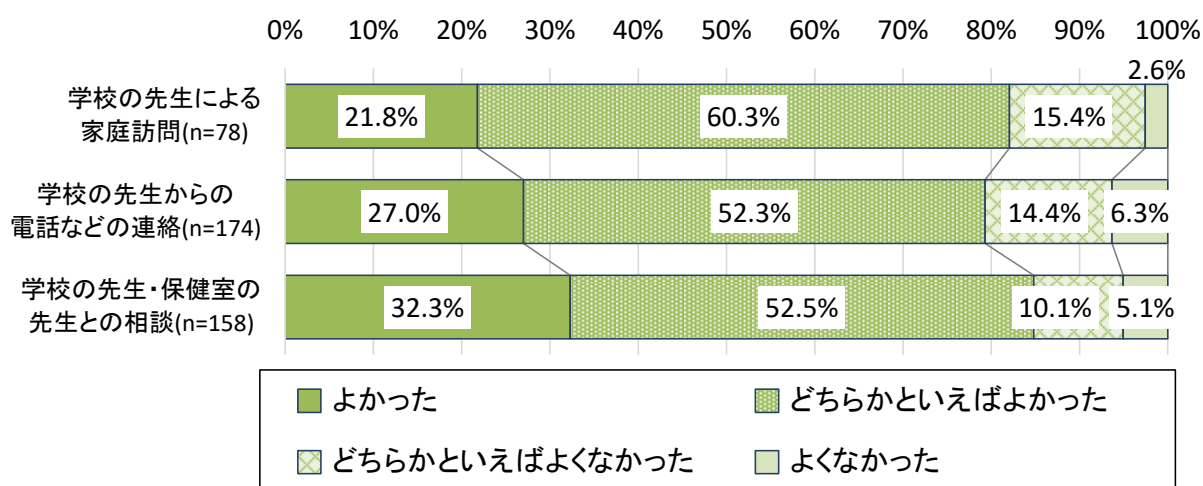
図表 2-3-7-1 学校の対応に関する保護者からの回答（一次保護者）



【一次保護者・問6】（単一回答）

お子さんが中学校3年生のとき、次のような対応が行われたり、支援機関などを利用したりしましたか。
そのときの対応や利用について、状況や評価をお教えてください。

図表 2-3-7-2 学校の対応に関する保護者からの回答・評価（一次保護者）

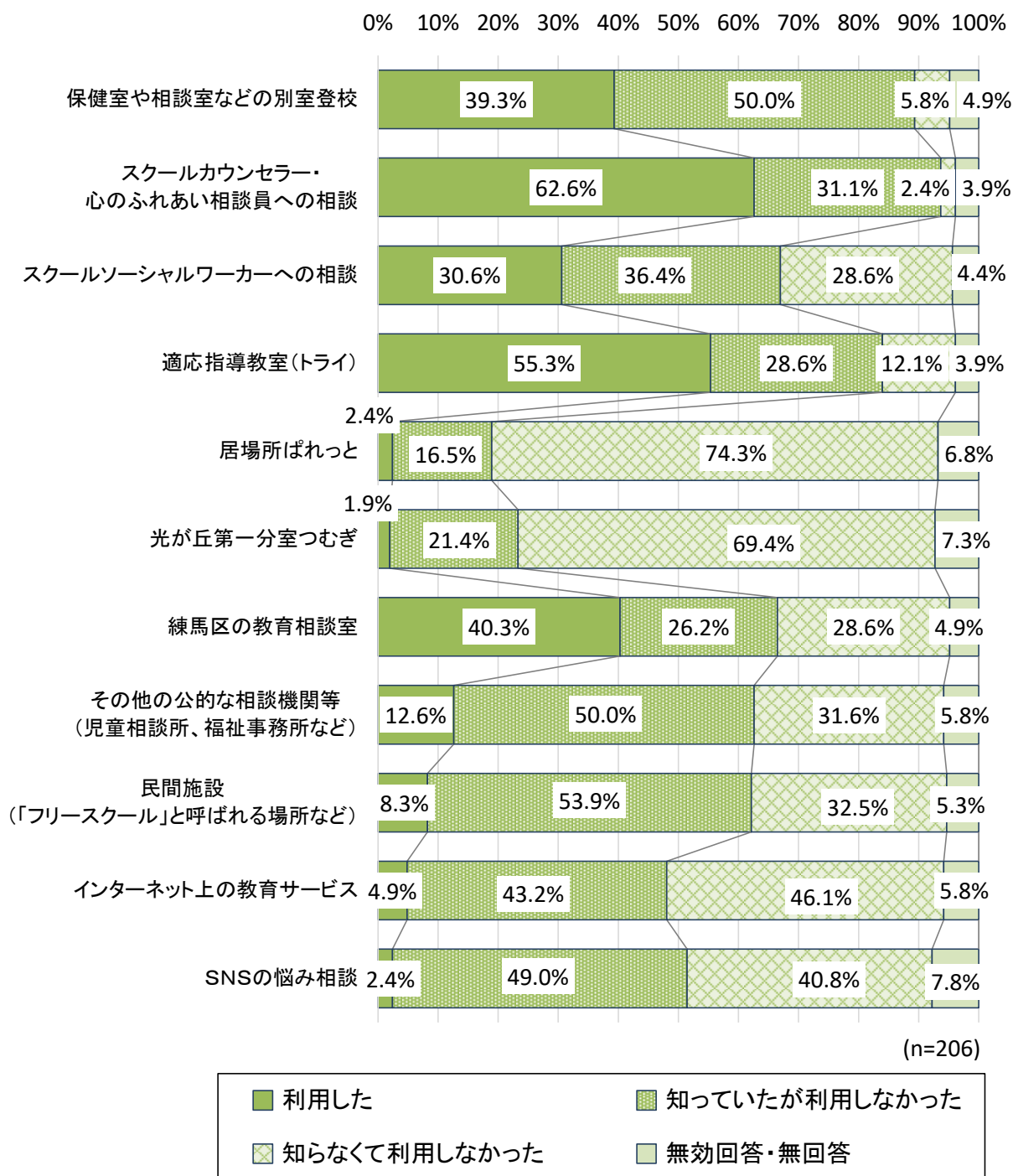


※集計対象は、それぞれ、行われたことがある場合のみ。

【一次保護者・問6】（単一回答）

お子さんが中学校3年生のとき、次のような対応が行われたり、支援機関などを利用したりしましたか。
そのときの対応や利用について、状況や評価をお教えてください。

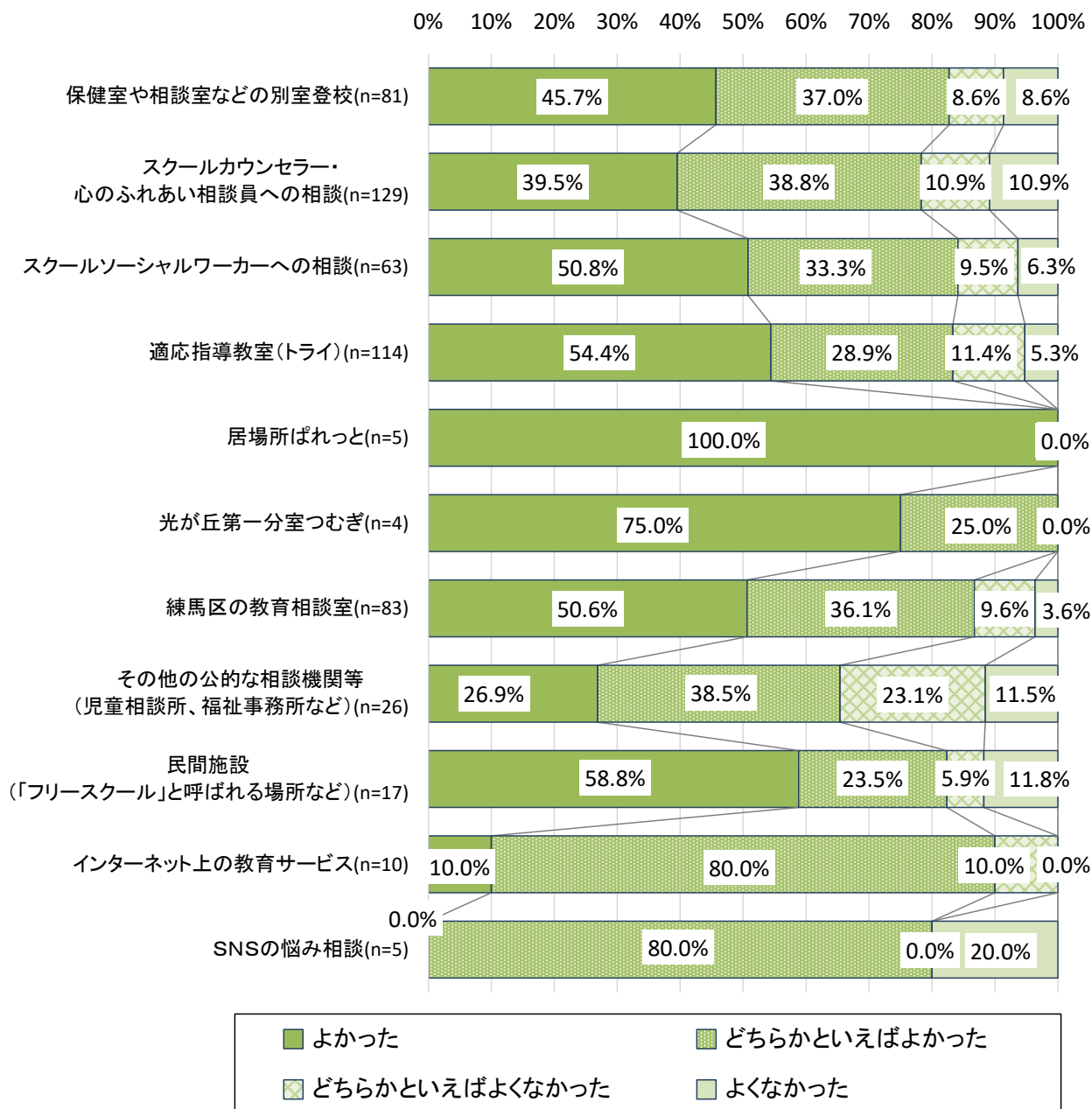
図表 2-3-7-3 支援機関の利用状況等に関する保護者からの回答（一次保護者）



【一次保護者・問6】（単一回答）

お子さんが中学校3年生のとき、次のような対応が行われたり、支援機関などを利用したりしましたか。
そのときの対応や利用について、状況や評価をお教えてください。

図表 2-3-7-4 支援機関の利用状況等に関する保護者からの回答・評価（一次保護者）



※集計対象は、それぞれ、利用したことがある場合のみ。

2-4 中学校卒業後の状況

2-4-1 中学校卒業後の進路

中学校卒業後の進路としては、「全日制の高等学校」が約 2 割（本人回答 16%、保護者回答 18%）、「定時制の高等学校」が約 4 割（本人回答 39%、保護者回答 38%）、「通信制の高等学校」が本人回答・保護者回答ともに 36%となっており、「定時制の高等学校」と「通信制の高等学校」が主な進学先となっている（図表 2-4-1-1、図表 2-4-1-2）。なお「定時制の高等学校」については、小中学校時代に不登校経験を持つ生徒等を主に受入れている、都立の定時制・単位制高等学校である「チャレンジスクール²⁴」が主となっていると推察される²⁵。

調査回答時点でも、短大・大学、専門学校等を含めて、在学中である方の割合は 85%と高く（図表 2-4-1-3、図表 2-4-1-4）、調査回答時点でパートやアルバイト、正社員で働いている割合は 27%となっている（図表 2-4-1-5、図表 2-4-1-6）。

なお、中学校卒業後に経験したこととして、「転校」が 6 %、「仕事を辞めたこと」が 4 %、「留年」、「中退」がそれぞれ 3 %となっている（図表 2-4-1-7）。

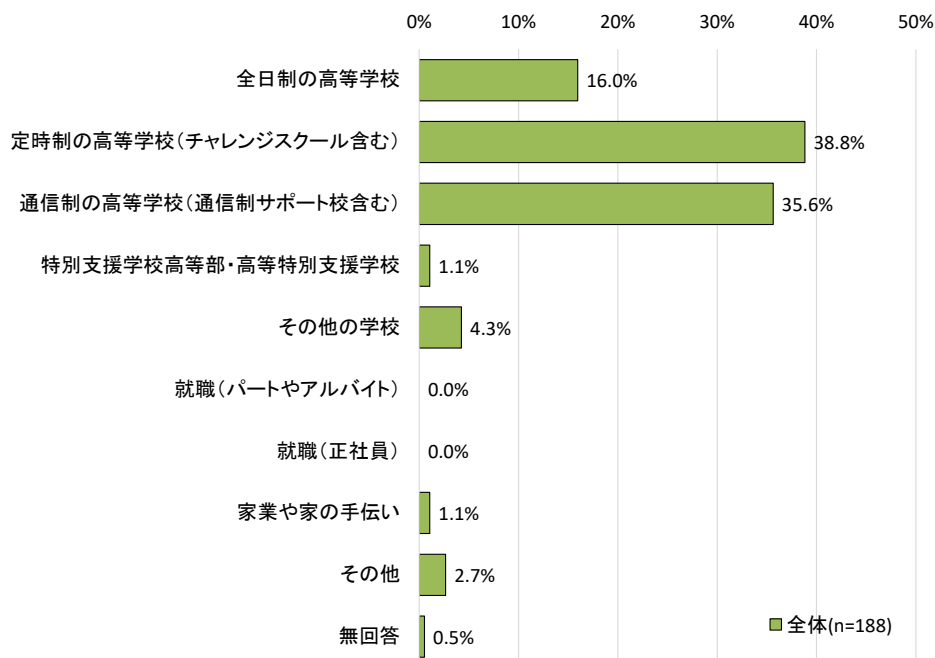
²⁴ チャレンジスクール：小中学校時代に不登校経験がある生徒や、長期欠席等が原因で高校を中途退学した者等を主に受入れる総合学科・三部制(午前部・午後部・夜間部)の都立高校。現在、5校が設置されている。

²⁵ 参考として、令和3年度に適応指導教室トライに登録していた中学校3年生のうち、約4割が定時制高校に進学しており、そのうち、約8割がチャレンジスクールに進学している。

【一次本人・問 4】（単一回答）

あなたは、中学校を卒業してすぐの時点で、どのような進路に進みましたか。

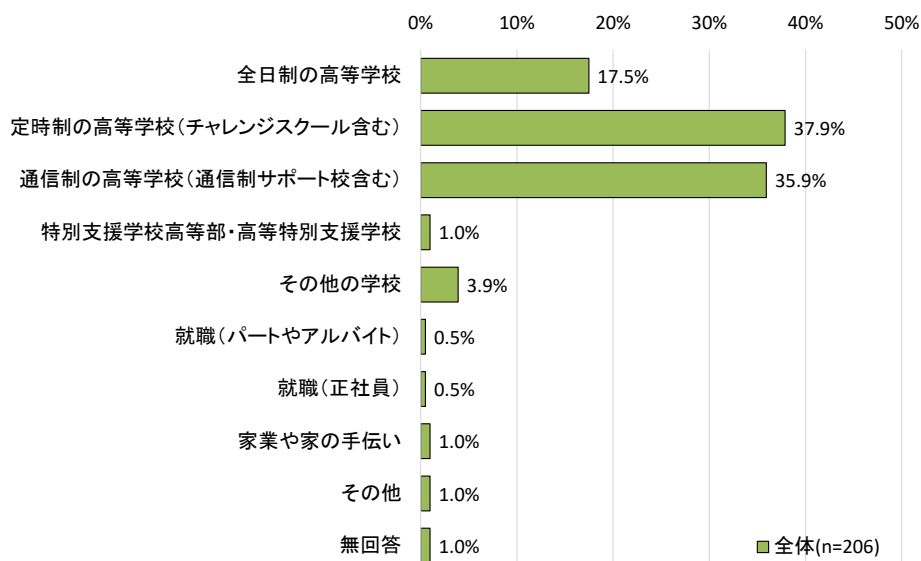
図表 2-4-1-1 中学校を卒業してすぐの時点の進路(一次本人)²⁶



【一次保護者・問 10】（単一回答）

お子さんは中学校を卒業してすぐの時点で、どのような進路に進みましたか。

図表 2-4-1-2 中学校を卒業してすぐの時点の進路(一次保護者)

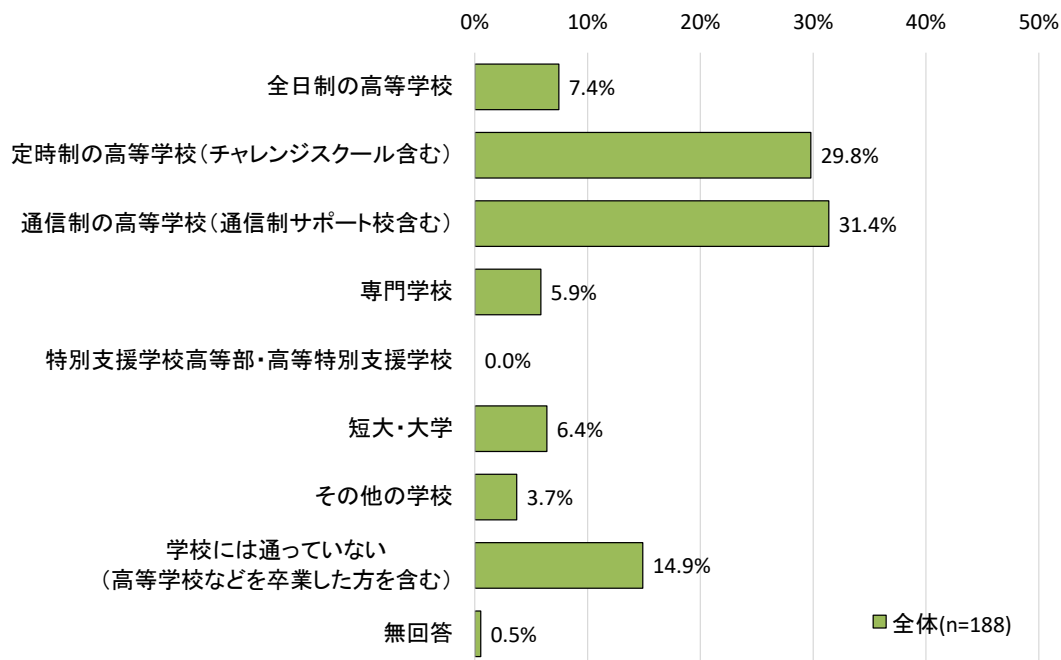


²⁶ 通信制サポート校：通信制高校に入学した者に対して、学習面等でサポートを行う教育機関。学校教育法で定められた「学校」ではなく、サポート校が提携している通信制高校の卒業になる。

【一次本人・問 5】（単一回答）

あなたは現在、次のいずれかの学校に通っていますか。

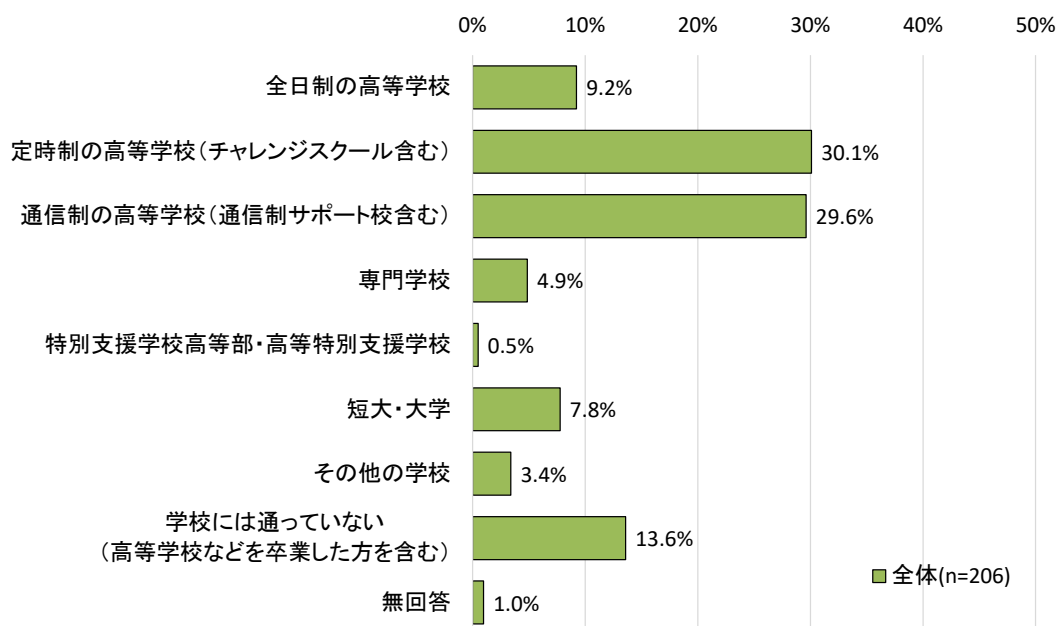
図表 2-4-1-3 調査回答時点の通学の状況(一次本人)



【一次保護者・問 11】（単一回答）

お子さんは現在、次のいずれかの学校に通っていますか。

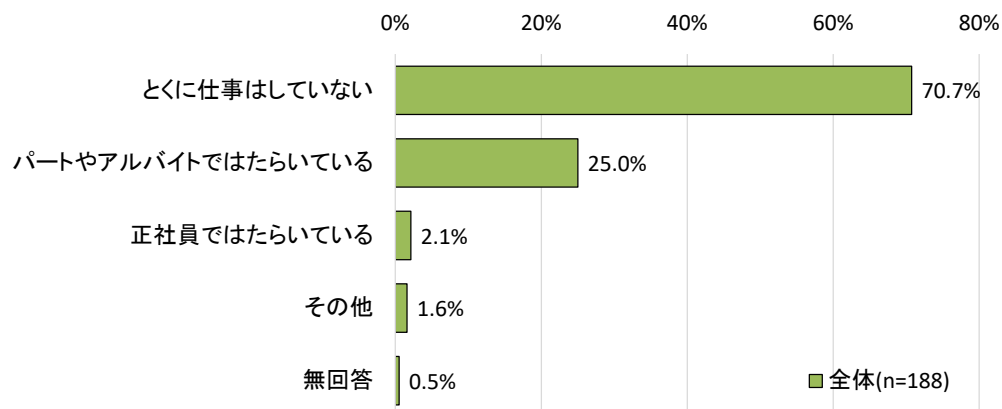
図表 2-4-1-4 調査回答時点の通学の状況(一次保護者)



【一次本人・問 6】（単一回答）

あなたは現在、何か仕事をしていますか。

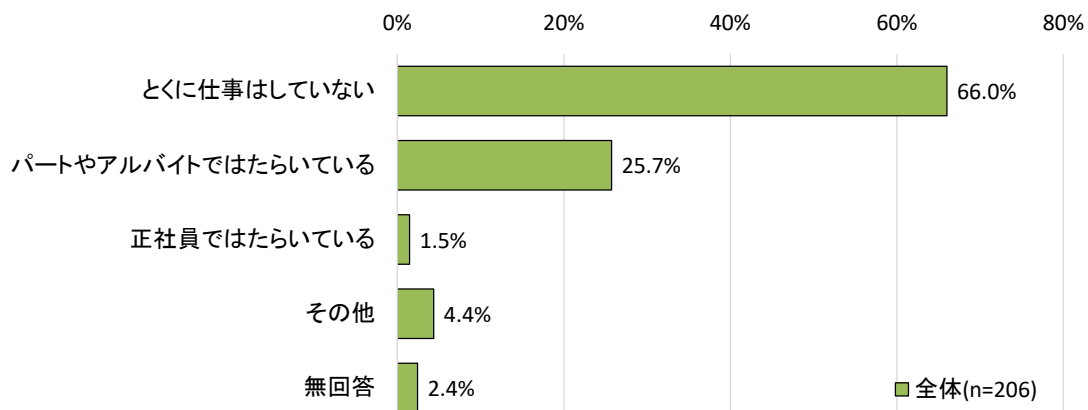
図表 2-4-1-5 調査回答時点の仕事の状況（一次本人）



【一次保護者・問 12】（単一回答）

お子さんは現在、何か仕事をしていますか。

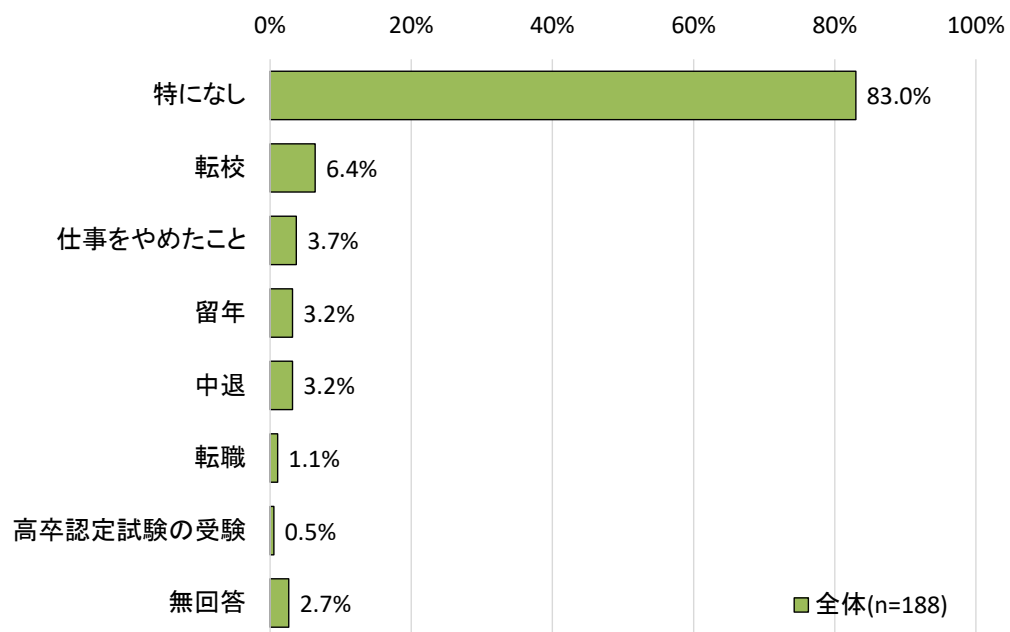
図表 2-4-1-6 調査回答時点の仕事の状況（一次保護者）



【一次本人・問 7】（複数回答）

あなたは、中学校卒業後に、以下のようなことを経験したことがありますか。

図表 2-4-1-7 中学校卒業後に経験したこと(一次本人)



2-4-2 中学校を卒業してからの困りごと、必要とした手助け等

中学校を卒業してから、誰かに相談したいと思ったり、手助けがあればいいのと思ったりしたことがあるかを二次調査で尋ねたところ、半数の約5割が「ある」と回答している（図表 2-4-2-1）。

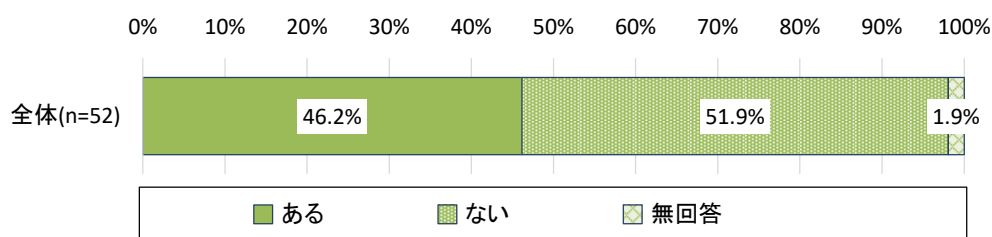
内容としては「心理的な不安等」や「勉強・進路のこと」（特に高校卒業後の進路）などであり（図表 2-4-2-2、図表 2-4-2-3）、そのことを実際に誰かに（どこかに）「相談した」割合は65%となっている（図表 2-4-2-4）。相談先は、「学校の先生」や「家族」、「練馬区の教育相談室の相談員」などで（図表 2-4-2-5）、相談した結果としては、「気が楽になった」などの変化があったという回答が得られた（図表 2-4-2-6）。

他方で、相談したいと思ったり、手助けがあればいいのと思っただにもかかわらず「相談しなかった」割合は35%で、相談しなかった理由としては、「意味がないと思った」や「相談先が分からなかった、場所がなかった」などの回答が見られた（図表 2-4-2-4、図表 2-4-2-7）。

【二次・問6】（単一回答）

中学校を卒業してから現在までに、誰かに相談したいと思ったり、手助けなどがあればいいのと思ったりしたことはありますか。

図表 2-4-2-1 中学校を卒業してから誰かに相談したいと思ったり、手助けなどがあればよいと思ったりしたことはあるか（二次）



【二次・問 6-1】（自由記述回答）

答えられる範囲で、その内容を教えてください。

図表 2-4-2-2 中学校を卒業してから相談したいと思ったり、手助けなどがあればよいと思ったりした内容（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
心理的な不安等	6
勉強・進路のこと	6
友達関係等	4
家族のこと	3
現在の不登校傾向のこと	2
その他	5
無回答（回答欄空欄）	4

※集計対象は、相談したいと思ったり、手助けなどがあればよいと思ったりしたことが「ある」と回答した場合のみ。

※24 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

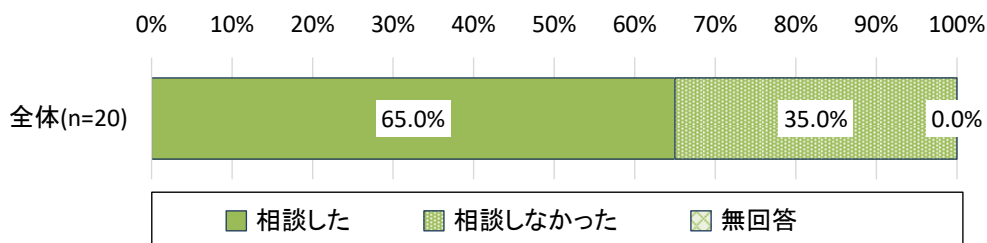
図表 2-4-2-3 中学校を卒業してから相談したいと思ったり、手助けなどがあればよいと思ったりした内容（二次、自由記述の代表的な回答例）

分類	回答内容例
心理的な不安等	人間関係でどうしたらいいのかわからないことが多すぎて、何が普通で何が正解なのかわからなくなった。相談して他人の意見が欲しい。
勉強・進路のこと	親をまず信用できなかったのも、高校卒業後の進路や一人暮らし。
友達関係等	学校での友達の作り方。
家族のこと	家族がよく喧嘩や暴言を吐いてるので、家に居づらいということ。
現在の不登校傾向のこと	高校 2 年から全く学校に行けなくなりそのまま現在に至っている。

【二次・問 6-2】（単一回答）

問 6-1 で回答いただいたことについて、実際に誰かに（どこかに）相談しましたか。

図表 2-4-2-4 相談したいと思ったり、手助けなどがあればよいと思ったりしたことを実際に誰かに（どこかに）相談したか（二次）



※集計対象は、相談したいと思ったり、手助けなどがあればよいと思ったりしたことについて自由記述での回答があった場合のみ。

【二次・問 6-3】（自由記述回答）

誰に（どこに）相談しましたか。また、相談した結果について、それぞれの相談先ごとに教えてください。

図表 2-4-2-5 実際に相談した相手（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
学校の先生	6
家族	4
練馬区の教育相談室の相談員	3
友人	2
その他	1
無回答（回答欄空欄）	0

※集計対象は、実際に誰かに（どこかに）「相談した」と回答した場合のみ。

※13 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

図表 2-4-2-6 実際に誰かに（どこかに）相談した結果（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
気が楽になった	6
助言を得た、対応してくれた	4
結局は自分次第であった	3
その他	4
無回答（回答欄空欄）	0

※集計対象は、実際に誰かに（どこかに）「相談した」と回答した場合のみ。

※13 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

【二次・問7】（自由記述回答）

問6-1で回答いただいたことについて、相談したいと思ったり、手助けなどがあればいいのと思ったのに、相談しなかった理由があれば、教えてください。

図表 2-4-2-7 相談したいと思ったり手助けなどがあればよいと思ったのに、相談しなかった理由（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
意味がないと思った	2
相談先が分からなかった、場所がなかった	2
信頼できなかった	1
つらくなるから	1
無回答（回答欄空欄）	1

※集計対象は、実際に誰かに（どこかに）「相談しなかった」と回答した場合のみ。

※7件の回答を分類したもの。

2-4-3 自分を理解してくれる人の存在

自分のことをよく理解してくれている人が、中学校3年生のときに「いた」割合は約8割、「いなかった」割合が約2割となっている（図表2-4-3-1）。

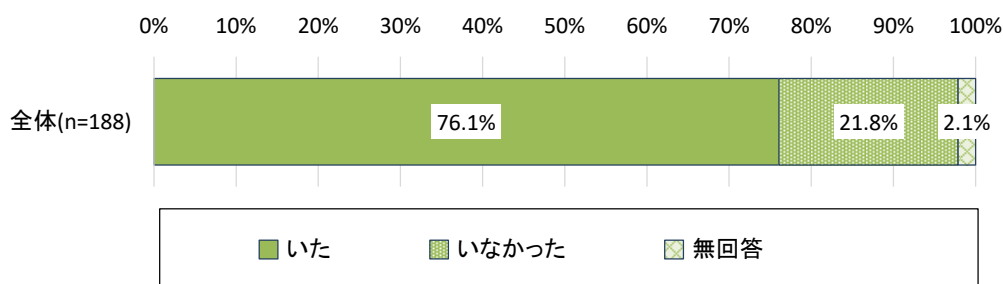
「いた」場合、それが誰であったかについては、「家族」（76%）が約8割、「友人・知人」（37%）が約4割、「適応指導教室（トライ・ぱれっと・つむぎ）の先生や相談員」（29%）と「学校の先生・保健室の先生」（25%）がそれぞれ約3割、「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員」（22%）が約2割となっている（図表2-4-3-2）。

自分のことをよく理解してくれている人が、現在「いる」（83%）割合は、中学校3年生のとき（76%）と比べて若干高まっている（図表2-4-3-3）。よく理解してくれている人は、やはり「家族」（87%）の割合が約9割と最も高いが、「友人・知人」（59%）の割合が約6割となり、中学校3年生のときと比べて高まっている（図表2-4-3-4）。また、「病院・診療所の先生や相談員等」（15%）の割合は、中学校3年生のとき（8%）と比べて倍近くとなっている。

【一次本人・問13】（単一回答）

あなたが中学校3年生のときに、あなたのことをよく理解してくれている人はいましたか。

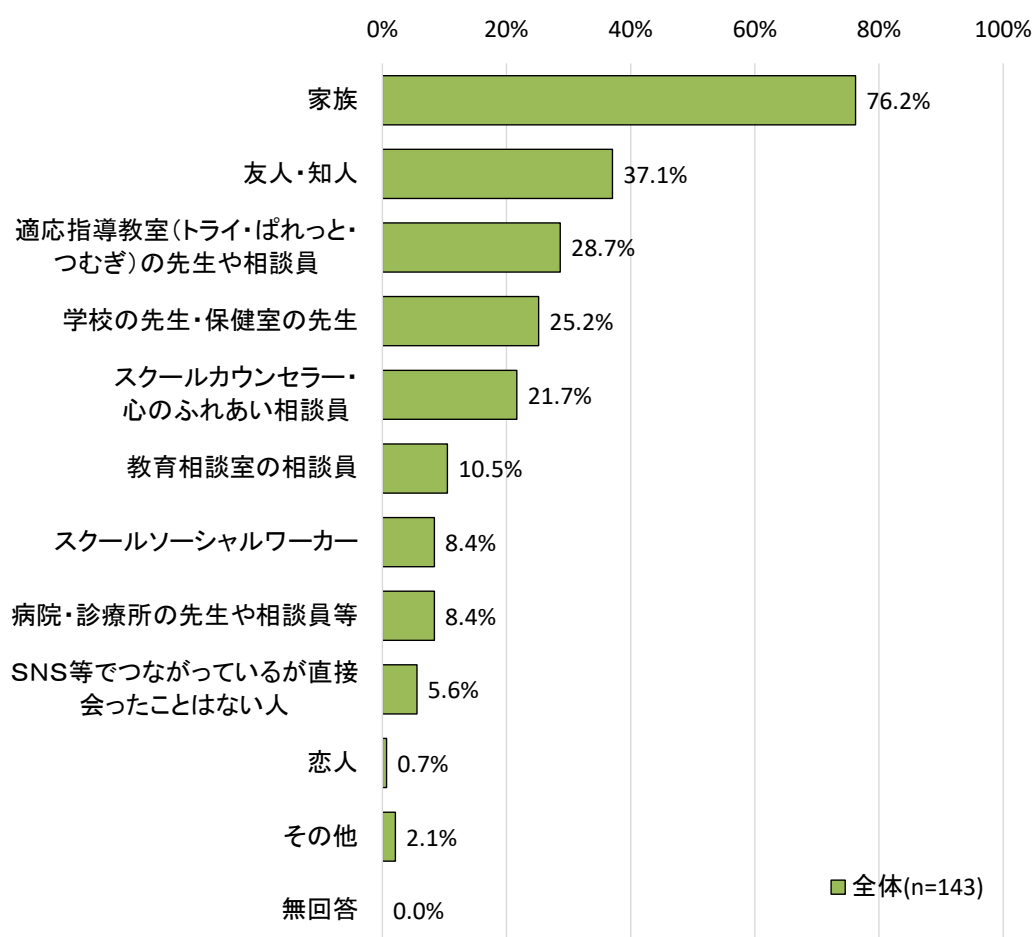
図表 2-4-3-1 中学校3年生のときに自身のことをよく理解してくれている人がいたか（一次本人）



【一次本人・問 13-1】（複数回答）

（「いた」と答えた場合）それはだれでしたか。

図表 2-4-3-2 中学校3年生のときに自身のことをよく理解してくれている人は誰であったか
（一次本人）

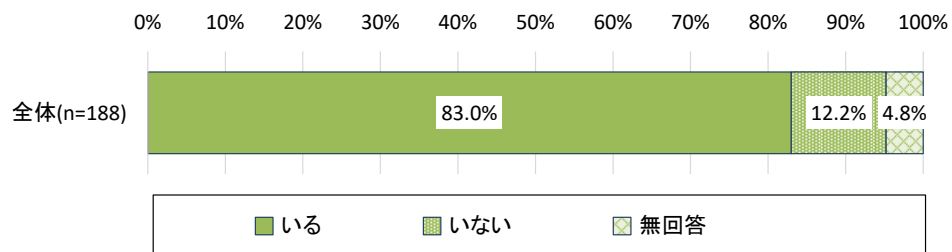


※集計対象は、中学校3年生のときに自身のことをよく理解してくれている人が「いた」と回答した場合のみ。

【一次本人・問 8】（単一回答）

現在、あなたのことをよく理解してくれている方はいますか。

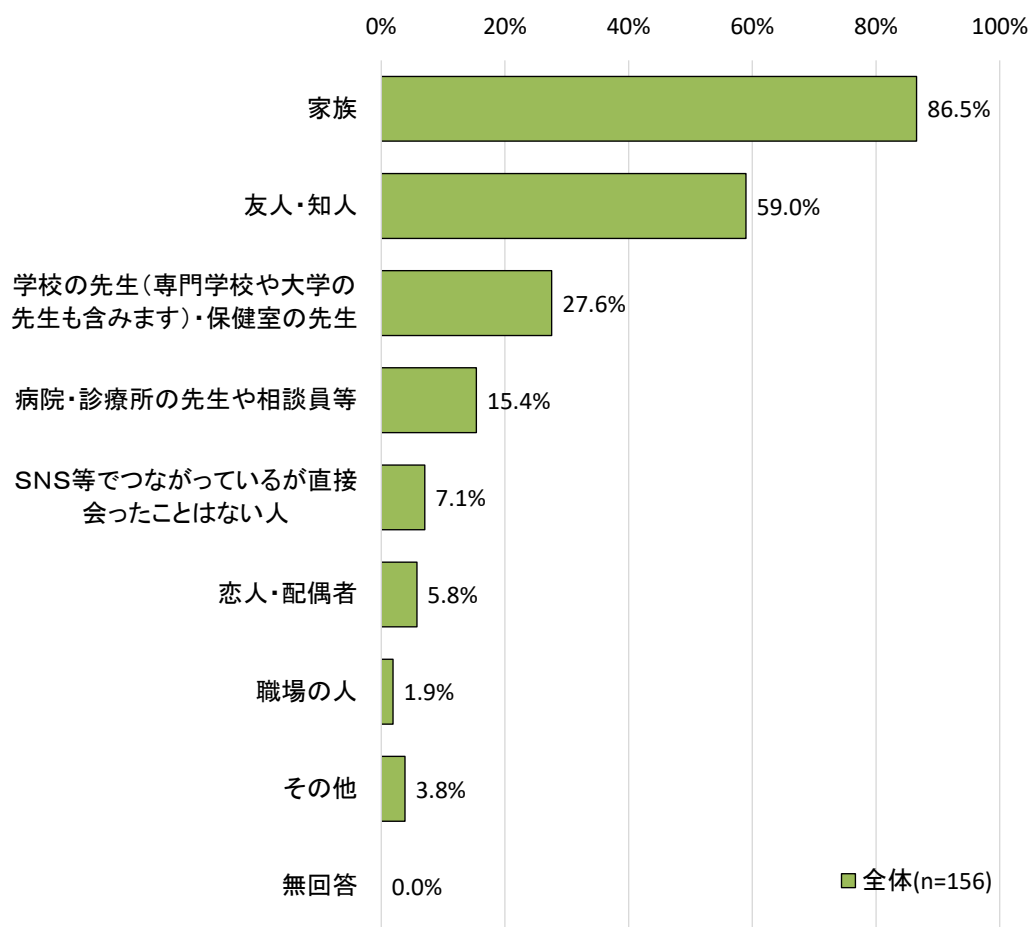
図表 2-4-3-3 現在自身のことをよく理解してくれている人がいるか（一次本人）



【一次本人・問 8-1】（複数回答）

（「いる」と答えた場合）それはだれですか。

図表 2-4-3-4 現在自身のことをよく理解してくれている人は誰か（一次本人）



※集計対象は、現在自身のことをよく理解してくれている人が「いる」と回答した場合のみ。

2-4-4 現在の生活状況に対する認識

一次調査で尋ねた、最近の生活満足度（0から10の11段階評価）については、平均が6.2で、おおむね生活に満足していると思われる7以上の評価をした方は、約5割となっている（図表2-4-4-1）。参考として経済協力開発機構の「OECD生徒の学習到達度調査（PISA）2018年度調査」によると、日本の生徒（高校1年生）の生活満足度の平均値は6.2であり（図表2-4-4-2）、これと比べても差異がなく、全体としては肯定的な回答をする方が多くなっている。

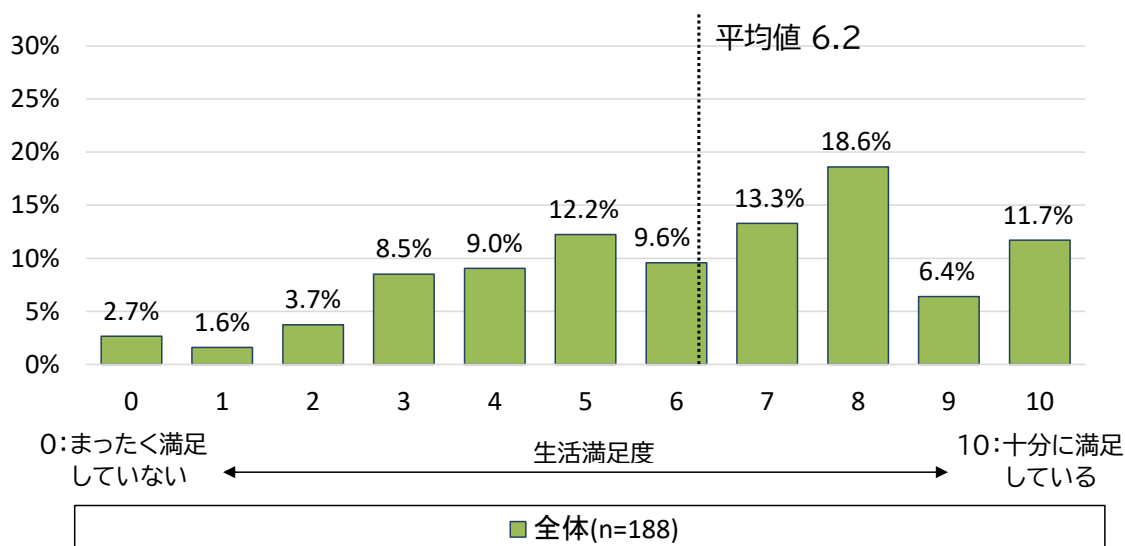
二次調査で、現在の生活が中学校3年生のときと比べて良くなったと思うかを尋ねた設問に対しては、「良くなった」（79%）の割合が約8割、「悪くなった」（10%）と「変わらない」（12%）の割合がそれぞれ約1割であり、多くの方の生活が改善している様子が分かる（図表2-4-4-3）。

「良くなった」と回答した場合の、良くなった点としては、「学校に通えている（通えた）」、「友達ができた」、「自分に合った学校であった」、「良い先生がいる」、「生活リズム・体調が整った」など複数の点を述べる方が多かった（図表2-4-4-4、図表2-4-4-5）。他方で、「悪くなった」場合は、「学校に通えていない、ひきこもりがち」であるとの回答があった（図表2-4-4-6）。

【一次本人・問 9】（単一回答）

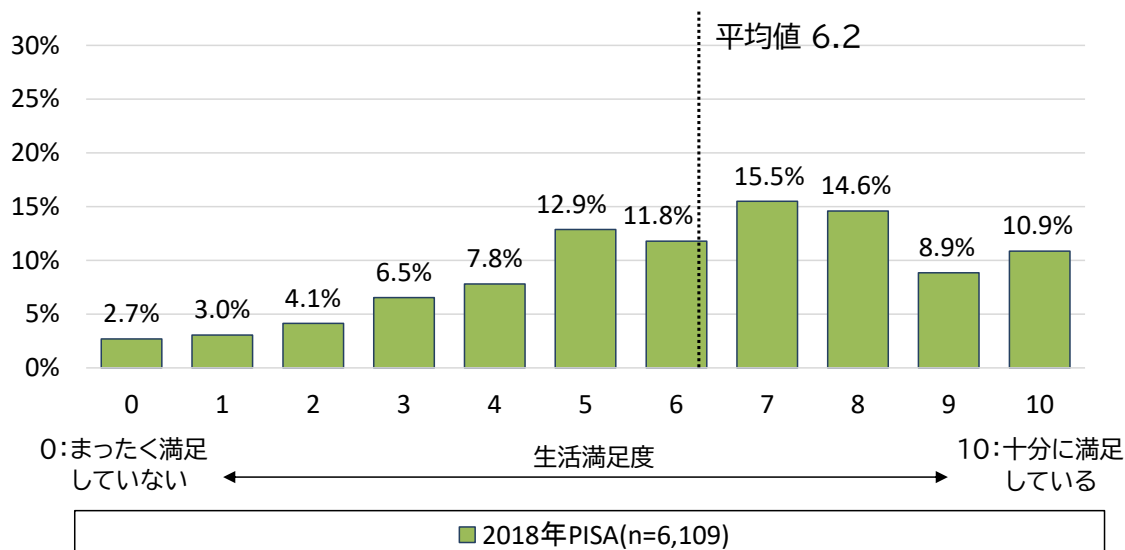
全体として、あなたはあなたの最近の生活全般に、どのくらい満足していますか。「0」（まったく満足していない）から「10」（十分に満足している）の数字で、あてはまるものを選んでください。

図表 2-4-4-1 最近の生活全般の満足度(一次本人)²⁷



図表 2-4-4-2 参考:日本全国の高校1年生の生活満足度²⁸

(OECD 生徒の学習到達度調査(PISA)2018 年度調査)²⁹



出典：OECD,PISA2018 Database より練馬区作成

²⁷ 無回答の割合（2.7%）をグラフから省略しているため、各回答割合を足し合わせても 100%とならない。

²⁸ 無回答の割合（1.3%）をグラフから省略しているため、各回答割合を足し合わせても 100%とならない。

また、OECD 生徒の学習到達度調査（PISA）については以下を参照

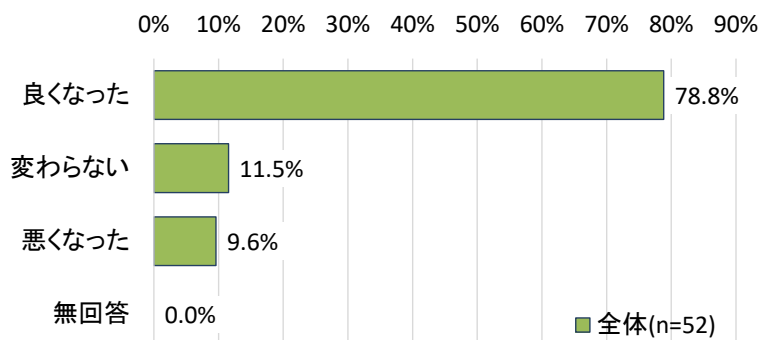
<https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/index.html#PISA2018>

²⁹ データは右の URL より入手した。 <https://www.oecd.org/pisa/data/2018database/>

【二次・問 8】（単一回答）

全体として、あなたの生活は、中学校 3 年生のときとくらべて良くなったと思いますか。

図表 2-4-4-3 全体として、生活が中学校 3 年生のときと比べて良くなったと思うか（二次）



【二次・問 8-1】（自由記述回答）

（「良くなった」または「悪くなった」と回答した場合）どのようなことが良くなった、または悪くなったと思いますか。また、どうしてそのようになったと思いますか。

図表 2-4-4-4 どのようなことが良くなったと思うか、また、どうしてそのようになったと思うか（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
学校に通えている（通えた）	18
友達ができた	13
自分に合った学校であった	7
良い先生がいる	6
生活リズム、体調が整った	6
積極的になれた、不安等がなくなった	5
コミュニケーションできるようになった	4
大学進学、就職等が決まった	3
環境が変わってうまくいった	2
その他	7
無回答（回答欄空欄）	1

※集計対象は、中学校 3 年生のときと比べて生活が「良くなった」と回答した場合のみ。

※41 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

図表 2-4-4-5 どのようなことが良くなったと思うか、また、どうしてそのようになったと思うか
(二次、自由記述の代表的な回答例)

分類	回答内容例
学校に通えている (通えた)	皆勤賞を取ることができた。信頼できる先生がいる。信頼できる友達がいる。学校を休みたいと思っても休まず、それが自信につながっている。
	少しずつだけど自分のペースで学校に行くことができて友達もできたから。
	学校に通い友達がいる。やりたいことがある。
友達ができた	友達との関係が良くなった。クラスの感じも良くなった。先生が優しく接してくれるのと、生徒の心が優しいから。
	楽しく高校に通っていて、共通の趣味を持った友達ができたから。不安定になることがなくなった。
自分に合った学校であった	同じ境遇の人が多くいる学校に進学したので心地よい学校生活を送れています。
良い先生がいる	高校にとっても楽しく通えています。担任の先生もとても優しく、進路の相談などでとても親身になって教えてくれます。高校の先生全員とても良くしてくれるおかげです。
生活リズム、体調が整った	中学生の学校に行かなくなった時期と比べて、今は毎日学校に通えて規則正しい生活を送れているから。
積極的になれた、不安等がなくなった	内気な気持ちがなくなり、自分で何か新しいことを見つけるようになったりした。
コミュニケーションできるようになった	当時ほど他者との意思疎通が困難ではなくなったから。
大学進学、就職等が決まった	高校から大学に進学し、未来が明るく見える。
環境が変わってうまくなった	環境が変わったから。自分が行きたい高校だったから。

図表 2-4-4-6 どのようなことが悪くなったと思うか、また、どうしてそのようになったと思うか
(二次、自由記述回答を分類)

分類	該当件数
学校に通えていない、ひきこもりがち	4
全て	1
無回答(回答欄空欄)	0

※集計対象は、中学校3年生のときと比べて生活が「悪くなった」と回答した場合のみ。

※5件の回答を分類したもの。

2-4-5 ICT 機器を活用した学習の経験、学習方法に関する考え

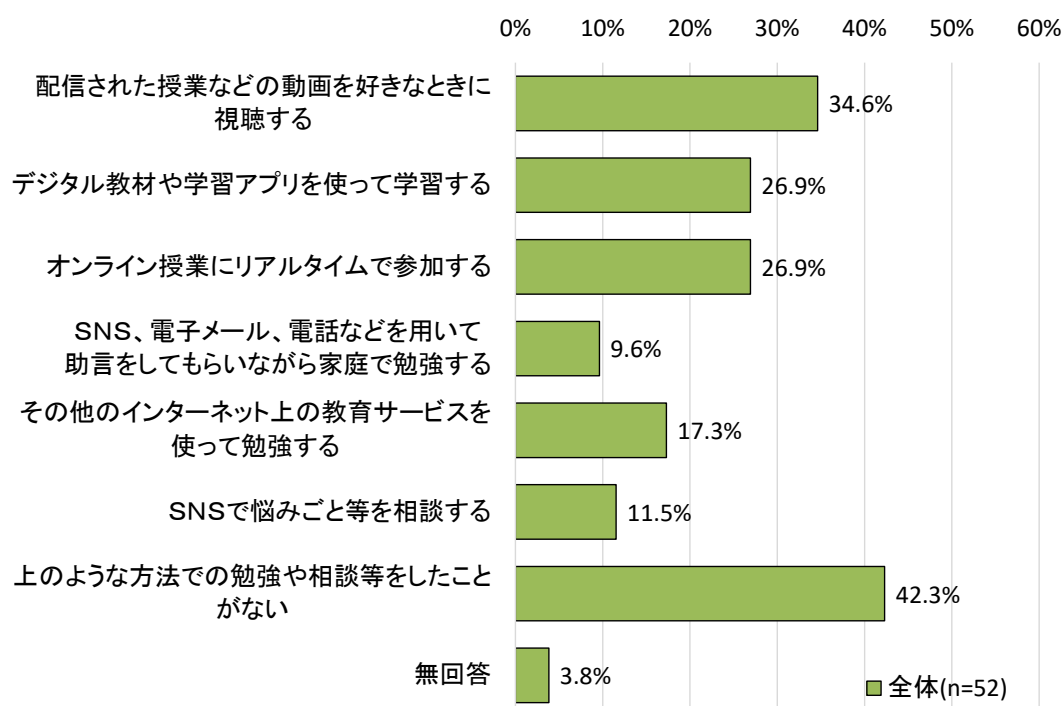
ICT 機器を活用した学習等の経験については、半数以上（54%）の方で何らかの経験があった³⁰。中学校卒業後、高校あるいは大学等で利活用していると思われる。内容としては、「配信された授業などの動画を好きなときに視聴する」（35%）、「デジタル教材や学習アプリを使って学習する」（27%）、「オンライン授業にリアルタイムで参加する」（27%）が 3 割前後となっている（図表 2-4-5-1）。

ICT 機器を活用した学習等に関して、使ってみてよかった点としては、「自分のペースでできる」や「繰り返してできる」などの回答が得られている（図表 2-4-5-2、図表 2-4-5-3）。

【二次・問 5】（複数回答）

現在までの間に、次のような方法で勉強や相談等をしたことがありますか。

図表 2-4-5-1 ICT 機器を活用した勉強や相談等の経験(二次)



³⁰ 回答者全体（100%）から、「上のような方法での勉強や相談等をしたことがない」（42.3%）と「無回答」（3.8%）を除いた割合。

【二次・問 5-1】（自由記述回答）

問 5 で回答いただいたような ICT 機器（スマートフォン、タブレット、パソコン等）を活用した勉強や相談等のサービスについて、どのような使い方があなたに合っていると思いますか。使ってみてよかったものや、よかった点について、できるだけ具体的に教えてください。

図表 2-4-5-2 ICT 機器(スマートフォン、タブレット、パソコン等)を活用した勉強や相談等のサービスについて使ってみてよかった点(二次、自由記述回答を分類)

分類	該当件数
自分のペースでできる	11
繰り返しできる	6
人目を気にしなくてよい	3
自分には合わなかった	3
分からないことを調べられる	2
その他	5
無回答（回答欄空欄）	3

※集計対象は、ICT 機器（スマートフォン、タブレット、パソコン等）を活用した勉強や相談等のサービスを利用したことがあると回答した場合のみ。

※28 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

図表 2-4-5-3 ICT 機器(スマートフォン、タブレット、パソコン等)を活用した勉強や相談等のサービスについて使ってみてよかった点(二次、自由記述の代表的な回答例)

分類	回答内容例
自分のペースでできる	学習アプリは自分のペースで好きな時間に勉強ができるのでよかった。 配信された授業の動画は自分のペースで休憩しながら見ることもできるのでよかった。
繰り返しできる	動画で見る勉強は、分からなかったところを何度でも巻き戻すことができ、「分からないままにしておかない」という癖がついた。
人目を気にしなくてよい	落ち着いた自分の部屋で受けられる。人目を気にせず授業を受けることができるのは良い。
自分には合わなかった	ネット授業は心が弱かったのでどうしてもサボりがちになり、ネットの環境につながっているせいでどうしてもほかのことをしてしまった。やる気のある人にはかなりいいサービスだが、いつでもサボれるので実際に人に教えてもらう方が場の空気などもあり集中できた。
分からないことを調べられる	分からないことがあったらすぐ調べられるところ。

2-4-6 保護者から見た現在の子供の様子

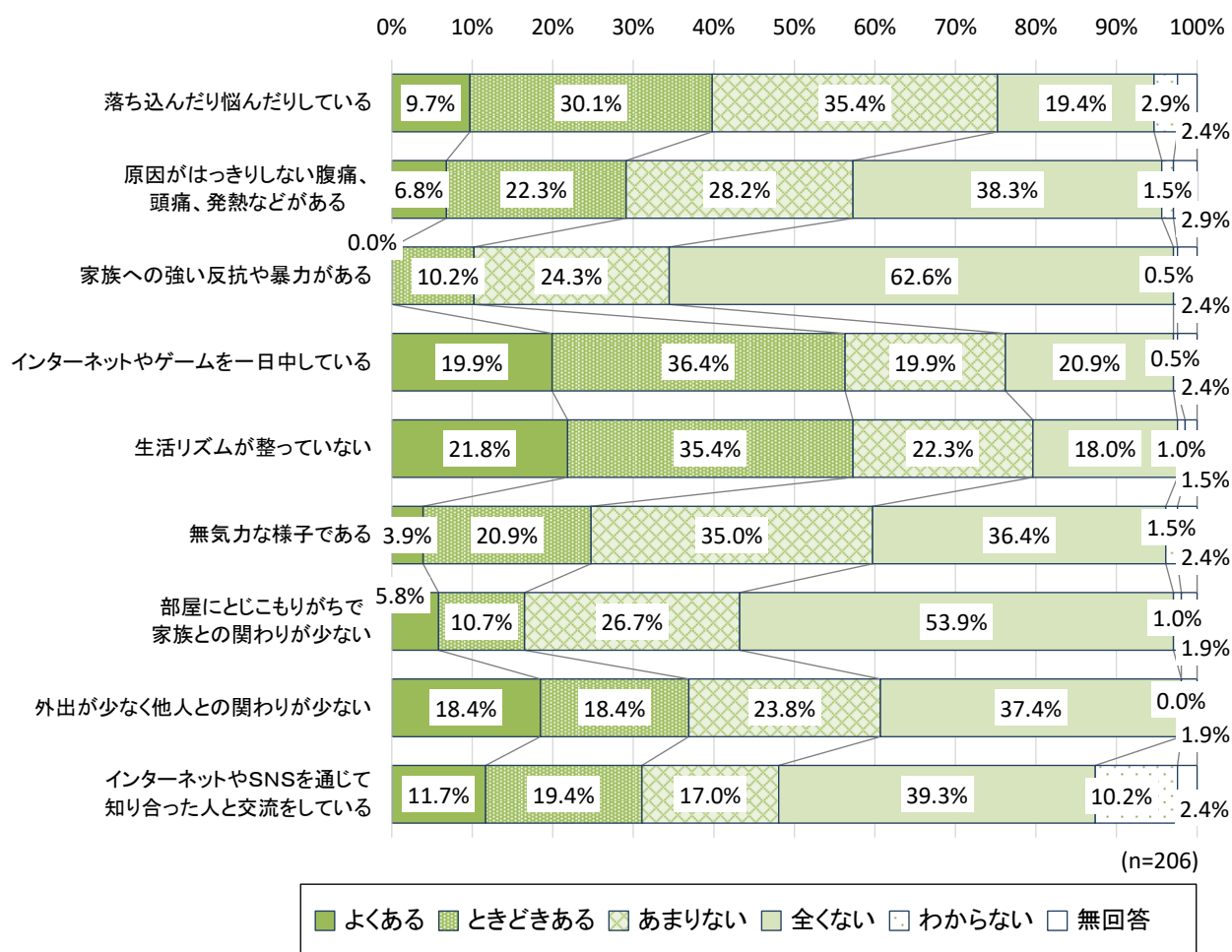
保護者から見た、現在（調査回答時点）の子供の様子について、「よくある」と「ときどきある」を合わせた割合を見ると、「生活リズムが整っていない」（57%）、「インターネットやゲームを一日中している」（56%）が5割以上と高い（図表 2-4-6）。

ただし、中学校3年生のときの子供の状況（p.26 図表 2-2-5）と比較すると、「インターネットや SNS を通じて知り合った人と交流をしている」のみ若干高くなっているものの、ほかの項目については全て該当割合が低下しており、生活状況が改善している傾向にあることが分かる。

【一次保護者・問 13】（単一回答）

お子さんの現在の様子についてお聞きます。次のようなことは、どのくらいありますか。

図表 2-4-6 子供の現在の様子(一次保護者)



2-5 今後の展望等

2-5-1 将来に対する夢や希望

一次調査で尋ねた、将来の夢や希望の有無については、「ある」(33%)と「ぼんやりとある」(47%)を合わせた割合は約8割となっている(図表 2-5-1-1)。

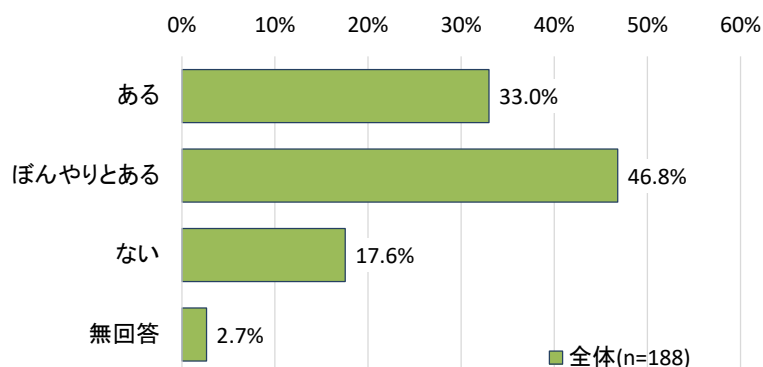
二次調査で尋ねた、これから5年程度の期間での目標や希望については、「進学」や「就職」に関する内容が多く、「資格取得」や「一人暮らし、自立」に関するものもあった(図表 2-5-1-2)。

それらの目標や希望を実現するために欲しい手助けとしては、「学習・進学の支援」、「仕事・就職の支援」、「相談場所」などがあった(図表 2-5-1-3)。

【一次本人・問 18】(単一回答)

自分の将来について夢や希望がありますか。

図表 2-5-1-1 将来の夢や希望の有無(一次本人)



【二次・問9】（自由記述回答）

これから5年程度の期間で、進路や就職、生活のことなどについて、現時点の目標や希望があれば教えてください。

図表 2-5-1-2 これから5年程度の期間での目標や希望（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
進学	20
就職	10
資格取得	7
一人暮らし、自立	5
アルバイト	2
未定、特になし	3
その他	9
無回答（回答欄空欄）	5

※52件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

【二次・問9】（自由記述回答）

問9で回答いただいた目標や希望を実現するために、「このような手助けが欲しい」ということがありましたら、教えてください。

図表 2-5-1-3 目標や希望を実現するために欲しい手助け（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
学習・進学の支援	6
仕事・就職の支援	4
相談場所	4
分からない	2
その他	5
特になし	18
無回答（回答欄空欄）	11

※集計対象は、目標や希望について自由記述での回答があった場合のみ（「未定、特になし」の分類に該当する回答をしていた場合は集計に含む）

※47件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

2-5-2 不安や悩みごと、必要とする手助け

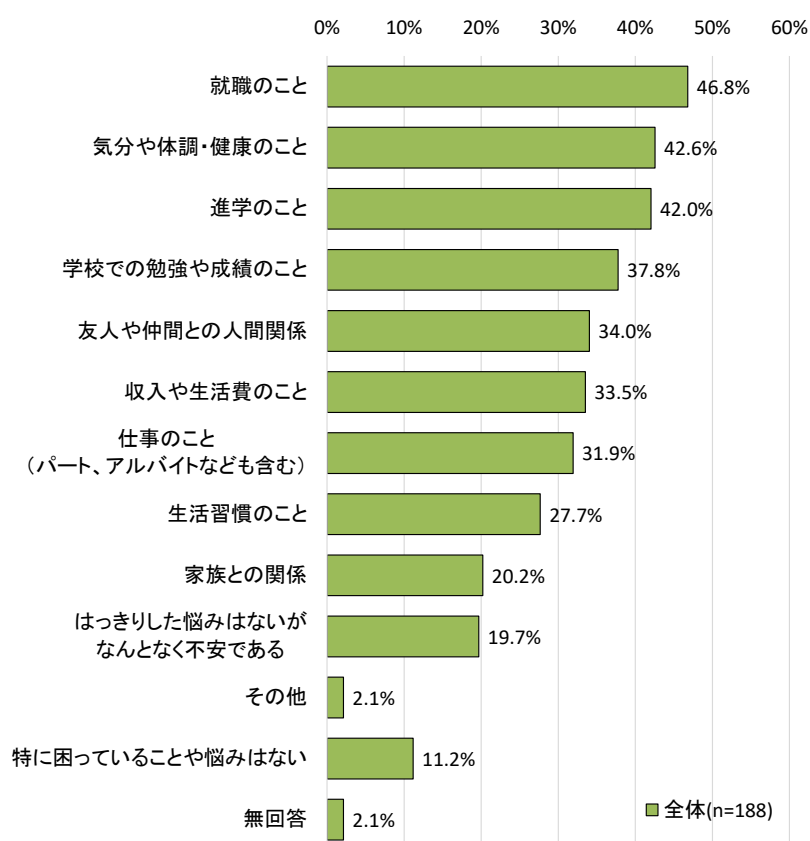
これからの生活についての不安や悩みごとの内容は多岐にわたる。一番割合が高いものは、「就職のこと」(47%)で約5割、ほかに「気分や体調・健康のこと」(43%)、「進学のこと」(42%)、「学校での勉強や成績のこと」(38%)が約4割、「友人や仲間との人間関係」(34%)、「収入や生活費のこと」(34%)、「仕事のこと(パート、アルバイトなども含む)」(32%)が約3割となっている(図表 2-5-2-1)。

誰かに相談したいと思ったり、手助けがあればいいのと思う内容も多岐にわたり、「人間関係について」(32%)、「進学について」(31%)、「仕事につくことについて」(31%)が約3割となっている(図表 2-5-2-2)。

【一次本人・問 19】(複数回答)

あなたはこれからの生活について、次のような不安や悩みごとがありますか。

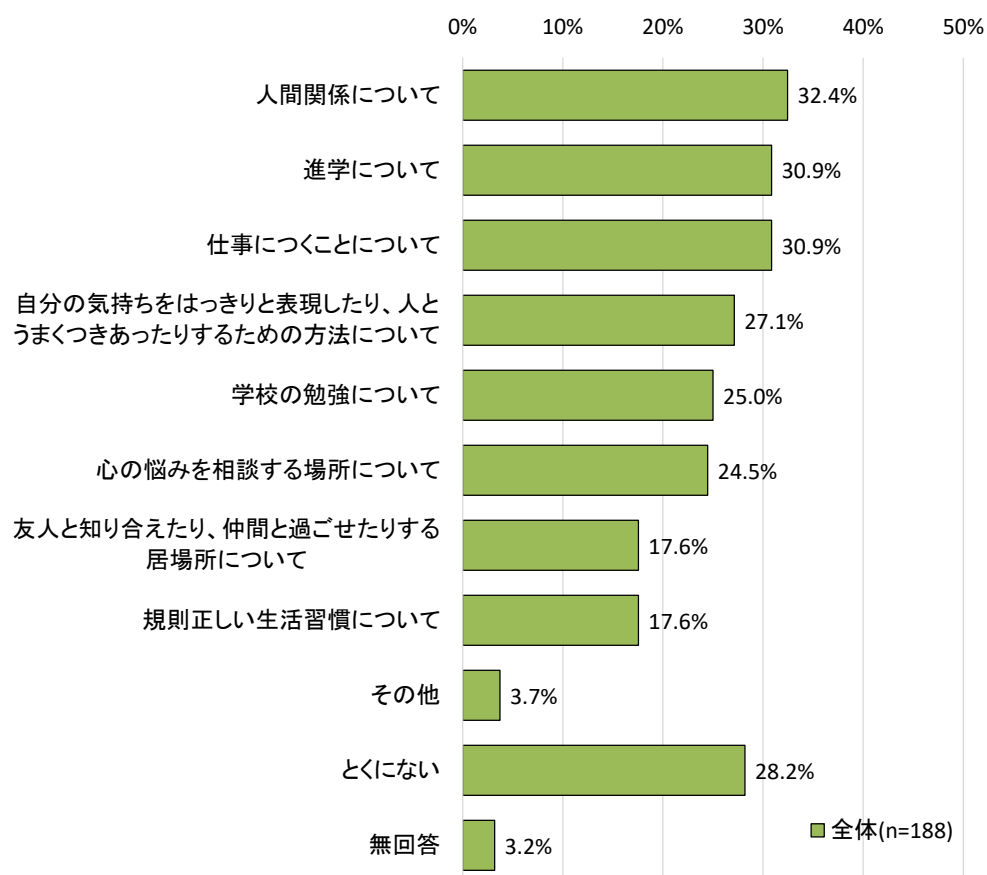
図表 2-5-2-1 これからの生活についての不安や悩みごと(一次本人)



【一次本人・問 20】（複数回答）

これからの生活において、次のようなことについて誰かに相談したいと思ったり、手助けなどがあればいいのと思うことはありますか。

図表 2-5-2-2 これからの生活において、誰かに相談したいと思ったり、手助けがあればいいのと思うこと（一次本人）



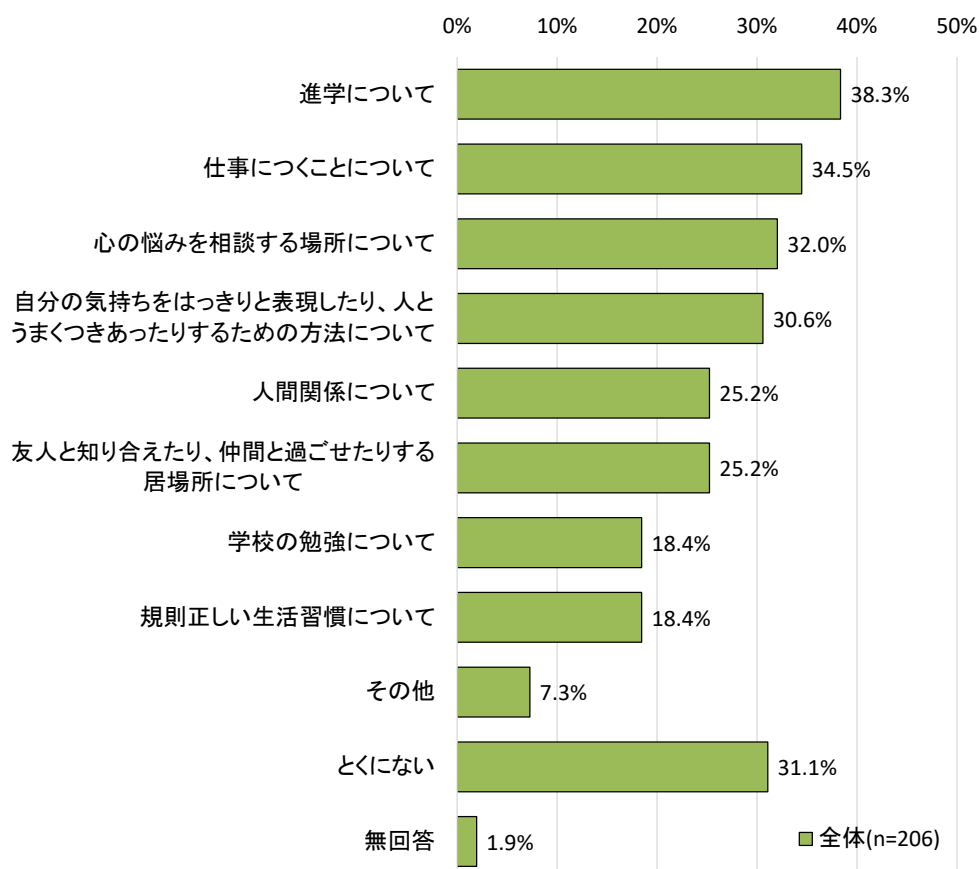
2-5-3 保護者が必要とする手助け

保護者の方自身が、現在、またはこれからの生活において、子供のことについて誰かに相談できたり、手助けがあればいいのと思うこととして、最も割合が高いものは「進学について」（38%）となっている。ほかに「仕事につくことについて」（35%）、「心の悩みを相談する場所について」（32%）、「自分の気持ちをはっきりと表現したり、人とうまくつきあったりするための方法について」（31%）が、3割以上となっている（図表 2-5-3）。

【一次保護者・問 14】（複数回答）

現在、またはこれからの生活において、お子さんに関する次のようなことについて、保護者の方ご自身が、誰かに相談できたり、手助けなどがあればいいのと思うことはありますか。

図表 2-5-3 現在、またはこれからの生活において、子供のことで保護者自身が誰かに相談できたり手助けがあればいいのと思うこと（一次保護者）



第3章 不登校を経験した生徒および保護者へのアンケート調査 (クロス集計)

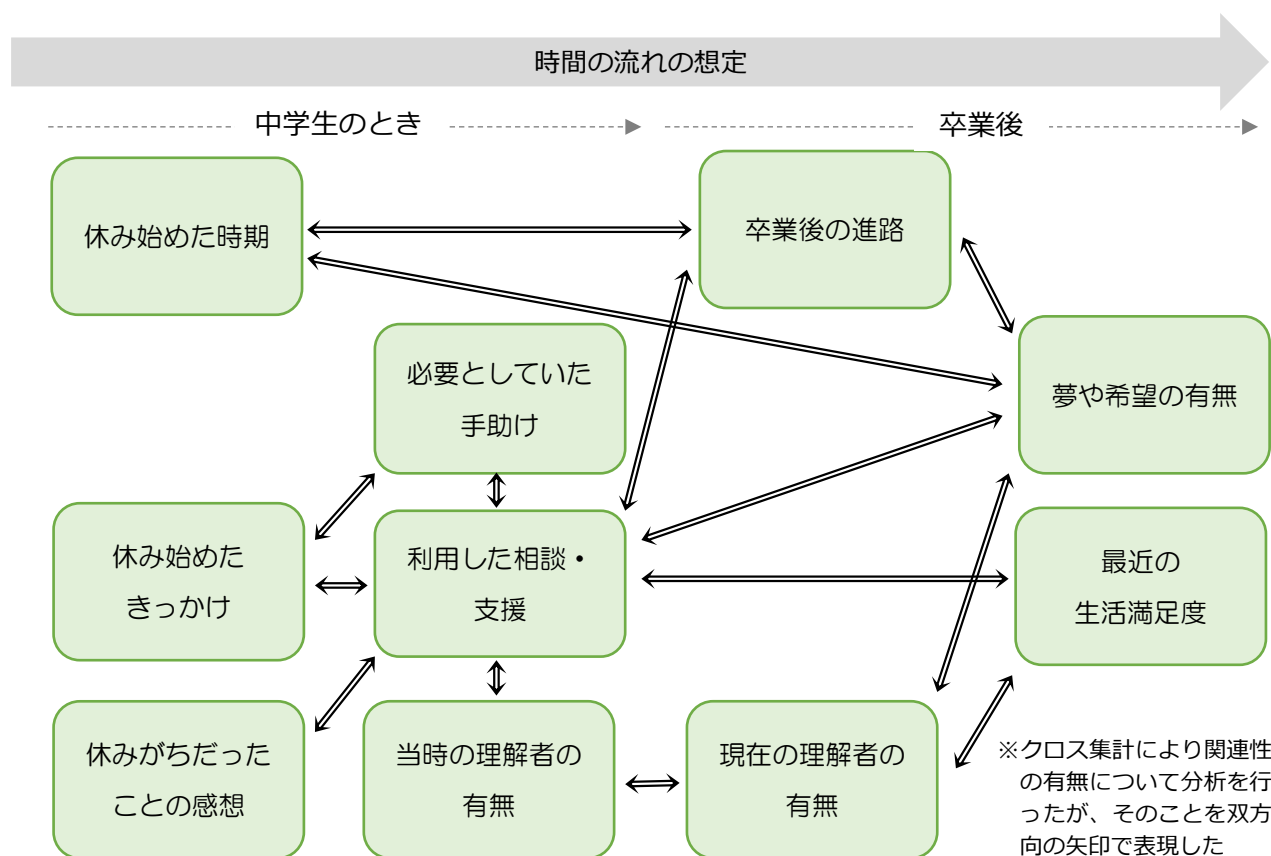
3-1 クロス集計の考え方、結果の概要

クロス集計については、下記のような枠組みにより分析を実施し、結果を整理した。

まず、不登校当時の様々な状況を理解するため、「休み始めたきっかけ」と「利用した相談・支援」との関係や、「利用した相談・支援」と「当時の理解者の有無」との関係などについて分析を行った（第3章 3-2）。分析結果からは、休んでいたころの状況の違いによって利用した相談・支援の内容が異なることなどが明らかになった。

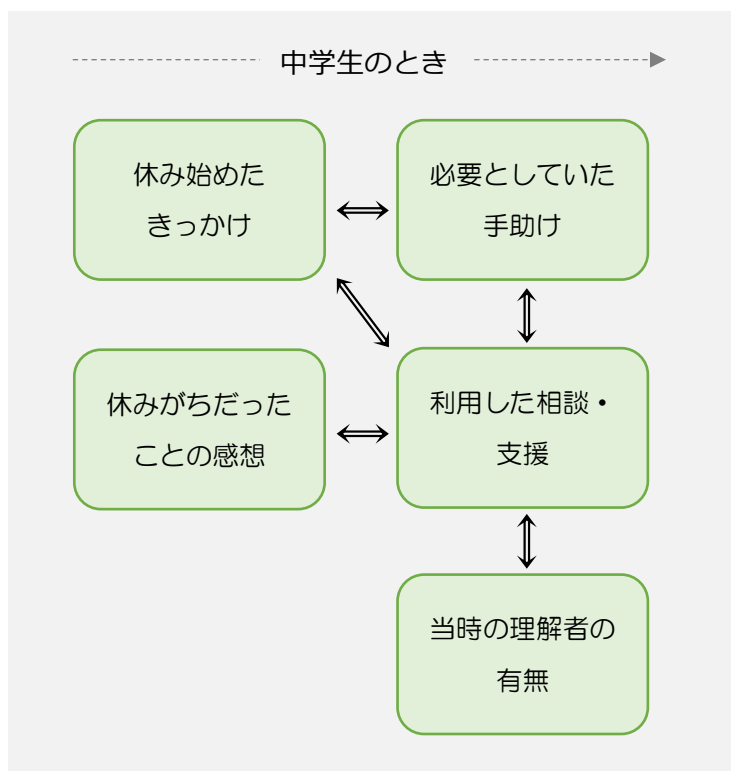
次に、「卒業後の進路」に着目した分析を行った（第3章 3-3）。分析の結果、利用した相談・支援の違いによって進路の状況が異なることなどが明らかになった。

その上で、回答者の現在の状況に関して、「最近の生活満足度」と「夢や希望の有無」に着目した分析を行った（第3章 3-4、第3章 3-5）。分析の結果から、現在理解者がいること³¹や、学校内外で相談・支援を受けた経験が、現在の状況に良い影響を与えていることが示唆された。

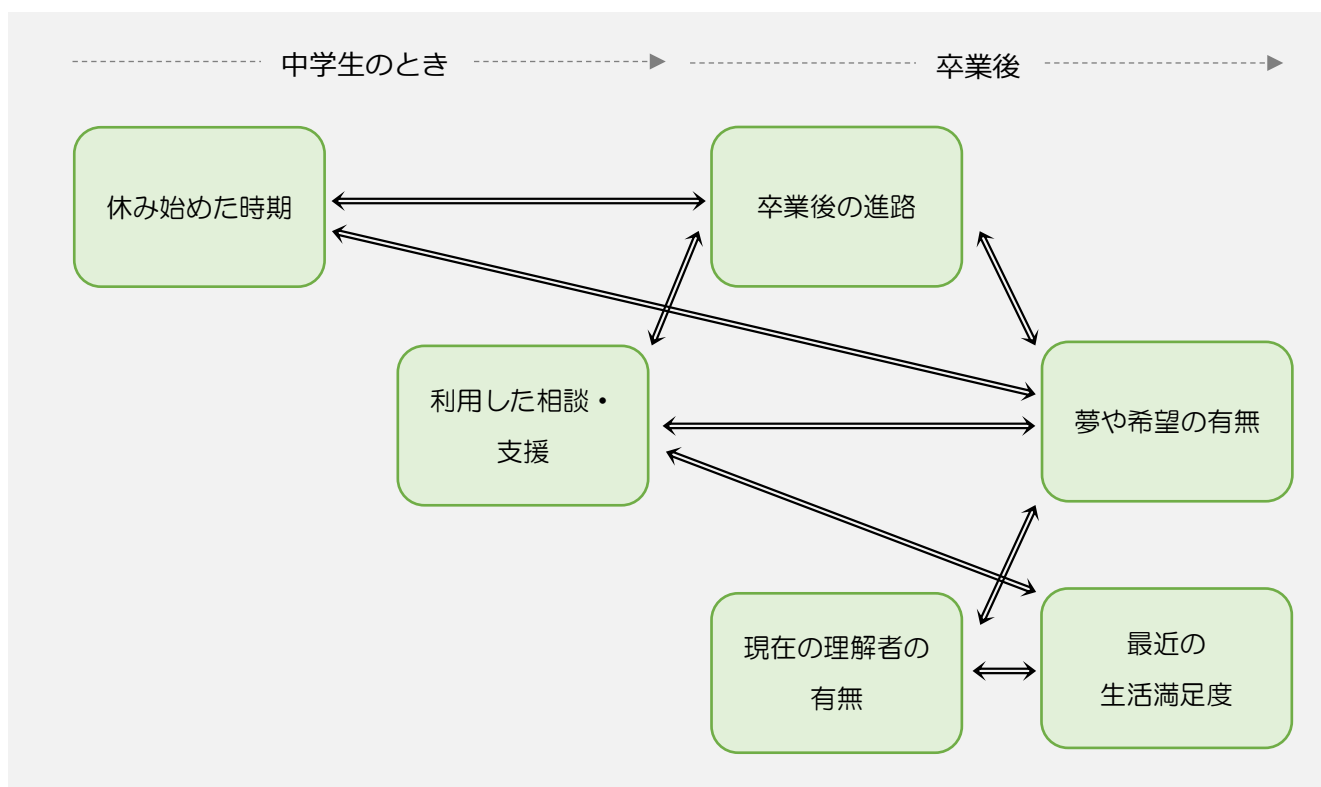


³¹ 「当時の理解者の有無」と「現在の理解者の有無」のクロス集計は本報告書に掲載していないが、別途行った集計において関連性が見られ、不登校当時に理解者がいた場合、現在理解者がいる割合が高いという結果が得られている。

【不登校当時の様々な状況に関する分析（第3章 3-2）】



【卒業後の進路や現在の状況に関する分析（第3章 3-3～3-5）】



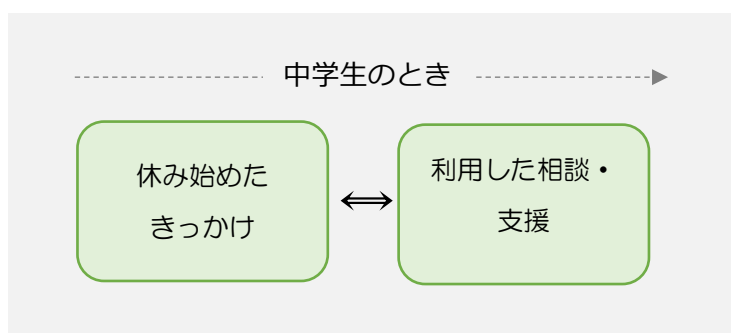
3-2 不登校当時の状況と様々な支援

3-2-1 学校を休み始めたきっかけと利用した相談・支援

学校を休み始めたきっかけ³²と利用した相談・支援³³との関係について、「先生のこと」がきっかけで学校を休み始めた方では、「保健室や相談室などの別室登校」を利用したと回答した割合が比較的高い（図表 3-2-1）。

「勉強のこと」がきっかけで学校を休み始めた方では、「学校の先生による家庭訪問や電話などの連絡」、「学校の先生やスクールカウンセラー等への相談」を利用したと回答した割合が比較的高い。

「学校やクラスに合わなかった」ことがきっかけで学校を休み始めた方では、「適応指導教室（トライ）等」を利用したと回答した割合が比較的高い。



³² 「友達のこと（いやがらせ、いじめ）」、「先生のこと」、「勉強のこと」、「学校やクラスに合わなかった」、「身体の不調」以外のきっかけについては、データの件数が少なかった（50 件未満）ため、グラフへの掲載を省略した。

³³ クロス集計を実施するにあたって、「学校の先生による家庭訪問」または「学校の先生からの電話などの連絡」が「あった」と回答した方を、「学校の先生による家庭訪問や電話などの連絡」が「あった」方として、「学校の先生・保健室の先生との相談」または「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談」が「あった」と回答した方を、「学校の先生やスクールカウンセラー等への相談」が「あった」方として、「適応指導教室（トライ）」、「居場所ぱれっと」、「光が丘第一分室つむぎ」の利用が「あった」と回答した方を、「適応指導教室（トライ）等」の利用が「あった」方として分類している。また、次ページのグラフに掲載した支援以外については、回答割合が低かったため、表記を省略した。

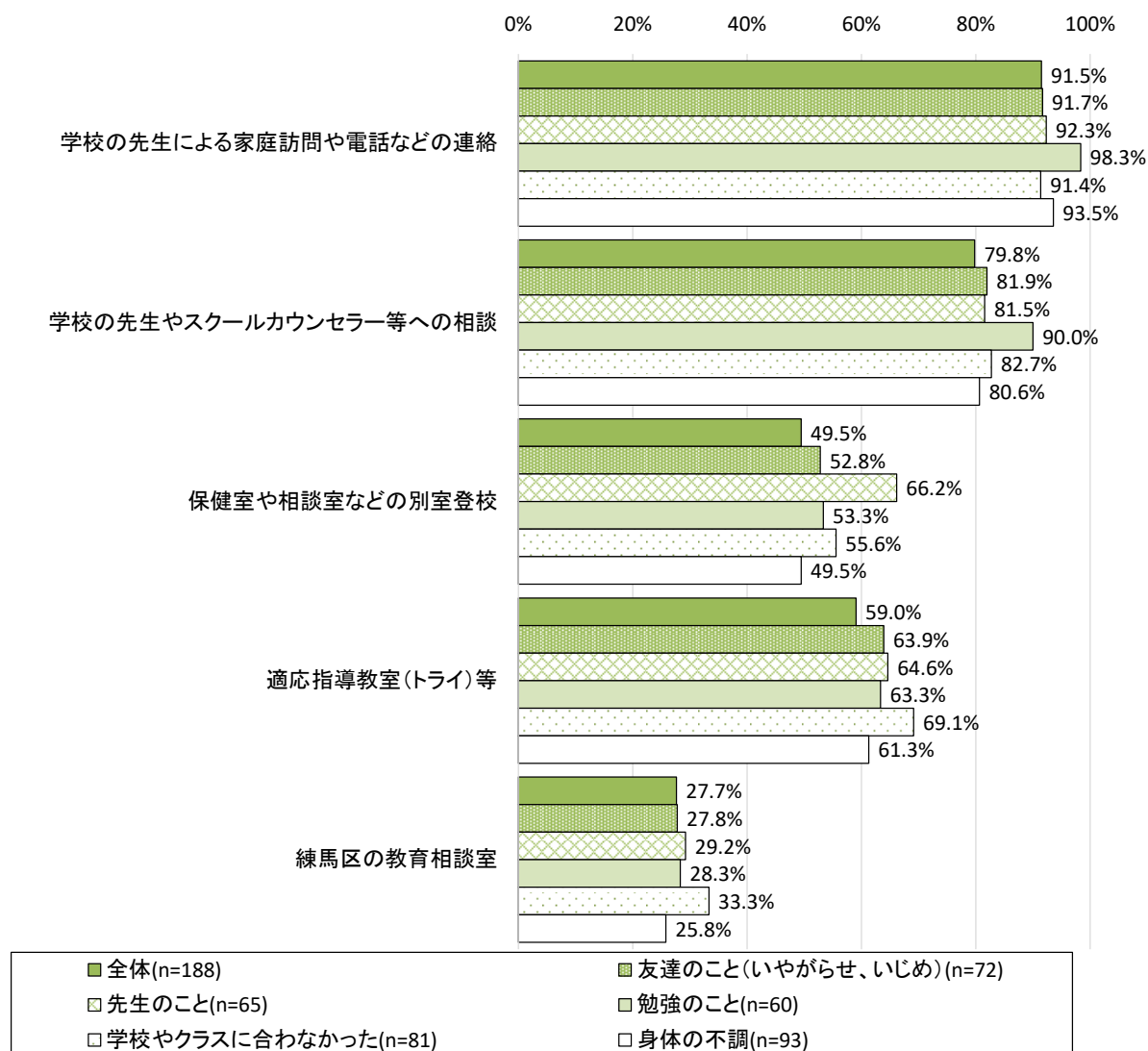
【一次本人・問 12】（複数回答）

あなたが学校を休み始めたときのきっかけは何ですか。

【一次本人・問 15】（単一回答）

あなたが中学校 3 年生のとき、次のようなことはありましたか。

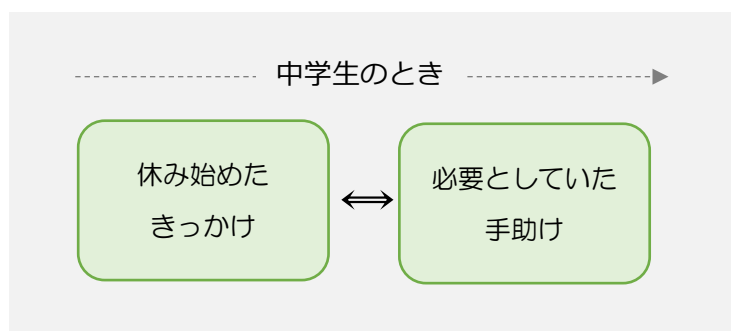
図表 3-2-1 2-2-2-1 学校を休み始めたときのきっかけ
× 2-3-1-1 中学校 3 年生のときに実施・利用があったもの



3-2-2 学校を休み始めたきっかけとほしかった手助け

学校を休み始めたきっかけと当時ほしかった手助けとの関係について、「友達のこと（いやがらせ、いじめ）」がきっかけの方では、「人間関係について」、「自分の気持ちをはっきりと表現したり、人とうまくつきあったりするための方法について」、「心の悩みを相談する場所について」相談できたり手助けがあればいいと回答した割合が比較的高い（図表 3-2-2）。なお、「人間関係について」、「心の悩みを相談する場所について」は、「学校やクラスに合わなかった」がきっかけの方も比較的回答割合が高い。

また、「勉強のこと」がきっかけの方では、「仕事につくことについて」、「友人と知り合えたり、仲間と過ごせたりする居場所について」相談できたり手助けがあればいいと回答した割合が比較的高い。



【一次本人・問 12】（複数回答）

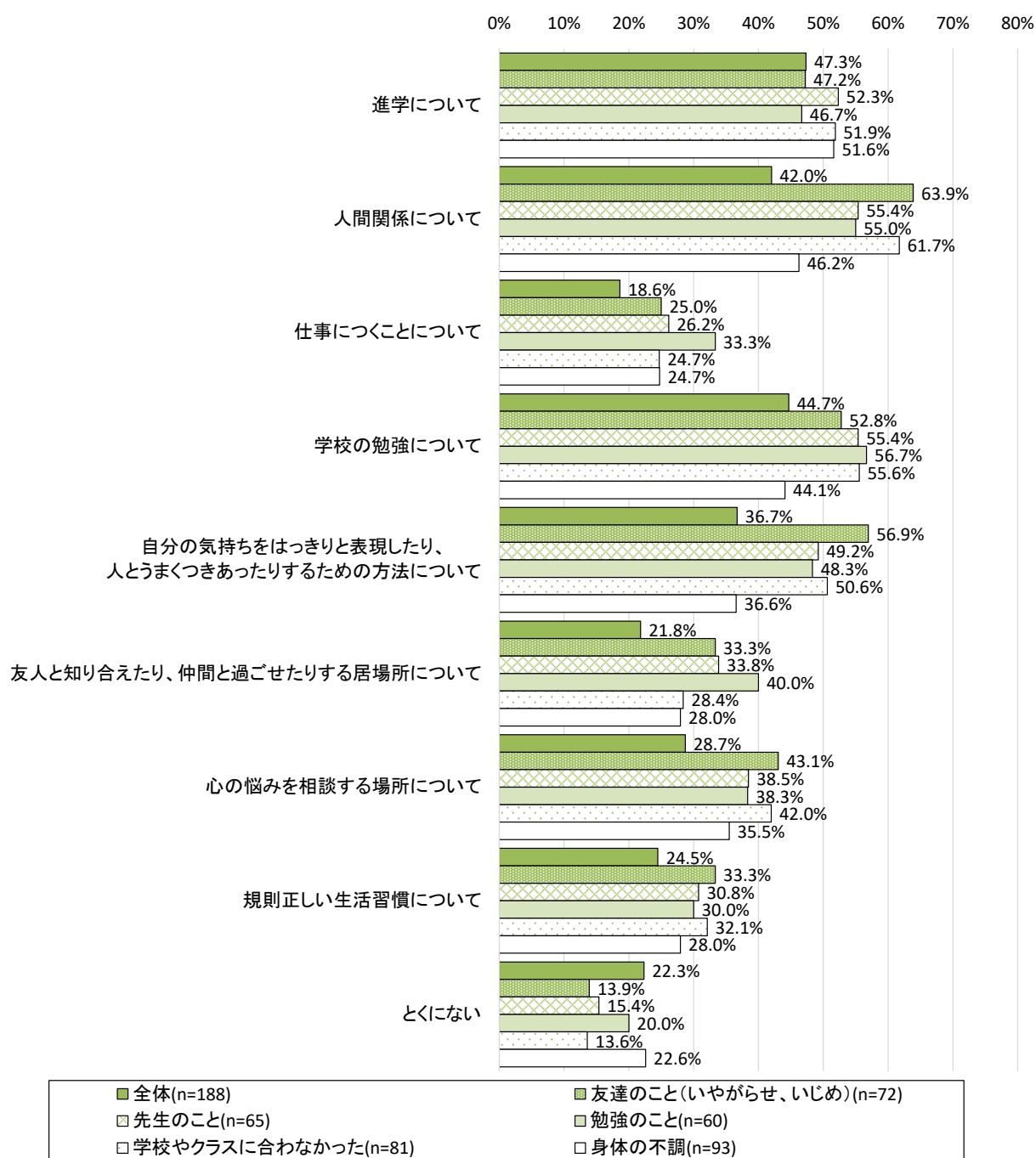
あなたが学校を休み始めたときのきっかけは何ですか。

【一次本人・問 16】（複数回答）

あなたが中学校 3 年生のとき、次のようなことについて誰かに相談したいと思ったり、手助けがあればいいのと思ったことがありますか。

図表 3-2-2 2-2-2-1 学校を休み始めたときのきっかけ

× 2-2-4-1 中学校 3 年生のときに誰かに相談したいと思ったり、手助けがあればいいのと思ったこと³⁴

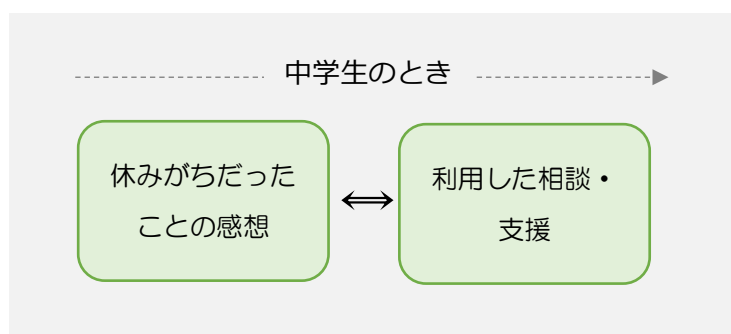


³⁴ 「その他」と「無回答」について、回答割合が低かったため、グラフへの掲載を省略した。（同設問について以下同様）

3-2-3 学校を休みがちだったことの感想と利用した相談・支援

利用した相談・支援³⁵と学校を休みがちだったことの感想³⁶との関係について、中学校3年生のときに学校を休みがちだったことを、今考えると「学校に行けばよかった」と捉えている割合は、学校内の支援のみを利用した場合で高い（図表 3-2-3）。

一方で、「学校に行かなくてよかった」と捉えている割合は、学校内と学校外の両方の支援を利用していた場合で高い。



³⁵ 「学校の先生による家庭訪問」、「保健室や相談室などの別室登校」、「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談」のうち、いずれか1つでも「あった」と回答した場合、「学校内の支援」を利用した方とみなした。（「学校の先生からの電話などの連絡」は全体の9割、「学校の先生・保健室の先生との相談」は全体の7割の方が「あった」と回答した。この2項目は練馬区立中学校でおおむね実施されているものであり、支援の有無等による差異を見ることは難しいと考えられたため、「学校内の支援」の条件から除いている。）

また、「スクールソーシャルワーカーへの相談」、「適応指導教室（トライ）」、「居場所ぱれっと」、「光が丘第一分室つむぎ」、「練馬区の教育相談室」、「その他の公的な相談機関等（児童相談所、福祉事務所など）」、「民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）」のうち、いずれか1つでも「あった」と回答した場合、「学校外の支援」を利用した方とみなした。

³⁶ 中学校3年生のときに「学校外の支援のみを利用」した方は17件、上記定義に含まれる支援を利用しなかった方は11件とデータの件数が少なかったため、グラフへの掲載を省略した。以下のグラフでも同様である。また、「無効回答」や「無回答」については、割合が低かったため、グラフへの掲載を省略した。

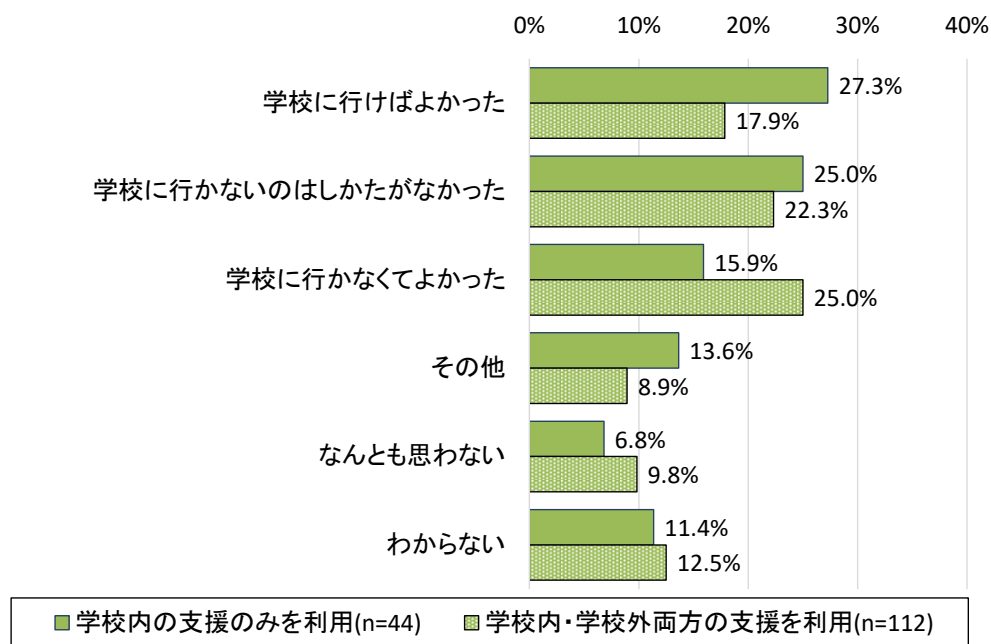
【一次本人・問 15】（単一回答）

あなたが中学校 3 年生のとき、次のようなことはありましたか。

【一次本人・問 17】（単一回答）

いま考えると、中学校 3 年生のとき、学校を休みがちだったことをどう思いますか。

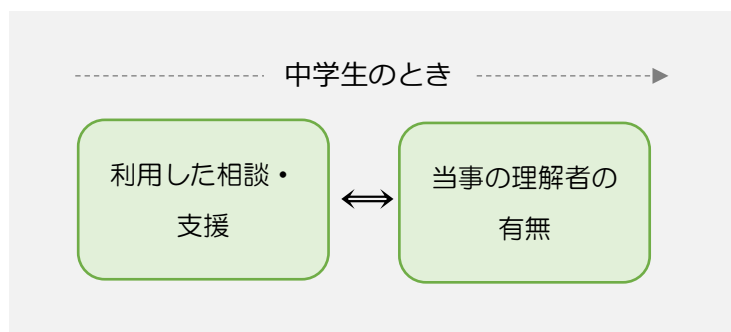
図表 3-2-3 2-3-1-2 学校内の支援・学校外の支援の利用状況
× 2-2-3-2 中学校3年生のときに学校を休みがちだったことをどう思うか



3-2-4 利用した相談・支援と理解者の有無

相談・支援の利用の状況³⁷と理解者の有無との関係については、各支援を利用していた場合に、理解者がいたと回答する割合が高い（図表 3-2-4-1、図表 3-2-4-2、図表 3-2-4-3）。

特に学校外の支援の利用³⁸には、理解者がいたと回答する割合が高い（図表 3-2-4-4）。



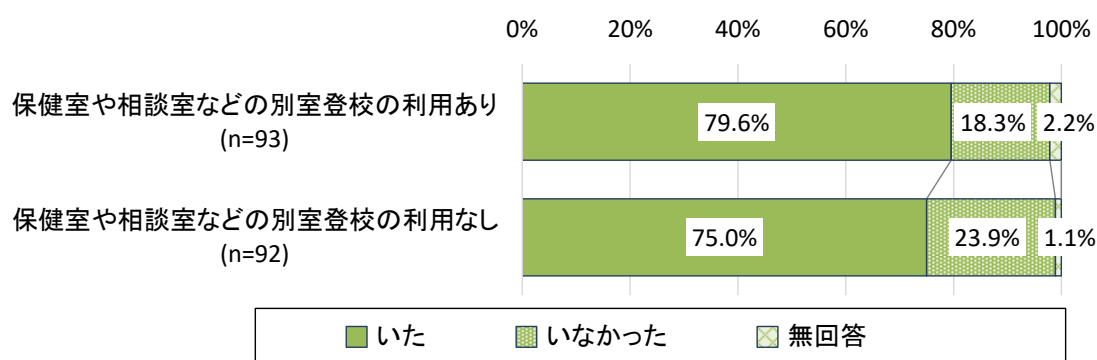
【一次本人・問 15】（単一回答）

あなたが中学校 3 年生のとき、次のようなことはありましたか。

【一次本人・問 13】（単一回答）

あなたが中学校 3 年生のときに、あなたのことをよく理解してくれている人はいましたか。

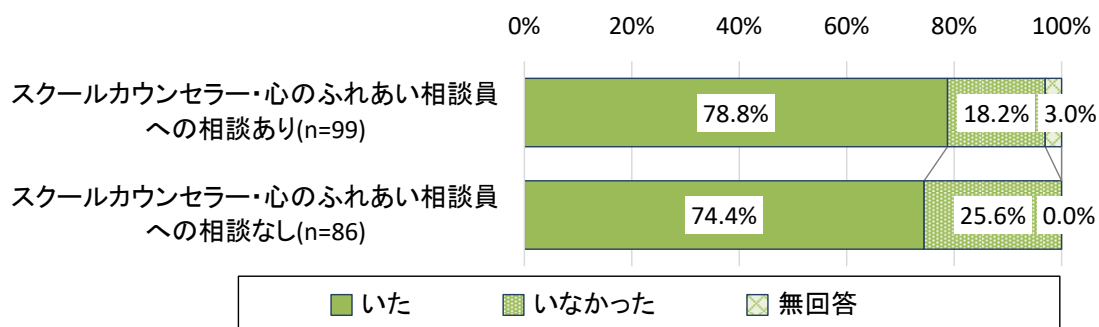
図表 3-2-4-1 2-3-1-1 保健室や相談室などの別室登校の利用の有無
× 2-4-3-1 中学校3年生のときの理解者の有無



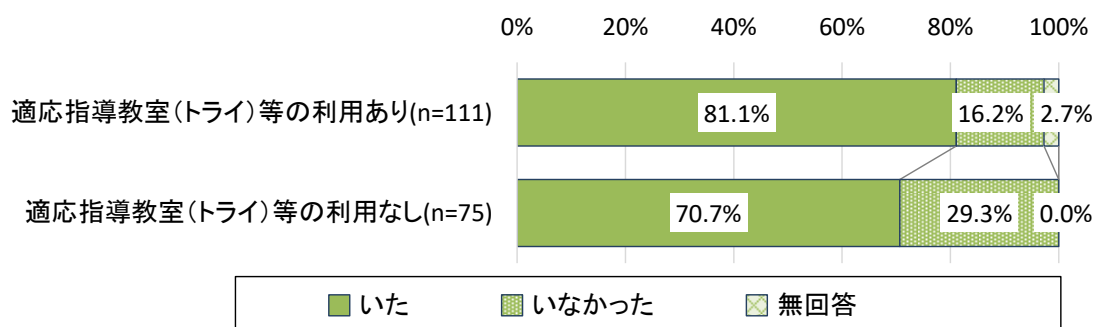
³⁷ ここでは、相談・利用したことがある方が比較的多い、「保健室や相談室などの別室登校」、「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談」、「適応指導教室（トライ）等」の 3 点について集計・分析を行った。

³⁸ 「学校の先生による家庭訪問」、「保健室や相談室などの別室登校」、「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談」のうち、いずれか 1 つでも「あった」と回答した場合、「学校内の支援」を利用した方とした。また、「スクールソーシャルワーカーへの相談」、「適応指導教室（トライ）」、「居場所ぱれっと」、「光が丘第一分室つむぎ」、「練馬区の教育相談室」、「その他の公的な相談機関等（児童相談所、福祉事務所など）」、「民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）」のうち、いずれか 1 つでも「あった」と回答した場合、「学校外の支援」を利用した方とした。

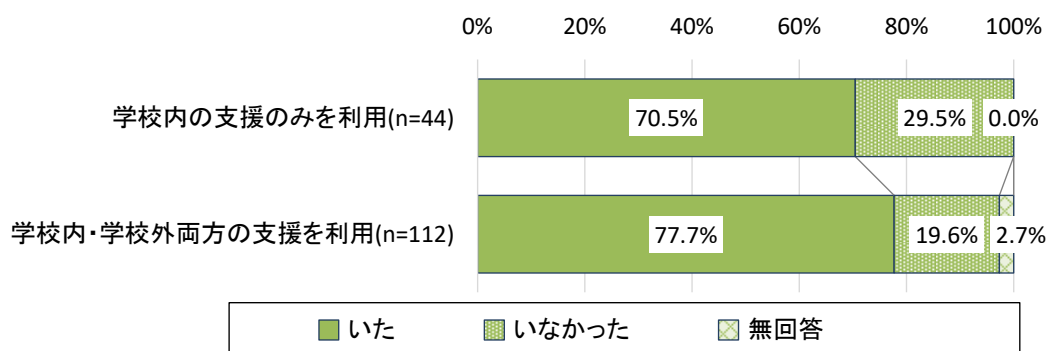
図表 3-2-4-2 2-3-1-1 スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談の有無
× 2-4-3-1 中学校3年生のときの理解者の有無



図表 3-2-4-3 2-3-1-1 適応指導教室(トライ)等の利用の有無
× 2-4-3-1 中学校3年生のときの理解者の有無



図表 3-2-4-4 2-3-1-2 学校内の支援・学校外の支援の利用状況
× 2-4-3-1 中学校3年生のときの理解者の有無

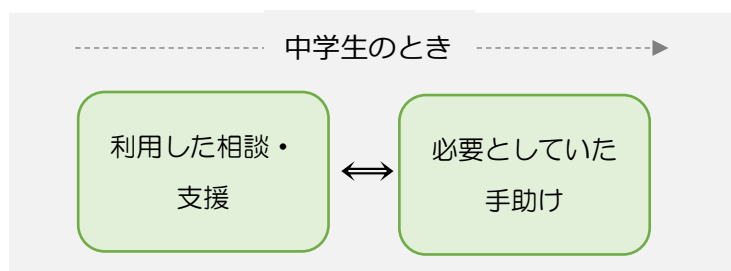


3-2-5 利用した相談・支援の評価とほしかった手助け

「保健室や相談室などの別室登校」を利用して「よかった」と回答した方³⁹では、「人間関係について」や「自分の気持ちをはっきりと表現したり、人とうまくつきあったりするための方法について」、中学校3年生のときに相談したり手助けが欲しかったと回答した割合が比較的高くなっている。一方で「よくなかった」と回答した方では、「進学について」や「学校の勉強について」、中学校3年生のときに相談したり手助けが欲しかったと回答した割合が高くなっている（図表 3-2-5-1）。

「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員」へ相談して「よかった」と回答した方⁴⁰では、「人間関係について」、「学校の勉強について」、「自分の気持ちをはっきりと表現したり、人とうまくつきあったりするための方法について」、相談したり手助けが欲しかったと回答した割合が比較的高くなっている（図表 3-2-5-2）。

「適応指導教室（トライ）」を利用して「よかった」と回答した方⁴¹では、「進学について」や「自分の気持ちをはっきりと表現したり、人とうまくつきあったりするための方法について」、相談したり手助けが欲しかったと回答した割合が比較的高くなっている（図表 3-2-5-3）。



³⁹ 保健室や相談室などの別室登校が「あった」場合の評価として、「よかった」または「どちらかといえばよかった」と回答した方を、「保健室や相談室などの別室登校を利用してよかった」方、「どちらかといえばよくなかった」または「よくなかった」と回答した方を、「保健室や相談室などの別室登校を利用したがよくなかった」方として集計を行っている。「保健室や相談室などの別室登校を利用したがよくなかった」方は、28件とデータの件数が少ないことに留意が必要である。

⁴⁰ スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談が「あった」場合の評価として、「よかった」または「どちらかといえばよかった」と回答した方を、「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員へ相談してよかった」方、「どちらかといえばよくなかった」または「よくなかった」と回答した方を、「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員へ相談したがよくなかった」方として集計を行っている。「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員へ相談したがよくなかった」方は22件とデータの件数が少ないことに留意が必要である。

⁴¹ 適応指導教室（トライ）の利用が「あった」場合の評価として、「よかった」または「どちらかといえばよかった」と回答した方を、「適応指導教室（トライ）を利用してよかった」方、「どちらかといえばよくなかった」または「よくなかった」と回答した方を、「適応指導教室（トライ）を利用したがよくなかった」方として集計を行っている。「適応指導教室（トライ）を利用したがよくなかった」方は11件とデータの件数が少ないことに留意が必要である。

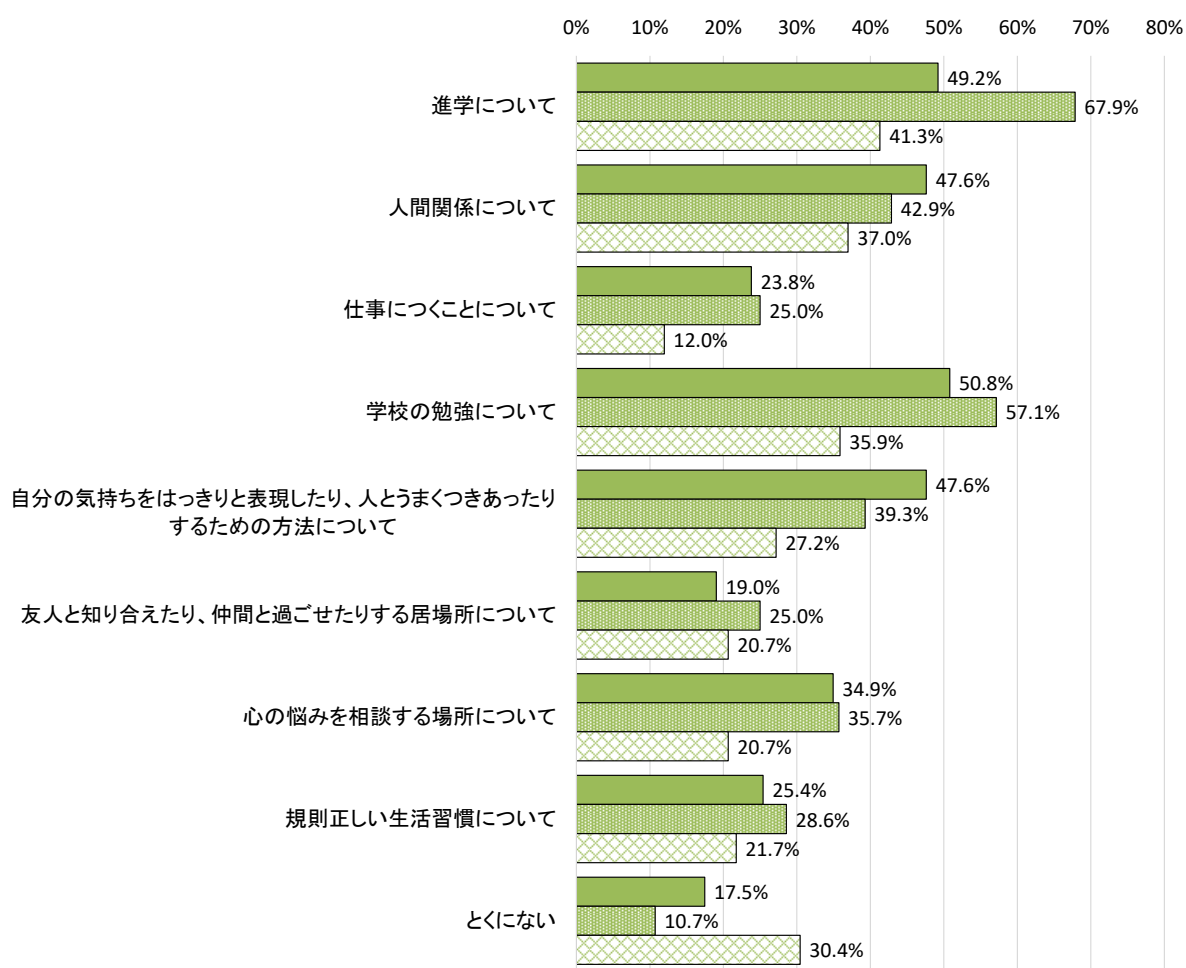
【一次本人・問 15】（単一回答）

あなたが中学校 3 年生のとき、次のようなことはありましたか。また、「あった」場合、そのことについてよかったと思いますか。

【一次本人・問 16】（複数回答）

あなたが中学校 3 年生のとき、次のようなことについて誰かに相談したいと思ったり、手助けがあればいいのと思ったことがありますか。

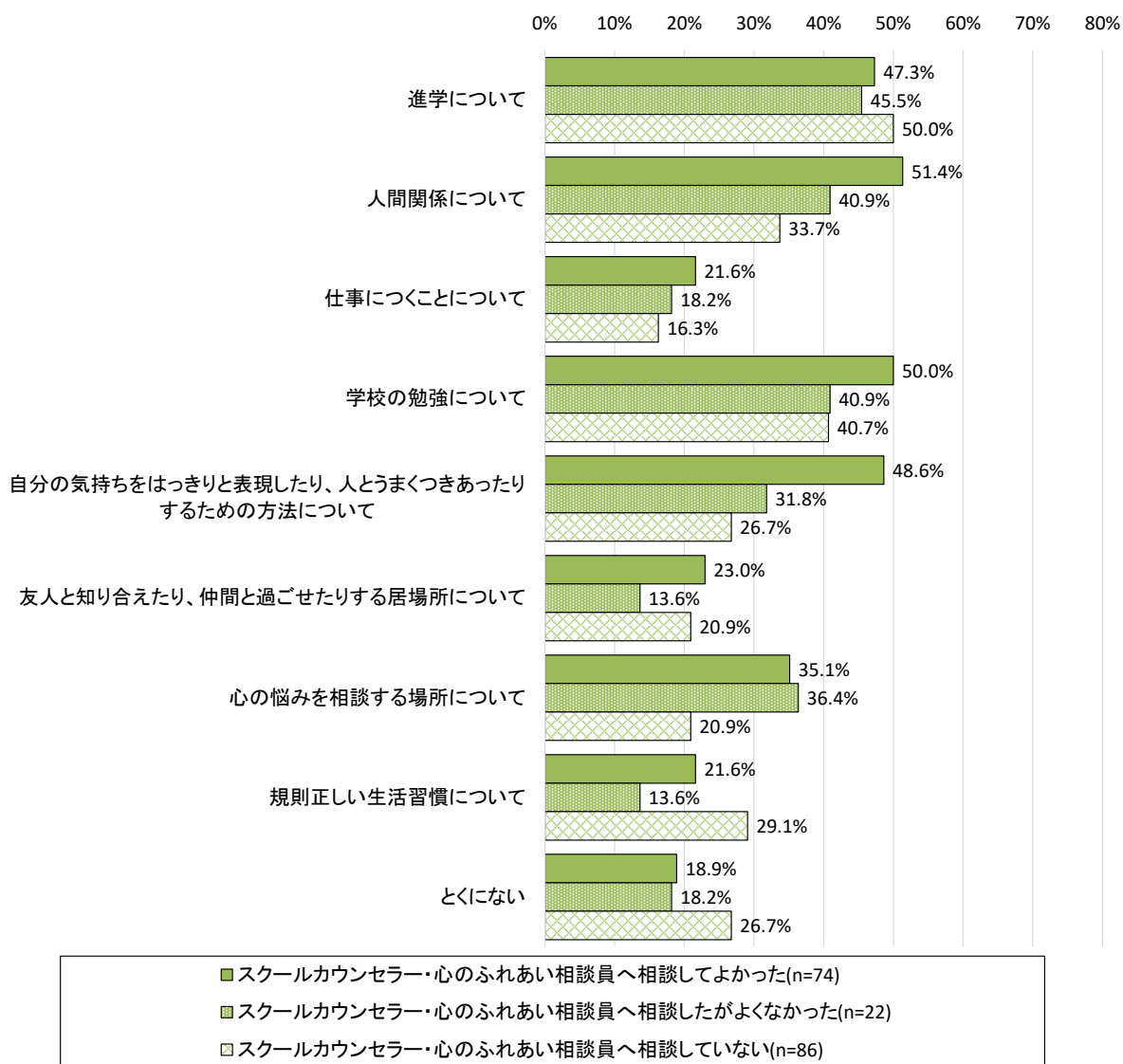
図表 3-2-5-1 2-3-1-1 保健室や相談室などの別室登校の利用の有無およびその評価
× 2-2-4-1 中学校 3 年生のときに誰かに相談したいと思ったり、手助けがあればいいのと思ったこと



■ 保健室や相談室などの別室登校を利用してよかった(n=63)
■ 保健室や相談室などの別室登校を利用したがよくなかった(n=28)
□ 保健室や相談室などの別室登校を利用していない(n=92)

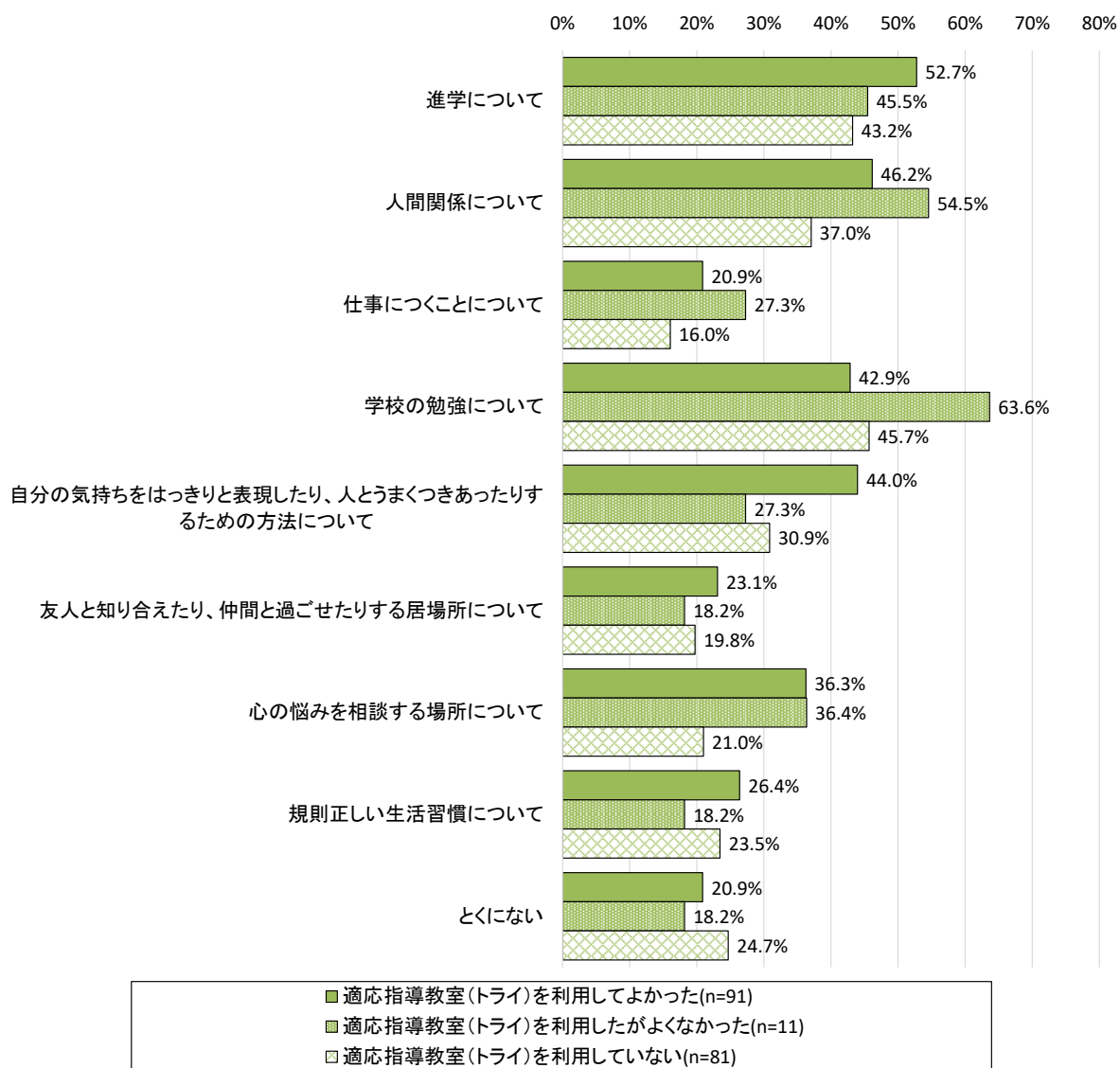
図表 3-2-5-2 2-3-1-1 スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談の有無およびその評価

× 2-2-4-1 中学校 3 年生のときに誰かに相談したいと思ったり、手助けがあればいいのと思ったこと



図表 3-2-5-3 2-3-1-1 適応指導教室(トライ)の利用の有無およびその評価

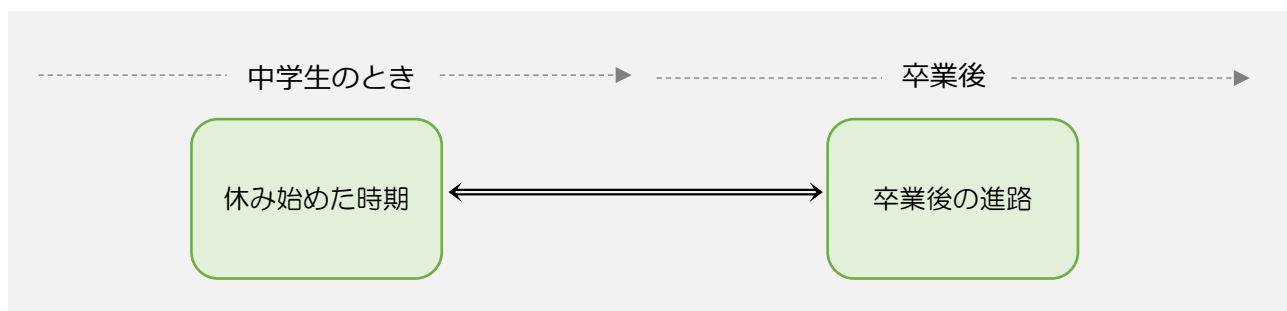
× 2-2-4-1 中学校 3 年生のときに誰かに相談したいと思ったり、手助けがあればいいのと思ったこと



3-3 不登校当時の状況と卒業後の進路

3-3-1 学校を休み始めた時期と中学校卒業後の進路

学校を休み始めた時期と中学校卒業後の進路の関係について、「小学生のころ」から学校を休み始めた方⁴²は、「中学生のころ」から学校を休み始めた方⁴³と比べて、全日制の高等学校に進学した割合が低い。一方で、定時制の高等学校と通信制の高等学校に進学した割合は高い（図表 3-3-1）。



⁴² 学校をよく休み始めた時期について、「小学校低学年（１・２年生）のころ」、「小学校中学年（３・４年生）のころ」、「小学校高学年（５・６年生）のころ」のいずれかを回答した方。

⁴³ 学校をよく休み始めた時期について、「中学校１年生のころ」、「中学校２年生のころ」、「中学校３年生のころ」のいずれかを回答した方。

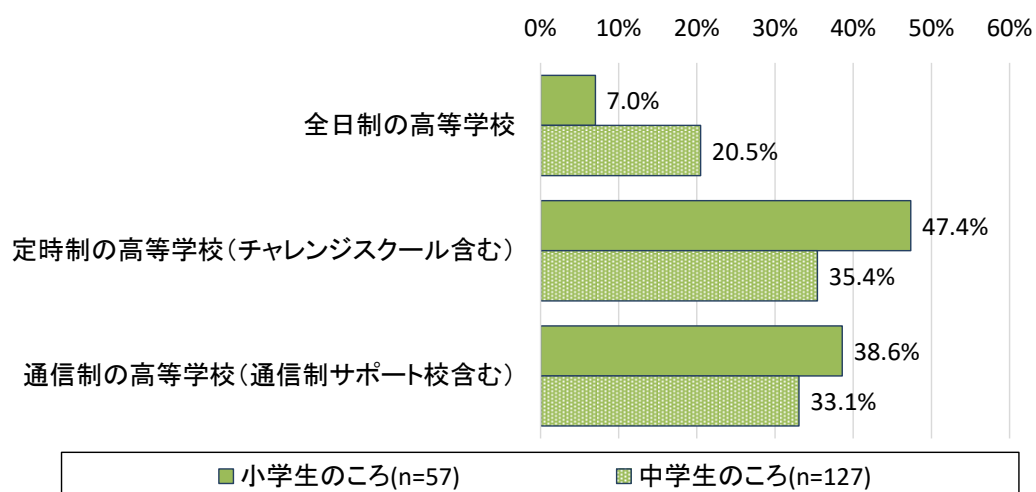
【一次本人・問 10】（単一回答）

あなたが学校をよく休み始めたのは、何年生のころですか。

【一次本人・問 4】（単一回答）

あなたは、中学校を卒業してすぐの時点で、どのような進路に進みましたか。

図表 3-3-1 2-2-1-1 学校を休み始めた時期
× 2-4-1-1 中学校卒業後の進路⁴⁴

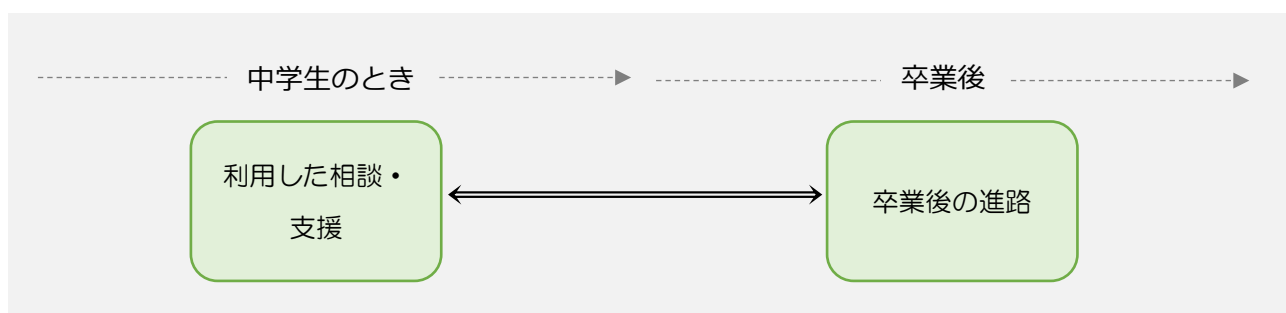


⁴⁴ 「特別支援学校高等部・高等特別支援学校」、「その他の学校」、「就職（パートやアルバイト）」、「就職（正社員）」、「家業や家の手伝い」、「その他」、「無回答」の回答については、回答割合が低かったためグラフの掲載を省略した。

3-3-2 利用した支援と中学校卒業後の進路

利用した支援と中学校卒業後の進路との関係について、学校内のみの支援を利用した方⁴⁵の方が、学校内・学校外の支援を利用した方に比べて全日制高等学校を進路として選択する割合が高い（図表 3-3-2-1）。一方、学校内・学校外の支援を利用したの方が学校内のみの支援を利用した方に比べて、定時制の高等学校（チャレンジスクール含む）を進路として選択する割合が高い。

学校外の支援で最も利用者の多い適応指導教室トライ等の利用者単体で見ても同様の傾向である（図表 3-3-2-2）。



⁴⁵ 「学校の先生による家庭訪問」、「保健室や相談室などの別室登校」、「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談」のうち、いずれか1つでも「あった」と回答した場合、「学校内の支援」を利用した方とした。また、「スクールソーシャルワーカーへの相談」、「適応指導教室（トライ）」、「居場所ぱれっと」、「光が丘第一分室つむぎ」、「練馬区の教育相談室」、「その他の公的な相談機関等（児童相談所、福祉事務所など）」、「民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）」のうち、いずれか1つでも「あった」と回答した場合、「学校外の支援」を利用した方とした。

【一次本人・問 15】（単一回答）

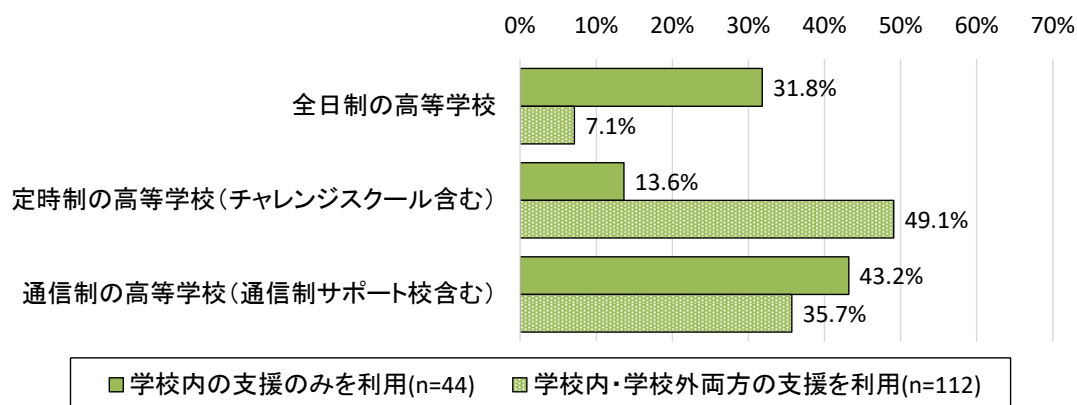
あなたが中学校 3 年生のとき、次のようなことはありましたか。

【一次本人・問 4】（単一回答）

あなたは、中学校を卒業してすぐの時点で、どのような進路に進みましたか。

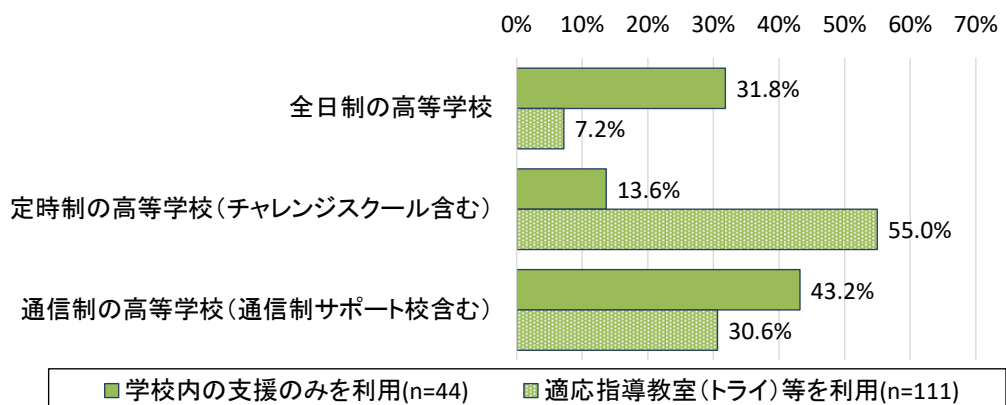
図表 3-3-2-1 2-3-1-2 学校内の支援・学校外の支援の利用状況

× 2-4-1-1 中学校卒業後の進路⁴⁶



図表 3-3-2-2 2-3-1-1 中学校3年生のときの相談・支援の利用状況別(学校内の支援のみ利用／適応指導教室(トライ)等を利用)

× 2-4-1-1 中学校卒業後の進路



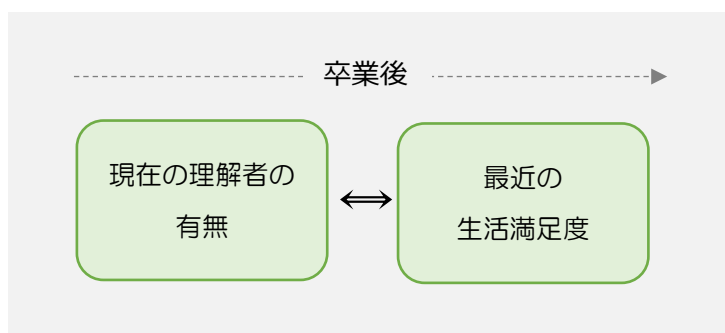
⁴⁶ 中学校卒業後の進路について、「特別支援学校高等部・高等特別支援学校」、「その他の学校」、「就職（パートやアルバイト）」、「就職（正社員）」、「家業や家の手伝い」、「その他」の回答は、データの件数が少なかったため、グラフへの掲載を省略した。

3-4 不登校当時の状況・卒業後の状況と生活満足

3-4-1 現在の理解者の有無と最近の生活満足度

現在の理解者の有無と最近の生活満足度との関係について、現在自分のことをよく理解してくれる人が「いる」と回答した方は、「いない」と回答した方⁴⁷よりも、最近の自身の生活全般についての満足度を高く評価する割合が高い（図表 3-4-1）。

自身の生活満足度が7以上と回答した方は、現在よく理解してくれる人がいる方では 57%、よく理解してくれる人がいない方では 17%となっている。平均値では、現在よく理解してくれる人がいる方では 6.6、よく理解してくれる人がいない方では 3.9 となっている⁴⁸。



⁴⁷ 現在よく理解してくれている方が「いない」と回答した方のデータが 23 件と少ない点に留意が必要である。

⁴⁸ なお、回答者全体では、生活満足度が7以上と回答した方は 50.0%、生活満足度の平均値は 6.2 となっている。

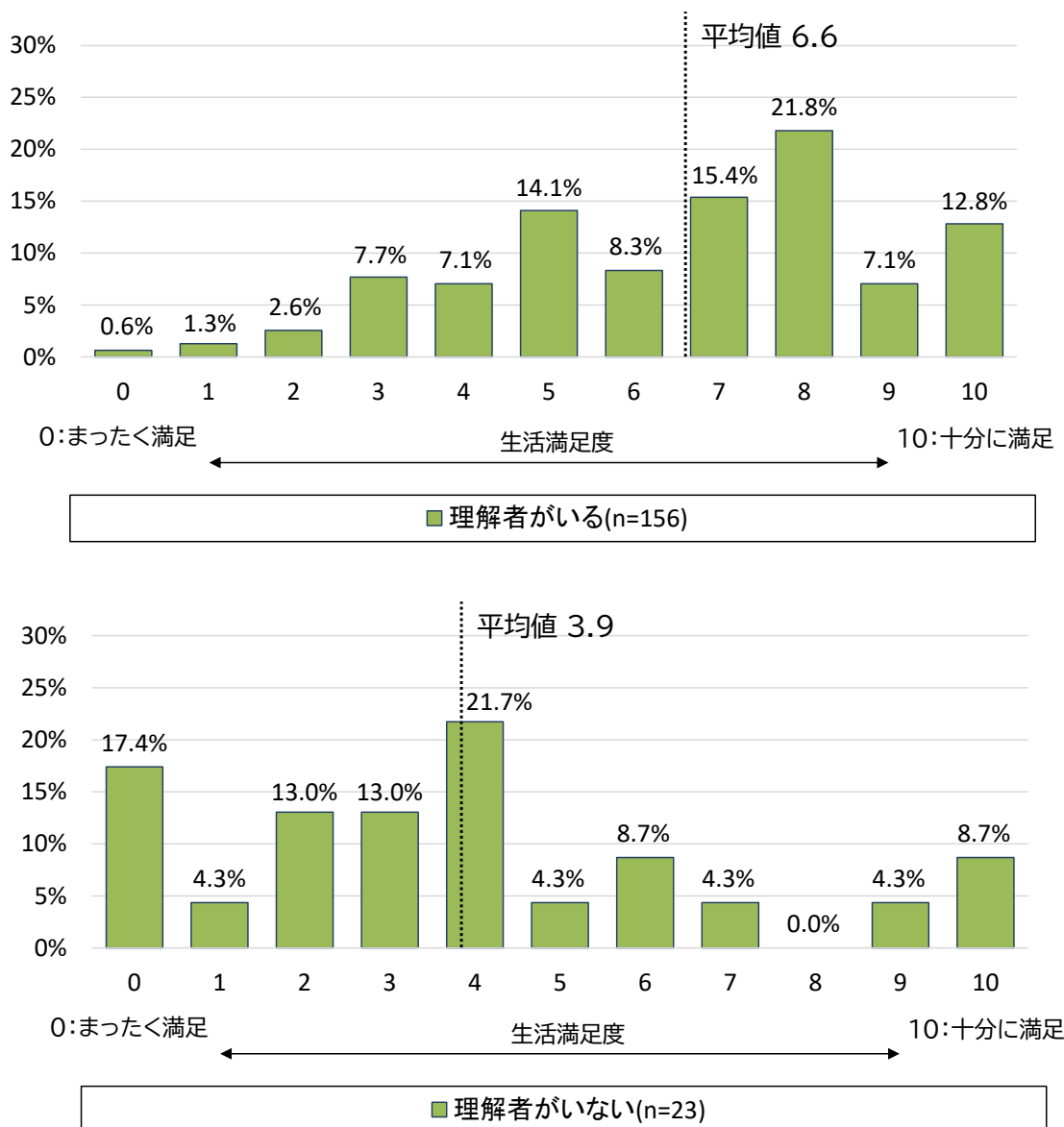
【一次本人・問 8】（単一回答）

現在、あなたのことをよく理解してくれている方はいますか。

【一次本人・問 9】（単一回答）

全体として、あなたはあなたの最近の生活全般に、どのくらい満足していますか。「0」（まったく満足していない）から「10」（十分に満足している）の数字で、あてはまるものを選んでください。

図表 3-4-1 2-4-3-3 現在の理解者の有無
× 2-4-4-1 最近の生活満足度⁴⁹



⁴⁹ 無回答の割合（「理解者がいる」では 1.3%、「理解者がいない」では 0.0%）をグラフから省略しているため、各回答割合を足し合わせても 100%とならない。

3-4-2 相談・支援の利用有無と生活満足度

相談・支援の利用有無⁵⁰と生活満足度との関係について、生活満足度が7以上と回答した方の割合は、「保健室や相談室などの別室登校の利用」や、「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談」があった方は、なかった方と比べて低く（図表 3-4-2-1、図表 3-4-2-2）、「適応指導教室（トライ）等の利用」があった方では、なかった方と比べて高い（図表 3-4-2-3）⁵¹。

生活満足度の平均値は、「保健室や相談室などの別室登校の利用」があった方はなかった方と比べて低く、「適応指導教室（トライ）等の利用」があった方はなかった方と比べて高い（図表 3-4-2-1、図表 3-4-2-3）。また、生活満足度の平均値は、学校内と学校外の両方の支援を利用していた場合で高い（図表 3-4-2-4）。



⁵⁰ ここでは、相談・利用したことがある方が比較的多い、「保健室や相談室などの別室登校」、「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談」、「適応指導教室（トライ）等」の3点について集計・分析を行った。

⁵¹ 生活満足度が7以上と回答した方の割合は、「保健室や相談室などの別室登校の利用」があった方では46.3%、なかった方では55.4%、「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談」があった方では48.6%、なかった方では53.5%、「適応指導教室（トライ）等の利用」があった方では52.2%、なかった方では47.9%、「学校内の支援のみを利用」した方では47.7%、「学校内・学校外両方の支援を利用」した方では50.9%となっている。

【一次本人・問 15】（単一回答）

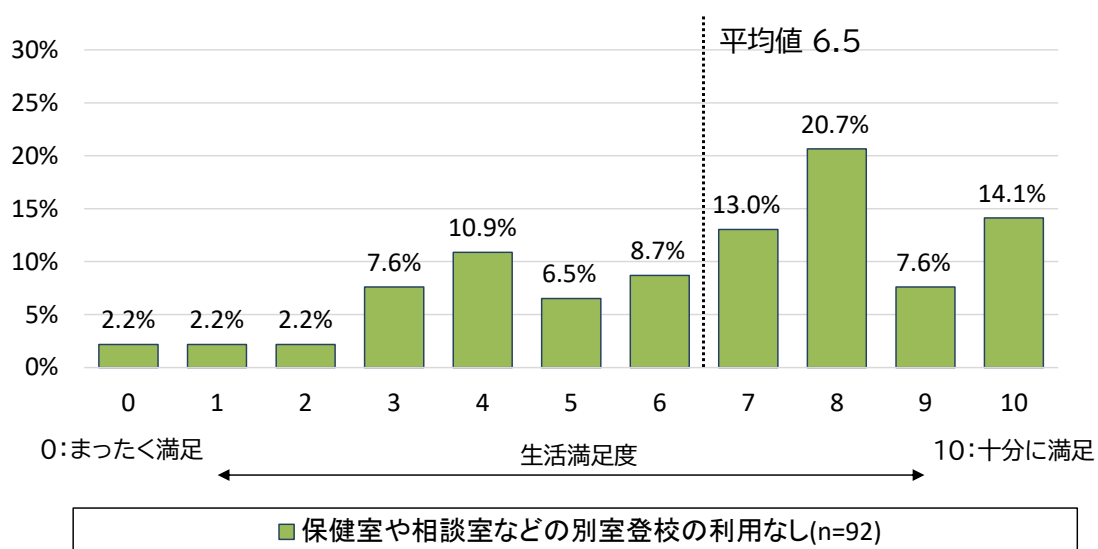
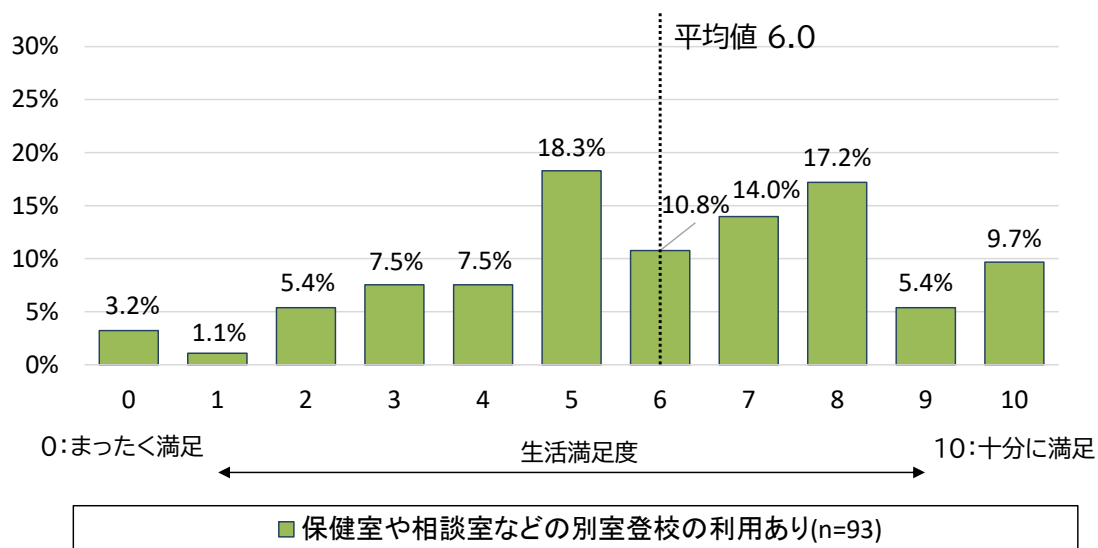
あなたが中学校 3 年生のとき、次のようなことはありましたか。

【一次本人・問 9】（単一回答）

全体として、あなたはあなたの最近の生活全般に、どのくらい満足していますか。「0」（まったく満足していない）から「10」（十分に満足している）の数字で、あてはまるものを選んでください。

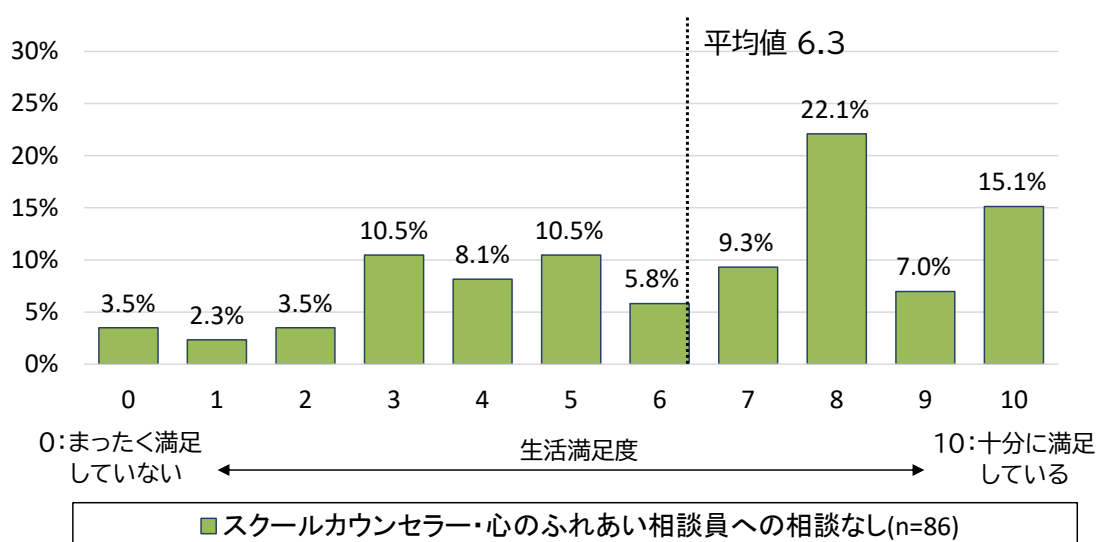
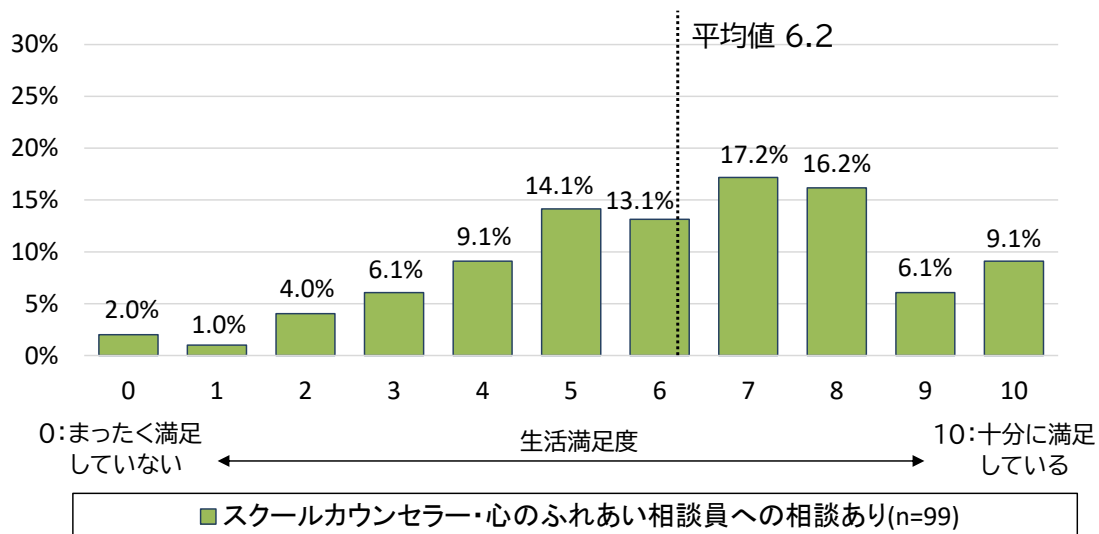
図表 3-4-2-1 2-3-1-1 保健室や相談室などの別室登校の利用の有無

× 2-4-4-1 最近の生活満足度⁵²



⁵² 無回答の割合（「保健室や相談室などの別室登校の利用あり」では 0.0%、「保健室や相談室などの別室登校の利用なし」では 4.3%）をグラフから省略しているため、各回答割合を足し合わせても 100%とならない。

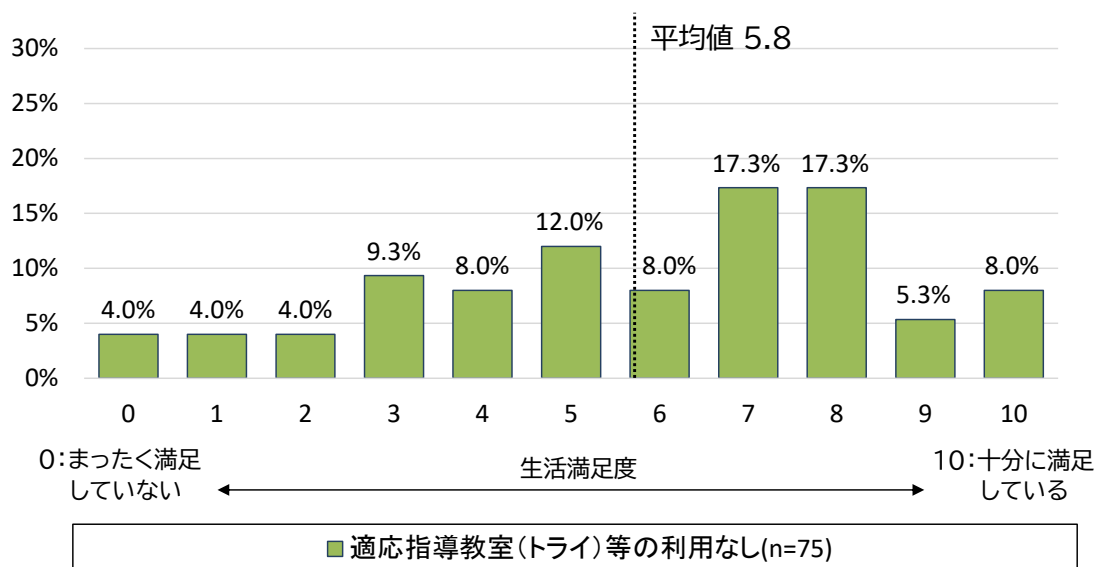
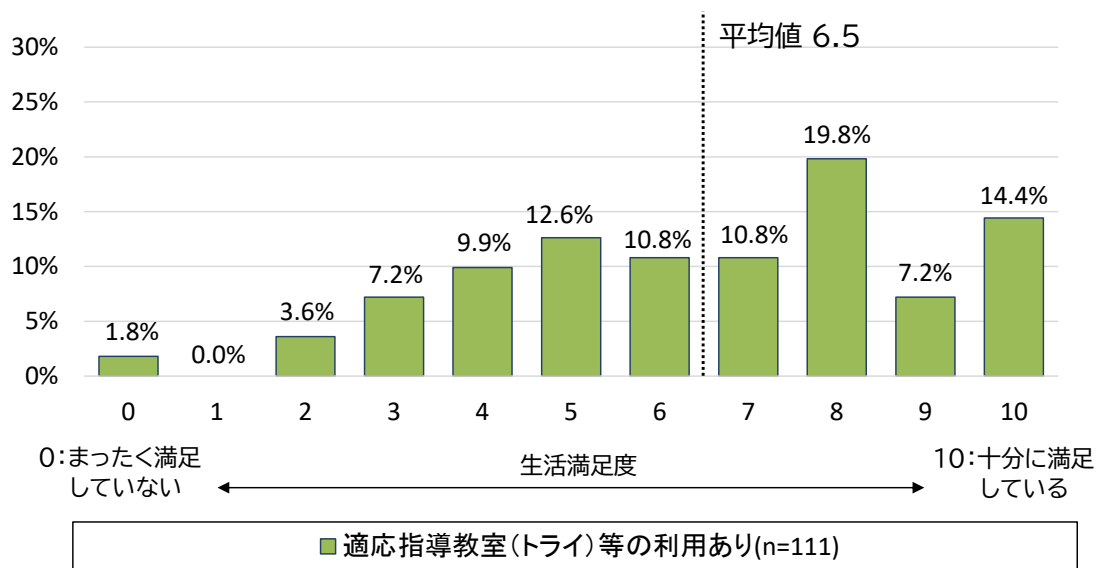
図表 3-4-2-2 2-3-1-1 スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談の有無
× 2-4-4-1 最近の生活満足度⁵³



⁵³ 無回答の割合（「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談あり」では 2.0%、「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談なし」では 2.3%）をグラフから省略しているため、各回答割合を足し合わせても 100% とならない。

図表 3-4-2-3 2-3-1-1 適応指導教室(トライ)等の利用の有無

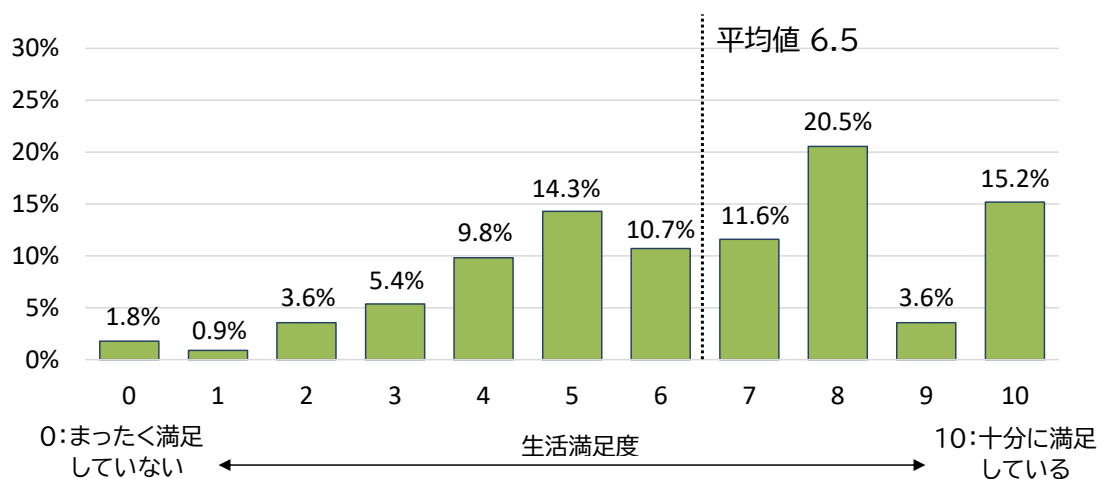
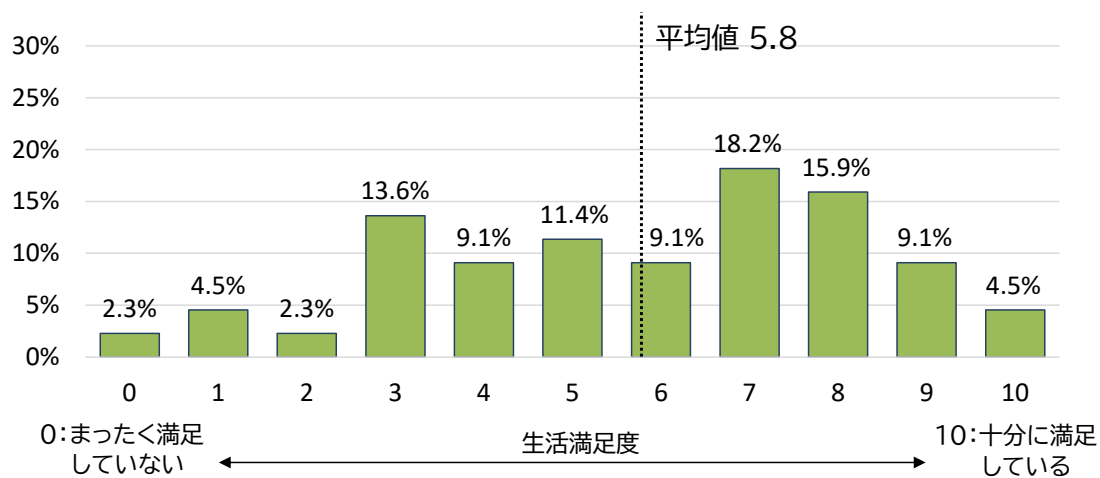
× 2-4-4-1 最近の生活満足度⁵⁴



⁵⁴ 無回答の割合（「適応指導教室（トライ）等の利用あり」では 1.8%、「適応指導教室（トライ）等の利用なし」では 2.7%）をグラフから省略しているため、各回答割合を足し合わせても 100%とならない。

図表 3-4-2-4 2-3-1-2 学校内の支援・学校外の支援の利用状況

× 2-4-4-1 最近の生活満足度⁵⁵

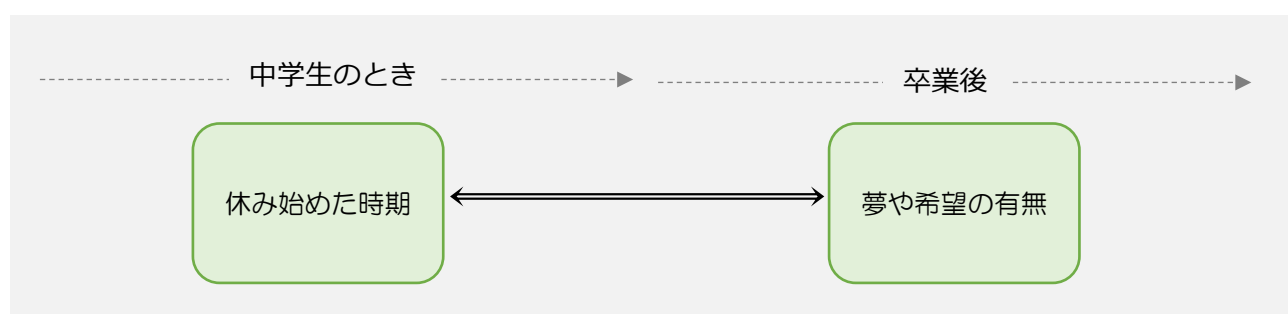


⁵⁵ 無回答の割合（「学校内の支援のみを利用」では 0.0%、「学校内・学校外両方の支援を利用」では 2.7%）をグラフから省略しているため、各回答割合を足し合わせても 100%とならない。

3-5 不登校当時の状況・卒業後の状況と将来の夢や目標

3-5-1 学校を休み始めた時期と将来の夢や希望の有無

学校を休み始めた時期と将来の夢や希望の有無との関係について、「小学生のころ」から学校を休み始めた方⁵⁶と、「中学生のころ」から学校を休み始めた方⁵⁷とで、自分の将来に夢や希望が「ある」または「ぼんやりとある」と回答した割合の合計に差はほとんどない。一方で「ある」だけに限れば、中学生のころから休み始めた方が、小学生のころから休み始めた方に比べて倍近く多い（図表 3-5-1）。



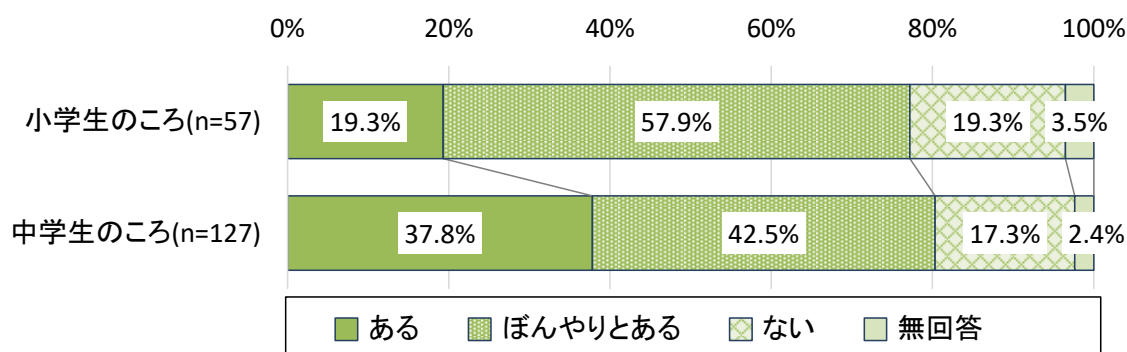
【一次本人・問 10】（単一回答）

あなたが学校をよく休み始めたのは、何年生のころですか。

【一次本人・問 18】（単一回答）

自分の将来について夢や希望がありますか。

図表 3-5-1 2-2-1-1 学校を休み始めた時期
× 2-5-1-1 将来の夢や希望の有無



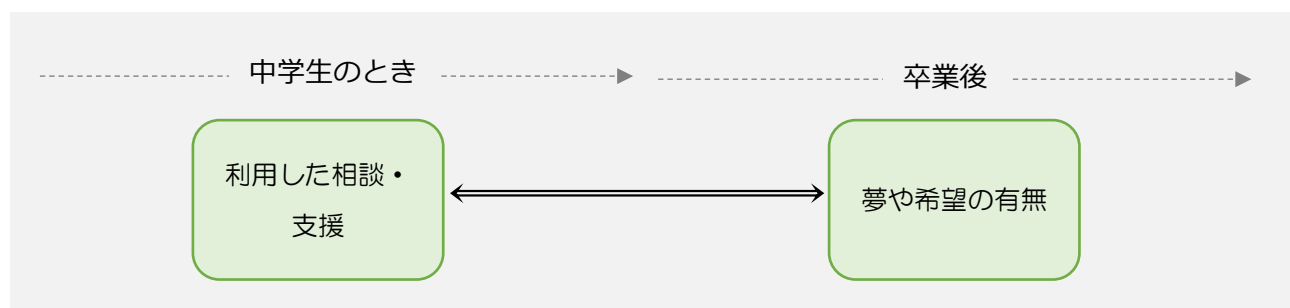
⁵⁶ 学校をよく休み始めた時期について、「小学校低学年（１・２年生）のころ」、「小学校中学年（３・４年生）のころ」、「小学校高学年（５・６年生）のころ」のいずれかを回答した方。

⁵⁷ 学校をよく休み始めた時期について、「中学校１年生のころ」、「中学校２年生のころ」、「中学校３年生のころ」のいずれかを回答した方。

3-5-2 相談・支援の利用有無と将来の夢や希望の有無

学校内・学校外両方の支援を利用した方⁵⁸は、学校内の支援のみを利用した方に比べて、自分の将来に夢や希望が「ない」と回答した割合が低い（図表 3-5-2-1）。

利用した支援内容を個別に見ると⁵⁹、「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談」（図表 3-5-2-3）、「スクールソーシャルワーカーへの相談」（図表 3-5-2-4）、「適応指導教室（トライ）等の利用⁶⁰」（図表 3-5-2-5）、「練馬区の教育相談室の利用」（図表 3-5-2-6）があった方は、利用がなかった方に比べて、自分の将来に夢や希望が「ない」と回答した割合が低い。



⁵⁸ 「学校の先生による家庭訪問」、「保健室や相談室などの別室登校」、「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談」のうち、いずれか1つでも「あった」と回答した場合、「学校内の支援」を利用した方とした。また、「スクールソーシャルワーカーへの相談」、「適応指導教室（トライ）」、「居場所ぱれっと」、「光が丘第一分室つむぎ」、「練馬区の教育相談室」、「その他の公的な相談機関等（児童相談所、福祉事務所など）」、「民間施設（フリースクール）と呼ばれる場所など」のうち、いずれか1つでも「あった」と回答した場合、「学校外の支援」を利用した方とした。

⁵⁹ ここでは、「保健室や相談室などの別室登校」、「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談」、「スクールソーシャルワーカーへの相談」、「適応指導教室（トライ）等」、「練馬区の教育相談室」の5点に着目して集計・分析を行った。

⁶⁰ 「適応指導教室（トライ）」、「居場所ぱれっと」、「光が丘第一分室つむぎ」のいずれかの利用が「あった」と回答した方を、「適応指導教室（トライ）等」の利用が「あった」方として集計している。

【一次本人・問 15】（単一回答）

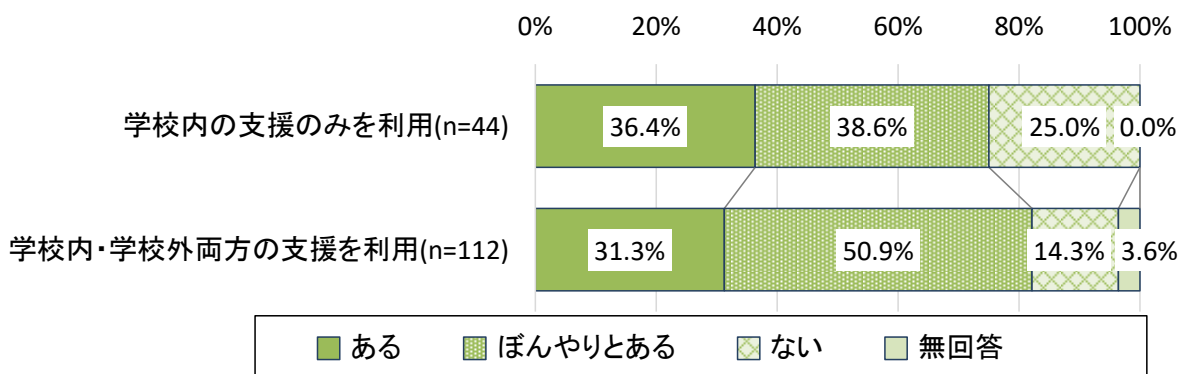
あなたが中学校 3 年生のとき、次のようなことはありましたか。

【一次本人・問 18】（単一回答）

自分の将来について夢や希望がありますか。

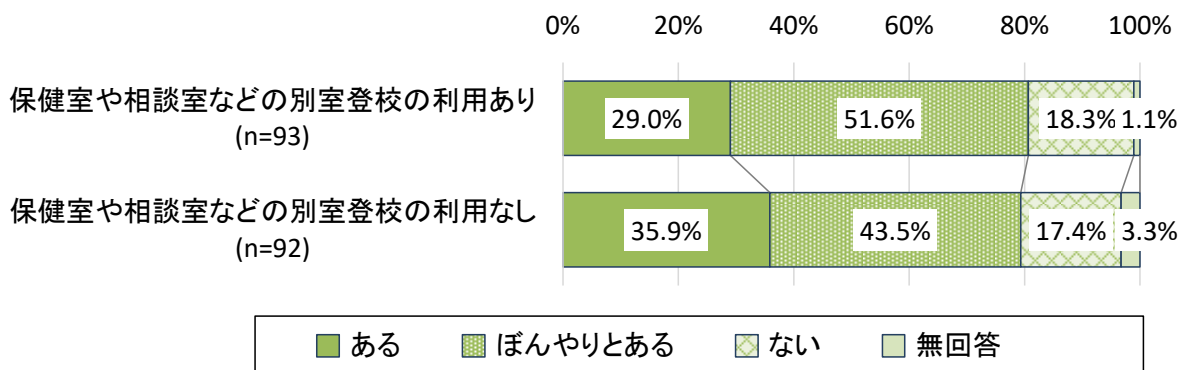
図表 3-5-2-1 2-3-1-2 学校内の支援・学校外の支援の利用状況

× 2-5-1-1 将来の夢や希望の有無



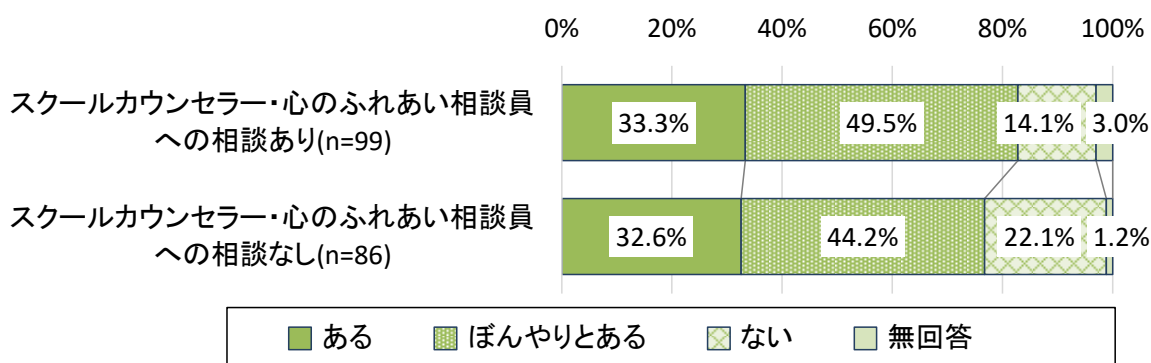
図表 3-5-2-2 2-3-1-1 保健室や相談室などの別室登校の利用の有無

× 2-5-1-1 将来の夢や希望の有無



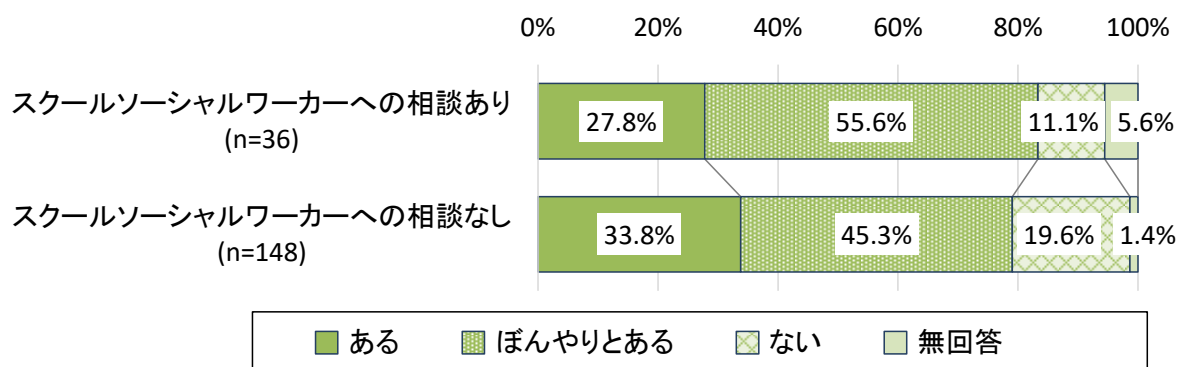
図表 3-5-2-3 2-3-1-1 スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談の有無

× 2-5-1-1 将来の夢や希望の有無



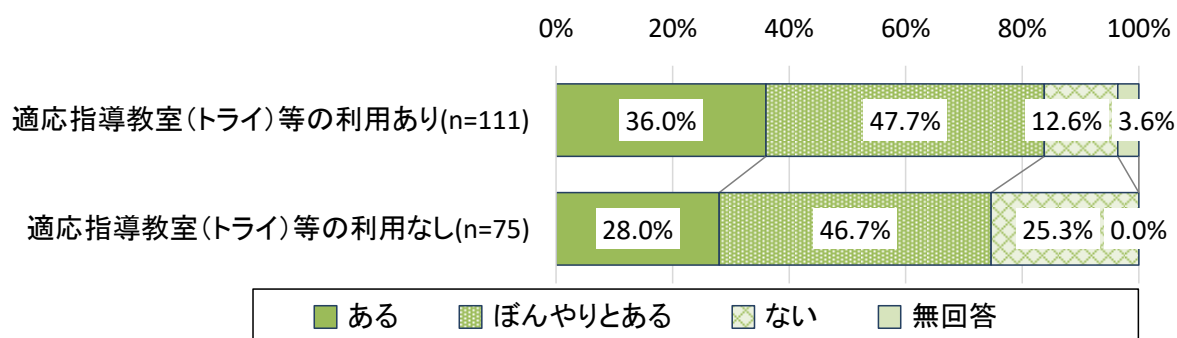
図表 3-5-2-4 2-3-1-1 スクールソーシャルワーカーへの相談の有無

× 2-5-1-1 将来の夢や希望の有無



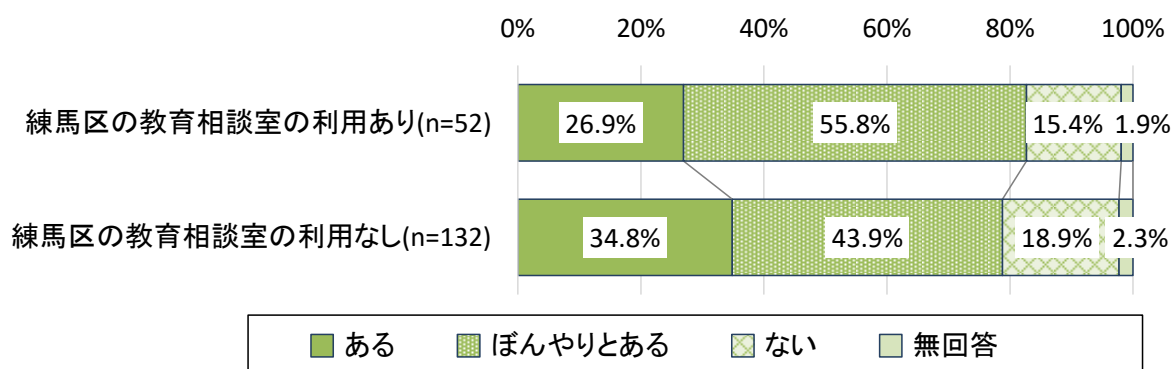
図表 3-5-2-5 2-3-1-1 適応指導教室(トライ)等の利用の有無

× 2-5-1-1 将来の夢や希望の有無



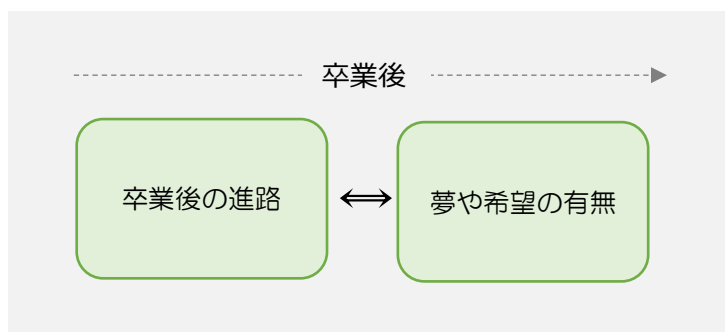
図表 3-5-2-6 2-3-1-1 練馬区の教育相談室の利用の有無

× 2-5-1-1 将来の夢や希望の有無



3-5-3 中学卒業後の進路と将来の夢や希望の有無

中学卒業後の進路⁶¹と将来の夢や希望の有無との関係については、「全日制高校」、「定時制高校（チャレンジスクール含む）」、「通信制高校（通信制サポート校含む）」の順で、自分の将来について夢や希望が「ある」と回答した割合が高い（図表 3-5-3）。



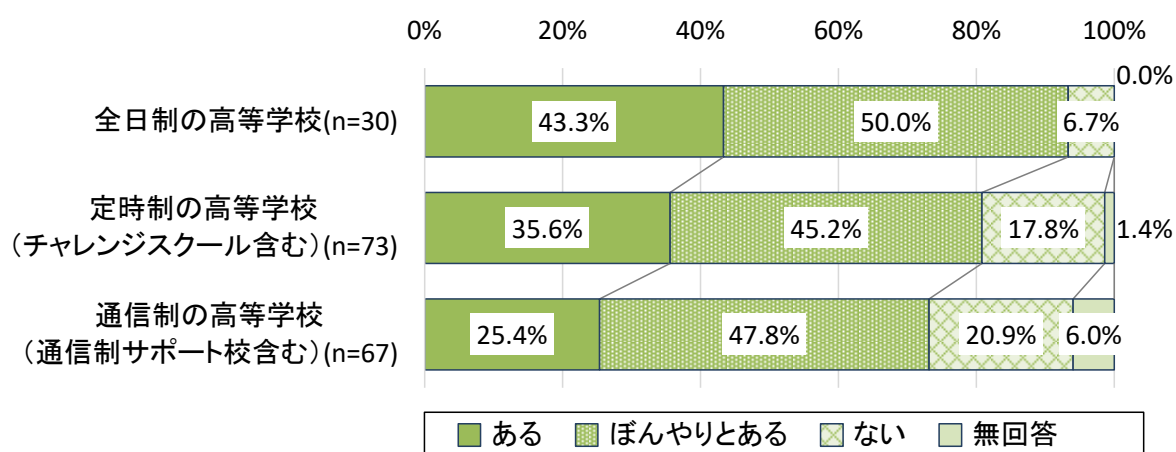
【一次本人・問 4】（単一回答）

あなたは、中学校を卒業してすぐの時点で、どのような進路に進みましたか。

【一次本人・問 18】（単一回答）

自分の将来について夢や希望がありますか。

図表 3-5-3 2-4-1-1 中学校卒業後の進路
× 2-5-1-1 将来の夢や希望の有無

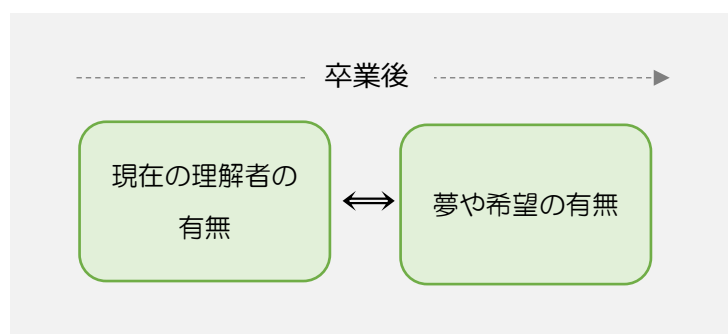


⁶¹ 中学校卒業後の進路について、「特別支援学校高等部・高等特別支援学校」、「その他の学校」、「就職（パートやアルバイト）」、「就職（正社員）」、「家業や家の手伝い」、「その他」の回答は、データの件数が少なかったため、グラフへの掲載を省略した。

3-5-4 現在の理解者の有無と将来の夢や希望の有無

現在の理解者の有無と将来の夢や希望の有無との関係について、現在自分のことをよく理解してくれる人が「いる」と回答した方が、「いない」と回答した方⁶²よりも、自分の将来について夢や希望が「ある」と回答した割合が高い（図表 3-5-4）。

反対に、現在自分のことをよく理解してくれる人が「いない」と回答した方は、「いる」と回答した方と比べて、自分の将来に夢や希望が「ない」と回答した割合が倍以上となっている。



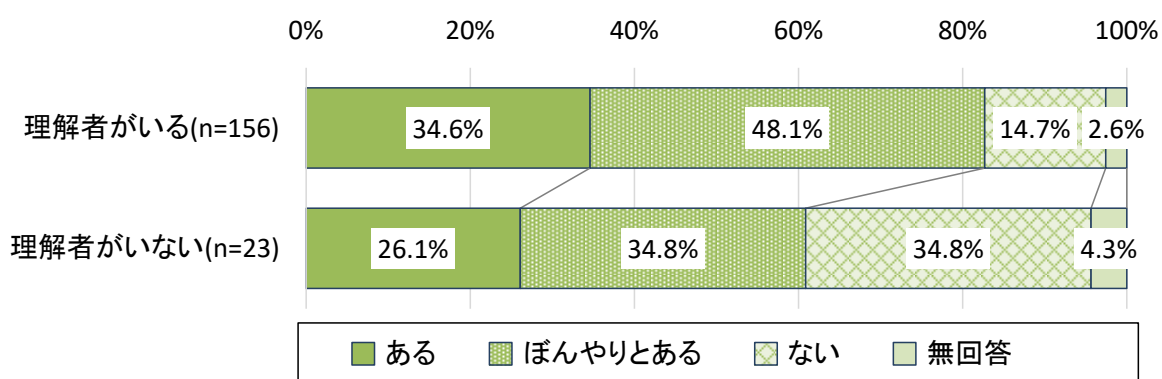
【一次本人・問 8】（単一回答）

現在、あなたのことをよく理解してくれている方はいますか。

【一次本人・問 18】（単一回答）

自分の将来について夢や希望がありますか。

図表 3-5-4 2-4-3-3 現在の理解者の有無
× 2-5-1-1 将来の夢や希望の有無



⁶² 現在よく理解してくれている方が「いない」と回答した方のデータが 23 件と少ない点に留意が必要である。

第4章 不登校を経験した生徒へのインタビュー調査

4-1 インタビュー調査結果の見方

インタビュー調査を行った 25 名の回答内容について、「学校を休み始めたときのきっかけや理由」、「休んでいたときの状況、困っていたこと等」、「相談していた場所や利用していた場所」、「中学校卒業後の状況」、「将来に関する展望・考え等」、「ICT 機器を利用した学習の経験や自分に合った使い方」の観点から情報を整理した。また、インタビュー回答者の個別のケース概要についても章末にまとめている。

また、それぞれの観点から、インタビューでの回答を分類・集計している。一人で複数の分類に該当する内容を回答している場合があるため、該当件数の合計が 25 件にならない場合がある。また、【X】で示している番号は、インタビュー対象者のケース番号との対応関係を示している。

4-2 学校を休み始めたときのきっかけや理由

学校を休み始めたときのきっかけや理由として、「先生との関係」や「人間関係、学校やクラスの雰囲気」をあげたケースが多かった⁶³。

「先生との関係」に関しては、先生への感謝を述べるケースもあったが、全体として、当時の対応への不満が語られることも多く、例えば、部活動での先生の厳しい指導が要因となっているケース（【1】【4】【11】）や、先生がいじめを助長したと生徒が感じているケース（【16】【24】）もあった。

「人間関係、学校やクラスの雰囲気」に関しては、小学校から中学校へ進学した際の環境・友人関係の変化（【8】【18】【23】）や、転校等による環境変化（【10】【17】【21】）が関係していることがうかがえる。

「体調不良」を理由とするケースや、「いじめ・いやがらせ等」、「部活動・クラブ活動」が原因であるとするケースもあった。また、明確なきっかけや理由が自分でも分からないというケース（【9】【18】【20】）や、家庭環境が影響していると考えられるケース（【14】【19】）もあった。

図表 4-2 学校を休み始めたときのきっかけや理由

分類	該当件数	ケース番号
いじめ・いやがらせ等	4	【5】【12】【16】【24】
人間関係、学校やクラスの雰囲気	8	【8】【10】【13】【17】【18】【21】【23】 【25】
先生との関係	10	【1】【3】【4】【11】【13】【16】【17】 【22】【24】【25】
勉強の遅れ	2	【6】【17】
体調不良	6	【1】【3】【6】【15】【22】【24】
自分でも分からない	3	【9】【18】【20】
部活動・クラブ活動	4	【1】【2】【4】【11】
その他（家庭環境等）	4	【7】【14】【17】【19】

※25 件のインタビュー結果を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

⁶³ 第2章に掲載した、一次調査や二次調査での回答と比べると、「いじめ・いやがらせ等」に該当する件数が相対的に少ない結果となっている。

4-3 休んでいたときの状況、不安に思っていたことや困っていたこと等

学校を休んでいた間の状況として、生活リズムの乱れをあげるケースが多かった。内容的には、昼夜逆転の生活で、部屋にひきこりがちでゲームをしている事例が多くなっている。

当時のことをよく覚えていないというケース（【11】【15】【17】【20】【21】）も比較的多く、どうしてよいか分からなかったという回答（【4】【5】【12】）や、構わないでほしかった、放っておいてほしかったというケース（【1】【3】【8】【14】）もあり、それぞれ、心理面での負荷が大きい状況にあったことがうかがえる。

このほか、休んでいた間の状況について、親が理解し支えとなってくれたことを話してくれたケースもあった（【3】【4】【12】【17】【23】⁶⁴）。

不安に思っていたことや困っていたことの内容としては、学校で授業を受けられない帰結として「勉強のこと」をあげるケースが多く、同時に「進路・受験のこと」をあげるケースもあった。

また、友達からどう思われているかといった周りの反応を気にするケースや、体調面での困りごとを抱えているケースがあった。

図表 4-3 学校を休んでいたときに不安に思っていたことや困っていたこと

分類	該当件数	ケース番号
進路・受験のこと	4	【1】【7】【10】【12】
勉強のこと	8	【1】【10】【12】【13】【16】【18】【19】 【22】
体調のこと	4	【3】【15】【16】【22】
周りの反応	4	【1】【6】【7】【24】
どうしてよいか分からなかった	3	【4】【5】【12】
生活リズムの乱れがあった ⁶⁵	11	【2】【5】【7】【9】【10】【12】【15】 【16】【18】【19】【22】
よく覚えていない	5	【11】【15】【17】【20】【21】
構わないでほしかった	4	【1】【3】【8】【14】
その他	2	【23】【25】

※25 件のインタビュー結果を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

⁶⁴ 4-8「ケースの概要」を参照。

⁶⁵ インタビューの際に、「昼夜逆転などはありましたか」と、インタビュアー側から尋ねて状況把握をしており、ここでは、必ずしも本人が、不安に思っていたり困っていなかったりした場合も件数に含まれている。

4-4 相談していた場所や利用していた場所

学校を休んでいた間に相談していた場所や利用していた場所については、「保健室や相談室などの別室登校」、「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談」、「適応指導教室（トライ）」をあげるケースが多かった。学校での相談のみ、あるいは学校外での支援機関の利用のみというケースは少なく、状況に応じて利用を切り替えているケースや両方の支援を利用していたというケースが多かった。

別室登校に関しては、人に見られてしまう環境が嫌だったというケース（【7】【23】【24】）があった。また、別室登校等をしたいと思っていたが、かなわなかったというケース（【5】【8】【16】⁶⁶）もあった。

スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談については、人に話せないことを話せた、話を聞いてくれたというケース（【4】【5】【18】）があったが、カウンセラーが自分と合わなかったケース（【11】【14】【21】⁶⁷）もあった。

適応指導教室（トライ）に関しては、良かった点として、通室すれば学校が出席扱いになること（【7】【18】）や、勉強面で助けられた点（【5】【12】【18】）をあげるケースがあった。一方で、集団や勉強が苦手な授業には参加できなかったケースがあったが、面談を受けたことで、考えがまとまったり、人と話せたりするようになったケース（【7】【8】【16】【21】【23】【24】）もあった。ほかにも、友人や仲間ができたケース（【9】【11】【17】【23】）や不登校の子が通う教室ということで周りの目が気にならなくてよかったというケース（【7】【18】）があった。

適応指導教室（トライ）については、存在を知らず利用を検討しなかった場合もあると考えられるが、見学・相談等は行ったものの定期的な利用に至らなかったケース（【3】【4】【19】⁶⁸）もあった。利用に至らなかった理由として、不登校になって間もなく、タイミングが早すぎたのではないかといったことや、自宅からのアクセス・距離の問題があげられた。

⁶⁶ 4-8「ケースの概要」を参照。

⁶⁷ 4-8「ケースの概要」を参照。

⁶⁸ 4-8「ケースの概要」を参照。

図表 4-4 学校を休んでいたときに相談していた場所や利用していた場所

分類	該当件数	ケース番号
保健室や相談室などの別室登校	10	【2】【7】【9】【10】【12】【13】【14】 【17】【23】【24】
スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談	14	【1】【4】【5】【7】【8】【9】【11】 【13】【14】【18】【19】【21】【22】【23】
適応指導教室（トライ） ※居場所ぱれっと、光が丘第一分室つむぎを含む	15	【5】【7】【8】【9】【11】【12】【14】 【16】【17】【18】【19】【21】【23】【24】 【25】
教育相談室	5	【10】【13】【14】【15】【16】
その他（スクールソーシャルワーカー等）	3	【3】【12】【24】
いずれにも該当しない	2	【6】【20】

※25 件のインタビュー結果を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

4-5 中学校卒業後の状況

中学校卒業後（直後）の進路は、通信制高校進学者が最も多く、次に定時制高校が多かった（図表 4-5-1）。なお、定時制高校は、多くがチャレンジスクール（不登校経験がある生徒等を主に受入れる都立定時制高校）への進学である。

高校進学後の状況は良好であるケースが多く、その要因として友人との関係や先生との関係が良好であることがあげられる（【1】【4】【5】【7】【9】【10】【14】【18】【19】【22】【23】【24】⁶⁹⁾）など、中学校の頃とは環境面の変化があったことがうかがえる。現状や将来に不安を覚えることもある（【7】【10】⁷⁰⁾）が、肯定的な、前向きな意識を持っているケースが多かった。

他方で、現状が満足いく状況ではないと回答されたケース（【15】【20】⁷¹⁾）や、中学校卒業後も医療機関の受診やカウンセリングを必要としているケース（【13】【21】【22】【24】⁷²⁾）も見られ、継続的な支援ニーズもあることがうかがえた。

調査対象者の現在の在学等の状況としては、高校在学中のケースが多く、既に高校を卒業した方では大学に在学中であるケースが多かった（図表 4-5-2）。中学卒業後に進学も就職もしなかったというケース（【20】【25】）もあった。

図表 4-5-1 中学校卒業後（直後）の進路

分類	該当件数	ケース番号
全日制高校	2	【1】【22】
定時制高校	8	【2】【7】【9】【12】【14】【18】【23】 【24】
通信制高校	12	【3】【4】【5】【6】【8】【10】【11】 【13】【15】【16】【19】【21】
その他	3	【17】【20】【25】

※25 件のインタビュー結果を分類したもの。

⁶⁹⁾ 4-8「ケースの概要」を参照。

⁷⁰⁾ 4-8「ケースの概要」を参照。

⁷¹⁾ 4-8「ケースの概要」を参照。

⁷²⁾ 4-8「ケースの概要」を参照。

図表 4-5-2 現在の状況

分類	該当件数	ケース番号
高校進学予定	1	【25】
高校在学中	8	【6】【7】【12】【15】【16】【19】【21】 【24】
高校から専門学校進学予定	1	【3】
高校から大学進学予定	3	【4】【8】【14】
高校卒業後働く予定	1	【18】
専門学校在学中	1	【2】
大学在学中	6	【1】【5】【9】【10】【17】【23】
働いている	3	【11】【13】【22】
その他	1	【20】

※25 件のインタビュー結果を分類したもの。

4-6 将来に関する展望・考え等

将来に関する展望・考えとして、高校に在学中の場合は大学や専門学校への進学に関することをあげることが多く、進学先が決まっている場合や大学等に現在在学している場合には、その後の就職・仕事のことをあげることが多かった。

就職・仕事のことにに関して特定の資格取得を目指していると回答があったケースや、一人暮らしをすることや自立すること、仕事について収入を得て、安定した生活をすることを目標としてあげるケースも見られた。

また、自身の不登校であった経験等を踏まえて、教育や心理系の大学や職業を目指すケース（【1】【4】【8】【14】【16】【17】【21】【22】【23】⁷³⁾）が多く見られたのも特徴的であった。

図表 4-6 将来に関する展望・考え等

分類	該当件数	ケース番号
進学	9	【3】【4】【7】【8】【12】【16】【21】 【23】【25】
就職・仕事のこと	17	【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】 【9】【10】【13】【14】【17】【18】【19】 【22】【23】【24】
資格取得	6	【1】【2】【8】【10】【14】【17】
一人暮らし、自立	8	【2】【8】【13】【15】【18】【19】【21】 【25】
その他	3	【11】【20】【22】

※25件のインタビュー結果を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

⁷³⁾ 4-8「ケースの概要」を参照。

4-7 ICT 機器を利用した学習の経験や自分に合った使い方

ICT 機器を利用した学習は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、高校・大学等で経験したことがある方が多かった。

その中で、多くの方が、ICT 機器を利用したオンライン・デジタルでの学習があるとよい、という回答した。

特に、自身を含めた不登校の児童生徒についてメリットがあると回答しており（【1】【2】【3】【17】【19】【21】）、ICT 機器を利用することで、不登校の児童生徒の多様な状態に合わせた学習が可能になると考えられる。

ただし、オンライン・デジタルでの学習の中でも、自分のペースで学習できるなどの理由で動画配信型の方法がよいと考えるケース（【5】【6】【9】【13】⁷⁴）もあれば、リアルタイムのオンライン授業でないと集中して学習をすることが難しいと考えるケース（【3】【7】⁷⁵）もあった。

オンライン・デジタルでの学習経験を踏まえた上で、自身にとっては対面・アナログでの授業がよかったと考えるケース（【12】【14】【15】【24】⁷⁶）もあり、特定の方法が優れているということではなく、多様な選択肢が用意され、学習方法の幅が広がることが重要であるということがうかがえた。

図表 4-7 ICT 機器を利用した学習の経験や考え方等

分類	該当件数	ケース番号
オンライン・デジタルでの学習があるとよい	12	【1】【2】【3】【5】【6】【8】【9】 【10】【17】【19】【21】【22】
対面・アナログでの学習がよい	3	【4】【12】【14】
メリット・デメリットの両面がある	5	【7】【13】【15】【18】【24】
分らない、いずれでもない、未聴取	5	【11】【16】【20】【23】【25】

※25 件のインタビュー結果を分類したもの。

⁷⁴ 4-8「ケースの概要」の「ICT 機器を利用した学習経験や自分に合った使い方について」を参照。

⁷⁵ 4-8「ケースの概要」の「ICT 機器を利用した学習経験や自分に合った使い方について」を参照。

⁷⁶ 4-8「ケースの概要」の「ICT 機器を利用した学習経験や自分に合った使い方について」を参照。

4-8 ケースの概要

【ケース 1】

学校を休み始めたときのきっかけや理由	○部活動の顧問でもあった担任の先生と合わなかった。 ○部活動で理不尽に怒られ、罰として受けた練習で体を痛めた。それが原因で休むようになり、先生のことも嫌になって学校に行きづらくなった。
休んでいたときの状況、困っていたことなど	○学校に行かない生活に慣れてしまい、ずっと家にいて、勉強もせず、寝たり、テレビを見たりして過ごしていた。 ○学校を休むことで、仲の良かった友達が離れていってしまうという不安があった。 ○受験が近づき、勉強をやらなければいけないと分かっているもやる気がでなかった。 ○いろいろな人が心配してくれたが、逆に放っておいてほしいという気持ちが強かった。
相談していた場所や利用していた場所	○月に 1 回程度学校に行き、スクールカウンセラーと話をした。自分には行きたくなかったが、担任の先生の働きかけで受けることになった。 ○何かしら問題がある人がカウンセリングを受けるというイメージがあり、自分が受けることに負い目があった。
中学校卒業後の状況	○全日制の高校に進学。進学先は自分で調べて決めた。 ○高校は 3 年間通えた。現在は大学に進学し、教員を目指している。 ○現在の生活は、中学校の時と比べると天と地の差があるくらい、よくなっている。大学は優しい雰囲気の人が多く、嫌だと思ふ先生もいない。
将来に関する展望・考え等	○自分のように学校で嫌な思いをする子が増えないよう、教員になって子供たちを助けたい。

【ケース 2】

学校を休み始めたときのきっかけや理由	○部活動の朝練習で走るのが嫌だった。遅刻したり休んでいたりしたら、学校に行きづらくなってしまった。
休んでいたときの状況、困っていたことなど	○昼夜逆転していたため、夕方や夜に起きて、朝に寝るような生活だった。家の方針で家事はしていた。 ○今思えば、進学先の高校が良くなかったということではなく、遅刻してでも学校に行けば、違う道もあったかもしれないと思う。 ○もともと勉強ができなかったこともあり、勉強のことはそこまで不安には思わなかったが勉強していて損はなかったと思う。
相談していた場所や利用していた場所	○先生が気にかけてくれた。家庭訪問があり、相談室登校を誘われて 1 週間から 10 日に 1 回程度の頻度で行っていたが、面倒で行かなくてもいいのではないかと考えていた。
中学校卒業後の状況	○進路は塾の先生と相談して決め、定時制の高校に進学した。現在は専門学校に在学している。 ○現在の生活は充実している。不登校の時も、ほかの人が経験できない、いい人生経験をしたと捉えている。
将来に関する展望・考え等	○将来は、専門学校で学んでいる専門性を生かした職業に就きたい。 ○一人前になったら一人暮らしをしようと考えている。

【ケース3】

学校を休み始めたときのきっかけや理由	○精神的な病気になり小学校6年生あたりから段々学校に行かなくなった。 ○給食が苦手で、残さないように食べさせられるのがつらかった。減らせる量に決まりがあったり、掃除の時間まで食べさせられたりした。給食以外の場面でも先生と合わなかった。
休んでいたときの状況、困っていたことなど	○昼夜逆転はなかったが、普段は家でゲームをしていた。親に連れられて公園にも行っていた。 ○学校という場所が嫌だったので、家でリモート授業を受けられたらよかった。 ○普通に学校に通いたい気持ちは最後まであったが、学校に行こうとすると吐き気がするなどの不調があった。また、不登校になってから1年経つと、もう手遅れだろうという思いもあった。 ○周りには、放っておいてほしいという気持ちだった。親はずっと味方だった。
相談していた場所や利用していた場所	○中学校2年生のときの先生は熱心で、趣味も合って、放課後に会ったりしていた。 ○カウンセラーの人が何度か家に来たこともあったが、特に役に立った訳ではなかった。 ○適応指導教室（トライ）は、中学1年生のときに親に連れられて行ったが、合わなかった。2年生のときに行っていたら継続的に行くようになっていたかもしれない。
中学校卒業後の状況	○親が見学に合わせて行ってくれた通信制の高校に進学。教室は学校のような雰囲気がなく、タブレットを使ったりリモート授業があったのもよかった。また、生徒の人数も少なく、先生が寄り添って見てくれたので、順調に過ごせた。
将来に関する展望・考え等	○元々自分が好きな分野のことを学べる専門学校に進学予定である。専門学校卒業後は、専門性を活かした仕事などを考えている。

【ケース4】

学校を休み始めたときのきっかけや理由	○中学校3年生になって突然、学校に行けなくなった。親はそれ以前から様子がおかしいと気付いていたようだった。 ○部活動がハードで、練習を休めないなど、先生の指導が厳しく、限界がきてしまった。 ○ほかの先生に部活動の先生のことを相談したが、何も対応してもらえなかった。
休んでいたときの状況、困っていたことなど	○ずっと家にいてテレビを見ている生活で、交友関係はなかった。 ○担任が親と頻繁に面談をしていて、電話もあったが、自分が話すのは拒否していた。 ○自暴自棄になっており、進路のことは何も考えず、勉強自体、拒否反応があった。 ○親は理解して見守ってくれた。自分としては休むことも重要だったと思う。
相談していた場所や利用していた場所	○最初は学校の相談室に行き、その紹介で、別施設のカウンセリングに行くようになった。自分の言いたいことをまとめて言う練習になったので良かった。 ○適応指導教室（トライ）は、不登校直後で拒否感が強く、一度面談したが行かなかった。不登校になって半年後くらいであったら行くようになっていたかもしれない。
中学校卒業後の状況	○親が調べてくれた通信制の高校に進学。本当は学校に行きたくなかったが、親から進学を勧められ、自分でも高校を出ないと大変かなと思って決めた。 ○通いだすと、小中学校の先生と違い、怒鳴らないし強制しない先生で、すごく良かった。友達もできて、人は怖くないということを少しずつ自分に教えた感じで、嫌々でも行っていたと思う。
将来に関する展望・考え等	○高校卒業後は大学進学予定。 ○自分が不登校であったことを踏まえ、将来教育のことに携わりたいと思っている。

【ケース5】

学校を休み始めたときのきっかけや理由	○中学生のときにいじめにあったことが理由で不登校になった。
休んでいたときの状況、困っていたことなど	○ほぼ自我がなく、無気力で、何も考えられない状況だった。不安はあったが、何に対する不安なのかも分からない状況だった。 ○起きられない、起きる必要もないという感じで過ごしていた。
相談していた場所や利用していた場所	○週に一回、学校でカウンセリングを受けていた。いじめのことを打ち明けることができ、話を聞いてくれてよかったが、生活記録を付けて見せることが面倒だった。 ○相談室から親が紹介を受け、適応指導教室（トライ）に通うようになった。勉強が嫌いで、最初も行っても意味がないと思っていたが、暇だったこともあり、基本的に毎日通っていた。学校に行かなくても授業を受けられたのは結果として良かった。 ○学校に保健室登校がなかったが、あればしたいと思っていた。もともと人と関わるのが嫌いではなかったので、何らかのコミュニティがあれば良かった。
中学校卒業後の状況	○通信制高校に進学した。親が調べてくれた高校だったが、自分の好きな分野を学べる場所で、高校選びに成功した。相談ができる友達もできて、楽しく「花の時代」だった。 ○現在は大学に行っている。
将来に関する展望・考え等	○将来のことはあまり考えていないが、今の自分の好きなことを生かした職に就きたいとは考えている。

【ケース6】

学校を休み始めたときのきっかけや理由	○偏頭痛で学校を休みがちだったため、授業のスピードについていけなくなった。 ○また、好きだった部活もコロナで活動が無くなり、学校に行かなくていい気持ちが強くなった。
休んでいたときの状況、困っていたことなど	○食べて寝てばかりで、部屋で動画を見ていた。家族は不登校を受け止めてくれてゆったり過ごしていた。 ○休み始めは友達の目が一番気になった。先生がちょっとしたことで子供を褒めてくれて、子供同士も「不登校はサボりだ」と思わない環境になればいいと思う。
相談していた場所や利用していた場所	○担任の先生とは、放課後に進路の話などをして、プリントを受け取って帰っていた。 ○別室登校は、友達に会ってしまうかもしれないことが嫌で利用しなかった。ほかの相談場所なども利用せず、基本的に家族に相談等していた。 ○部活が好きだったので、部活だけ行くことができる制度があっても良かったのではないかと思う。個人的にはホームスクールがあったらいいなと思っていた。
中学校卒業後の状況	○自分で調べた上で学校の担任とも相談し、自分の好きな分野を学べる通信制の高校に進学。やりたいことが見つかって、現在はストレスなく過ごしている。 ○勉強のことは兄に、進路のことなどは学校の先生などに相談できる状況にある。
将来に関する展望・考え等	○現在高校で受けている授業に関連した分野を仕事にしたい。

【ケース 7】

学校を休み始めたときのきっかけや理由	○通っていた塾が厳しかった。学校を休んで塾の宿題をするということをしていたときに、友達からサボっていると言われ、精神的なダメージを負って、学校に行けなくなってしまった。
休んでいたときの状況、困っていたことなど	○朝起きられなくなったり、夜眠れなくなったりしていた。どん底まで傷ついていて、どうして学校に行けなくなってしまったのか、自分でも分からないような状態だった。 ○部屋に閉じこもってゲームをしていたが、高校に行けるかどうかが一番不安だった。 ○先生から勧められて、一度学校に戻ったが、休んでいた間の勉強が全然追いつけず、負い目を感じ、みんながどう思っているんだろうと考え、また行けなくなった。
相談していた場所や利用していた場所	○担任の勧めで、別室登校していた。自習していたが、友達がのぞいたりして嫌だった。担任や保健室の先生、スクールカウンセラーには、たくさん助けていただいた。 ○母の勧めで適応指導教室（トライ）に通い始めた。通うと出席扱いになる点が大きかった。毎週の面談で何でも話すことができ、不登校の子が通う場所なので、周りの目も気にならなかった。
中学校卒業後の状況	○適応指導教室（トライ）のスタッフと相談し、定時制高校に進学。高校は普通に登校しているが、将来のことや、自分はこのままでいいのかという漠然とした不安はある。 ○中学時代は何もしなかったもので、それに比べて、現在は学校に行って友達と遊んだりして、生活はとても良くなった。高校の先生も優しく、理解のある方が多い。
将来に関する展望・考え等	○進学先や就職先をある程度決めている。適応指導教室（トライ）での相談のなかで具体的な進路展望を決めた。

【ケース 8】

学校を休み始めたときのきっかけや理由	○中学校 1 年生の 6 月ごろから休み始めた。小学校と中学校のギャップに気疲れしてしまったことが一番大きな要因。周りに同じ小学校であった人があまりいなくなってしまう、気疲れを起こして、行きたくなくなってしまった。
休んでいたときの状況、困っていたことなど	○学校のことを考えること自体が嫌だった。先生に、学校に行っていない間はどのようにしているのかを聞かれることや、一回だけ家庭訪問があったが、本当に嫌だった。 ○自分のことで精一杯で、誰かに相談等をするような状況でもなかった。
相談していた場所や利用していた場所	○学校の相談室の方が辞めてしまい、予約しないと相談室に行けないという状況になり、行きづらい雰囲気になってしまったことがあった。 ○保健室登校も最初はよいと言われていたが、結局はだめだということになってしまい、実現はしなかった。 ○適応指導教室（トライ）では親の勧めで、週 1 回くらいで面談を受けていた。面談は、のんびりした雰囲気ですぐ居心地のよい場所だった。家から遠かったが、逆に友達に会う可能性が低いことはよかった。
中学校卒業後の状況	○通信制の高校に進学。精神的なストレスという面ではすごく状態が良くなった。
将来に関する展望・考え等	○大学に進学予定。自分自身の経験から心理学に興味を持った。勉強が楽しければ大学院にも進学したい。また、アルバイトもして一人暮らしもしたい。

【ケース 9】

学校を休み始めたときのきっかけや理由	○小学校のころから休みがちだった。人間関係にトラブルがあったとか、勉強についていけないということもなく、特に原因は思い当たらない。ただ、疲れていた。 ○今思えば、学校に行っておけばよかったと思う。
休んでいたときの状況、困っていたことなど	○昼夜逆転の生活だった。同級生がどうしているのかを、気にはしていた。 ○嫌なことがあっての不登校ではなかったので、家から強引に連れ出してくれる人がいたら、学校に行っていたかもしれない。
相談していた場所や利用していた場所	○中学校では小学校から休みがちであったことが伝わっていて、強く学校においてよと言われたことはそんなになかった。別室登校をしていた時期もあったがよく覚えていない。スクールカウンセラーとも会ったが相談することがなかった。 ○適応指導教室（トライ）は、毎日のように通い、今でも連絡を取り合う仲間ができた。小学生の頃に適応指導教室を利用しておりイメージはついていた。家から遠く、同じような状況の人がほかにもいたので、分室があればよかった。
中学校卒業後の状況	○定時制の高校に進学。高校は通え、現在は大学に在学中。 ○高校では先生や友達との相性が良く、すごく環境がよかったと思う。内に向いていたものが外に向いたというような、自分の中での変化もあった。
将来に関する展望・考え等	○大学の専攻を生かせる分野の仕事に就きたいと考え、勉強している。

【ケース 10】

学校を休み始めたときのきっかけや理由	○親の事情で海外の日本人学校に転校したが、学力レベルについていけず不登校になった。帰国後も、劣等感や気まずい気持ちがあり中学校に通えなかった。
休んでいたときの状況、困っていたことなど	○昼夜逆転していて、部屋でゲームや SNS をしていた。 ○高校受験もあるため、勉強しなくて大丈夫なのかな、という不安はあった。 ○友達に会えなくて寂しいと思っていた。
相談していた場所や利用していた場所	○担任の勧めで練馬区の教育相談室を利用していた。専門の方に相談することで自分を見つめ直すことができたが、人の視線が気になって外出することに抵抗があったので、オンラインで相談できる環境があればよかった。 ○また、担任の勧めで、別室登校をしていた。部屋が人目に付きにくい場所にあり、安心して学校に行くことができた。 ○スクールカウンセラーは異性だったので緊張して相談できなかった。
中学校卒業後の状況	○通信制の高校に進学。今の自分ができたのは高校の時から。高校の友達や先生の支えで、外に出られるようになり。物事に責任感を持てるようになった。 ○現在は大学に通っているが、コロナの影響で対面授業がなく不安が大きかった。学校を卒業しても、気軽に相談できるところがあるとよいと思う。
将来に関する展望・考え等	○大学の専攻に関係する資格の勉強をしておきたい。

【ケース 11】

学校を休み始めたときのきっかけや理由	○小学校 4 年生になってクラブ活動を行うようになったが、勉強との両立が難しかった。 朝早く学校に行かなくてはならず、先生も厳しくて、クラブ活動を辞めることになった。 その流れで学校にも行かなくなってしまった。
休んでいたときの状況、困っていたことなど	○家でいろいろしていたように思うが、具体的に何かをしていたという記憶がない。 ○引きこもっていた時期があれば、他方でひたすら外に出ていた時期もあった。
相談していた場所や利用していた場所	○学校の相談室に週に 1～2 回行っていた。 ○小学生のときから適応指導教室を利用していた。適応指導教室で知り合った友達とは今でも連絡を取り合っている。ただ、適応指導教室は、自分の中で勉強する場所という認識があり、あまり得意でない部分もあった。
中学校卒業後の状況	○毎日通う必要がなく挫折が少なそうと思い通信制高校に進学。不登校経験者に配慮があり、欠点を埋めるよりは、長所を伸ばすような所だったので自分に合っていた。 ○その後専門学校に進学したが、自主退学。現在はアルバイトをしている。
将来に関する展望・考え等	○飽きのこない生活をしたいなと思っている。どこか安定した会社に就職して、そこをずっと定年までやるみたいなのやり方ではなく、契約社員のような形で、ある程度の期間を決めて転々とやっていきたい。

【ケース 12】

学校を休み始めたときのきっかけや理由	○別の小学校からきたクラスメイトにいじられるのが嫌だった。それが原因で、夏休み明けに戻るのが嫌になって不登校になった。
休んでいたときの状況、困っていたことなど	○勉強ができず、進路をどうしようかというぼんやりとした不安があった。学校には行きたくないけれど、でも行かないと授業等を受けられないというジレンマがあった。 ○休み始めたころは、どうしていいかも分からず、空っぽの状態だった。昼夜逆転の生活だったが、ゆっくり過ごさせていた。親は味方になって助けてくれた。
相談していた場所や利用していた場所	○保健室に通ったり、先生が家に様子を見に来たりして、先生と話す機会はあった。受験が近くなってからは、先生と毎日電話して、進路の情報やアドバイスをもらった。 ○スクールソーシャルワーカーとは、勉強以外の話ができて心休まる時間になっていた。 ○適応指導教室（トライ）は、慣れなくてあまり行けなかったが、受験に向けての勉強面ですごく助けられた。 ○学校の先生や親、周りの大人に助けてもらった。頼れる人が身近にいた。
中学校卒業後の状況	○定時制高校に進学した。嫌なクラスメイトがいないので、学校も行けるようになり、普通の生活に近づいた。 ○趣味のことを話せる人もいる。以前と比べてやるが増えて、充実している。
将来に関する展望・考え等	○これからどのようなことが合っているかを考えて、やりたいことを探していきたい。 ○自分の好きな分野の専門学校を探している。

【ケース 13】

学校を休み始めたときのきっかけや理由	○小学生の時から断続的に不登校だった。中学校では 2 年生のときに仲のよかった人が卒業してしまったり、担任の先生ともめてしまったりして行きづらくなってしまった。 ○何かがあった時に、子供に親身になってくれる人がいないとずっと思っていた。
休んでいたときの状況、困っていたことなど	○学校の状況について情報が伝わってこないというもどかしさがあった。 ○勉強についていけない感覚があり、学校に行かなければと、強迫的に思っていた。
相談していた場所や利用していた場所	○別室登校で徐々に時間や日数を増やしていったほか、相談室の利用もあった。 ○小学生のころから練馬区の教育相談室を月に 1 回の頻度で利用していた。気持ちを聞いてくれるので発散になった。高校生まで利用していた。
中学校卒業後の状況	○通信制の高校に進学。高校も人間関係のトラブルがあった。自分の言葉がほかの人に伝わり難いことがあるので、うまく話がつながらないときに手助けが欲しいと思った。 ○現在は、在宅で仕事やアルバイトをしており、人間関係で困ることが少なくなったが、生活リズムが悪くなってしまうことが課題。睡眠障害もあり、薬を服用している。
将来に関する展望・考え等	○できるか分からないが、一人暮らしすることが夢。

【ケース 14】

学校を休み始めたときのきっかけや理由	○中学校は入学式の次の日から不登校であった。小学校のときから不登校であり、学校に行きたくない、という気持ちが強かった。 ○学校を休みはじめたときは、家庭内がギスギスしていた。
休んでいたときの状況、困っていたことなど	○とにかく放っておいてほしかった。グイグイ来られなくなかった。 ○居場所ぱれっとに行き始めたころは、1 人であることにも飽きてきていた時期だった。
相談していた場所や利用していた場所	○最初は別室登校をしていたが、学校に近寄りたくなかった。また、相談室の人は、自分でもよく分からないのに、不登校理由を聞いてきたりして、自分に全く合わなかった。 ○適応指導教室（トライ）を利用したが、勉強がしたくないこともあり、途中で居場所ぱれっとの利用に移った。 ○居場所ぱれっとは勉強が強要されず、自分のやりたいことをやりたい時にできる環境で毎日通っていた。学校の先生と違って踏み込んできたりせず、自分のペースに合わせて解決する手伝いをしてくれた。悩みごとは、母やぱれっとのスタッフに相談していた。
中学校卒業後の状況	○定時制高校に通っており、卒業後は大学に進学予定。 ○高校は授業が分かりやすく、面白かった。選択授業が多く、自分が好きなものを取るのでやる気が出た。先生の雰囲気も中学校とは全く違って、仲のいい先生に相談できた。クラスもなじみやすく、一人で黙っていても大丈夫な雰囲気があった。
将来に関する展望・考え等	○進学先が福祉系の大学であり、卒業後に専門の資格取得をしたい。 ○自分の経験を踏まえた専門の職業を目指したい。

【ケース 15】

学校を休み始めたときのきっかけや理由	○中学校 1 年生の頃から昼夜逆転しており、睡眠時間が 3 時間くらいになってしまっていた。 ○明確にこれが嫌だということではなく、学校に行くと体調が悪くなってしまった。
休んでいたときの状況、困っていたことなど	○家にずっといた。夜ずっと起きてゲームをして過ごしていた。 ○休んでいたときのことはあまり覚えていない。 ○中学校 3 年生の頃は体力がなくて、外に出るだけでも厳しかった。
相談していた場所や利用していた場所	○練馬区の教育相談室を週 1 回程度利用していた。現在も利用を継続している。
中学校卒業後の状況	○現在通信制の高校に在学中。 ○現在も生活リズムの乱れに悩んでおり、体力的なところで満足していない。生活の満足度としては、中学のころとそれほど変わっていない。
将来に関する展望・考え等	○将来的に 1 人で暮らせるようになったらよい。 ○どのような仕事をしたいかという展望は特にない。

【ケース 16】

学校を休み始めたときのきっかけや理由	○小学生の時に、人によって接し方が違い、怒鳴るような先生が担任になった。 ○その先生に目を付けられて、先生がひいきしているクラスメイトからいじめを受けるようになってしまい、学校に行けなくなった。
休んでいたときの状況、困っていたことなど	○友達はいなかったわけではないが、いじめられて、全員が敵に見えていた。 ○不登校になって勉強が一番困った。 ○中学校では精神的に不安定な状態が続いてしまい、学校に行きたくない気持ちが身体に出て、お腹が痛くなって学校に行けなくなる、という状態だった。 ○最初のころは部屋に閉じこもったままゲーム等をずっとしていた。昼夜逆転もあった。
相談していた場所や利用していた場所	○高校や将来のことを考えて相談したいと思い、適応指導教室（トライ）を利用した。家から遠く、昼夜逆転があったため、学習ではなく面談だけを受けていたが、面談の中で自分の考えがまとまり、しっかりと話せるようになった。 ○練馬区の教育相談室では身体的なことや生活習慣のことを相談していた。 ○中学校では、別室登校や部活だけ参加するというのができればよかった。同性のスクールカウンセラーがいたらよかった。
中学校卒業後の状況	○通信制の高校に進学。 ○自分で決めた高校でもあるし、今の高校だったら嫌われることはないかと思い、人目を気にせず、いろいろなことに挑戦できるようになった。生活がいい方向に向かったのは、母が親身になってくれたことも大きい。
将来に関する展望・考え等	○専門学校か、心理学を学べる大学に進学したい。 ○心理学に関しては、自分自身がいろいろと相談をしている中で、向いていると思った。

【ケース 17】

学校を休み始めたときのきっかけや理由	○小学校の中学年から学校に行かなくなった。帰国子女で勉強についていけなかった。また、海外と日本では文化が大分違って、自分の態度が反抗的に見えたのか先生とうまくいかなかった。クラスが学級崩壊していたということも重なった。 ○中学校ではスカートが嫌だった。男女でいろいろと分かれていることに疑問・違和感があった。やんちゃな子もいて、中学校は 1 か月くらいで行かなくなった。
休んでいたときの状況、困っていたことなど	○嫌な記憶はすぐ忘れてしまうため、あまり覚えていない。 ○担任の先生のことを当時すごく毛嫌いして、ほとんど会わないようにしていた。 ○親は、最初の方は、なぜ学校を休むのかといった感じだったが、次第に理解し、自分の味方になってくれた。学校といろいろ調整や対応をしてくれた。
相談していた場所や利用していた場所	○小学校の時は、保健室登校や適応指導教室（フリーマインド）を利用していた。 ○中学校の時は、適応指導教室（トライ）を利用していた。最初は嫌だったが、同じ不登校の子と話すようになってからは、楽しく一緒に過ごしていた。
中学校卒業後の状況	○自分で調べた学校に進学。学校では、支援してもらって側から脱したい、「変わるぞ」と気合を入れて、登校することができた。 ○現在は大学で教育に関する分野を学んでいる。
将来に関する展望・考え等	○教員免許を取得したいと思っていたが、勉強が難しい。現在はほかの資格取得を目指している。可能であれば、将来、不登校支援に関わりたい。

【ケース 18】

学校を休み始めたときのきっかけや理由	○きっかけが自分でもよく分からない。ただ、中学校はルールが厳しいなとか、勉強が好きではなく、行くのが面倒だなという思いはあった。 ○結構友達もいたが、何かちょっと自分と合わないという感じがあった。小学校は「皆仲良く楽しく遊ぶ」という感覚だが、中学校になり関係性に変化が生じたと感じた。
休んでいたときの状況、困っていたことなど	○勉強は、1 回休むだけでも結構遅れを取ってしまうという実感があった。学校から休んだ分のプリントは渡されるが、その遅れに対する具体的なサポートはなかった。 ○昼夜逆転していた。 ○学校に行き思いつきなどをもっと作っておけば良かったなという思いもある。
相談していた場所や利用していた場所	○親の勧めで適応指導教室（トライ）に行っていた。通室すると学校が出席扱いになるのでいいなと思った。また、人数が少ない分、丁寧で、自分に合った学力レベルの勉強ができて分かりやすかった。周りの目を気にしなくていいのもやりやすかった。 ○暇なときに学校の相談室でスクールカウンセラーと話していた。友達とは話さないような内容を話せたり、相手が深く考えてくれたこともあり、話してよかったと思う。
中学校卒業後の状況	○定時制高校に進学。ほぼ毎日通った。高校に行ったら、ちゃんと学校に行こうという気持ちの整理をしていた。 ○高校を卒業して就職予定。
将来に関する展望・考え等	○ある程度安定した収入を得て、自分のやりたい趣味と両立してやっていけたらと思う。

【ケース 19】

学校を休み始めたときのきっかけや理由	○家でも居場所がないと感じていて、大人に対して信頼できる印象を持てなかった。 ○小学校 6 年生のころや中学 1 年生のころが一番大変で、そこから休むようになっていた。
休んでいたときの状況、困っていたことなど	○時々学校に行ったときに、勉強が進んでいると焦った。勉強のことは常に不安だった。 ○小学校時代から昼夜逆転の生活だった。 ○学校とは別に、遊ぶ感覚でもいいから、気軽に行けるような場所があるといいと思う。
相談していた場所や利用していた場所	○中学校 3 年生のときは、夕方に週 1 回の頻度で担任の先生と限られた同級生の子に会っていた。担任の先生が気にかけてくれる先生で、学校に行く機会をくれた。 ○スクールカウンセラーと話をする機会もあったが、自分も全部のことを話すわけではなく、なかなか難しかったと思う。 ○適応指導教室（トライ）は少し心が落ち着いてから行ってみたことがあるが、家から遠かった。
中学校卒業後の状況	○毎日通う学校は難しいと考え、通信制高校に進学した。 ○不登校経験がある人も多く、サポートをしてくれる学校である。
将来に関する展望・考え等	○今の目標は卒業すること。その先の目標としては、1 人で自立できるくらいまでは稼げるように仕事をしたいと思う。

【ケース 20】

学校を休み始めたときのきっかけや理由	○中学校 2 年生の夏休み明けくらいから行かなくなり、3 年生も最初の数か月以降は行かなくなった。 ○明確な要因があるわけではないが、徐々に学校関係のことが厳しくなった。
休んでいたときの状況、困っていたことなど	○当時の記憶がほとんどない。 ○理解してくれる人は周りにいなかったと思う。 ○家で多少は勉強しようとしていたが、なかなかできるものではなかった。
相談していた場所や利用していた場所	○相談等はしていたと思うが、あまり覚えていない。
中学校卒業後の状況	○卒業後、特に学校には通っていない。 ○とにかく疲れていて、家から出たくない。
将来に関する展望・考え等	○これからやってみたいことなどが無いのがつらい。学校でもそうだが、自主性を尊重していて、それだとやりたいことがない人はなかなかついていけないと思う。

【ケース 21】

学校を休み始めたときのきっかけや理由	○中学校3年生のころから本格的に不登校になった。家を出る前に辛い状態が続き、行けなくなった。 ○地方から越してきたが、友達が信頼できず、部活動は嫌われている感じで居場所がなかった。そうしたことを家では重大な問題だと思ってくれずに、心が折れてしまった。
休んでいたときの状況、困っていたことなど	○不登校になったばかりの頃はずっと布団で泣いていたらしいが、記憶がなく、覚えていない。 ○オンラインゲームで疑似人間関係を作って、つながっている感覚が欲しかった時期があったのは覚えている。
相談していた場所や利用していた場所	○適応指導教室（トライ）は、中学校3年生のときに面談を利用していた。スクールカウンセラーへの相談等も行ったがうまくいかなかった。トライでは担当の方がよかったのか、自分から関わりを作ろうと思った。
中学校卒業後の状況	○通信制高校に進学し、現在在学中。高校は学校見学に行き直感で決めた。一般入試の高校も検討したが、無理して勉強を頑張ってもまた不登校になると思い、今の高校にした。 ○高校で心理学を学び、自分を取り戻してきている。 ○高校のカウンセラーに週1回話をしている。また、医療機関も受診している。
将来に関する展望・考え等	○大学進学を考えている。大学では心理学を学びたい。 ○ちゃんとした場所に就職して、金銭的にも、精神的にも自立をしたい。

【ケース 22】

学校を休み始めたときのきっかけや理由	○起立性調節障害になり、3年生のときはほとんど学校に行かなかった。軽度の鬱も併発し、どんどん行けなくなってしまった。 ○担任の先生の対応が、自分がこうしてほしいというものと全く違って合わなかった。
休んでいたときの状況、困っていたことなど	○昼夜逆転していた。症状的にずっと家に居て、寝て過ごしていた。 ○「いつも通り」ができないことがつらかった。病気のことも、学校に説明しても理解が得られていない感じであった。 ○勉強が受けられないことが不安で、義務教育の内容を理解できないことは嫌だった。
相談していた場所や利用していた場所	○校長から保健室登校を勧められたが、すれ違う先生から「大丈夫？」という声かけをされるたりすることが嫌で利用しなかった。 ○スクールカウンセラーはいいなと思ったが、起きられず、予定を合わせられないことが多かった。相談員の方とはうまくいかなかったということがあった。
中学校卒業後の状況	○全日制の高校に進学。高校卒業後、現在はパートタイムで働いている。 ○自由度の高い高校だった。高校でいろいろな出会いがあってよかった。また、白黒はっきりしない自分がつらかったが、寛容的に受け入れられるようになってきた。 ○現在もカウンセリングを受けたいが、金銭的負担やカウンセラーと「合わない」リスクがあると思う。
将来に関する展望・考え等	○海外に行きたかったが、今は日本でできることを探している。何か手に職をつけたいと考えている。 ○また、自分の経験を踏まえ、何かしら子供と関われる職に就きたいとも思う。

【ケース 23】

学校を休み始めたときのきっかけや理由	○クラスになじめず、孤立してしまい、学校に行きたくなくなりました。 ○小学校からの友達が、中学校で新しい友人と仲良くしている姿に、強い不安感を覚えた。
休んでいたときの状況、困っていたことなど	○親への罪悪感が大きかった。また、不登校に対して親の理解が得られず衝突し、顔を合わせるのもつらかったが、親も大変なので、親の不安に寄り添える場所もあるといい。 ○適応指導教室（トライ）に行くことと決め、前向きになり始めたころから親も協力的になった。
相談していた場所や利用していた場所	○学校の先生の勧めで相談室に行くようになった。相談室に行く間に誰かに見られることが嫌だったが、学校に行けたということは自分の自信になった。 ○相談室の紹介で適応指導教室（トライ）に中学1年の冬くらいから通い始めた。相談員と会話を重ねるごとに心を開けるようになり、また、人と話せるようになった。友達にも恵まれ、不登校前のオープンな自分に戻れた。
中学校卒業後の状況	○定時制高校に進学。いろいろ相談できる先生や支えてくれる友人がいて登校していた。 ○不登校であった経験を踏まえて、心理学系の大学に進学。自分について考え、大学で友達もでき、不登校の経験等は無駄ではなかったと思う。不登校は悪いことではない。
将来に関する展望・考え等	○心理系の職業に就きたい。大学院に行くために勉強したい。 ○自分が不登校などでいろいろ考えた経験を、同じ悩みを持つ人達に伝えていきたい。

【ケース 24】

学校を休み始めたときのきっかけや理由	○小学校のときに、いじめを受けていると感じるようになり、不安定な状況で不登校も経験した。担任の先生はひいきがすごく、いじめていた子を気に入っていた。 ○中学校でも2年生のときに似たようないじめ等があり、自分の体調面と健康的な部分もあって行きづらくなってしまった。
休んでいたときの状況、困っていたことなど	○学校の相談室に呼ばれたとき以外は、家でゲームなどをして過ごしていた。 ○仲のいい友達がいたが、離れていってしまうのではないかと不安だった。 ○学校で自分のことがどう思われているのかも気になった。
相談していた場所や利用していた場所	○小学校の時に保健室登校や相談室登校をしていて、それはよかったが、そこに行っているだけでは勉強はできない状況だった。中学校の保健室はドアを開けていて、生徒がよく通るのであまり行けなかった。 ○中学校では、放課後の空き教室で行われた学習支援を利用していた。 ○適応指導教室（トライ）は個人面談を主に利用していた。個人面談は、落ち着く先生で良かった。一方で、毎日来ている子とは壁があると感じたこと、集団が苦手な学校に近いものがあると感じたことから、授業には参加できなかった。
中学校卒業後の状況	○定時制高校に進学。学校に行きづらい子にもやさしく行きやすい。クラスも人数が少ないため騒がしくなく、仲がよい。今は頑張っって自分に自信をつけようとしている。 ○現在も継続して医療機関を受診している。
将来に関する展望・考え等	○なりたい職業がある。

【ケース 25】

学校を休み始めたときのきっかけや理由	○人間関係がきっかけで不登校になり、家庭の事情で練馬区に転居した。 ○人間関係が下手なまま転校してきたが、担任が体育会系のような熱い先生で、グイグイ来るのが苦手な心を開きませんでした。 ○最初は、少しサボろうという軽い気持ちだったが、休みが続いた結果、学校に行ってしまうのはいいのか分からなくなってしまった。今、こんなに後悔するとは思ってもみなかった。
休んでいたときの状況、困っていたことなど	○学校に行かなくなってすぐ、自分の部屋に閉じこもる形になった。 ○部屋ではひたすら本を読んでいた。長時間眠ることができず、将来に対する不安もあった。親との仲もよくなかった。
相談していた場所や利用していた場所	○転校してきたこともあり、相談場所とは関わることはできなかった。学校からのアプローチもなかった。 ○ひきこもりが3年続いて、進路について取り組む気になり、親が調べた光が丘第一分室つむぎを利用するようになった。そこで、様々なアドバイスをもらい、紹介を受けた高校を受験し合格した。 ○相談機関の人が来たこともあったが、いきなり「悩みを相談して」と言われても難しい。関係を作り上げてからでないと相談にならないと思う。つむぎでも、スタッフの方と雑談や個人的な話をして、少し仲を深めてから進路や勉強の相談になった。
中学校卒業後の状況	○高校進学予定。 ○18 歳になって様々な支援の対象から外れると思うと不安がある。
将来に関する展望・考え等	○高校にしっかり通って勉強し、基礎学力を取り戻していきたい。 ○将来的には、就職して、安定した収入を得て、健康的な生活をしたいと思っている。

【ICT 機器を利用した学習経験や自分に合った使い方について】

ケース1	○家で授業を受けていると、集中力は欠けるかもしれない。リアルタイムのオンライン授業は、嫌だと思っても受けなければいけない面はいいと思う。配信型は好きな時に見ることができるので、不登校の子たちにとってはいいと思う。 ○自分が中学生のときにも ICT 機器を活用した授業等があったらよかった。
ケース2	○オンライン授業があれば、学校にいけない子でも家で勉強できるため、仮に学校に行かなかったとしても学力が追い付かないといったことが減ると思う。
ケース3	○学校という場所が嫌だったので、自宅から受けられるリモート授業が自分の中学校時代にもあればよかった。ただし、リアルタイムで受ける形でないと放置してしまうと思う。
ケース4	○不登校の友達で、学習アプリですごく成績が伸びている子がいた。 ○自分自身が不登校の時は、勉強自体に拒否反応があったため、オンライン授業があっても使わなかったと思う。現在でもオンラインでの学習は興味がなく得意ではない。
ケース5	○高校で経験したが、授業動画を好きな時に見られる、というタイプが自分にはよかった。
ケース6	○中学生の時に利用した学習アプリは、ゲームのような感じで、自分には合わなかった。 ○オンラインのリアルタイムの授業だと先生のペースに追い付けなくなったりするため、動画や配信の方がよいと思う。
ケース7	○配信された授業を受講することや、学習アプリを利用したことがあるが、自分には合わなかった。直接教えてもらわないと頭に入っていない。 ○オンライン授業をリアルタイムで受ける形式は、経験はないが、良いと思う。ただし、顔を写すなど監視されていないと、スマートフォンを触ったりしてしまうだろう。
ケース8	○一通りオンライン授業や学習アプリを利用したことがある。スマートフォンは分からない言葉をすぐ検索して調べられるので、難しい本を読むのが楽である。
ケース9	○一通りオンライン授業やデジタル教材を利用したことがある。配信動画の視聴は、時間と場所を問わずできるので便利だった。
ケース10	○動画視聴は、自分の生活に合わせて、いつ、どのタイミングでも見られる点がいいと思った。 ○オンラインでのリアルタイム授業は、分からないことがあったときにすぐ質問ができ、すぐ答えが返ってくるのがよいと思っていた。
ケース11	○タブレットを使った学習をしたことがあるが、自分は興味を持てず、意味がなかった。
ケース12	○家で勉強できるタイプではなく、学校へ行かないと勉強できない。勉強は授業で先生の板書を見て、自分で耳で聞かないと身が入らないタイプだった。
ケース13	○高校で動画配信型の授業があったが、途中で停止できるなど自分のペースで勉強できるのは良かった。一方、見ていただけだと集中が切れてしまうことや、途中で分からないところがあるとそこで止まってしまう、ついていけなくなることもあった。
ケース14	○動画配信型の授業は、自分の好きな時に見ることができ、後で見返したりできるのは良かったが、自分にはあまり向いていなかった。対面で、リアルタイムでないと自分がそこで勉強している実感がなく、すぐ飽きてしまった。

※次ページに続く

【ICT 機器を利用した学習経験や自分に合った使い方について】（続き）

ケース 15	○高校で動画配信型の課題があったが、好きな時にできるのは良いと思った。その時間に起きられないとか、体力的にその場所まで行けない場合にも良い。 ○ただし、対面の方が気が散らずに集中できるので、自分は対面の方が好きである。
ケース 16	○高校で動画配信型の授業があった。動画配信でもよいが、分からないことがあったときには学校に聞いた方が早いと思う。
ケース 17	○不登校の子が授業を家から受けられるように、皆が受けている授業をリアルタイムに受けられるようにする、ということは有効だと思う。家から出られない子も勉強する意欲が持てるのではないかと思う。
ケース 18	○オンラインだと分からないことが質問できないと思うので、勉強の面では、実際に行って受ける方が分かりやすい。 ○ただ、周りの目を気にしなくてよいという点ではオンラインの方がよいのかもしれない。
ケース 19	○不登校というのは同じでも皆個々で全然違ったりする。オンラインだったらいいけれど外出するのは無理とか、対面は厳しいから直接目を合わせなくていい方がよい、という場合もある。皆バラバラではあるので、ICT を使って、学習方法の幅自体が広がるのはすごくいいなと思う。
ケース 20	○オンラインでの学習はしないため、分からない。
ケース 21	○オンラインでの学習は賛成。例えば、勉強は好きだけど、人と関わるのが嫌いという人もいる。そういう子達はオンラインで受けられたら本当に有意義な時間を過ごせると思うし、救う手段になるのではないかと思う。
ケース 22	○自分はオンライン授業の方が、対面より良かった。対面だと、人との距離が近すぎてつらいことがある。オンライン授業は、発言の時以外は消音設定なので授業に集中できた。 ○逆に、距離感が遠いから集中できず、教室の授業の方がよかったという子もいた。
ケース 23	○SNS での悩み相談を使ったことがある。使ってよかったと思うが、チャット形式だったので、声や表情が分からず寂しい気持ちがあった。文字だと言葉のニュアンスが伝わりにくいということもあった。 ○オンライン授業では、先生が機械に疎く授業がなかなか進まないことがあった。また、グループワークでは誰もしゃべらず、授業にならないと思うことがあった。
ケース 24	○自分はノートに写すといったアナログの方がやりやすい。 ○オンライン授業だとリアルタイムで先生に聞けないが、教室の授業であれば手を挙げて聞ける。オンライン授業だと、声は届いたとしても、分かりやすく教えるににくいと思う。 ○他方で、オンライン授業だと調べものとかをしながらできるというメリットはあると思う。
ケース 25	—

第5章 不登校児童生徒への対応に関する学校アンケート調査

5-1 学校の対応

5-1-1 会議の開催状況

不登校児童生徒の支援を目的とした会議は、全ての区立小中学校で開催されている（図表 5-1-1-1）。開催頻度は、中学校では「週 1 回程度」である割合が高く、小学校では「月 1 回程度」である割合が最も高くなっている（図表 5-1-1-2）。

中学校の開催頻度が多い理由は、小学校に比べて不登校の人数が多く、組織的な対応が常に必要であること、教科担任制のため、関係教員を集めた会議を計画的に時間割に組み込むことなどが考えられる。

【管理職・問 1】（単一回答）

今年度の学校体制についてお聞きします。不登校児童生徒の支援を目的とした会議を行っていますか。

図表 5-1-1-1 不登校児童生徒の支援を目的とした会議の開催状況

選択肢	小学校 (n=65)	中学校 (n=33)
定期的に行っている	72.3%	93.9%
必要があるときに行っている	27.7%	6.1%
行っていない	0.0%	0.0%

【管理職・問 1①】（単一回答）

「行っている」「必要があるときに行っている」と回答した学校にお聞きします。上記会議の開催頻度を教えてください。⁷⁷

図表 5-1-1-2 不登校児童生徒の支援を目的とした会議の開催状況

選択肢	小学校 (n=65)	中学校 (n=33)
週 1 回程度	16.9%	78.8%
2 週間に 1 回程度	4.6%	9.1%
月 1 回程度	55.4%	6.1%
学期に 1 回程度	7.7%	0.0%
不定期（緊急性があるときに等）	15.4%	6.1%
その他	0.0%	0.0%

⁷⁷ 「行っていない」と回答した学校に対して行っていない理由を尋ねる設問を設定していたが、該当する学校は 0 校であった。

5-1-2 教育相談体制の周知方法・個別相談の対応方法

教育相談体制（相談室等の利用やスクールカウンセラー等の紹介）を保護者へ周知している場合の方法としては、小学校・中学校ともに「学校だより等による配布物での周知」の実施割合が高い（図表 5-1-2-1）。「特段周知はしていない」学校はなかった。

児童生徒から個別に相談を受けた際の対応方法としては、「相談を受けた者が、関係者に報告・連絡・相談し、対応する」、「スクールカウンセラーや心のふれあい相談員などを紹介する」、「保護者と連携し問題解決に向けて対応する」の割合が、それぞれ 9 割以上となっており、一人で判断せずに組織的に対応する意識が教職員に根付いていることがうかがえる（図表 5-1-2-2）。

【管理職・問 2】（複数回答）

貴校の教育相談体制（相談室等の利用やスクールカウンセラー等の紹介）を保護者へ周知している場合の方法を教えてください。

図表 5-1-2-1 学校の教育相談体制の保護者への周知方法

選択肢	小学校 (n=65)	中学校 (n=33)
保護者会等での周知	83.1%	30.3%
学校だより等による配布物での周知	100.0%	90.9%
個別に相談を受けた際に伝える	86.2%	36.4%
特段周知はしていない	0.0%	0.0%

【管理職・問 3】（複数回答）

児童生徒から個別に相談を受けた際の対応方法について教えてください。

図表 5-1-2-2 児童生徒から個別に相談を受けた際の対応方法

選択肢	小学校 (n=65)	中学校 (n=33)
相談を受けた者が、関係者に報告・連絡・相談し、対応する	92.3%	93.9%
スクールカウンセラーや心のふれあい相談員などを紹介する	98.5%	100.0%
保護者と連携し問題解決に向けて対応する	98.5%	90.9%
緊急性がない場合は、見守りなどで済ませる	16.9%	24.2%
その他	1.5%	0.0%

5-1-3 不登校児童生徒の対応にかかる校内研修等の状況

不登校児童生徒の対応に係る校内研修について、「実施している」と回答した学校は、小学校では約 7 割、中学校では約 6 割であった（図表 5-1-3-1）。

校内研修を実施している月（特に力を入れている月）は、中学校では「4 月」や「5 月」の割合が高い（図表 5-1-3-2）。小学校からの進学や進級等の影響により、新たな不登校が発生することを防ぐため、可能な限り早期に対策を講じる必要があると意識していることが分かる。

校内研修を実施していない理由として、「時間の確保が難しいため」の割合が、小学校では約 3 割、中学校では約 8 割となっており、特に中学校で高くなっている（図表 5-1-3-3）。

児童生徒の「相談する力」を育成するために行っていることとしては、小中学校ともに、「スクールカウンセラーや心のふれあい相談員と連携し、個別に対応している」の割合が高くなっている（図表 5-1-3-4）。

【管理職・問 4】（単一回答）

不登校児童生徒の対応に係る校内研修を行っていますか。

図表 5-1-3-1 校内研修の実施の有無

選択肢	小学校 (n=65)	中学校 (n=33)
実施している	73.8%	63.6%
実施していない	26.2%	36.4%

【管理職・問 4①】（単一回答）

「実施している」学校にお聞きします。実施月はいつですか?(複数回行っている場合は、特に力を入れている月で回答してください。)

図表 5-1-3-2 校内研修を実施している月(特に力を入れている月)

選択肢	小学校 (n=48)	中学校 (n=21)
4 月	12.5%	57.1%
5 月	14.6%	33.3%
6 月	18.8%	0.0%
7 月	12.5%	0.0%
8 月	16.7%	0.0%

※実施校が多かった月を抜粋

【管理職・問 4②】（単一回答）

「実施していない」と回答した学校にお聞きします。実施していない理由を教えてください。

図表 5-1-3-3 校内研修を実施していない理由

選択肢	小学校 (n=17)	中学校 (n=12)
現在、不登校児童生徒がいないため	11.8%	0.0%
時間の確保が難しいため	29.4%	83.3%
その他 （例） ・校内委員会でのアドバイスをしているため ・校内委員会や児童理解全体会の枠で対応を話し合っている ・その他の対応および研修に追われているため ・実態把握およびケースに応じた対策を講じているため ・必要性を感じていないため ・不登校対策委員会の内容を学年会で全教員に共有している	58.8%	16.7%

【管理職・問 4③】（複数回答）

児童生徒の「相談する力」を育成するために行っていることを教えてください。

図表 5-1-3-4 児童生徒の「相談する力」を育成するために行っていること

選択肢	小学校 (n=65)	中学校 (n=33)
都や区の研修に教員を参加させている	44.6%	36.4%
専門の講師を招へいし、校内研修会等を実施している	18.5%	24.2%
都の資料等を基に教員が授業を行っている	32.3%	33.3%
学校独自で子どもたちの実情に応じた教材を作成し、実践している	3.1%	6.1%
スクールカウンセラーや心のふれあい相談員と連携し、個別に対応している	87.7%	100.0%
その他 （例） ・校長講話を実施している ・全校朝会で話す ・討論ではなく議論できるように指導している	3.1%	6.1%

5-1-4 スクールカウンセラー・心のふれあい相談員の働き

スクールカウンセラーは臨床心理士等の資格を有しており、東京都からの配置で週に1日各校で勤務している。心のふれあい相談員は週に3日程度、学校で活動する練馬区の有償ボランティアである。校内におけるスクールカウンセラー・心のふれあい相談員の働きについては「十分協力してくれている」「協力してくれている」を合わせた割合を見ると、ほぼ100%に近く、両者の働きが校内で十分機能していることがうかがえる（図表5-1-4-1）。

【管理職・問5】（単一回答）

校内における教育相談体制の中での、スクールカウンセラー・心のふれあい相談員の働きについて教えてください。

図表 5-1-4-1 スクールカウンセラー・心のふれあい相談員の働きについての考え

小学校(n=65)	十分協力してくれている	協力してくれている	もう少し協力してほしい
スクールカウンセラー	83.1%	15.4%	1.5%
心のふれあい相談員	73.8%	23.1%	3.1%

中学校(n=33)	十分協力してくれている	協力してくれている	もう少し協力してほしい
スクールカウンセラー	90.9%	9.1%	0.0%
心のふれあい相談員	81.8%	18.2%	0.0%

【管理職・問5①】（自由記述回答）

「もう少し協力してほしい」場合に、どのようなことを協力してほしいですか。

図表 5-1-4-2 スクールカウンセラー・心のふれあい相談員に協力してほしい内容

自由記述回答の例
・組織的に動けるような体制を構築していきたい ・スクールカウンセラーの勤務日数を増やしてほしい ・受け身の相談体制に留まらず、児童とのコミュニケーションや担任との情報交換を積極的に行ってもらえると、支援の幅がさらに広がる

5-1-5 外部機関との連携

外部機関との連携に関して、継続して連携している先としては、小学校では「学校教育支援センターの適応指導教室等」、「学校教育支援センターのスクールソーシャルワーカー」、「教育相談室」、「練馬区の子ども家庭支援センター」について、中学校では「学校教育支援センターの適応指導教室等」、「学校教育支援センターのスクールソーシャルワーカー」について、8割以上となっている（図表 5-1-5-1）。

外部機関との連携を意識する（相談する）きっかけについては、「学校だけの対応だけでは、厳しい状況になったとき（教師の負担感の増加も含む）」や、「校内の会議で、該当児童生徒への支援方針が固まったとき」の割合が高くなっている（図表 5-1-5-2）。

【管理職・問 6】（複数回答）

「外部機関との連携」について教えてください。継続して連携している「外部機関」を教えてください。

図表 5-1-5-1 継続して連携している外部機関

選択肢	小学校 (n=65)	中学校 (n=33)
学校教育支援センターの適応指導教室 （トライ・フリーマインド）、ぱれっと、つむぎ	95.4%	81.8%
学校教育支援センターのスクールソーシャルワーカー	95.4%	90.9%
福祉分野の居場所	3.1%	12.1%
教育相談室（練馬・光が丘・大泉・関）	89.2%	39.4%
東京都教育相談センター	7.7%	9.1%
練馬区の子ども家庭支援センター	93.8%	69.7%
練馬区の子ども発達支援センター	30.8%	0.0%
療育施設	20.0%	0.0%
児童相談所	64.6%	24.2%
警察（スクールサポーター含む）	52.3%	33.3%
裁判所・少年鑑別所	1.5%	0.0%
フリースクール等の民間施設等	16.9%	18.2%
その他 〔 福祉事務所（子ども支援員） 民生児童委員、保護司等	4.6%	3.0%

【管理職・問 7】（2 つまで複数回答）

外部機関との連携を意識する（相談する）きっかけを教えてください。

図表 5-1-5-2 外部機関との連携を意識する(相談する)きっかけ

選択肢	小学校 (n=65)	中学校 (n=33)
校内の会議で、該当児童生徒への支援方針が固まったとき	75.4%	72.7%
該当児童生徒の言動等に不安を感じたとき	33.8%	36.4%
学校だけの対応だけでは、厳しい状況になったとき (教師の負担感の増加も含む)	95.4%	72.7%
該当児童生徒または保護者から要請があったとき	55.4%	39.4%
その他	1.5%	0.0%

5-1-6 学習保障の状況

不登校状態が継続している児童生徒に対する学習保障について、小学校では「学校からの課題配布」に次いで「放課後登校」の割合が高く、中学校では「学校からの課題配布」に次いで「別室登校（保健室登校）」の割合が高くなっている（図表 5-1-6）。

小学校に比べると中学校の「放課後登校」の割合が低い、中学校では放課後に教員が部活動の指導に当たっていること、同じく部活動で放課後も在校している生徒が多いことが影響していると考えられる。

【管理職・問 8】（複数回答）

不登校状態が継続している児童生徒に対する学習保障について、貴校で実施している内容について教えてください。

図表 5-1-6 児童生徒の学習保障として、実施している内容

選択肢	小学校 (n=65)	中学校 (n=33)
別室登校（保健室登校）	67.7%	51.5%
オンライン授業（ライブ配信）	49.2%	33.3%
放課後登校	93.8%	42.4%
学校からの課題配布	100.0%	60.6%
特に実施していない	1.5%	3.0%
その他（例） 〔・電話連絡、タブレットパソコンのクラスルーム配信、メール ・タブレットパソコンの学習支援アプリを利用〕	1.5%	9.1%

5-2 教員の対応

5-2-1 未然防止の視点で大切なこと、対応経験の有無

教員が、不登校を生じさせないための未然防止の視点で大切なこととするものとしては、小学校では「学校やクラスが、児童生徒にとって落ち着ける場所にすること」に次いで「子どもたち同士のきずなづくり（場や機会をつくる）」の割合が高かった。小学校は、学級担任と児童が教室で共に過ごす時間が長いため、学級での過ごし方に重点を置いていることが分かる。

中学校では「子どもたちにとって『分かる授業』『楽しい授業』を目指すこと」に次いで「児童生徒が主体となり、日々の授業や行事などで全員が活躍し、認められる場や機会があること」の割合が高くなっている（図表 5-2-1-1）。中学校は、生徒の自己肯定感や所属意識の実感を、授業や行事の取組を通して高めようとしていることが分かる。

なお、不登校児童生徒の対応に関わったことの有無については、小学校では「ある」の割合が約 8 割、中学校では約 9 割となっている（図表 5-2-1-2）。

【教員・問1】（複数回答）

不登校を生じさせないための「未然防止」の視点で大切だと思うものを教えてください。

図表 5-2-1-1 「未然防止」の視点で大切だと思うこと

選択肢	小学校 (n=402)	中学校 (n=123)
学校やクラスが、児童生徒にとって落ち着ける場所にあること	99.5%	82.9%
児童生徒が主体となり、日々の授業や行事などで全員が活躍し、認められる場や機会があること	62.9%	95.1%
子どもたち同士のきずなづくり（場や機会をつくる）	84.6%	72.4%
子どもたちにとって『分かる授業』『楽しい授業』を目指すこと	62.4%	98.4%
関係する児童生徒の情報収集（引き継ぎの充実など）	62.7%	91.9%
その他（例） ・担任と本人、また担任と保護者の良好な関係性を築くこと ・教員と保護者が連携をとって対応すること ・組織的な連携と対応、スクールカウンセラーや関係諸機関との連携 ・本人が安心できる環境をつくること ・大人が、見えていない姿があるということを常に理解して、児童の心の動きを決めつけないこと ・教員の教育力の向上 ・特別活動の充実 ・教員の増員、業務の精選（部活動含む）など「働き方の改革」を推進することが大切 ・本人の「活動」にゆとりをもたせる ・本人の自己肯定感を高める学級活動をする ・本人と信頼関係を築く	3.7%	1.6%

【教員・問2】（単一回答）

これまで、不登校児童生徒の対応に関わったことはありますか。

図表 5-2-1-2 不登校児童生徒の対応に関わったことの有無

選択肢	小学校 (n=402)	中学校 (n=123)
ある	82.1%	89.4%
ない	17.9%	10.6%

5-2-2 不登校児童生徒の対応に際しての課題

不登校児童生徒の対応をする際に課題だと思うこととしては、小学校では「該当児童生徒に対応するための時間の確保」に次いで「保護者との連携」の割合が高い。中学校では「該当児童生徒とのコミュニケーションの取り方」、「保護者との連携」、「進路（進学）相談」、「該当児童生徒に対応するための時間の確保」のいずれも高い割合となっている（図表 5-2-2）。

【教員・問 3】（複数回答）

ご自身が教師（養護教諭含）として不登校児童生徒の対応をする際、課題だと思うことにチェックを入れてください。対応したことがない方は、ご自身の考えを教えてください。

図表 5-2-2 不登校児童生徒の対応をする際に課題だと思うこと

選択肢	小学校 (n=402)	中学校 (n=123)
該当児童生徒に対する学習課題の準備	52.5%	40.7%
該当児童生徒に対応するための時間の確保	75.9%	83.7%
該当児童生徒とのコミュニケーションの取り方	62.2%	93.5%
進路（進学）相談	6.5%	85.4%
保護者との連携	65.2%	91.1%
その他（例） ・とにかく、時間の余裕が必要（会計や書類仕事を減らすことが必要） ・本人とのよりよい信頼関係づくり ・組織的な対応や外部機関との連携 ・副担任、教科担当として、該当生徒の学級担任と連携すること ・校内における別室登校時の場所の確保 ・不登校になってしまった理由、原因を把握、理解する ・改善に向けた目標設定、本人自身の状況を理解する ・大人や学校の都合で急いで結果を出そうとしないこと ・担任が一人で抱え込まないこと	1.7%	1.6%

5-2-3 初期対応の時点で必要と思う内容

不登校児童生徒への「初期対応」の時点で行う内容について「必要がある」と思うものとしては、小学校・中学校ともに「定期的な電話連絡」と「スクールカウンセラーや心のふれあい相談員との面談」の回答割合が高い傾向にある。

一方、「家庭訪問」、「適応指導教室などの利用」、「フリースクールなど多様な学び場や機会があることを伝える」については、小学校に比べて、中学校の方が必要と思っている割合が顕著に高い（図表 5-2-3）。全体として、中学校の方が、初期対応の段階から、当該生徒に登校を促したり、学校外の支援機関と連携したりする意識が強い傾向にある。

【教員・問 4】（複数回答）

不登校児童生徒への「初期対応」の時点で行う内容について「必要がある」と思うものを選んでください。

図表 5-2-3 不登校児童生徒への「初期対応」の時点で必要と思う内容

選択肢	小学校 (n=402)	中学校 (n=123)
定期的な電話連絡	87.6%	95.1%
家庭訪問	27.6%	77.2%
学習課題や手紙などを届ける	61.9%	55.3%
オンライン授業（授業のライブ配信）	26.6%	17.1%
別室登校（学校での個別対応）	49.0%	55.3%
放課後登校	26.9%	88.6%
スクールカウンセラーや心のふれあい相談員との面談	67.2%	98.4%
スクールソーシャルワーカーによる支援	39.3%	37.4%
適応指導教室などの利用	10.0%	52.8%
フリースクールなど多様な学び場や機会があることを伝える	18.7%	36.6%
休み始めてから 2～3 週間は、何もせず見守る	4.0%	6.5%

※次ページに続く

図表 5-2-3 不登校児童生徒への「初期対応」の時点で必要と思う内容(続き)

その他 (例) ・ タブレットパソコンのクラスルームなどを使ったやりとり ・ 本人の状況と保護者の希望をしっかり聞き状況に応じて適切な対応をとる ・ 何とか来させようとする対応は、心を休めたいと思っている本人がゆっくり休めない ・ オンラインで教室とつなげる(朝の会など) ・ 保護者の面談と心のケア ・ スクールカウンセラー等の判断を共有し、その中でできる積極的な取組を、専科含めて多人数で取り組むこと ・ 放課後登校、スクールカウンセラーや心のふれあい相談員との面談、本人と教員の関係づくり ・ スモールステップでできること、頑張れそうなことを長い目で確認する	1.7%	1.6%
--	------	------

5-2-4 中・長期化した児童生徒への対応として必要と思う内容

「中・長期化」した不登校児童生徒への対応として「必要がある」と思うものとして、小学校では「定期的な電話連絡」と「スクールカウンセラーや心のふれあい相談員との面談」の回答割合が高い。中学校でも「定期的な電話連絡」は回答割合が高いが、「スクールカウンセラーや心のふれあい相談員との面談」、「スクールソーシャルワーカーによる支援」、「適応指導教室などの利用」の回答割合は、中学校の方が小学校に比べて高い傾向にある。特に中学校において、専門的な相談体制や学校外の支援機関が積極的に活用されている様子が見られる。

一方で「オンライン授業」については、中学校に比べて小学校の方が必要と思っている割合が顕著に高い。教科担任間で機器の設置や配信方法等の共通理解が必要となる中学校に比べて、多くの授業を学級担任が行っている小学校では効率的にオンライン授業を行えることが影響している可能性がある（図表 5-2-4）。

【教員・問 5】（複数回答）

「中・長期化」した不登校児童生徒への対応として、「必要がある」と思うものを選んでください。

図表 5-2-4 「中・長期化」した不登校児童生徒への対応として必要と思う内容

選択肢	小学校 (n=402)	中学校 (n=123)
定期的な電話連絡	76.6%	89.4%
家庭訪問	38.6%	86.2%
学習課題や手紙などを届ける	50.7%	72.4%
オンライン授業（授業のライブ配信）	54.5%	17.1%
別室登校（学校での個別対応）	59.5%	64.2%
放課後登校	53.5%	72.4%
スクールカウンセラーや心のふれあい相談員との面談	77.9%	97.6%
スクールソーシャルワーカーによる支援	64.7%	98.4%
適応指導教室などの利用	51.0%	95.1%
フリースクールなど多様な学び場や機会があることを伝える	67.2%	72.4%
その他（例） ・個に応じて、必要な支援をする ・担任、保護者など、同じ方向性で動く ・校内委員会を開催してよりよい支援方法を検討する ・友達との交流機会をつくる ・児童生徒の心のケアをする ・オンライン授業には賛同できない	1.5%	1.6%

5-2-5 不登校児童生徒への対応として必要と思う内容

不登校児童生徒への対応として「必要がある」と考えるものとしては、小学校・中学校ともに「教員同士による情報交換」、「複数の教員で支援にあたる校内体制づくり」、「教師等が悩んだときに相談できる相手や時間の確保」、「学習支援アプリ等の更なる充実」の割合が高くなっている（図表 5-2-5）。校内で一貫性のある組織的な対応を行うための体制の整備が求められている。

【教員・問 6】（複数回答）

不登校児童生徒への対応として、「必要がある」と考えるものを選んでください。

図表 5-2-5 不登校児童生徒への対応として必要と思う内容

選択肢	小学校 (n=402)	中学校 (n=123)
教員同士による情報交換	91.8%	100.0%
教師等が悩んだときに相談できる相手や時間の確保	78.6%	89.4%
校内におけるマニュアル等の作成・整備	43.0%	50.4%
複数の教員で支援にあたる校内体制づくり	83.3%	99.2%
学習支援アプリ等の更なる充実	79.1%	64.2%
その他 （例） ・ タイミングが大切。支える大人の余裕が必要 ・ 多様な学習機会を与え、孤立させないこと ・ 別室での対応まで担任ができないため、人手が欲しい ・ 子供たちにたくさんの選択肢を準備してあげること ・ 不登校体験者を研修会等と呼び、話を聞かせてほしい ・ 加配教員等、人員の確保が必要 ・ 学校以外の学びの場について、教員も知っていくことが必要	2.2%	2.4%

第6章 不登校児童・生徒が通う民間の団体・施設に関する調査

6-1 団体情報

今回調査に回答いただいた団体に関して、練馬区の児童生徒が通っている／いた施設・場所の所在地は、「練馬区内」が3団体、「練馬区と隣接した市区内」が4団体、「その他の市区内」が7団体であった（図表 6-1-1）。

団体の活動開始年については、「2016 年以降」と最近であることが多い（6 団体）が、「2000 年以前」と、20 年以上前である団体（3 団体）もある（図表 6-1-2）。

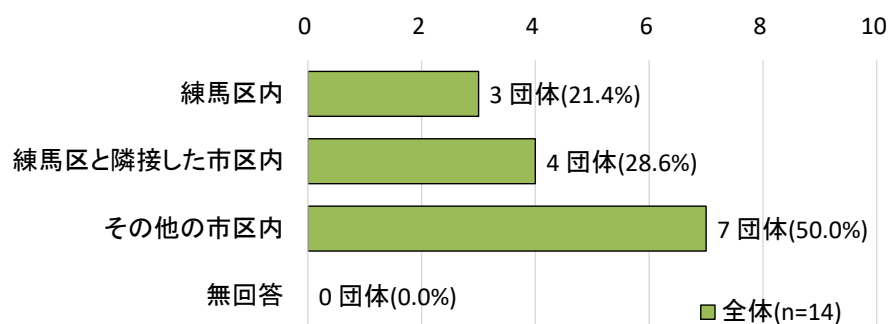
団体は、法人格を有する団体が12 団体、法人格を有しない任意団体が2 団体となっている。法人格を有する団体では「特定非営利活動法人（NPO 法人）」（5 団体）が最も多く、次いで「営利法人（株式会社等）」（4 団体）、「学校法人（準学校法人を含む）」（3 団体）となっている（図表 6-1-3）。

活動の情報を発信するため、全ての団体が「ホームページ」を利用している。そのほか、「Facebook」や「Twitter」など、SNS を利用して情報発信を行っている団体が多かった（図表 6-1-4）。

【団体等・問 1】⁷⁸

貴団体について、以下のことを教えてください。（住所）

図表 6-1-1 練馬区の児童生徒が通っている／いた施設・場所の所在地⁷⁹⁸⁰



⁷⁸ 本調査報告書では、回答団体の特定を避けるため、一部の設問において回答状況を非掲載としている。

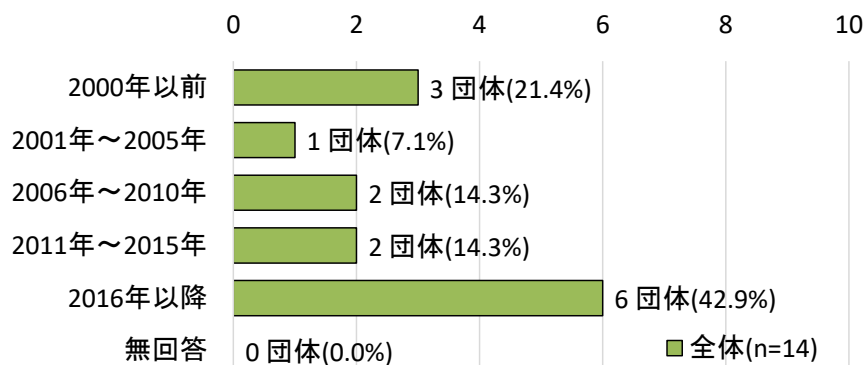
⁷⁹ 調査票では、初めに団体の本拠地の住所を尋ね、練馬区の児童生徒が通っている／いた施設・場所について、団体の本拠地と異なる場合にその場所の住所を記入いただいた。図表 6-1-1 では、練馬区の児童生徒が通っている／いた施設・場所の住所の記入があった団体はその住所を参照し、それ以外の団体では本拠地の住所を参照している。

⁸⁰ 中野区、杉並区、豊島区、板橋区、武蔵野市、西東京市、朝霧市、和光市、新座市を「練馬区と隣接した市区」として集計している。

【団体等・問 1】（数値で回答）

貴団体について、以下のことを教えてください。（活動開始年月）

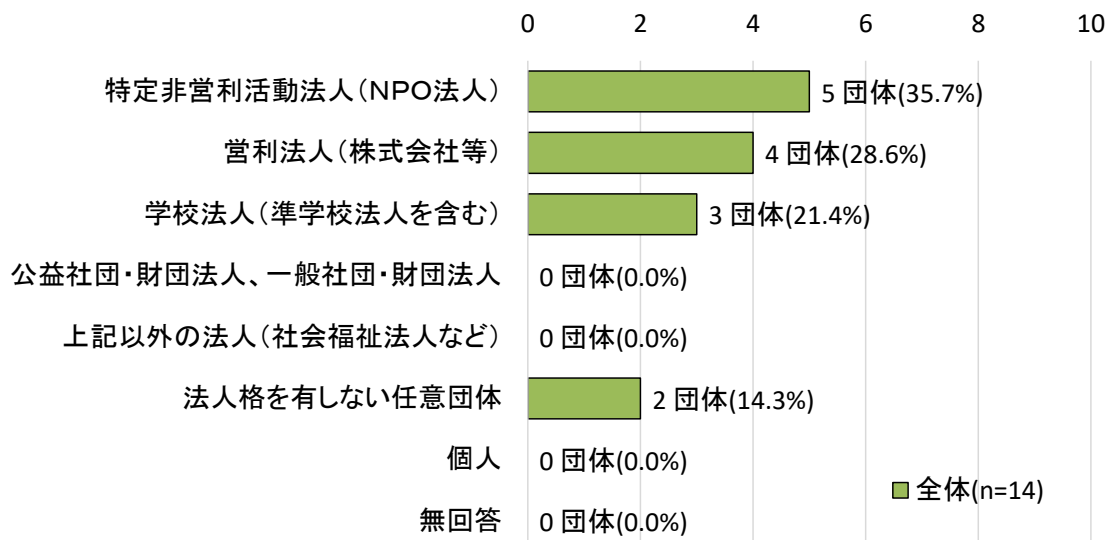
図表 6-1-2 活動開始年



【団体等・問 2】（単一回答）

貴団体の法人格として、次のうちあてはまるものをひとつ選択してください。

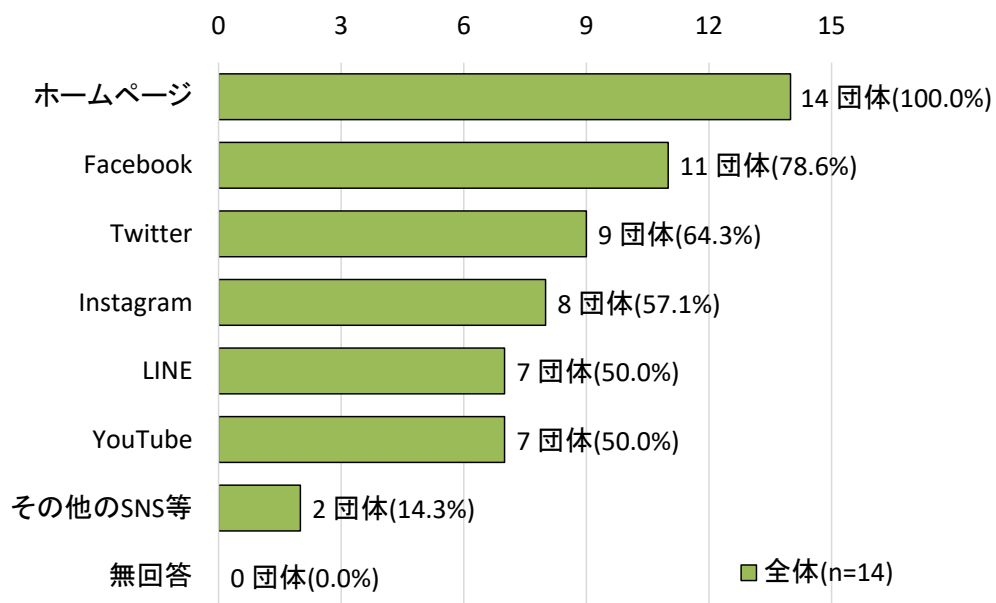
図表 6-1-3 団体の法人格



【団体等・問3】（複数回答）

貴団体が活動の情報を発信するために利用しているものをすべて選択してください。

図表 6-1-4 活動の情報を発信するために利用しているもの



6-2 不登校支援に関する活動の概要

6-2-1 実施している活動内容、特に力を入れている支援

不登校の児童生徒を対象にした活動内容として、「個別の学習」、「子どもたちによるミーティング」、「居場所提供」、「相談・カウンセリング」については、全 14 団体が実施している。各種体験活動等⁸¹はそれぞれ 11～13 団体、「児童生徒が自宅等で取り組めるオンラインを活用した学習」は 10 団体、「授業形式（講義形式）による学習」は 9 団体、「家庭への訪問」は 5 団体が実施している（図表 6-2-1-1）。

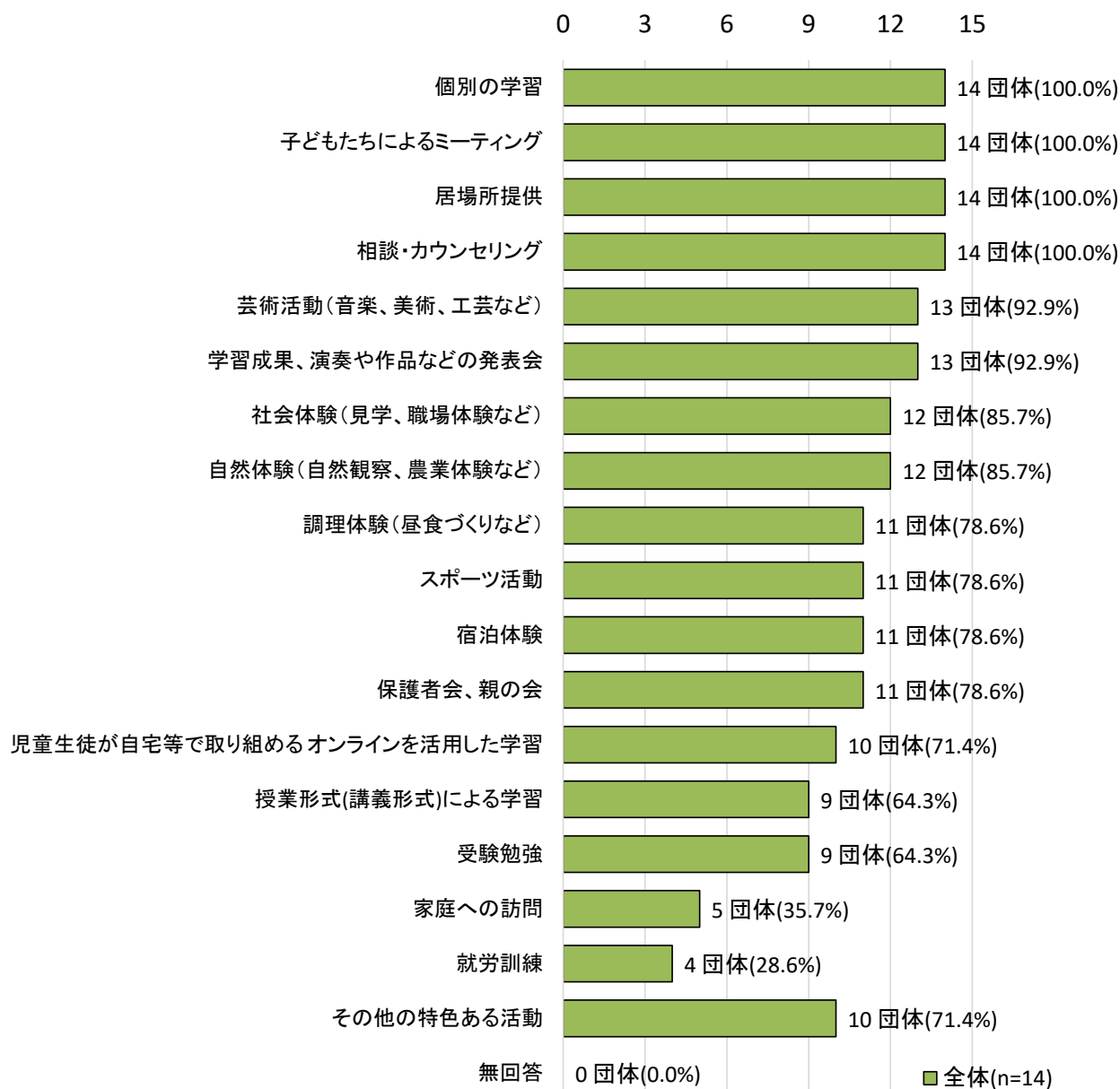
活動のうち特に力を入れている支援の内容としては、「独自の理念や方針による特色ある教育活動」（10 団体）、「学力に対する支援」（9 団体）、「学校以外の居場所対応」（8 団体）が多くなっている（図表 6-2-1-2）。

⁸¹ 「社会体験（見学、職場体験など）」、「自然体験（自然観察、農業体験など）」、「調理体験（昼食づくりなど）」、「芸術活動（音楽、美術、工芸など）」、「スポーツ活動」、「宿泊体験」を各種体験活動等としている。

【団体等・問 5】（複数回答）

不登校の児童生徒を対象にした活動内容について、貴団体で実施しているものをすべて選択してください。

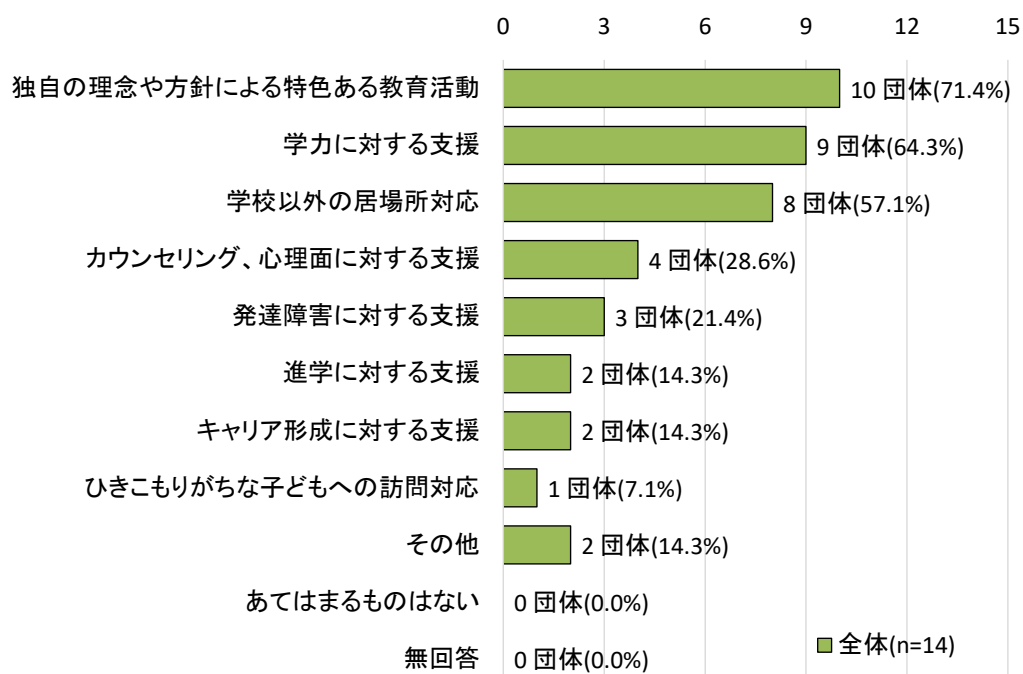
図表 6-2-1-1 実施している活動内容



【団体等・問 12】（3 つまでの複数回答）

貴団体で特に力を入れている支援について、特にあてはまるものを最大で3つまで選択してください。

図表 6-2-1-2 特に力を入れている支援の内容



6-2-2 学習カリキュラム・教材

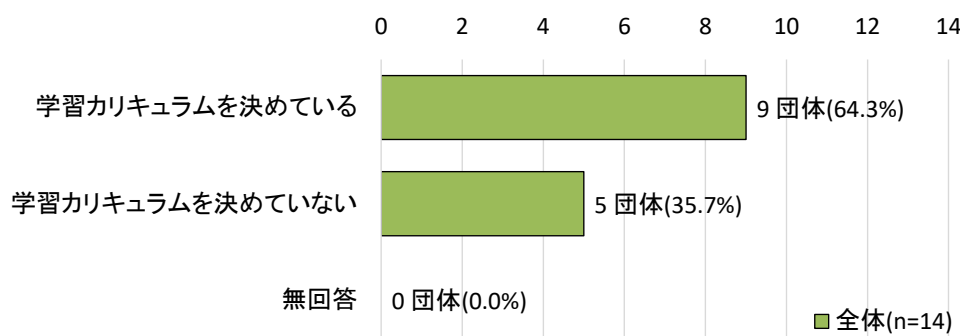
学習カリキュラムを決めているかに関しては、「決めている」団体の方が多い（図表 6-2-2-1）。

使用している教材の種類としては、「団体・施設またはスタッフが独自に作成・用意したもの」が 13 団体で最も多く、「市販の教材」や「デジタル教材や学習支援アプリなど ICT を活用した教材」の回答もそれぞれ 12 団体と多い。教科書を使用している団体は 8 団体である（図表 6-2-2-2）。

【団体等・問 6】（単一回答）

不登校の児童生徒を対象にした学習に関して、貴団体では学習カリキュラムを決めていますか。

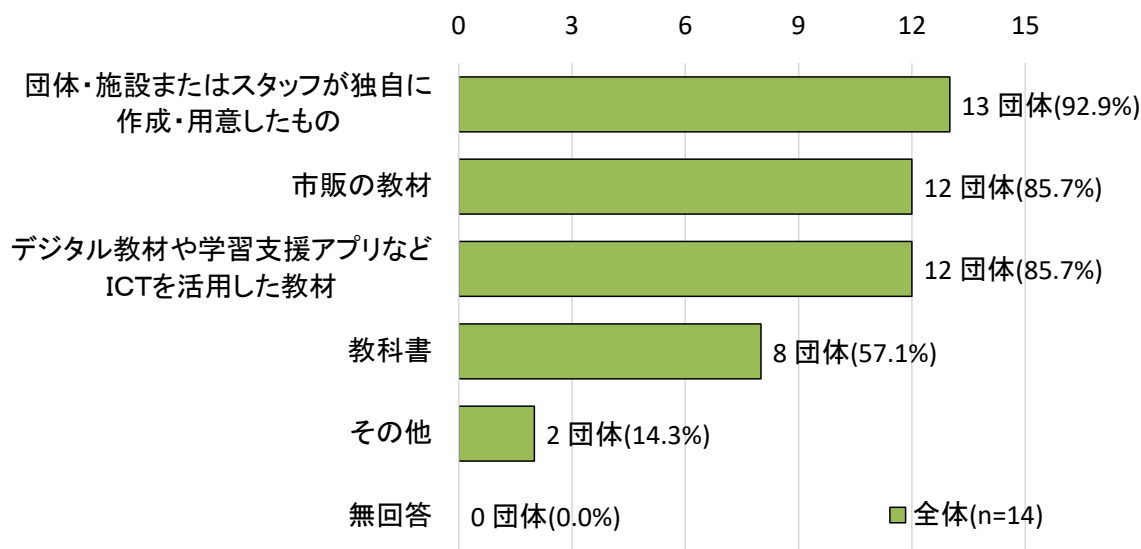
図表 6-2-2-1 学習カリキュラムに関する状況



【団体等・問 7】（複数回答）

不登校の児童生徒を対象にした学習に関して、使用している教材の種類をすべて選択してください。

図表 6-2-2-2 使用している教材の種類



6-2-3 運営・開所の状況

活動形態としては、13 団体が「通所型」での活動を行っており、残り 1 団体は「オンライン」のみで活動を行っている。通所に加えて、オンラインでの活動や家庭への訪問、宿泊事業を行っている団体もある（図表 6-2-3-1）。

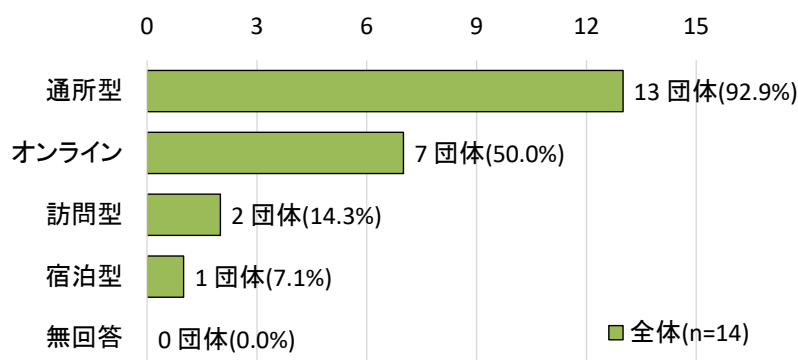
週あたりの開所日数は「5 日」であることが多く（図表 6-2-3-2）、基本的に平日での開所となっている（図表 6-2-3-3）。

開所時刻は「9 時台」や「10 時台」が多く（図表 6-2-3-4）、閉所時刻は「16 時台」や「17 時台」が多い（図表 6-2-3-5）。時間帯で見ると午前 10 時から午後 3 時が中心となっている（図表 6-2-3-6）。

【団体等・問 8】（複数回答）

貴団体の活動形態について、あてはまるものをすべて選択してください。

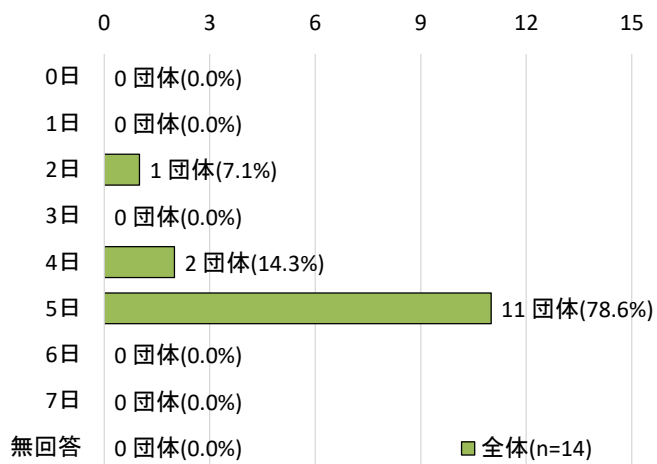
図表 6-2-3-1 活動形態



【団体等・問 9】（数値で回答）

週当たりの開所日数について教えてください。

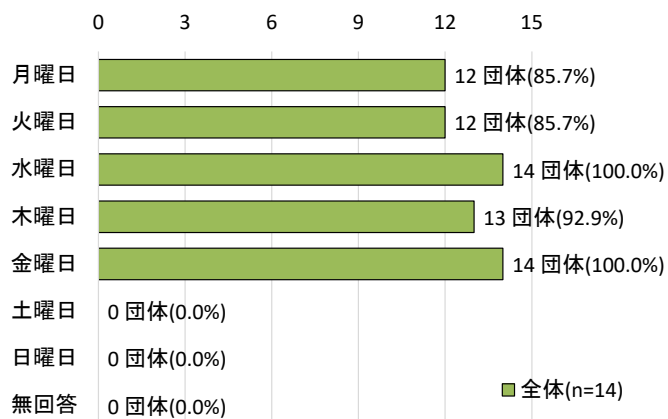
図表 6-2-3-2 週当たりの開所日数



【団体等・問 10】（複数回答）

貴団体が通常開所している曜日について、すべて選択してください。

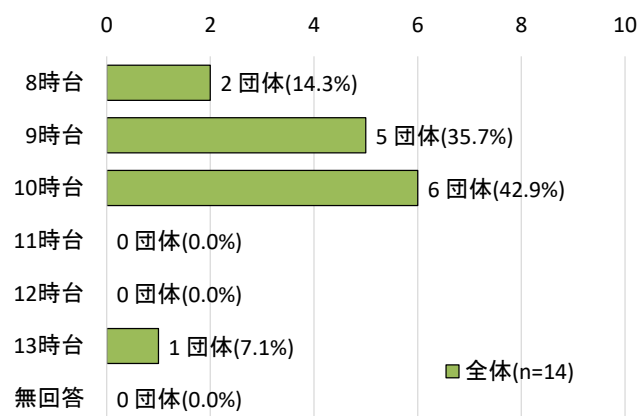
図表 6-2-3-3 開所している曜日



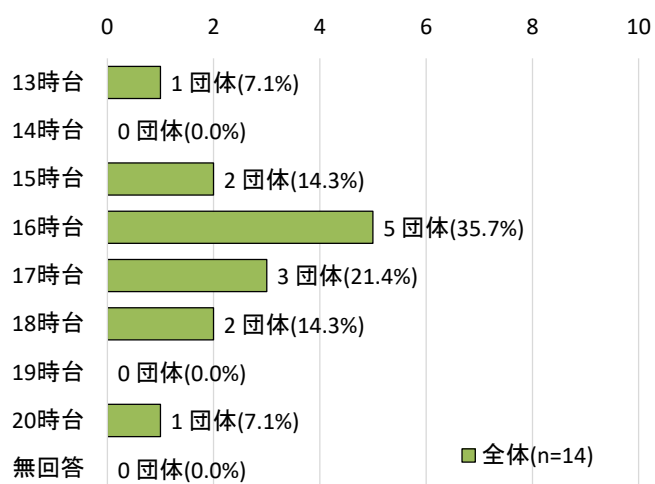
【団体等・問 11】（数値で回答）

1 日の開所時間について教えてください。

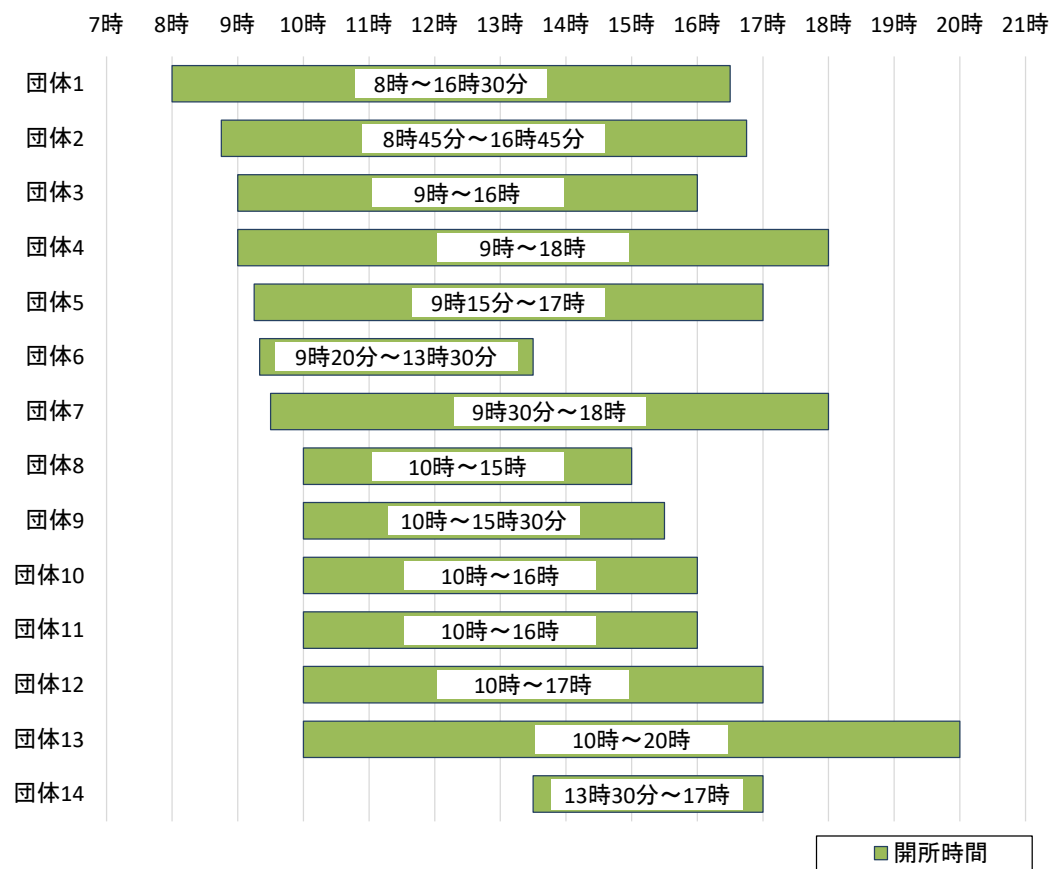
図表 6-2-3-4 開所時刻



図表 6-2-3-5 閉所時刻



図表 6-2-3-6 開所時間(時間帯)



6-2-4 受け入れ対象年齢・人数

受け入れ対象の年齢について、下限は小学校低学年に該当する「6歳～9歳」が多く（図表 6-2-4-1）、上限は中学校3年生に該当する「15歳」が多くなっている。ただし、上限の年齢に関しては「19歳以上」（2団体）の場合や、「対象年齢の上限は決まっていない」（4団体）場合もある（図表 6-2-4-2）。実際に受け入れている段階としては、「小学校低学年～高校生年代」を受け入れている団体が6団体と最も多くなっているが、小学生を受け入れていない団体も3団体ある（図表 6-2-4-3）。

小中学生の受け入れ人数は、「1人～10人」に該当する団体が、それぞれ4団体、6団体と比較的多くなっている（図表 6-2-4-4）。

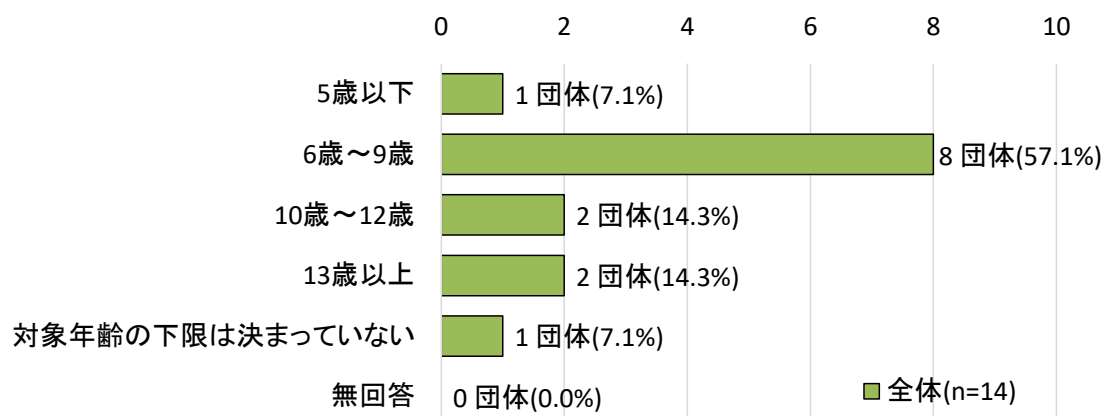
練馬区立小中学校に在籍していた人数は、小学生が6団体で20人、中学生が7団体で17人となっている。このうち、在籍校で出席扱いになっていた人数は、小学生が3団体で3人、中学生が5団体で6人となっており、出席扱いとなっている方の比率は小学生で約2割、中学生で約4割となっている（図表 6-2-4-5、図表 6-2-4-6、図表 6-2-4-7）⁸²。ただし、区が別途、学校に対して調査したところでは、出席扱いの比率は小学生で約8割、中学生で約7割となっている（図表 6-2-4-8）。本調査では、調査に協力をいただけなかった団体があることや、質問に未回答の団体があることなどから、実態よりも低い数値となっていることが推察される。

受け入れている子供の平均的な利用頻度としては、週に「3日」が8団体と多く、次いで週に「5日」が3団体となっている（図表 6-2-4-9）。

【団体等・問13】（数値で回答）

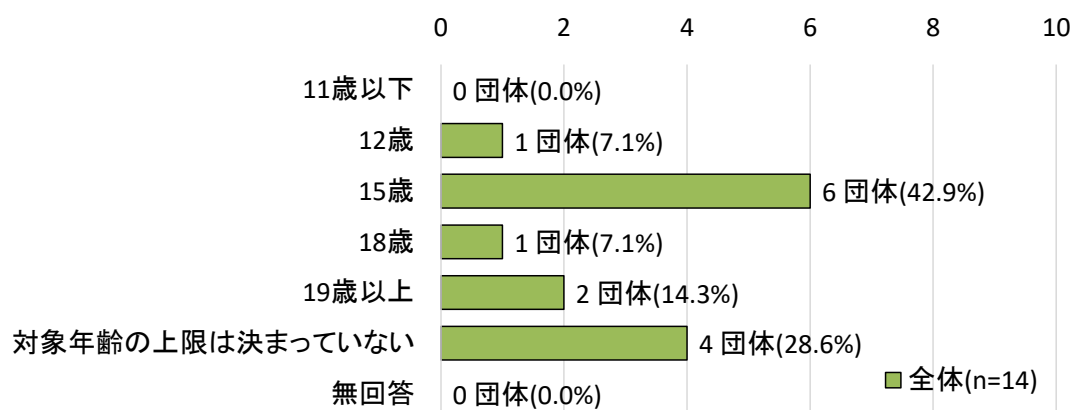
受け入れ対象年齢について教えてください。

図表 6-2-4-1 受け入れ対象年齢(下限)

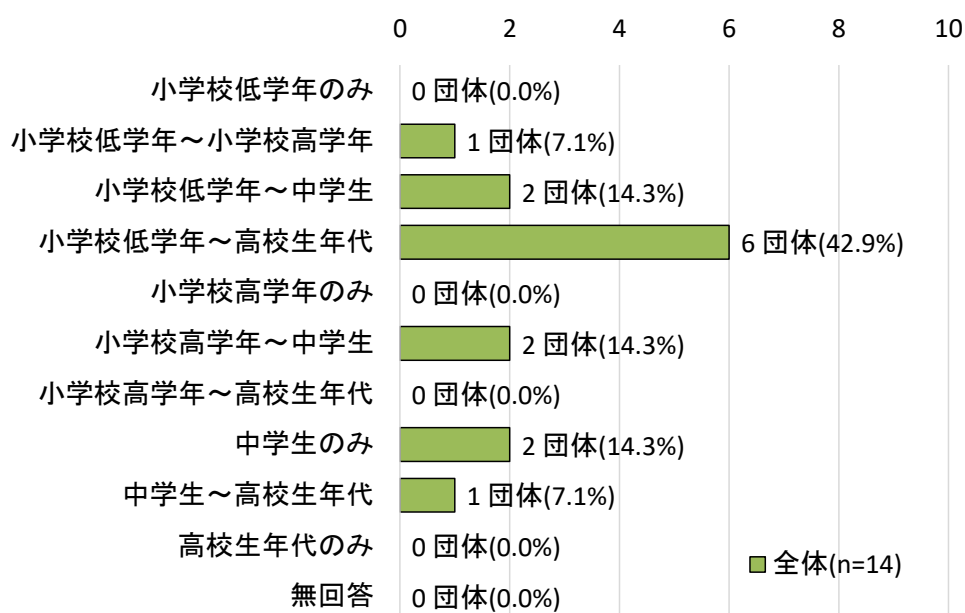


⁸² 人数に関する回答については、「わからない」と回答している団体があることにも留意が必要である。

図表 6-2-4-2 受け入れ対象年齢(上限)



図表 6-2-4-3 受け入れ対象段階⁸³



⁸³ 受け入れ対象年齢の下限および上限の回答から算出。なお、未就学児および19歳以上の方の受入れについては表記を省略している。

【団体等・問 15】（数値で回答）

令和 4 年 3 月時点で、受け入れていた子どもの人数について、それぞれ教えてください。

図表 6-2-4-4 受け入れ人数(人数全体)

	小学生全体	中学生全体	その他の子ども (高校生年代以上)
0 人	3 団体 (21.4%)	1 団体 (7.1%)	8 団体 (57.1%)
1～10 人	4 団体 (28.6%)	6 団体 (42.9%)	1 団体 (7.1%)
11 人～30 人	3 団体 (21.4%)	2 団体 (14.3%)	2 団体 (14.3%)
31 人～50 人	1 団体 (7.1%)	1 団体 (7.1%)	0 団体 (0.0%)
51 人～100 人	0 団体 (0.0%)	1 団体 (7.1%)	1 団体 (7.1%)
101 人以上	1 団体 (7.1%)	1 団体 (7.1%)	0 団体 (0.0%)
無回答	2 団体 (14.3%)	2 団体 (14.3%)	2 団体 (14.3%)
合計人数 ⁸⁴	326 人	395 人	95 人

図表 6-2-4-5 受け入れ人数(練馬区立小中学校に在籍していた人数)

	小学生全体	中学生全体
0 人	5 団体 (35.7%)	4 団体 (28.6%)
1 人	2 団体 (14.3%)	3 団体 (21.4%)
2 人	1 団体 (7.1%)	3 団体 (21.4%)
3 人	1 団体 (7.1%)	0 団体 (0.0%)
4 人	1 団体 (7.1%)	0 団体 (0.0%)
5 人	0 団体 (0.0%)	0 団体 (0.0%)
6 人以上	1 団体 (7.1%)	1 団体 (7.1%)
わからない	3 団体 (21.4%)	3 団体 (21.4%)
合計人数	20 人	17 人

図表 6-2-4-6 受け入れ人数(出席扱いとなっていた、練馬区立小中学校に在籍していた人数)

	小学生全体	中学生全体
0 人	7 団体 (50.0%)	5 団体 (35.7%)
1 人	3 団体 (21.4%)	4 団体 (28.6%)
2 人	0 団体 (0.0%)	1 団体 (7.1%)
わからない	4 団体 (28.6%)	4 団体 (28.6%)
合計人数	3 人	6 人

⁸⁴ 合計人数は、無回答や「わからない」の回答をした団体以外の団体が回答した人数の合計（以下同様）。

図表 6-2-4-7 練馬区立小中学校に在籍していた人数とそのうち出席扱いになっていた人数⁸⁵
(在籍人数および出席扱い人数ともに回答があった団体の集計)

	練馬区児童生徒数	出席扱い人数	出席扱い割合
小学生	17 人	3 人	17.6%
中学生	17 人	6 人	35.3%

図表 6-2-4-8 参考:令和3年度にフリースクール等に通所していた児童生徒の出席扱いの状況

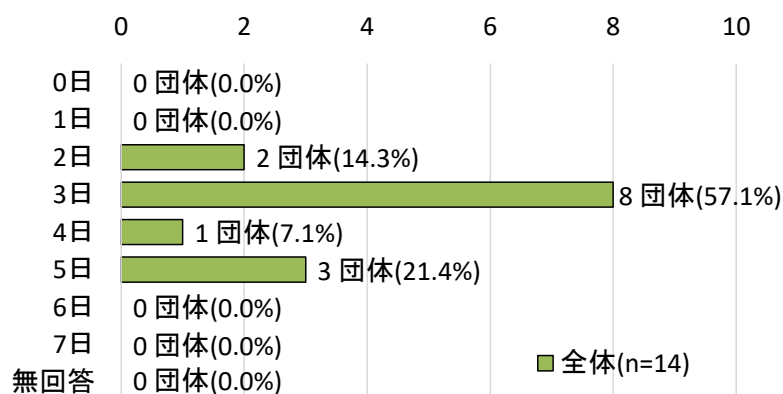
	練馬区児童生徒数	出席扱い人数	出席扱い割合
小学生	9 人	7 人	77.8%
中学生	31 人	23 人	74.2%

※出典：練馬区「民間スクール等の団体に通所している児童生徒の状況調査」(令和3年12月)

【団体等・問16】(数値で回答)

貴団体に受け入れている子どもは、平均で週に何日程度、貴団体を利用していますか。

図表 6-2-4-9 子供の利用頻度



⁸⁵ 練馬区立小中学校に在籍していた人数では「わからない」の回答が小中ともに3件、出席扱いとなっていた人数では同4件となっており、フリースクールに通っている練馬区立小中学校児童生徒全体の状況とは異なる可能性があることに留意が必要である。また、練馬区立小中学校に在籍していた人数および出席扱いとなっていた人数ともに回答した10団体の回答を集計しているため、図表 6-2-4-5 の小学生全体の合計人数と数値が一致しない点に留意が必要。

6-2-5 会費・入会金等

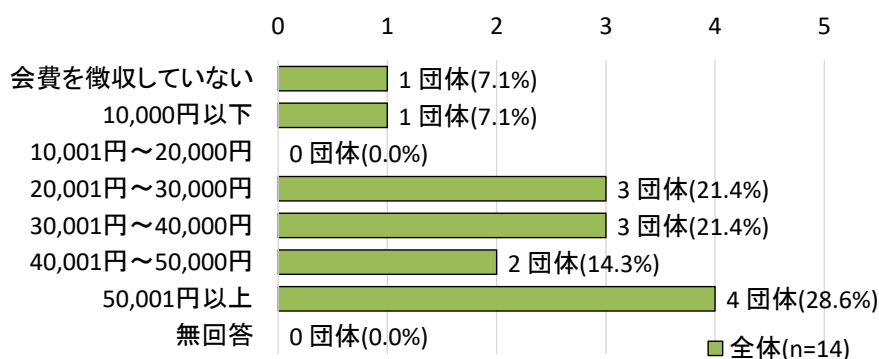
会費（授業料）の月額としては、「50,001 円以上」が 4 団体と最も多く、「20,001 円～30,000 円」、「30,001 円～40,000 円」もそれぞれ 3 団体と多くなっている（図表 6-2-5-1）。入学金に関しては「入会金を徴収していない」団体もあるが、徴収している場合には、「100,001 円以上」が 4 団体と最も多く、平均額は 90,900 円となっている（図表 6-2-5-2）。

会費（授業料）、入学金以外の納付金がある団体および、会費（授業料）の減免制度がある団体は、それぞれ約半数程度となっている（図表 6-2-5-3、図表 6-2-5-4）。

【団体等・問 17】（単一回答）

貴団体で徴収している 1 か月あたりの会費（授業料）の金額について、あてはまるものをひとつ選択してください。

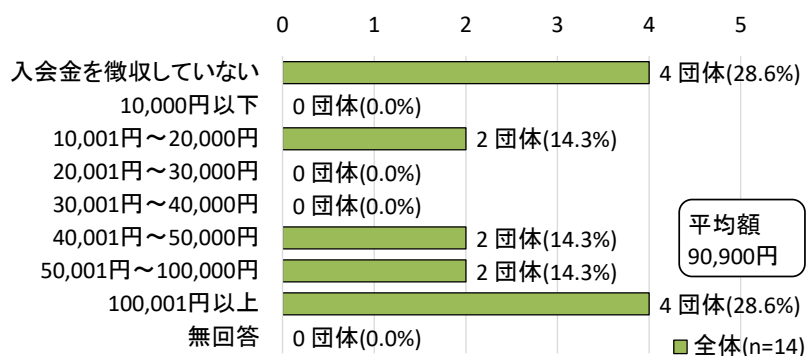
図表 6-2-5-1 1 か月あたりの会費（授業料）



【団体等・問 18】（数値で回答）

入会金の金額を教えてください。

図表 6-2-5-2 入会金⁸⁶

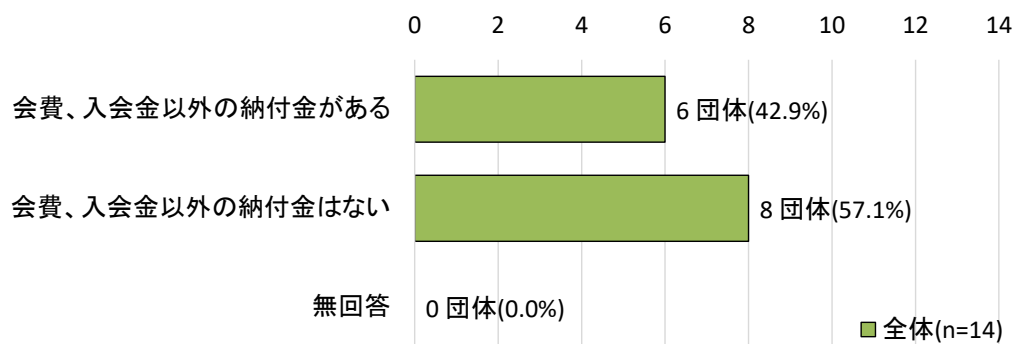


⁸⁶ 平均額は、入会金の合計を、入会金を徴収している団体数（10 団体）で除した数。

【団体等・問 19】（単一回答）

貴団体では、会費（授業料）、入会金以外の納付金を徴収していますか。

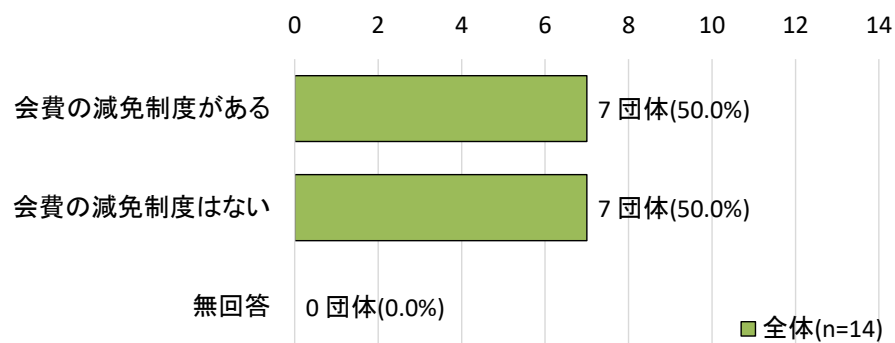
図表 6-2-5-3 会費(授業料)・入会金以外の納入金の有無



【団体等・問 20】（単一回答）

貴団体には、会費（授業料）の減免制度がありますか。

図表 6-2-5-4 会費(授業料)の減免制度の有無



6-2-6 スタッフ・施設の状況

スタッフの人数は、全体で 176 人で、有給が約 9 割、無給が約 1 割となっている（ただし、スタッフの人数がほかと比べて非常に多い 1 団体を除くと、全体で 106 人となり、有給が約 8 割、無給が約 2 割となる）。1 団体当たりの「週 5 日以上勤務・有給」のスタッフ数は平均で約 9 人⁸⁷となっている（同様にスタッフの人数がほかと比べて非常に多い 1 団体を除くと約 4 人となる）。団体別に見ると、「週 5 日以上勤務・有給」や「週 5 日未満の勤務・有給」のスタッフがいる団体がそれぞれ 10 団体と、多くなっている（図表 6-2-6-1）。無給のスタッフがいる団体は 5 団体、学生ボランティアがいる団体も 5 団体となっている。

スタッフが「教員免許（小・中・高）」を保有している団体は 10 団体と多く、実際に教員経験があるスタッフがいる団体も 9 団体と多くなっている。心理に関する専門的な資格保有者がいる団体は 5 団体、福祉に関する専門的な資格保有者がいる団体は 4 団体、それ以外の専門的な資格保有者がいる団体は 4 団体となっている（図表 6-2-6-2）。

また、常設の施設を有している団体が 12 団体と多くなっている（図表 6-2-6-3）。

⁸⁷「週 5 日以上勤務の方・有給」の合計人数を、無回答以外の団体数で除した数。そのため、分母に「週 5 日以上勤務の方・有給」が 0 人と回答した団体数も含まれている。

【団体等・問 21】（数値で回答）

活動に関わっているスタッフの人数について、それぞれ教えてください。

図表 6-2-6-1 活動に関わっているスタッフの人数⁸⁸

	週 5 日以上勤務の方・ 有給	週 5 日以上勤務の方・ 無給
0 人	2 団体 (14.3%)	12 団体 (85.7%)
1 人～5 人	7 団体 (50.0%)	0 団体 (0.0%)
6 人～10 人	2 団体 (14.3%)	0 団体 (0.0%)
11 人以上	1 団体 (7.1%)	0 団体 (0.0%)
無回答	2 団体 (14.3%)	2 団体 (14.3%)
合計人数	109 人	0 人
	週 5 日未満勤務の方・ 有給	週 5 日未満勤務の方・ 無給
0 人	2 団体 (14.3%)	7 団体 (50.0%)
1 人～5 人	6 団体 (42.9%)	4 団体 (28.6%)
6 人～10 人	4 団体 (28.6%)	1 団体 (7.1%)
11 人以上	0 団体 (0.0%)	0 団体 (0.0%)
無回答	2 団体 (14.3%)	2 団体 (14.3%)
合計人数	48 人	19 人
	うち、学生ボランティアの人数 (有給・無給にかかわらず)	
0 人	7 団体 (50.0%)	
1 人～5 人	4 団体 (28.6%)	
6 人～10 人	0 団体 (0.0%)	
11 人以上	1 団体 (7.1%)	
無回答	2 団体 (14.3%)	
合計人数	23 人	

⁸⁸ スタッフの人数がほかと比べて非常に多い 1 団体を除いた場合、「週 5 日以上勤務の方・有給」の合計人数は 39 人となる（それ以外の合計人数は変わらない）。

【団体等・問 22】（数値で回答）

活動に関わっているスタッフについて、以下の資格をお持ちの方の人数をそれぞれ教えてください。

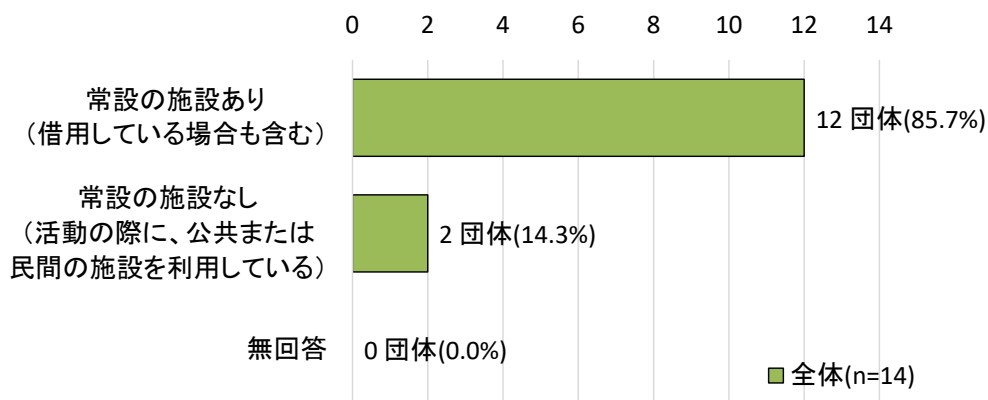
図表 6-2-6-2 スタッフが有している資格

	教員免許（小・中・高） 保有者	うち、教員経験あり	
0 人	2 団体 (14.3%)	3 団体 (21.4%)	
1 人～5 人	7 団体 (50.0%)	6 団体 (42.9%)	
6 人～10 人	3 団体 (21.4%)	3 団体 (21.4%)	
11 人以上	0 団体 (0.0%)	0 団体 (0.0%)	
無回答	2 団体 (14.3%)	2 団体 (14.3%)	
合計人数	39 人	28 人	
	心理に関する専門的な 資格保有者 (臨床心理士等)	福祉に関する専門的な 資格保有者 (社会福祉士、精神保健福祉士 等)	それ以外の専門的な 資格保有者 ⁸⁹ (医師、看護師等)
0 人	7 団体 (50.0%)	8 団体 (57.1%)	8 団体 (57.1%)
1 人	3 団体 (21.4%)	3 団体 (21.4%)	4 団体 (28.6%)
2 人	2 団体 (14.3%)	1 団体 (7.1%)	0 団体 (0.0%)
無回答	2 団体 (14.3%)	2 団体 (14.3%)	2 団体 (14.3%)
合計人数	7 人	5 人	4 人

【団体等・問 23】（単一回答）

貴団体には、不登校の児童生徒が利用できる常設の施設がありますか。

図表 6-2-6-3 常設の施設の有無⁹⁰



⁸⁹ 調査票上では、「上記以外の専門的な資格保有者（医師、看護師等）」となっている。

⁹⁰ オンラインでの活動では、施設が不要である可能性があり、「常設の施設なし」の団体において、カッコ内の「活動の際に、公共または民間の施設を利用している」の文言が該当しない可能性がある。

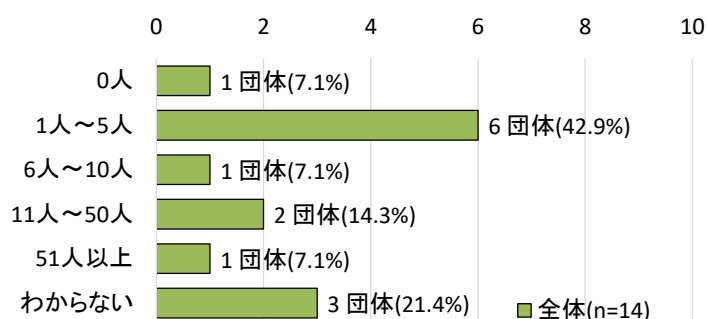
6-3 利用者の進路に関する状況

令和4年3月で中学校を卒業した方は「1～5人」である団体が多い（図表 6-3-1）。進路の特徴として、高等学校に進学する場合が多く、特に「通信制の高等学校（通信制サポート校含む）」に進学した方の割合が約7割と高くなっている（図表 6-3-2）。

【団体等・問 24】（数値で回答）

貴団体を利用していた生徒の中で、令和4年3月で中学校を卒業（義務教育を終了）した方は何人いますか。

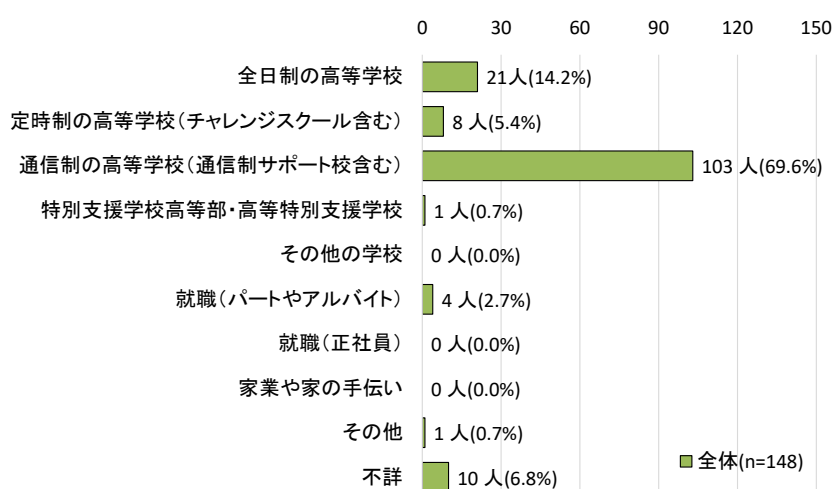
図表 6-3-1 卒業者の人数



【団体等・問 24-1】（数値で回答）

令和4年3月で中学校を卒業（義務教育を終了）した方の中で、以下の進路に進んだ方はそれぞれ何人いましたか。

図表 6-3-2 卒業者の進路の状況(合計人数)⁹¹



⁹¹ それぞれ、各団体の回答した人数の合計および卒業生の合計人数に占める割合を記載した。なお、進路別の人数を全て回答した11団体のみを集計対象としている。

6-4 学校や行政との連携状況

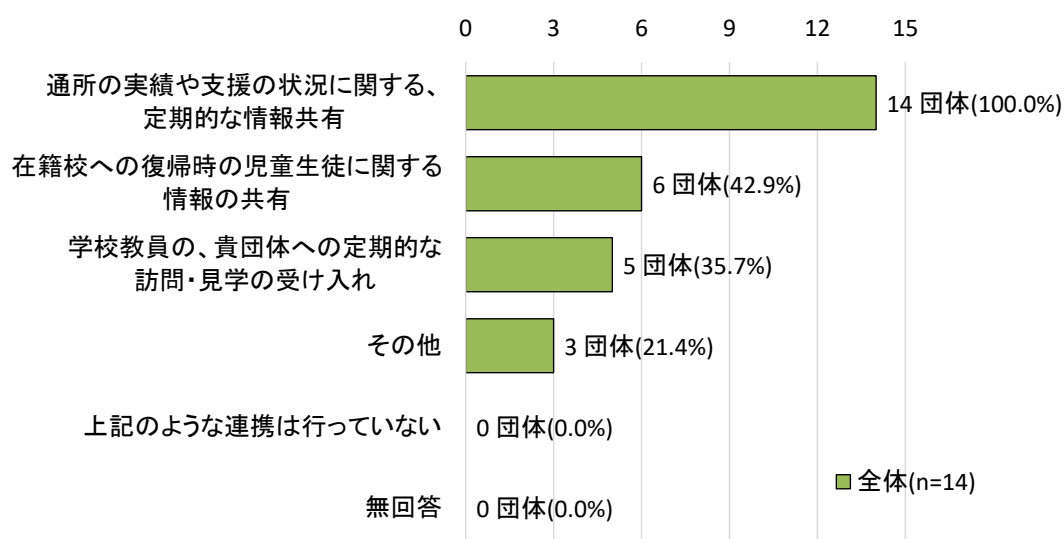
児童生徒の在籍校との連携について、「通所の実績や支援の状況に関する定期的な情報共有」については、全ての団体が実施していると回答している(図表 6-4-1)。学校や行政と連携を進める上で、必要と思う取組としては、小中学校との情報共有や情報交換を望む声が最も多い(図表 6-4-3)。

また、令和 4 年度に行政等から事業の委託を受けている団体は 4 団体となっている(図表 6-4-4)。

【団体等・問 26】(複数回答)

児童生徒の在籍校との連携について、貴団体で実施しているものをすべて選択してください。

図表 6-4-1 学校との連携状況



【団体等・問 26-1】（自由記述回答）

（問 26 で「通所の実績や支援の状況に関する、定期的な情報共有をしている」と回答した場合）
児童生徒の在籍校と行っている「通所の実績や支援の状況に関する、定期的な情報共有」について、情報共有の方法や頻度について具体的に教えてください。

図表 6-4-2 在籍校との情報共有の方法や頻度（自由記述での回答内容）⁹²

団体	回答内容
団体 1	月ごと。
団体 2	出席に関するご報告については月 1 度実施しております。当フリースクールにご登録の際や年度末等、年に約 2～3 回の頻度で中学校担任の先生と情報の共有や活動のご報告をさせていただいております。
団体 3	1 か月に 1 度、スクールへの参加状況（在籍校の出席表に反映）および、参加メンバーの近々の様子・状況を紙面郵送にてお知らせしている。
団体 4	保護者・本人の求めがあった場合、「来所報告書」を在籍校に対して送らせていただいています。報告書には開所日、来所日、活動内容と本人の様子、1 か月を通じての様子を記載しています。送付頻度は月に 1 度、ファクスにて担任の先生宛に送付します。
団体 5	出席カウントを認めていただいている場合は、月に 1 回、生徒の登校日数（登校時間）ならびに授業内容を共有。
団体 6	在籍校とは年に 1 度あるかないか。スクールソーシャルワーカーが間に入っていただくことが多い。
団体 7	月に 1 回、出席証明書を提出している。
団体 8	月に 1 度、月末締めで各生徒の出席状況を取りまとめ、郵送で学校にお送りし、ご報告をしています。また、頻繁ではないですが、ご希望する学校の先生がスクールに見学しにいらして下さることもあります。それ以外でも、お電話で生徒の様子をお伝えする機会もしばしばあります。
団体 9	メールや電話で月 1 回程度。
団体 10	月に 1 回の通所実績報告書の郵送または持参。定期的な学校訪問（学校長および担任）。
団体 11	スクールからは、出席証明書・成績証明書を前期・後期の保護者面談時に発行しているため、その後保護者が在籍校へ持参するが多い。 その他、在籍校からの要望に応じて、毎月出席証明書を発行し直接郵送している場合もある。
団体 12	小中学生には月報を作成し、各学校に毎月送付している。
団体 13	毎日、日別の学習状況の理解ができるレポートを作成（活動含む）。保護者経由で学校に渡し、学校とご家庭との橋渡しの役割を目指す。
団体 14	年 3 回、当該児童生徒の通所日数と具体的な活動の様子をまとめた報告書を送付しております。必要に応じて、通所日数について毎月共有を行っている場合もあります。

⁹² 図表 6-2-3-6 と団体の番号は対応していない。また、文意が変わらない程度に、文言の修正や、団体が特定されないように修正を行っている箇所がある。（図表 6-4-3 も同様）

【団体等・問 28】（自由記述回答）

学校や行政と連携を進めるうえで、必要だと思う取組があれば教えてください。

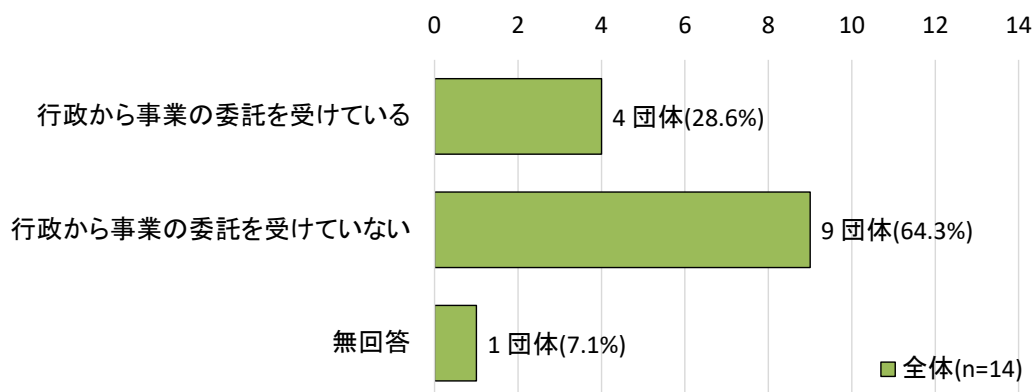
図表 6-4-3 学校や行政と連携を進めるうえで、必要だと思う取組

団体	回答内容
団体 1	親御様への金額の補助（教育バウチャー制度など）。必要な家庭に補助が出る制度が急務だと感じています。
団体 2	周知していただくための場を設けることかなと考えます。
団体 3	地域（通学・通室に 30 分圏内の地域）の小中学校との積極的な情報交換。安心して学校側からスクールを紹介できるような、スクール側の情報公開。またはそれを定期的に可能にするシステムの構築。
団体 4	フリースクール等がどのような理念でどのような活動をしているのかを、現場の先生方に知っていただく必要があります。
団体 5	民間企業で成功している事例を受け止めていただき、現場の教員の方への情報共有ならびに不登校に対する理解。
団体 6	意思疎通。親御さん含む。
団体 7	学校にフリースクールを知ってもらうこと。
団体 8	各自治体教育委員会との生徒の情報交換。中間、期末テストがフリースクールで実施できるような仕組みづくり。進路活動に関しての情報交換など
団体 9	登校補助金、不登校生徒の情報共有。
団体 10	助成金、教職員への理解啓発の場の提供。
団体 11	多様な学びを選択する場合の「学籍」「出席」「卒業資格」「通学定期券」「健康診断」等の扱いについて、密なコミュニケーションを図っていきたい。
団体 12	法律上の問題、規定の問題に対するスピード感（できれば 2、3 日というくらいのスピードでの対応）。できるのかできないのかがすぐにはっきりすることが大事だと思う。
団体 13	生徒の学習活動の共有による進路の不利益にならない共通目標の確認。ご家庭（保護者）の学校に対する考え方の代弁。
団体 14	情報交換の機会や合同研修等の実施、フリースクール等民間支援団体の施設見学会の実施等ができるとういのではないかと考えております。また、保護者支援のあり方は大きな課題と感じており、公民合同で考えていく機会があるとよいのではないかと感じております。

【団体等・問 29】（単一回答）

今年度に、行政等から事業の委託を受けていますか。

図表 6-4-4 行政等からの受託の有無



第7章 まとめ・考察

7-1 不登校の実態を把握する試みとして（調査の意義等）

本報告書は、令和3年度から令和4年度にかけて実施した各種調査の結果を取りまとめたものである。調査の目的は、過去に不登校を経験してきた区立中学校卒業生への追跡調査を通して、不登校の実態を把握し、これまで区が行ってきた不登校対策の効果等を検証するとともに、今後の安心な学校づくりに向けて、不登校児童生徒への支援や施策の検討に資する基礎資料とすることにあつた。

不登校を経験した児童生徒を対象にした調査は、過去に文部科学省により実施されたもの⁹³や、日本財団により実施されたもの⁹⁴がある。ただし、これらは全国規模の調査であり、必ずしも区における実態を把握したものではなかった。

今回実施した「安心な学校づくりのためのアンケート調査（一次調査）」は、平成28年度から令和2年度の5年間に於いて、中学校3年生時に不登校状態であった練馬区立中学校の卒業生本人およびその保護者を対象にしたものである。不登校経験者への追跡調査は、練馬区として初めて行った。調べた限り、他自治体においても類似の調査を行った事例はなく、先行事例が極めて少ない調査であるといえる。

結果として、調査の意義を多くの方にご理解いただき、一次調査では、本人・保護者ともに、対象者の約25%⁹⁵から回答を得ることができた。この種の調査としては非常に高い回収率⁹⁶であった一方、回答をいただけなかった方もおり、本調査が全ての不登校児童生徒の傾向を捉えたものではないことに留意が必要である。

さらに、二次調査として、「安心な学校づくりのための追加アンケート調査」と「安心な学校づくりのためのインタビュー調査」にも多くの方に協力をいただいた。特にインタビュー調査で不登校を経験した卒業生本人から直接話を聞いたことは、アンケート調査では捉えにくい個人の内面に触れることを可能にし、本調査を不登校の実態により近づけることができたと考えている。

⁹³ 文部科学省（不登校生徒に関する追跡調査研究会）による「不登校に関する実態調査（平成18年度不登校生徒に関する追跡調査報告書）」（平成26年7月）、および文部科学省（不登校児童生徒の実態把握に関する調査企画分析会議）による「不登校児童生徒の実態把握に関する調査報告書」（令和3年10月）

⁹⁴ 日本財団「不登校傾向にある子どもの実態調査」（平成30年12月）

⁹⁵ 総配布数から、郵送戻りを除いた実配布数を分母とした回収率。

⁹⁶ 文部科学省による「不登校児童生徒の実態把握に関する調査報告書」（令和3年10月）では、中学校生徒の回収率は約8%である。また、同省による「不登校に関する実態調査（平成18年度不登校生徒に関する追跡調査報告書）」（平成26年7月）では、調査対象者に占める回答者の割合は約4%となっている。

また、不登校児童生徒を取り巻く環境を把握するため、「不登校児童生徒への対応に関する学校アンケート調査」として、学校管理職・教員を対象に実施した調査と、「不登校児童生徒が通う民間の団体・施設に関するアンケート調査」として、いわゆるフリースクールを対象とした調査を実施し、併せて集計と分析を行った。

このように、不登校というテーマで、当事者、保護者、学校、教員、フリースクール等の団体、といった多様な関係者に対して網羅的に実施した調査は、ほかに類を見ないものであり、これら一連の調査により、今後の不登校対策の検討に向け必要な基礎資料を得ることができたと考える。

7-2 不登校の実態について

7-2-1 学校を休み始めたときのきっかけ

(1) 多様で複合的な不登校要因

卒業生本人の回答を見ると、「学校を休み始めたときのきっかけ」は、個々の状況により様々であるものの、「身体の不調」(50%)や「学校やクラスに合わなかった」(43%)、「友達のこと(いやがらせや、いじめがあった)」(38%)、「先生のこと」(35%)などの割合が高かった(図表 2-2-2-1)。保護者への同じ質問でも、「学校やクラスに合わなかった」は本人と比べて割合が低くなるものの、ほかは、おおむね同様の回答傾向となっている(図表 2-2-2-2)。

二次調査では、「学校を休み始めたときのきっかけ」として「いじめ・いやがらせ等」、「人間関係、学校やクラスの雰囲気」、「先生との関係」をあげる方が多く、「身体の不調」は件数が少なかった(図表 2-2-2-4)。「身体の不調」は主要因ではなく副次的な要因の場合があることを示唆している。一方で、保護者に対する調査では、「子供に病気や障害があること、またはその可能性を心配したことがあったか」に、65%の保護者が「よくあった」または「ときどきあった」と回答していることから、病気や障害が背景となっている場合もあると考えられる(図表 2-2-6-1)。

また、インタビューでは、現在でも、明確なきっかけや理由が分からないという発言もあり、不登校の要因は多様かつ複合的で、容易に特定することは困難なものであることが改めて分かった。

(2) 文部科学省による調査結果との比較

文部科学省の「令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」(以下「問題行動等調査」という)では、不登校の要因として中学校では「無気力、不安」(50%)の割合が最も高く、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」(12%)、「生活リズムの乱れ、あそび、非行」(11%)が続いており、本調査の結果とは乖離^{かいり}があった。本調査が不登校経験者に「学校を休み始めたときのきっかけ」について、思い当たるもの全てを選択する形式で設問を設定しているのに対し、問題行動等調査では学校を対象に「不登校の主な要因」を一つ選択する形式で設問が設定

され、調査方法や設問設定に違いがあることから、この乖離については慎重な解釈が求められる。しかし、本調査では、教員との関係、いじめ等の友人関係、クラスや学校の雰囲気等、学校に要因があると感じている生徒・保護者が多いという結果が出ている。一方で、保護者から見た学校を休みがちだったところの子供の様子では、「よくあった」と「ときどきあった」を合わせると約6割が「無気力な様子だった」と回答していることから（図表 2-2-5）、問題行動等調査で「無気力、不安」の割合が高いことは、内面では様々な葛藤を抱えている子供たちが、外形的にはそのような状態として認識される可能性が高いことを示唆している。

また、文部科学省が、令和2年度に、前年度に不登校であった児童生徒に対して行った「不登校児童生徒の実態把握に関する調査」（以下「文部科学省不登校児童生徒調査」という）では、「最初に学校に行きづらいつ感じ始めたきっかけ」として、中学生は、「身体の不調」（33%）、「勉強が分からない」（28%）、「先生のこと」（28%）の割合が高くなっている。文部科学省不登校児童生徒調査の「勉強がわからない」（28%）という回答に関しては、本調査においても「勉強のこと」（32%）として回答されており、同様の傾向が見られた。なお、文部科学省不登校児童生徒調査にはない選択肢である「学校やクラスに合わなかった」（43%）は、本調査では特徴的に回答割合が高い結果が出ている（図表 2-2-2-1）。明確な嫌がらせやいじめはなくとも、人間関係や学校・クラスの雰囲気に合わなかったということは、二次調査でも多くの回答が得られている。また、インタビューでは、小学校から中学校へ進学した際の環境・友人関係の変化等が関係していることがうかがえた。いずれにしても、児童生徒一人一人がより安心して学校生活を送ることができる環境づくりが必要であり、特に子供たちの環境が大きく変わる進級や進学のタイミングでは、注意を向ける必要がある（図表 2-2-2-4、図表 4-2）。

7-2-2 学校を休んでいたときに困っていたこと、必要としていた手助け

（1）学習等の支援の必要性

「学校を休んでいたときに、誰かに相談したいと思ったり、手助けがあればいいのと思ったこと」については、まず「進学について」（47%）、「学校の勉強について」（45%）の回答割合が高く、次いで「人間関係について」（42%）、「自分の気持ちをはっきりと表現したり、人とうまくつきあったりするための方法について」（37%）の割合が高かった（図表 2-2-4-1）。また、「学校を休んでいたころの気持ち」については、「あてはまる」と「少しはまる」を合わせると、「勉強の遅れに対する不安があった」（69%）、「進路・進学に対する不安があった」（73%）が7割程度と高かった（図表 2-2-3-1）。本調査が、中学校3年生の時に不登校を経験した方を対象としたことも関係し、多くの方が勉強や進学・受験のことについて不安を抱え、支援や手助けを求めていると考えられる。人間関係やコミュニケーション部分の支援に加えて、様々な要因によって学校に登校しない、登校

したくてもできない状態となったときに学習機会を得るための支援が必要であることが分かった。

（２）支援による関わりを求めない時期

「学校を休んでいたときに、誰かに相談したいと思ったり、手助けがあればいいのと思ったこと」については、「とくにない」（22%）の回答も一定程度あった（図表 2-2-4-1）。インタビューでは、「当時どうしてよいか分からなかった」という回答や、「構わないでほしかった」という回答があり、そうした時期に支援につなげることの難しさも浮き彫りになった（図表 4-3）。早期に積極的な対応や支援を行うことで、学校に復帰できる子供もいると考えられるが、子供によっては「そっとしておいてほしい」時期があることを認識し、子供の状況や保護者の希望をよく確認する必要がある。ただし、その場合でも、必要となった際には、すぐに支援につなげられるよう、保護者とは連絡を取りながら、子供たちの普段の様子を見守り、把握していくことが重要である。

（３）その他の不登校時の様子

また、保護者から回答を得た「不登校であった中学校 3 年生のときの子供の様子」で、「よくあった」と「ときどきあった」を合わせた割合が高いものをみると、「生活リズムが整っていなかった」（76%）、「外出が少なく他人との関わりが少なかった」（66%）、「インターネットやゲームを一日中していた」（65%）などがあった。インタビューにおいても、生活リズムの乱れがあった様子がうかがえるエピソードが多く語られた。不登校期間中に、昼夜逆転に代表される生活リズムの乱れや、引きこもり傾向の時期が存在しており、当時、課題となっていたことが推察される（図表 2-2-5、図表 4-3）。なお、インタビューでは、不登校当時のことをよく覚えていないというケースも比較的多く、心理面での負荷が大きい状況にあったことがうかがえた。

7-3 不登校支援の利用状況と評価について

（１）不登校時に利用した支援と評価

不登校だった中学校 3 年生のときに実施・利用があったものとして、学校内の支援では、「学校の先生からの電話などの連絡」（90%）、「学校の先生・保健室の先生との相談」（70%）の割合が高く、何かしら教員からのアプローチは行われていた。「保健室や相談室などの別室登校」（50%）、「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談」（53%）も半数で利用されている。学校外の支援では、主に「適応指導教室（トライ）」（56%）、「練馬区の教育相談室」（28%）、「スクールソーシャルワーカーへの相談」（19%）が比較的多くの方に利用されていた（図表 2-3-1-1）。

学校内と学校外の支援の組み合わせで見ると、学校内・学校外両方の支援を利用した方の割合が最も高く（60%）、約 6 割の方が学校内・学校外両方の支援を利用していた（図表 2-3-1-2）。

利用した支援への評価として、「よかった」と「どちらかといえばよかった」を合わせた割合は、

学校内の支援では「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談」(75%)、「学校の先生・保健室の先生との相談」(70%)が、学校外の支援では、「適応指導教室(トライ)」(87%)、「練馬区の教育相談室」(87%)、「スクールソーシャルワーカーへの相談」(78%)が7割を超える高い評価となっている(図表 2-3-1-3)。

(2) 学校の先生からの電話などの連絡、先生との相談、家庭訪問

実施されて「よかった」と「どちらかといえばよかった」を合わせた割合は、「学校の先生・保健室の先生との相談」(70%)は約7割、「学校の先生からの電話などの連絡」(58%)は約6割、「学校の先生による家庭訪問」(48%)は約5割となっており、「学校の先生による家庭訪問」の評価は、ほかと比べて高くない(図表 2-3-1-3)。

「学校の先生の家庭訪問」については、アンケートに協力した保護者の約5割(51%)は「行われなくてよかった」と回答している(図表 2-3-7-1)。一方、中学校教員へのアンケートでは、「不登校生徒への『初期対応』の時点で必要と思う内容」として約8割が、「『中・長期化』した不登校生徒への対応として必要と思う内容」としても約9割が「家庭訪問」(初期対応 77%、中・長期化対応 86%)と回答している(図表 5-2-3、図表 5-2-4)。このことから、学校側から各家庭に家庭訪問の働きかけがなかったとは考えづらく、前述の不登校の要因は学校にあると感じている生徒・保護者が多いという分析からも、学校側からの働きかけがあっても、家庭訪問を希望しなかったご家庭が一定層いたと考えられる。児童生徒・保護者側と教員側との捉え方に差異が生じているが、家庭訪問は学校が必要と思う一般的な働きかけであり、実際に「学校の先生による家庭訪問」を利用した方の82%は「よかった」または「どちらかといえばよかった」と回答している(図表 2-3-7-2)。このことから、学校は、家庭訪問を行うか否か、行う場合は、誰がいつどのように行うのかも含めて、個々の児童生徒・家庭の状況をより丁寧にくみ取り、保護者と連携して対応する必要がある。

(3) 保健室や相談室などの別室登校

「保健室や相談室などの別室登校」は、利用者の約7割(68%)が「よかった」または「どちらかといえばよかった」と回答し、比較的高い評価を得ている(図表 2-3-1-3)。利用してよかったと思う点としては「相談・コミュニケーションができた」、「学校に行けた」などがあげられている(図表 2-3-2-4)。

一方、利用してよくなかったと思う点としては「ほかの生徒や先生に会ってしまうこと」があげられている(図表 2-3-2-6、図表 2-3-2-7)。インタビューでも「人に見られてしまう環境が嫌だった」という声があったことから、物理的な制約はあるものの、別室登校の場所や時間については、児童生徒の気持ちを配慮して対応することが望ましいといえる。加えて、「保健室や相談室などの別室登校」を利用して「よくなかった」と回答した方では、中学校3年生のときに欲しかった手助

けとして「進学について」や「学校の勉強について」と回答した割合が比較的高いことから、進学や勉強の面での支援を充実すれば、さらに児童生徒に役立つ支援となることが推察される（図表 3-2-5-1）。

（４）スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談

「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談」は利用者の７割以上（75%）が「よかった」または「どちらかといえばよかった」と回答し、比較的高い評価を得ている（図表 2-3-1-3）。よかったと思う点としては「相談・コミュニケーションができた」、「安心できた」などがあげられているが、「場所・雰囲気が利用しづらい」という声も若干あった（図表 2-3-3-3、図表 2-3-3-5）。

（５）適応指導教室（トライ）

「適応指導教室（トライ）」は、学校外の支援機関として練馬区の不登校対策の中核を担う事業であり、令和３年度の中学校３年生の利用登録は 120 名（登録率 42.3%⁹⁷）となっている。本調査における「適応指導教室（トライ）」を利用した割合は 56%で、学校外の支援では最も高い利用率となっている（図表 2-3-1-1）。

利用頻度は、「週に 1 日」が約 3 割、「週に 3 日」や「週に 5 日」がそれぞれ約 2 割であった（図表 2-3-4-2）。現在通室している生徒の様子から、利用が週に 3 日以上であれば学習や集団活動が中心と想定されるが、週 1 日であれば心理面談が中心となっていたと思われる。インタビューでは、面談のみの利用であっても「自分の考えがまとまったり、人と話せるようになったりすることができた」といった肯定的な評価を述べるケースが多く、授業や集団活動に参加できなくても、心理面談を受けることで、一定の良い影響を与えることができている。

また、「適応指導教室（トライ）」利用者の約 9 割が「よかった」または「どちらかといえばよかった」と回答し、ほかの支援と比べても非常に高い評価を得ている（図表 2-3-1-3）。二次調査では、利用してよかったと思うこととして、「進路準備ができた」、「勉強ができた」、「友達ができた」、「相談・コミュニケーションができた」といったことがあげられている（図表 2-3-4-4）。インタビューにおいても、評価の傾向は同様であり、「適応指導教室（トライ）」は、学校外での学習機会の保障を行う機能と、集団活動の中で他者とのよりよい関係を作っていく集団適応の機能の両面を担い、不登校生徒に有効な支援となっていることが検証された。

一方、「適応指導教室（トライ）」を利用しなかった方にその理由を尋ねたところ、「人と関わりたくなかった、行きたくなかった」という回答が多かった（図表 2-3-4-8）。また、適応指導教室（トライ）を知っていたが利用しなかった保護者にその理由を尋ねたところ、「本人が行きたがらなか

⁹⁷ 練馬区立中学校に在籍する不登校状態の中学校３年生のうち、「適応指導教室（トライ）」の利用登録を行っている生徒の割合。

った」という回答が多かった（図表 2-3-4-9）。インタビューでは、不登校直後に親に連れられてきたが、タイミングが早すぎたと思われるケースも複数あった。このため、「適応指導教室（トライ）」の支援効果は高いが、利用につなげるためには、本人の心理的な状況と入室のタイミングをうまく見極める必要があることが分かった。

（６）スクールソーシャルワーカーへの相談

「スクールソーシャルワーカーへの相談」は、利用者の約 8 割が「よかった」または「どちらかといえばよかった」と回答し、比較的高い評価を得ている（図表 2-3-1-3）。よかったと思うこととして「安心できた、支えになった」、「進路準備ができた」などについて肯定的な評価が得られている（図表 2-3-6-3、図表 2-3-6-4）。

7-4 不登校生徒の卒業後の状況について

（１）中学校卒業後の進路

中学校卒業後の進路としては、「全日制の高等学校」が約 2 割、「定時制の高等学校」と「通信制の高等学校」がそれぞれ約 4 割となっており、定時制高等学校と通信制高等学校が不登校生徒の主な進学先となっていることが分かる（図表 2-4-1-1）。なお、定時制高等学校は、不登校経験がある生徒を主に受入れる「チャレンジスクール」と呼ばれる定時制・総合学科の高等学校が多くを占めている。

（２）現在の生活状況

最近の生活満足度（「0：全く満足していない」から「10：十分満足している」の 11 段階評価）については、おおむね生活に満足していると思われる 7 以上の評価をした方が、約 5 割となっており、全体としては現在の生活状況について肯定的な回答をする方が多くなっている。回答者の平均値は 6.2 で、この値は、日本の高校 1 年生の生活満足度の平均値である 6.2 と同じであり、中学校時代に不登校を経験していたこと自体が、その後の生活満足度に否定的な影響を及ぼしているとは限らないことが分かった（図表 2-4-4-1）。

二次調査では、現在の生活が中学校 3 年生の時と比べて良くなったと思うかを尋ねたところ、生活が「良くなった」と回答する方が約 8 割と多かった（図表 2-4-4-3）。また、保護者から見た子供の様子でも、生活状況が改善している傾向にあることが分かった（図表 2-4-6）。生活が良くなった理由として、卒業生本人からは「学校に通えている（通えた）」や「友達ができた」、「自分に合った学校であった」などの回答が多く得られた。インタビューでも、高校進学後、友人との関係や先生との関係が良好であるケースが多く、中学校から高校へ進学するという大きな環境変化が一つの転機となっていることをうかがわせる結果となった（図表 2-4-4-4、図表 4-5-1）。

また、インタビューでは、中学校卒業後の進路について、保護者からの情報提供や自身の状態・希望との調整等を含め、個々の状況に応じて、様々な形で進路選択をしていることがうかがえた。高校進学は、「チャレンジスクール」と呼ばれる都立定時制高校や通信制高校等、中学校と比べて選択肢が多様であり、自分に合った学校を選択できることも大きいと思われる。さらに、インタビューにおける各ケースの事例からは、進路について「自分で決めた」ということが重要な意味を持つ可能性が示唆されている。このことから、中学校卒業後の進路選択に関する支援では、進学先を決めるにとどまらず、そのプロセスも含めて関わっていくことが非常に重要であると考えられる。

（３）理解者の存在

生活状況の評価については、「自分のことをよく理解してくれている人」の存在も重要であろうと考えられる。卒業後の現在において、理解者が「いる」と回答したの方が生活満足度を高く評価する傾向があり、夢や希望があると回答する割合も高くなっている（図表 3-4-1、図表 3-5-4）。

また、中学校 3 年生のときに相談・支援を利用していた場合に、理解者がいたと回答する割合が高い傾向にある（図表 3-2-4-1～図表 3-2-4-3）。特に学校外の支援の利用は、理解者がいたと回答する割合が高い（図表 3-2-4-4）。当時の理解者が誰であったかについては、「家族」の割合が最も高いが、「適応指導教室（トライ・ぱれっと・つむぎ）の先生や相談員」、「学校の先生・保健室の先生」、「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員」等の回答も一定割合見られており、相談・支援に関わる人の重要性がうかがえる結果となっている（図表 2-4-3-2）。

7-5 支援の充実について

（１）中学校卒業後の支援

中学校を卒業してから誰かに相談したり、手助けなどがあればいいのにとったりしたことがあるかを二次調査で尋ねたところ、約 5 割の方が「ある」と回答しており、中学校卒業後も「心理的な不安等」や「勉強・進路のこと」などの内容に関して相談等のニーズが一定程度あることが分かった（図表 2-4-2-1、図表 2-4-2-2）。また、二次調査やインタビュー調査では、中学校卒業後も医療機関の受診やカウンセリングを必要としているケースが見られたが、相談先としては、区の教育相談室を利用している事例もあった（図表 2-4-2-5）。中学生までと異なり、高校生以上になると、学校外の支援が手薄になっていく側面があるが、既にある支援機関も活用しながら、中学校卒業後もつながることができる相談場所等を確保していく必要性が示唆される結果となった。一方で、誰かに相談した結果、「結局は自分次第であった」という回答や、相談したいと思ったが、「意味がないと思った」ため、誰にも相談しなかったという回答もあった（図表 2-4-2-6、図表 2-4-2-7）。保護者との関係性も変化してくるであろう高校生年代にどのようにアプローチしていくか、どのような支援等を行っていくかは課題である。

（２）不登校児童生徒の保護者に対する支援

子供が不登校であったとき、保護者自身が、子供のことについて誰かに相談できたり、手助けがあればいいのと思ったこととして、「進学について」（59%）、「学校の勉強について」（40%）、「心の悩みを相談する場所について」（39%）をはじめとして一定の割合をもった回答が幅広くあった（図表 2-2-4-6）。保護者自身も本人と同様に戸惑い、様々な不安を抱えていることがうかがえ、保護者が抱える不安に寄り添った支援も必要であることが分かった。

（３）ICT機器を活用した学習支援

中学校3年生だったときに、どのような方法だったら勉強を続けやすかったと思うかについて、「配信された授業などの動画を好きなときに視聴する」など ICT 機器を活用した学習方法について、それぞれ2割から3割の回答があった（図表 2-2-3-3）。また、ICT 機器を活用した勉強や相談等の経験を聞いたところ、約5割（54%）の方で経験があった（図表 2-4-5-1）。調査対象者が中学生であった時代には、1人に1台のタブレットが配備される前であったが、本調査で ICT 機器を活用した学習経験があると回答した方には、中学校卒業後、高校や大学等で経験した方が多いと考えられる。

二次調査やインタビュー調査では、多くの方が、自分自身や不登校の児童生徒に対して、ICT 機器の活用はメリットがあると回答された。その理由として、「自分のペースで好きな時に勉強できる」や「自宅で授業を受けることができる」など利便性に対する評価について回答が得られている。インタビューでは、ICT 機器を用いた学習の中でも、動画配信型がよいと考える方もいれば、リアルタイムのオンライン授業でないと学習することが難しいという方もいた。一方で、オンラインでは頭に入ってこない、気が散ってしまうなど、学習の質の面で、対面・アナログでの授業の方がよいと答えた方もいた（図表 2-4-5-2、図表 2-4-5-3）。このことから、特定の方法が優れているということではなく、ICT 機器の活用も含めて、児童生徒の状況に応じた多様な選択肢が用意され、学習方法の幅が広がることが重要であるということがうかがえた。

（４）不登校児童生徒に対する学校対応の在り方

不登校児童生徒に対する学校の対応状況では、不登校児童生徒の対応に係る校内研修について、実施している学校が、小学校で約7割、中学校で約6割となっている（図表 5-1-3-1）。校内研修を実施していない学校では、理由として「時間の確保が難しいため」と回答した割合が小学校で3割、中学校では8割あった（図表 5-1-3-3）。昨今、教育分野にとどまらない様々な役割を学校が担う必要もあり、学校、教員が多忙な状況の中、不登校児童生徒への対応に当たるための時間の確保が大きな課題である。

不登校児童生徒に対する教員の対応状況では、初期対応の時点で必要と思う内容と、中・長期化した児童生徒への対応として必要と思う内容について、小学校と中学校の教員では回答割合に大き

な差が見られたことが特徴である（図表 5-2-3、図表 5-2-4）。中学校では、「家庭訪問」、「放課後登校」、「スクールカウンセラーや心のふれあい相談員との面談」、「適応指導教室などの利用」などの回答割合が小学校よりも高く、該当する生徒に様々な方法でアプローチしたり、学校外の支援機関と連携しようとしたりする意識がより強くなっている。なお、中学校の教員では「放課後登校」を、初期対応として約 9 割、中・長期化した不登校への対応として約 7 割が必要と回答しているが（図表 5-2-3、図表 5-2-4）、不登校生徒への学習保障として「放課後登校」を実施している中学校は約 4 割（図表 5-1-6）となっていることから、より中学校において時間の確保が困難な状況である様子がうかがえる。

一方で、中・長期化対応に必要な内容としての「オンライン授業」については、小学校の方が中学校に比べて回答割合が非常に高い。これらの違いについては、小学生と中学生では、発達段階が異なることや、小学校と中学校における不登校の出現率の違い（中学校の方が多い）、学校環境や制度の違い（学級担任制か教科担任制かの違い、部活動の有無）など様々な要因が影響していると考えられる。中学校では、進路の問題も、不登校生徒に対応する際の大きな課題となる。

ただし、「不登校児童生徒への対応として『必要がある』と考えるもの」としては、小学校・中学校ともに「教員同士による情報交換」や「複数の教員で支援にあたる校内体制づくり」の割合が高い（図表 5-2-5）。小学校、中学校それぞれの特徴・特色を踏まえつつ、校内で一貫性のある組織的な対応ができる学校体制の整備や、学校と学校外の支援機関等との連携について、より一層充実するための検討が重要になると考えられる。

（５）フリースクール等民間団体との連携

練馬区の児童生徒が通う民間の団体・施設（いわゆるフリースクール）においては、「独自の理念や方針による特色ある教育活動」のほか、「学力に対する支援」や「学校以外の居場所対応」について特に力を入れた支援が行われている（図表 6-2-1-2）。小学生から高校生を受入れ対象とする団体が最も多いが、小学生のみあるいは中学生のみを対象とする団体もあった（図表 6-2-4-3）。

団体の規模は様々であるが、令和 4 年 3 月時点で、14 団体で小学生 326 人、中学生 395 人を受入れており、この内、練馬区立小中学校に在籍していた人数は、小学生が 6 団体で 20 人、中学生は 7 団体で 17 人であった（図表 6-2-4-4、図表 6-2-4-5）。子供は平均で週 3 日程度利用している（図表 6-2-4-9）。回答した全ての団体が、児童生徒の在籍校と、「通所実績や支援の状況に関する定期的な情報共有」を実施していた（図表 6-4-1）。また、学校や行政と連携を進める上で必要と思う取組として、より積極的な学校との情報共有や情報交換を望む声が多かった（図表 6-4-3）。

今後、多様な不登校要因や支援ニーズに応え、より一層不登校に対する支援を充実していくためには、学校とフリースクール等民間団体との連携の在り方を検討していくことが重要になると考えられる。

7-6 終わりに

今回の調査では多くの方にご協力いただき、ありがとうございました。不登校を経験したご本人や保護者の方には、今回の調査の依頼をすることで、当時の嫌な記憶を思い出させることになってしまったかもしれません。そのような中でも回答をいただくことができたのは、調査のタイトルにも掲げた『安心な学校づくり』のためならば」とご協力くださった方が大勢いらっしゃったからだと考えています。事実、インタビューでは「安心な学校づくりのため」、「後輩たちのため」と調査を引き受けてくれた理由を話してくださった方がいらっしゃいました。こうした思いを決して無駄にしないよう、調査の結果を、今後の安心な学校づくりに向けた不登校児童生徒への支援の充実や取り組むべき施策の検討に生かしていきたいと思えます。

また、日常の業務等で非常に多忙の中、民間の団体・施設の方や、学校の先生方にも調査にご協力いただきました。児童生徒の状況に応じた継続的な学校の支援、そして学校外の施設・機関と連携することは重要な方策となると考えています。調査協力への御礼を申し上げるとともに、今後の不登校児童生徒へのさらなる支援の充実に向けて、引き続きご対応・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

參考資料

あんしん がっこう 安心な学校づくりのためのアンケート

ねりまくりつちゅうがっこうそつぎょうせい ほんにんよう 練馬区立中学校卒業生ご本人用アンケート

かいとう ご回答にあたって

- アンケートは、この用紙で回答する方法と、スマートフォンやパソコンなどから回答する方法のどちらかで回答することができます。スマートフォンなどから回答する場合は、次の URL または二次元バーコードからアクセスしてください。また、回答用のパスワードは、次のものを入力してください。

URL :

パスワード :

- 回答内容は、個人が特定できないかたちで集計します。また、アンケート用紙の送付や謝礼の送付（アンケートに回答いただいた場合にお送りいたします）の目的以外に個人の情報を使用することはありません。

- 回答は、次のページから始まる質問をよんで、あてはまる番号に○をつけるか、枠の中に数字を記入してください。（スマートフォンなどから回答する場合には、画面上で回答を選ぶか、数字を入力してください。）

- 質問は全部で 21 問あります。答えたくない質問は、答える必要はありません。答えが思いうかばない場合や答えたくない質問は、答えずに次に進んでください。

- 令和3年（2021年）12月21日（火曜日）までに回答をお願いします。この用紙で回答した場合は、「返信用封筒」に入れて、郵便ポストにご投函ください（切手を貼る必要はありません）。

【お問合せ先】

ねりまくりつがっこうきょういくしえん けんきゅうそうだんがかり
練馬区立学校教育支援センター 研究相談係

Tel : 03-6385-9911 (月～金 8:30～17:15)

E-mail : EDCENT@city.nerima.tokyo.jp

このアンケートに回答いただいている方についておたずねします

問 1 このアンケートに回答いただくのは、あて名の練馬区立中学校卒業生の方本人ですか。代理の方が回答する場合には、差しつかえなければ、どなたが回答いただいたかや、代理で回答される理由についても教えてください。(〇は1つ)

1. あて名の練馬区立中学校卒業生の方本人
2. 代理の方



「代理の方」の場合

代理で回答いただいた方や代理回答の理由

1. 父
2. 母
3. 祖父・祖母
4. きょうだい
5. その他(具体的に: _____)

代理回答の理由(_____)

※代理の方が回答される場合、以下からの質問における「あなた」は、あなた自身ではなく、このアンケートの対象の練馬区立中学校卒業生の方について回答してください。

あなたのことについておたずねします

問 2 あなたの性別をお答えください。(〇は1つ)

- | | | | |
|------|------|--------|-----------|
| 1. 男 | 2. 女 | 3. その他 | 4. 答えたくない |
|------|------|--------|-----------|

問 3 あなたの生まれた年月をお答えください。(枠の中に数字を記入)

西暦

年

月生まれ

ちゅうがっこう そつぎょう げんざい ようす き
中学校を卒業してから現在までの様子についてお聞きします

問 4 あなたは、中学校を卒業してすぐの時点で、どのような進路に進みましたか。(○は1つ)

しんがく
【進学】

1. 全日制の高等学校
2. 定時制の高等学校 (チャレンジスクール含む)
3. 通信制の高等学校 (通信制サポート校含む)
4. 特別支援学校高等部・高等特別支援学校
5. その他の学校 (具体的に: _____)

しんがくがい
【進学以外】

6. 就職 (パートやアルバイト)
7. 就職 (正社員)
8. 家業や家の手伝い
9. その他

問 5 あなたは現在、次のいずれかの学校に通っていますか。(○は1つ)

1. 全日制の高等学校
2. 定時制の高等学校 (チャレンジスクール含む)
3. 通信制の高等学校 (通信制サポート校含む)
4. 専門学校
5. 特別支援学校高等部・高等特別支援学校
6. 短大・大学
7. その他の学校 (具体的に: _____)
8. 学校には通っていない (高等学校などを卒業した方を含む)

とい 問 6 あなたは^{げんざい}現在、何か^{なに しごと}仕事をしていますか。(○は1つ)

1. とくに^{しごと}仕事はしていない
2. パートやアルバイトではたらいている
3. ^{せいしゃいん}正社員ではたらいている
4. その他(具体的に: _____)

とい 問 7 あなたは、^{ちゅうがっこうそつぎょうご}中学校卒業後に、以下のようなことを^{けいけん}経験したことがありますか。(○はいくつでも)

1. ^{てんこう}転校
2. ^{りゅうねん}留年
3. ^{ちゅうたい}中退
4. ^{こうそつにんていしけん}高卒認定試験の受験
5. ^{てんしよく}転職
6. ^{しごと}仕事をやめたこと
7. ^{とく}特になし

とい 問 8 ^{げんざい}現在、あなたのことをよく^{りかい}理解してくれている方はいますか。(○は1つ)

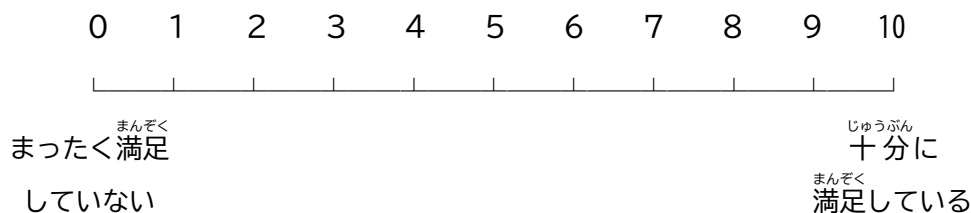
1. いる
2. いない

↓ 「いる」と答えた場合

とい 問 8-1 それはだれですか。(○はいくつでも)

1. ^{かぞく}家族
2. ^{ゆうじん}友人・知人
3. ^{がっこう}学校の先生(専門^{せんもん}学校や大学^{だいがく}の先生も含みます)・保健室^{ほけんしつ}の先生
4. ^{びょういん}病院・診療所^{しんりょうじょ}の先生や相談員^{そうだんいんとう}等
5. ^{しよくば}職場^{ひと}の人
6. ^{こいびと}恋人・配偶者^{はいぐうしや}
7. SNS等^{どう}でつながっているが直接^{ちよくせつ}会ったことはない人^{ひと}
8. その他(具体的に: _____)

問 9 全体として、あなたはあなたの最近の生活全般に、どのくらい満足していますか。「0」（まったく満足していない）から「10」（十分に満足している）の数字で、あてはまるものを選んでください。（○は1つ）



小学生、中学生だった時の様子についてお聞きします

問 10 あなたが学校をよく休み始めたのは、何年生のころですか。（○は1つ）

1. 小学校低学年（1・2年生）のころ
2. 小学校中学年（3・4年生）のころ
3. 小学校高学年（5・6年生）のころ
4. 中学校1年生のころ
5. 中学校2年生のころ
6. 中学校3年生のころ
7. 覚えていない

問 11 あなたが中学校3年生のときに学校を休んでいたころの気持ちとして、あてはまるものをそれぞれ選んでください。（それぞれ、○は1つ）

	あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
a. ほっとした・楽な気持ちだった	1	2	3	4
b. 自由な時間が増えてうれしかった	1	2	3	4
c. やりたいことが増えた	1	2	3	4
d. 早く学校に登校したかった	1	2	3	4
e. 勉強の遅れに対する不安があった	1	2	3	4
f. 進路・進学に対する不安があった	1	2	3	4
g. 自分のことが嫌で仕方がなかった	1	2	3	4
h. 自分が他の人にどう思われているかが不安だった	1	2	3	4

問 12 あなたが^{がっこう}学校を^{やす}休み^{はじ}始めたときの^{なに}きっかけは何ですか。^{おも}思い^{おも}あたるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

【^{がっこう}学校のこと】

1. ^{ともだち}友達のこと（いやがらせや、いじめがあった）
2. ^{ともだち}友達のこと（いやがらせやいじめ以外、^{い が い}友達がいなかった、^{ともだち}友達が^{てんこう}転校したなど）
3. ^{せんせい}先生のこと（^あ合わなかった、^{こわ}怖かったなど）
4. ^{べんきょう}勉強のこと（^{べんきょう}勉強がわからなかった、^{じゅぎょう}授業がつまらなかった、^{せいせき}成績がよくなかったなど）
5. ^{ぶかつどう}部活動の問題（^{もんだい}合わなかった、^あ同じ部活動の^{おな}友達とうまういかなかった、^{し あ い}試合に出 ^{しゅつじょう}場 できなかったなど）
6. ^{がっこう}学校のきまりなどの問題（^{もんだい}きびしかった、^{せいふく}制服や持ち物のことなど^{も もの}自由がなかった）
7. ^{がっこう}学校やクラスに^あ合わなかった
8. それ以外の理由で^{い が い}学校生活と^{りゅう}合わなかった
(^{くたいてき}具体的に： _____)

【^{がっこう}学校以外のこと】

9. ^{かぞく}家族のこと（^{おや}親と^{なか}仲が^{わる}悪かった、^{おや}親に^{おこ}怒られたなど）
10. ^{おや}親の^{がっこう}学校に対する^{たい}考 え（^{かんが}親が^{おや}そもそも^{がっこう}学校に行く必要はないと^い考 えていたなど）
11. ^{かぞく}家族の^{せ わ}世話や^{か じ}家事が^{いそが}忙 しかった
12. ^{しんたい}身体の不調（^{ふちよう}朝起きられなかった、^{あさ}学校に行こうとすると^{おな}おなかが^{いた}痛 くなったなど）
13. インターネット、ゲーム、^{どうがしちょう}動画視聴、SNS（LINEやツイッターなど）などの^{えいきょう}影響
14. ^{がっこう}なぜ学校に行かなくてはならないのかがわからなかった
15. その他（^た具体的に： _____）
16. ^{とく}特にきっかけはない、または、わからない

問 13 あなたが^{ちゅうがっこう}中学校^{ねんせい}3年生^ののときに、あなたのことをよく^{りかい}理解^{ひと}してくれている人はいましたか。

(○は1つ)

1. いた

2. いなかった

↓ 「いた」と答えた場合

問 13—1 それはだれでしたか。(○はいくつでも)

1. 家族

2. 友人・知人

3. 学校の先生・保健室の先生

4. スクールカウンセラー・心のふれあい相談員

5. スクールソーシャルワーカー

6. 適応指導教室（トライ・ぱれっと・つむぎ）の先生や相談員

7. 教育相談室の相談員

8. 病院・診療所の先生や相談員等

9. 恋人

10. SNS等でつながっているが直接会ったことはない人

11. その他（具体的に：_____）

問 14 あなたが^{ちゅうがっこう}中学校^{ねんせい}3年生^{だった}とき、どのような方法^{ほうほう}だったら勉強^{べんきょう}を続けやすかったと思いますか。(○はいくつでも)

※当時あなたが実際に行った方法かどうかにはかかわらずお答えください。

1. 保健室や相談室など学校内の別室で学習する

2. 先生が家庭に訪問し勉強する

3. 適応指導教室（トライ、ぱれっと、つむぎ）に通う

※ 適応指導教室：何らかの要因により登校しない、あるいはしたくてもできない状況にある子どもを対象とした、学校とは別の教室で、小集団での学習や集団活動を行います。練馬区には中学生向けに、トライ、ぱれっと、つむぎがあります。

4. 図書館、青少年館、児童館などに通って自習する

5. 民間の教育機関（フリースクールや塾など）に通う

6. 配信された授業などの動画を好きなときに視聴する

7. デジタル教材や学習アプリを使って学習する

8. オンライン授業にリアルタイムで参加する

9. SNS、電子メール、電話などを用いて助言をしてもらいながら家庭で勉強する

10. その他（具体的に：_____）

問 15 あなたが中学校3年生のとき、次のようなことはありましたか。また、「あった」場合、そのことについてよかったと思いますか。

(実施・利用の有無についてどちらかに○を1つ。さらに、それぞれ「あった」場合は、「評価」についてもいずれかに○を1つ)

	実施・利用の有無 (どちらかに○)		「あった」場合の評価 (いずれか1つに○)			
	なかった	あった	よかった	どちらか といえ ばよ かった	どちらか といえ ばよ く な か つ た	よ く な か つ た
a. 学校の先生による家庭訪問	1	2	1	2	3	4
b. 学校の先生からの電話などの連絡	1	2	1	2	3	4
c. 学校の先生・保健室の先生との相談	1	2	1	2	3	4
d. 保健室や相談室などの別室登校	1	2	1	2	3	4
e. スクールカウンセラー・心のふれあい 相談員への相談	1	2	1	2	3	4
f. スクールソーシャルワーカーへの相談	1	2	1	2	3	4
g. 適応指導教室（トライ）	1	2	1	2	3	4
h. 居場所ぱれっと	1	2	1	2	3	4
i. 光が丘第一分室つむぎ	1	2	1	2	3	4
j. 練馬区の教育相談室 (※光が丘、練馬、関町、大泉の4か所にあります)	1	2	1	2	3	4
k. その他の公的な相談機関等 (児童相談所、福祉事務所など)	1	2	1	2	3	4
l. 民間施設 (「フリースクール」と呼ばれる場所など)	1	2	1	2	3	4
m. インターネット上の教育サービス	1	2	1	2	3	4
n. SNSの悩み相談	1	2	1	2	3	4

とい 問 16 あなたが^{ちゅうがっこう}中学校^{ねんせい}3年生のとき、次のようなことについて^{だれ}誰かに^{そうだん}相談したいと思ったり、^{おも}手助け^{てだす}などがあればいいのにと^{おも}思ったことがありますか。(○はいくつでも)

1. ^{しんがく}進学について
2. ^{にんげんかんけい}人間関係について
3. ^{しごと}仕事につくことについて
4. ^{がっこう}学校の^{べんきょう}勉強について
5. ^{じぶん}自分の^{きもち}気持ちを^{ひょうげん}はっきりと^{ひと}表現したり、^{ほうほう}人とうまくつきあったりするための方法について
6. ^{ゆうじん}友人と^{しあ}知り合えたり、^{なかま}仲間と^す過ごせたりする^{いばしょ}居場所について
7. ^{こころ}心の^{なや}悩みを^{そうだん}相談する^{ばしょ}場所について
8. ^{きそくただ}規則正しい^{せいかつしゅうかん}生活習慣について
9. その他(具体的に: _____)
10. とくにない

とい 問 17 ^{かんが}いま^{ちゅうがっこう}考えると、^{ねんせい}中学校3年生のとき、^{がっこう}学校を^{やす}休みがちだったことを^{おも}どう思いますか。
(○は1つ)

1. ^{がっこう}学校に^い行けばよかった
2. ^{がっこう}学校に^い行かないのはしかたがなかった
3. ^{がっこう}学校に^い行かなくてよかった
4. その他(具体的に: _____)
5. ^{おも}なんとも思わない
6. わからない

しょうらい せいかつ き
将来の生活についてお聞きします

とい 問 18 じぶん しょうらい ゆめ きぼう
自分の将来について夢や希望がありますか。(○は1つ)

1. ある 2. ぼんやりとある 3. ない

とい 問 19 あなたはこれからの生活について、次のような不安や悩みごとがありますか。(○はいくつでも)

1. ゆうじん なかま にんげんかんけい
友人や仲間との人間関係
2. かぞく かんけい
家族との関係
3. がっこう べんきょう せいせき
学校での勉強や成績のこと
4. しんがく
進学のこと
5. しゅうしょく
就職のこと
6. しごと
仕事のこと(パート、アルバイトなども含む)
7. しゅうにゅう せいかつひ
収入や生活費のこと
8. せいかつしゅうかん
生活習慣のこと
9. きぶん たいちよう けんこう
気分や体調・健康のこと
10. はっきりした なや ふあん
はっきりした悩みはないがなんとなく不安である
11. その他(具体的に: _____)
12. とく こま
特に困っていることや悩みはない

とい 問 20 これからの生活において、次のようなことについて だれ そうだん おも てだす
誰かに相談したいと思ったり、手助けなどがあればいいのと思うことはありますか。(○はいくつでも)

1. しんがく
進学について
2. にんげんかんけい
人間関係について
3. しごと
仕事につくことについて
4. がっこう べんきょう
学校の勉強について
5. じぶん きもち ひょうげん ひと ほうほう
自分の気持ちをはっきりと表現したり、人とうまくつきあったりするための方法について
6. ゆうじん し あ なかま す いばしょ
友人と知り合えたり、仲間と過ごせたりする居場所について
7. こころ なや そうだん ばしょ
心の悩みを相談する場所について
8. きそくただ せいかつしゅうかん
規則正しい生活習慣について
9. その他(具体的に: _____)
10. とくにない

※このページ（11 ページと 12 ページ）に回答いただいた内容は、練馬区において、前のページの問20 までに回答いただいた部分と切り離して管理します。

さいごに

問 21 ご協力ありがとうございました。可能であれば、学校を休みがちだった時のことや、今の生活についてもう少しお話をおききたいと思います。

あなたは、追加のアンケートなどにご協力いただくことができますか。令和4年（2022年）の1月～3月の時期に、追加でアンケートまたはインタビューを依頼させていただくことを予定しています。（〇は1つ）

1. アンケートなら協力できる
2. アンケートでも、インタビューでも協力できる
3. 追加でのアンケートやインタビューには協力できない

「2. アンケートでも、インタビューでも協力できる」と答えた場合

問 21—1 インタビューの方法として、あなたにとって都合の良いものを選んでください。（〇はいくつでも）

1. 電話
2. オンラインツール
3. 対面（直接会って話をする）

（対面でご依頼する場合には、日時に加えて場所についてもご相談をさせていただきます。）

問 21—2 インタビューをご依頼するにあたって、連絡可能な電話番号またはメールアドレスを教えてください。

a. 電話番号	—
b. メールアドレス	@

回答いただいたご連絡先は、練馬区個人情報保護条例に基づき、厳重に管理します。インタビューの依頼以外の目的で使用することはありません。

裏面もご確認ください



つづ 続いて、アンケートの謝礼等の送り先を教えてください。(〇は1つ)

※令和4年(2022年)1月以降に、500円相当のクオカードを謝礼としてお送りします。

なお、「追加のアンケート」にご協力いただける場合には、そちらの案内もあわせてお送りさせていただきます。

1. このアンケートが送られてきた住所と同じ住所
2. このアンケートが送られてきた住所とは別の住所
(下の枠に送り先の住所を書いてください)

じゅうしょ ご住所	〒
	—

かいとう 回答いただいたご連絡先は、れんらくさき 練馬区個人情報保護条例に基づき、げんじゅう 厳重に管理します。追加のアンケート
いらい 依頼やしゃれい 謝礼の送付以外の目的で使用することはありません。

きょうりょく ご協力ありがとうございました。アンケートはこれで終了です。

がつ にち かようび 12月21日(火曜日)までに、へんしんようふうとう きってふよう い ゆうびん 返信用封筒(切手不要)に入れて郵便ポストにご投函いただくか、
じょう かいとう ねが スマートフォンなどからウェブ上での回答をお願いします。



安心な学校づくりのためのアンケート

保護者用アンケート

ご回答にあたって

- アンケートは、この用紙で回答する方法と、スマートフォンやパソコンなどから回答する方法のどちらかで回答することができます。スマートフォンなどから回答する場合は、次の URL または二次元バーコードからアクセスしてください。また、回答用のパスワードは、次のものを入力してください。

URL ：

パスワード ：

- 回答内容は、個人が特定されない形で集計します。なお、本用紙右上の整理・ID 番号は、お子さんの回答との対応関係を把握するためのものです。
- 回答は、次のページから始まる質問文の案内にしたがって、あてはまる番号に○をつけるか、枠内に数字を記入してください。（スマートフォンなどから回答する場合には、画面上で回答を選ぶか、数字を入力してください。）
- 質問は全部で 14 問あります。答えたくない質問は、答える必要はありません。答えが思いうかばない場合や答えたくない質問は、答えずに次に進んでください。
- 令和3年（2021年）12月21日（火曜日）までに回答をお願いします。この用紙で回答した場合は、「返信用封筒」に入れて、郵便ポストにご投函ください（切手を貼る必要はありません）。

【お問合せ先】

練馬区立学校教育支援センター 研究相談係

Tel ：03-6385-9911 （月～金 8:30～17:15）

E-mail：EDCENT@city.nerima.tokyo.jp

このアンケートに回答いただいている方についておたずねします

問 1 このアンケートに回答いただくのは、あて名のお子さん（練馬区立中学校卒業生の方）からみてどなたにあたりますか。（○は1つ）

1. 父
2. 母
3. 祖父・祖母
4. きょうだい
5. その他（具体的に：_____）

お子さんが小学生、中学生だったときのことについてお聞きします

問 2 お子さんが中学生のとき、1年間で学校を欠席した日数（病気やけがによる欠席や夏休み等の長期休暇中は除く）をそれぞれお答えください。（だいたいの日数で構いません）（○は1つ）

	0日～ 30日 くらい	30日～ 60日 くらい	60日～ 90日 くらい	90日～ 180日 くらい	180日以上 （ほとんど すべて 欠席した）	覚えて いない
a. 中学校1年生のとき	1	2	3	4	5	6
b. 中学校2年生のとき	1	2	3	4	5	6
c. 中学校3年生のとき	1	2	3	4	5	6

問 3 お子さんが学校をよく休み始めたのは、何年生のころですか。（○は1つ）

1. 小学校低学年（1・2年生）のころ
2. 小学校中学年（3・4年生）のころ
3. 小学校高学年（5・6年生）のころ
4. 中学校1年生のころ
5. 中学校2年生のころ
6. 中学校3年生のころ
7. 覚えていない

問 4 お子さんが学校を休み始めたときのきっかけは何だと考えますか。 思いあたるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

【学校のこと】

1. 友達のこと（いやがらせや、いじめがあった）
 2. 友達のこと（いやがらせやいじめ以外、友達がいなかった、友達が転校したなど）
 3. 先生のこと（合わなかった、怖かったなど）
 4. 勉強のこと（勉強がわからなかった、授業がつまらなかった、成績がよくなかったなど）
 5. 部活動の問題（合わなかった、同じ部活動の友達とうまくいかなかった、試合に出場できなかったなど）
 6. 学校のきまりなどの問題（きびしかった、制服や持ち物のことなど自由がなかった）
 7. 学校やクラスに合わなかった
 8. それ以外の理由で学校生活と合わなかった
- （具体的に： _____）

【学校以外のこと】

9. 家族のこと（保護者との不仲、保護者の注意への反発など）
10. 保護者の教育方針（保護者がそもそも学校に行く必要はないと考えていたなど）
11. お子さん自身が家族の世話や家事で忙しかった
12. 身体の不調（朝起きられなかった、学校に行こうとするとおなかが痛くなったなど）
13. インターネット、ゲーム、動画視聴、SNS（LINEやツイッターなど）などの影響
14. お子さん自身が学校に行く理由がわかっていなかった
15. その他（具体的に： _____）
16. 特にきっかけはない、または、わからない

問 5 お子さんが中学校3年生のときに学校を休みがちだったころのことについてお聞きします。

a～i のようなことは、お子さんにどのくらいありましたか。(それぞれ、○は1つ)

	よくあった	ときどきあった	あまりなかった	全くなかった	わからない
a. 落ち込んだり悩んだりしていた	1	2	3	4	5
b. 原因がはっきりしない腹痛、頭痛、発熱などがあった	1	2	3	4	5
c. 家族への強い反抗や暴力があった	1	2	3	4	5
d. インターネットやゲームを一日中していた	1	2	3	4	5
e. 生活リズムが整っていなかった	1	2	3	4	5
f. 無気力な様子だった	1	2	3	4	5
g. 部屋にとじこもりがちで家族との関わりが少なかった	1	2	3	4	5
h. 外出が少なく他人との関わりが少なかった	1	2	3	4	5
i. インターネットやSNSを通じて知り合った人と交流をしていた	1	2	3	4	5

問 6 お子さんが中学校3年生のとき、次のような対応が行われたり、支援機関などを利用したりしましたか。そのときの対応や利用について、状況や評価をお教えてください。
(それぞれ、1～6の中から1つに○)

	行われた				行われなかった	
	よかった	どちらかといえ ばよかった	どちらかといえ ばよくなかった	よく なかった	行われ なくて よかった	行われず 残念
a. 学校の先生による家庭訪問	1	2	3	4	5	6
b. 学校の先生からの電話などの連絡	1	2	3	4	5	6
c. 学校の先生・保健室の先生との相談	1	2	3	4	5	6
	利用した				利用しなかった	
	よかった	どちらかといえ ばよかった	どちらかといえ ばよくなかった	よく なかった	知っていた が利用しな かった	知らなくて 利用しな かった
d. 保健室や相談室などの別室登校	1	2	3	4	5	6
e. スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談	1	2	3	4	5	6
f. スクールソーシャルワーカーへの相談	1	2	3	4	5	6
g. 適応指導教室（トライ）	1	2	3	4	5	6
h. 居場所ぱれっと	1	2	3	4	5	6
i. 光が丘第一分室つむぎ	1	2	3	4	5	6
j. 練馬区の教育相談室（※光が丘、練馬、関町、大泉の4か所にあります）	1	2	3	4	5	6
k. その他の公的な相談機関等（児童相談所、福祉事務所など）	1	2	3	4	5	6
l. 民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）	1	2	3	4	5	6
m. インターネット上の教育サービス	1	2	3	4	5	6
n. SNSの悩み相談	1	2	3	4	5	6

問 7 問6で、「g. 適応指導教室（トライ）」について、「知っていたが利用しなかった」を選んだ方は、利用しなかった理由を具体的に記入してください。（自由に記述してください）

問 8 お子さんが中学校3年生のとき、病気や障害があること、または病気や障害がある可能性について、心配したことがありましたか？（○は1つ）

- | | | | |
|----------|------------|------------|---------|
| 1. よくあった | 2. ときどきあった | 3. あまりなかった | 4. なかった |
|----------|------------|------------|---------|



「よくあった」または「ときどきあった」と答えた場合

問 8-1 そのときにどうされましたか。（○はいくつでも）

- | |
|-------------------------------|
| 1. 心配はあったが特に相談等はしなかった |
| 2. 学校の担任やスクールカウンセラーに相談した |
| 3. 区の教育相談室やスクールソーシャルワーカーに相談した |
| 4. 医療機関等を受診した |
| 5. その他の機関に相談した（具体的に：_____） |

問 9 お子さんが中学校3年生のときに、お子さんに関する次のようなことについて、保護者の方ご自身が、誰かに相談できたり、手助けなどがあればいいのと思ったことがありますか。（○はいくつでも）

- | |
|---|
| 1. 進学について |
| 2. 人間関係について |
| 3. 仕事につくことについて |
| 4. 学校の勉強について |
| 5. 自分の気持ちをはっきりと表現したり、人とうまくつきあったりするための方法について |
| 6. 友人と知り合えたり、仲間と過ごせたりする居場所について |
| 7. 心の悩みを相談する場所について |
| 8. 規則正しい生活習慣について |
| 9. その他（具体的に：_____） |
| 10. とくにない |

お子さんが中学校を卒業したあとのことについてお聞きます

問 10 お子さんは中学校を卒業してすぐの時点で、どのような進路に進みましたか。(○は1つ)

【進学】

1. 全日制の高等学校
2. 定時制の高等学校（チャレンジスクール含む）
3. 通信制の高等学校（通信制サポート校含む）
4. 特別支援学校高等部・高等特別支援学校
5. その他の学校（具体的に：_____）

【進学以外】

6. 就職（パートやアルバイト）
7. 就職（正社員）
8. 家業や家の手伝い
9. その他

問 11 お子さんは現在、次のいずれかの学校に通っていますか。(○は1つ)

1. 全日制の高等学校
2. 定時制の高等学校（チャレンジスクール含む）
3. 通信制の高等学校（通信制サポート校含む）
4. 専門学校
5. 特別支援学校高等部・高等特別支援学校
6. 短大・大学
7. その他の学校（具体的に：_____）
8. 学校には通っていない（高等学校などを卒業した方を含む）

問 12 お子さんは現在、何か仕事をしていますか。(○は1つ)

1. とくに仕事はしていない
2. パートやアルバイトではたらいている
3. 正社員ではたらいている
4. その他（具体的に：_____）

問 13 お子さんの現在の様子についてお聞きします。a～i のようなことは、どのくらいありますか。
(それぞれ、○は1つ)

	よくある	ときどき ある	あまり ない	全くない	わから ない
a. 落ち込んだり悩んだりしている	1	2	3	4	5
b. 原因がはっきりしない腹痛、頭痛、発熱などがある	1	2	3	4	5
c. 家族への強い反抗や暴力がある	1	2	3	4	5
d. インターネットやゲームを一日中している	1	2	3	4	5
e. 生活リズムが整っていない	1	2	3	4	5
f. 無気力な様子である	1	2	3	4	5
g. 部屋にとじこもりがちで家族との関わりが少ない	1	2	3	4	5
h. 外出が少なく他人との関わりが少ない	1	2	3	4	5
i. インターネットやSNSを通じて知り合った人と交流をしている	1	2	3	4	5

問 14 現在、またはこれからの生活において、お子さんに関する次のようなことについて、保護者の
方ご自身が、誰かに相談できたり、手助けなどがあればいいのと思うことはありますか。
(○はいくつでも)

1. 進学について 2. 人間関係について 3. 仕事につくことについて 4. 学校の勉強について 5. 自分の気持ちをはっきりと表現したり、人とうまくつきあったりするための方法について 6. 友人と知り合えたり、仲間と過ごせたりする居場所について 7. 心の悩みを相談する場所について 8. 規則正しい生活習慣について 9. その他（具体的に： _____） 10. とくにない

ご協力ありがとうございました。アンケートはこれで終了です。

12月21日（火曜日）までに、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて郵便ポストにご投函いただくか、
スマートフォンなどからウェブ上での回答をお願いします。

安心な学校づくりのための追加アンケート

練馬区立中学校卒業生ご本人用追加アンケート

ご回答にあたって

- このアンケートは、令和3年（2021年）12月に実施した「安心な学校づくりのためのアンケート」で、追加のアンケートに協力できると回答いただいた方に、学校を休みがちだった時のことや、今の生活についてももう少しお話をお聞きするためのものです。
- アンケートは、この用紙で回答する方法と、スマートフォンやパソコンなどから回答する方法のどちらかで回答することができます。スマートフォンなどから回答する場合は、次の URL または二次元バーコードからアクセスしてください。また、回答用のパスワードは、次のものを入力してください。

URL :

パスワード :

■ 回答内容は、個人が特定できないかたちで集計します。
- 令和4年（2022年）3月2日（水曜日）までに回答をお願いします。この用紙で回答した場合は、「返信用封筒」に入れて、郵便ポストにご投函ください（切手を貼る必要はありません）。

【お問合せ先】

練馬区立学校教育支援センター 研究相談係

Tel : 03-6385-9911 （月～金 8:30～17:15） ※祝日を除きます

E-mail : EDCENT@city.nerima.tokyo.jp

かいとう ほうほう ご回答の方法について

- かいとう つぎ はじ しつもん ばんごう
回答は、次のページから始まる質問をよんで、あてはまる番号に○をつけるか、すうじ ぶんしょう きにゆう
数字や文章で記入し
てください。(スマートフォンなどでかいとう ばあい が めんじょう かいとう えら すうじ ぶんしょう にゆうりよく
回答する場合は、画面上で回答を選ぶか、数字や文章を入力
してください。)
- こじん とくてい がっこう せんせい しめい きにゆう
個人が特定されるようなこと(学校の先生の氏名など)は記入しないでください。
- こた しつもん こた ひつよう こた おも ばあい こた しつもん
答えたくない質問は、答える必要はありません。答えが思いうかばない場合や答えたくない質問は、
こた つぎ すす
答えずに次に進んでください。
- かいとう わく う ひつよう
回答の枠をすべて埋める必要はありません。

→ つぎ しつもん はじ
次のページから、質問が始まります。

ちゅうがくせい とき き
あなたが中学生だった時のことについてお聞きします

問 1 あなたが学校を休み始めた時のきっかけや理由はどのようなことでしたか。できるだけ具体的に教えてください。

問 2 あなたが学校をよく休んでいたところに、不安だったり困ったりしていたことがあれば、教えてください。

例：・学校を休んでいた期間は勉強をあまりしていなかったので、進路に関する不安があった。
・将来のことを考えると不安でとても孤独だった。腹痛があって体調もずっと悪かった。

問 3 あなたが学校をよく休んでいたころを振り返って、「あの時にこのような手助けがほしかった」と思うことがあれば、教えてください。

例：・家や学校以外で一人でゆっくり過ごせる居場所があればよかった。
・不安な時に気軽に電子メールや SNS などで相談してアドバイスが欲しかった。

問 4 中学校3年生の時、あなたは次のような相談や場所を利用しましたか。相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。（複数のページに分かれます。）
 （相談・利用の有無についてはどちらかに○を1つ。さらに、それぞれ相談・利用したものについては①～④も回答してください。）

相談した相手・利用した場所	相談・利用の有無 (どちらか1つに○)	相談・利用した場合	
		①週に 何日くらい 利用して いたか	②相談・利用したきっかけや目的 (どのようにして知りましたか、 なぜ利用しましたか)
記入例	①. した 2. しなかった	週に 2 日	例:・親にすすめられた。高校進学を考え、生活リズムを整えながら、自分のペースで学習に取り組もうと思って利用した。
1. 保健室や相談室などの 別室登校	1. 利用した 2. 利用しな かった	週に 日	
2. スクールカウンセラー・ 心のふれあい相談員への相談	1. 相談した 2. 相談しな かった		
3. 適応指導教室（トライ）	1. 利用した 2. 利用しな かった	週に 日	
4. 民間施設 （「フリースクール」と 呼ばれる場所など）	1. 利用した 2. 利用しな かった	週に 日	
5. スクールソーシャルワーカー への相談	1. 相談した 2. 相談しな かった		

次のページに続きます。

「適応指導教室（トライ）」を「利用しなかった」と回答した場合

問 4-1 あなたが、適応指導教室（トライ）を利用しなかった理由を教えてください。

例:・トライの存在を知らなかった。
 ・同年代の子に会いたくなかったから行こうと思わなかった。

- 答えたくない質問は、答える必要はありません。 答えが思いうかばない場合や答えたくない質問は、答えずに次に進んでください。
- 回答の枠をすべて埋める必要はありません。 あなたご自身に関係のあるものだけ、お答えください。

相談・利用した場合

③相談・利用してよかったと思うこと

④相談・利用したが、よくなかったと思うこと

例：・学 習 の支援を受けて勉 強し、高校に進学することができた。また、通うために朝起きるなど生活リズムもととのったと思う。

例：・同じ学校の生徒と会うのが嫌だった。

げんざい き
現在までのことについてお聞きします

問 5 現在までの間に、次のような方法で勉強や相談等をしたことがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 配信された授業などの動画を好きなときに視聴する
2. デジタル教材や学習アプリを使って学習する
3. オンライン授業にリアルタイムで参加する
4. SNS、電子メール、電話などを用いて助言をしてもらいながら家庭で勉強する
5. その他のインターネット上の教育サービスを使って勉強する
6. SNS で悩みごと等を相談する
7. 上のような方法での勉強や相談等をしたことがない ⇒問6へ

1～6のいずれかに○をつけた場合

問 5-1 上記の問5で回答いただいたような ICT 機器（スマートフォン、タブレット、パソコン等）を活用した勉強や相談等のサービスについて、どのような使い方があなたに合っていると思いますか。使ってみてよかったものや、よかった点について、できるだけ具体的に教えてください。

例：・配信された授業の動画は、自分のペースで休憩しながらみることができるのでよかった。
・学習アプリは自分がわからない内容を振り返りながら繰り返し勉強ができるのでよかった。
・学校や教室に行かなくてもオンラインで授業に参加できるツールを使ったことがあるが、ひとめを気にすることなく授業に集中できた。

問 6 中学校を卒業してから現在までに、誰かに相談したいと思ったり、手助けなどがあればいいの
に思ったりしたことはありますか。(どちらか1つに○)

1. ある ⇒ 問6-1へ

2. ない ⇒ 問8へ

問 6-1 答えられる範囲で、その内容を教えてください。

問 6-2 上記の問6-1で回答いただいたことについて、実際に誰かに(どこかに)相談しましたか。(どちらか1つに○)

※問6-1で複数のことを書いた方は、どれか1つでも誰かに(どこかに)相談した場合、1「相談した」に回答してください。

1. 相談した ⇒ 問6-3へ

2. 相談しなかった ⇒ 問7へ

問 6-3 誰に(どこに)相談しましたか。また、相談した結果について、それぞれの相談先ごとに教えてください。⇒ 次は問8へ

※相談先の例：家族、友人・知人、恋人、学校の先生や保健室の先生、スクールカウンセラー、
ユースソーシャルワーカー、地域若者サポートステーション、支援団体のSNS など

※特に、学校や支援機関に相談したことがある場合は、そのことについて教えてください。

相談先	相談した結果について

問 7 問6-1で回答いただいたことについて、相談したいと思ったり、手助けなどがあればいいの
に思ったりしたのに、相談しなかった理由があれば、教えてください。

例：・誰かに相談を行うことに抵抗があったから。
・誰に（どこに）相談すればよいのかわからなかったから。

問 8 全体として、あなたの生活は、中学校3年生の時とくらべて良くなったと思いますか。
(○は1つ)

1. 良くなった 2. 悪くなった 3. 変わらない

↓
1 または 2 に ○ を つ け た 場 合

問 8-1 どのようなことが良くなった、または悪くなったと思いますか。また、どうしてその
ようになったと思いますか。

例：・高校に楽しく通っている。信頼できる先生がいて、クラスの雰囲気もよく友達もできたから。

しょうらい せいかつ き
将 来の生活についてお聞きします

問 9 これから5年程度の期間で、進路や就職、生活のことなどについて、現時点の目標や希望があれば教えてください。

問 9-1 上記の問9で回答いただいた目標や希望を実現するために、「このような手助けが欲しい」ということがありましたら、教えてください。

きょうりょく
ご協力ありがとうございました。アンケートはこれで終了です。

がつ にち すいようび へんしんようふうとう きってふよう い ゆうびん とうかん
3月2日（水曜日）までに、返信用封筒（切手不要）に入れて郵便ポストにご投函いただくか、
スマートフォンなどからウェブ上での回答をお願いします。

あんしん がっこう 安心な学校づくりのためのインタビュー ちょうさ 調査

ほんじつ 本日はインタビュー調査にご協力いただき、ありがとうございます。あんしん がっこう 安心な学校づくりのため、こた 答えられる範囲で構いませんので、ちゅうがくせい 中学生だった時のことなどについておしえていただければと思います。

インタビューの内容は録音（録画）させていただきますが、きろく さくせいご 記録の作成後は、データはかくじつ さくじょ 確実に削除します。ご回答いただいた内容は個人が特定されないようしよう 使用いたします。

インタビュー調査の実施概要

インタビュー日時	2022 年 月 日 ()	
インタビュー場所		
実施者	練馬区立学校教育支援センター	
	株式会社浜銀総合研究所	
	上記以外	
インタビューに対応いただいた方のことなど	お名前	
	年齢（中学を卒業してからの年数）	
	現在の学校やお仕事	
	その他のこと	

ちゅうがくせい とき 中学生だった時のことについて

(1) ちゅうがっこう ねんせい とき 中学校3年生の時は、どのようにすごしていましたか。

--

(2) 学校を休み始めたときのきっかけや理由^{りゆう}はどのようなことでしたか。

(参考：12月のアンケートでの選択肢^{せんたくし})

【学校^{がっこう}のこと】

1. 友達^{ともだち}のこと（いやがらせや、いじめがあった）
2. 友達^{ともだち}のこと（いやがらせやいじめ以外、友達^{いがい}がいなかった、友達^{ともだち}が転校^{てんこう}したなど）
3. 先生^{せんせい}のこと（合わなかった、怖^{こわ}かったなど）
4. 勉強^{べんきょう}のこと（勉強^{べんきょう}がわからなかった、授業^{じゅぎょう}がつまらなかった、成績^{せいせき}がよくなかったなど）
5. 部活動^{ぶかつどう}の問題^{もんだい}（合わなかった、同じ部活動^{おなぶかつどう}の友達^{ともだち}とうまくいかなかった、試合^{しあい}に出場^{しゅつじょう}できなかったなど）
6. 学校^{がっこう}のきまりなどの問題^{もんだい}（きびしかった、制服^{せいふく}や持ち物^{もちもの}のことなど自由^{じゆう}がなかった）
7. 学校^{がっこう}やクラスに合わなかった
8. それ以外^{いがい}の理由^{りゆう}で学校生活^{がっこうせいかつ}と合わなかった
（具体的に：）

【学校以外^{がっこういがい}のこと】

9. 家族^{かぞく}のこと（親^{おや}と仲^{なか}が悪^{わる}かった、親^{おや}に怒^{おこ}られたなど）
10. 親^{おや}の学校^{がっこう}に対する考^{たい}え（親^{おや}がそもそも学校^{がっこう}に行く必要^{ひつよう}はないと考^{かんが}えていたなど）
11. 家族^{かぞく}の世話^{せわ}や家事^{かじ}が忙^{いそが}しかった
12. 身体^{しんたい}の不調^{ふちょう}（朝起^{あさ}きられなかった、学校^{がっこう}に行こうとするとおなか^{いた}が痛^{いた}くなったなど）
13. インターネット、ゲーム、動画視聴^{どうがしちょう}、SNS（LINEやツイッターなど）などの影響^{えいきょう}
14. なぜ学校^{がっこう}に行かなくてはならないのかがわからなかった
15. その他^た（具体的に：）
16. 特^{とく}にきっかけはない、または、わからない

(3) 学校をよく休んでいたところに、不安だったり困ったりしていたことがあれば、教えてください。

例：・学校を休んでいた期間は勉強をあまりしていなかったので、進路に関する不安があった。
・将来のことを考えると不安でとても孤独だった。腹痛があって体調もずっと悪かった。

(4) 学校をよく休んでいたところを振り返って、「あの時にこのような手助けがほしかった」と思うことがあれば、教えてください。

例：・家や学校以外で一人でゆっくり過ごせる居場所があればよかった。
・不安な時に気軽に電子メールやSNSなどで相談してアドバイスが欲しかった。

(5) 中学校3年生のとき、あなたは次のような相談や場所を利用しましたか。

「保健室や相談室などの別室登校」、「適応指導教室（トライ）」、「民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）」を利用していた場合は、それらの場所を、多い時に週に何日くらい利用していたかも教えてください。

- | | |
|---------------------------|----------|
| ●保健室や相談室などの別室登校 | → 週に（ ）日 |
| ●スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談 | |
| ●適応指導教室（トライ） | → 週に（ ）日 |
| ●民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など） | → 週に（ ）日 |
| ●スクールソーシャルワーカーへの相談 | |

※「適応指導教室（トライ）」を利用しなかった場合

(5-1) 適応指導教室（トライ）を利用しなかった理由を教えてください。

(5-2) 相談・利用したものについて、相談・利用したきっかけや目的を教えてください。
(どのように知りましたか、なぜ利用しましたか)

(5-3) ^{そうだん}相談・^{りよう}利用して、よかったと思うことを^{おし}教えてください。また、^{そうだん}相談・^{りよう}利用したが、
よくなかったと思うことがあれば、その^{おち}内容を^{ないよう}教えてください。

(^{そうだん}相談や^{ばしょ}場所を^{りよう}利用してよかったと思うこと)

(^{そうだん}相談や^{ばしょ}場所を^{りよう}利用したけれどよくなかったと思うこと)

げんざい き
現在までのことについてお聞きします

(6) げんざい あいだ つぎ ほうほう べんきょう そうだんとう
現在までの間に、次のような方法で勉強や相談等をしたことがありますか。

- はいしん じゅぎょう どうが す しちょう
配信された授業などの動画を好きなときに視聴する
- デジタル教材や学習アプリを使って学習する
きょうざい がくしゅう つか がくしゅう
- オンライン授業にリアルタイムで参加する
じゅぎょう さんか
- SNS、電子メール、電話などを用いて助言をしてもらいながら家庭で勉強する
でんし でんわ もち じょげん かてい べんきょう
- その他のインターネット上の教育サービスを使って勉強する
た じょう きょういく つか べんきょう
- SNS で悩みごと等を相談する
なや とく そうだん

(6-1) ICT機器 (スマートフォン、タブレット、パソコン等) を活用した勉強や相談等のサービスについて、どのような使い方があなたに合っていると思いますか。使ってみてよかったものや、よかった点について、できるだけ具体的に教えてください。

れい： • はいしん じゅぎょう どうが じぶん きゅうけい
配信された授業の動画は、自分のペースで休憩しながらみることができるのでよかった。
• がくしゅう じぶん ないよう ぶ かえ べんきょう
学習アプリは自分がわからない内容を振り返りながら繰り返し勉強ができるのでよかった。
• がっこう きょうしつ い じゅぎょう さんか
学校や教室に行かなくてもオンラインで授業に参加できるツールを使ったことがあるが、ひとめ き じゅぎょう しゅうちゅう
人目を気にすることなく授業に集中できた。

(7) 中学校を卒業してから現在までに、誰かに相談したいと思ったり、手助けなどがあればいいの
に思ったりしたことはありますか。

(7-1) 実際に誰かに（どこかに）相談しましたか。また、相談した結果について、相談先ごとに教えてください。

相談先	相談した結果について

※^{だれ}誰かに（どこかに）^{そうだん}相談しなかった^{ばあい}場合

（７－２）^{そうだん}相談したいと思ったり、^{おも}手助けなどがあればいいのにと^{てだす}思ったりしたのに、^{おも}相談しなかった^{そうだん}理由があれば、^{おし}教えてください。

例：^{れい}・^{だれ}誰かに^{そうだん}相談を^{おこな}行うことに^{ていこう}抵抗があったから。
・^{だれ}誰に（どこに）^{そうだん}相談すればよいのかわからなかったから。

（８）^{ぜんたい}全体として、あなたの^{せいかつ}生活は、^{ちゅうがっこう}中学校^{ねんせい}３年生の時とくらべて^よ良くなったと思いませんか。

^{とく}特に、どのようなことが^よ良くなった、または^{わる}悪くなったと思いませんか。

また、どうしてそのようになったと思いませんか。

例：^{れい}・^{こうこう}高校に^{たの}楽しく^{かよ}通っている。^{しんらい}信頼できる^{せんせい}先生がいて、^{ふんいき}クラスの雰囲気もよく^{ともだち}友達もできたから。

しょうらい せいかつ き
将 来の生活についてお聞きします

(9) これから5年^{ねんていど}程度の^{きかん}期間で、進路^{しんろ}や就 職^{しゅうしょく}、生活^{せいかつ}のことなどについて、現時点^{げんじてん}の目 標^{もくひょう}や希望^{きぼう}があれば^{おし}教えてください。

(9-1) 目 標^{もくひょう}や希望^{きぼう}を実現^{じつげん}するために、「このような手助け^{てだす}が欲しい^ほ」ということがありましたら、^{おし}教えてください。

【校長・副校長対象】不登校児童生徒への対応に関する学校アンケート

◎このアンケートは、学校で1つ提出してください。

◎このアンケートにおける「不登校」とは、「何らかの心理的、情緒的、あるいは社会的要因・背景により児童生徒が登校しないあるいはしたくてもできない状況にある者（ただし「病気」や「経済的な理由」を除く。）」を指します。（「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の定義と同じです。）

学校名を教えてください。

選択

1 今年度の学校体制についてお聞きます。不登校児童生徒を支援を目的とした会議を行っていますか。（生活指導全般に関わる会議において、不登校児童生徒の支援に関する内容を取り扱っている場合も含む）

- ☐ 定期的に行っている
- ☐ 必要があるときに行っている
- ☐ 行っていない

① 「行っている」「必要があるときに行っている」と回答した学校にお聞きします。上記会議の開催頻度を教えてください。

- ☐ 週1回程度
- ☐ 2週間に1回程度
- ☐ 月1回程度
- ☐ 学期に1回程度
- ☐ 不定期（緊急性があるときに等）
- ☐ その他:

② 「行っていない」と回答した学校にお聞きします。行っていない理由を教えてください。

- ☐ 現在、不登校児童生徒がいないため
- ☐ 会議等の時間がなく、実施が難しいため
- ☐ 校内での報告・連絡・調整等の体制が整っているため
- ☐ その他:

2 貴校の教育相談体制（相談室等の利用やスクールカウンセラー等の紹介）を保護者へ周知している場合の主な方法を教えてください。（複数回答可）

- ☐ 保護者会等での周知
- ☐ 学校だより等による配布物での周知
- ☐ 個別に相談を受けた際に伝える
- ☐ 特段周知はしていない

3 児童生徒から個別に相談を受けた際の対応方法について教えてください。
(複数回答可)

- ☐ 相談を受けた者が、関係者に報告・連絡・相談し、対応する
- ☐ スクールカウンセラーや心のふれあい相談員などを紹介する
- ☐ 保護者と連携し問題解決に向けて対応する
- ☐ 緊急性がない場合は、見守りなどで済ませる
- ☐ その他:

4 不登校児童生徒の対応に係る校内研修を行っていますか。

- ☐ A 実施している
- ☐ B 実施していない

① 「実施している」学校にお聞きします。実施月はいつですか?(複数回行っている場合は、特に力を入れている月で回答してください。)

選択 ▼

② 「実施していない」と回答した学校にお聞きします。実施していない理由を教えてください。

- ☐ 現在、不登校児童生徒がないため
- ☐ 時間の確保が難しいため
- ☐ その他:

③ 児童生徒の「相談する力」を育成するために行っていることを教えてください。（複数回答可）

- ☐ 都や区の研修に教員を参加させている
- ☐ 専門の講師を招へいし、校内研修会等を実施している
- ☐ 都の資料等を基に教員が授業を行っている
- ☐ 学校独自で子どもたちの実情に応じた教材を作成し、実践している
- ☐ スクールカウンセラーや心のふれあい相談員と連携し、個別に対応している
- ☐ その他:

5 校内における教育相談体制の中での、スクールカウンセラー・心のふれあい相談員の働きについて教えてください。

	十分協力してくれている	協力してくれている	もう少し協力してほしい
スクールカウンセラー	☐	☐	☐
心のふれあい相談員	☐	☐	☐

「もう少し協力してほしい」場合に、どのようなことを協力してほしいですか。

回答を入力

6 「外部機関との連携」について教えてください。継続して連携している「外部機関」を教えてください。（複数回答）

- ☐ 学校教育支援センター適応指導教室（トライ・フリーマインド）、ぱれっと、つむぎ
- ☐ 学校教育支援センターのスクールソーシャルワーカー
- ☐ 福祉分野の居場所
- ☐ 教育相談室（練馬・光が丘・大泉・関）
- ☐ 東京都教育相談センター
- ☐ 練馬区の子ども家庭支援センター
- ☐ 練馬区の子ども発達支援センター
- ☐ 療育施設
- ☐ 児童相談所
- ☐ 警察（スクールサポーター含）
- ☐ 裁判所・少年鑑別所
- ☐ フリースクール等の民間施設
- ☐ その他:

7 外部機関との連携を意識する（相談する）きっかけを教えてください。（2つまで選択可）

- ☐ 校内の会議で、該当児童生徒への支援方針が固まったとき
- ☐ 該当児童生徒の言動等に不安を感じたとき
- ☐ 学校だけの対応だけでは、厳しい状況になったとき（教師の負担感の増加も含む）
- ☐ 該当児童生徒または保護者から要請があったとき
- ☐ その他:

8 不登校状態が継続している児童生徒に対する学習保障について、貴校で実施している内容について教えてください。（複数選択可）

- ☐ 別室登校（保健室登校）
- ☐ オンライン授業（ライブ配信）
- ☐ 放課後登校
- ☐ 学校からの課題配布
- ☐ 特に実施していない
- ☐ その他:

【教員対象】不登校児童生徒の対応に関するアンケート

- ◎回答したことによって、個人の特定はされません。（匿名集計されます）
- ◎このアンケートにおける「不登校」とは、「何らかの心理的、情緒的、あるいは社会的要因・背景により児童生徒が登校しないあるいはしたくてもできない状況にある者（ただし「病気」や「経済的な理由」を除く。）」を指します。（「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の定義と同じです。）

1 不登校を生じさせないための「未然防止」の視点で、大切だと思うものを教えてください。（複数回答可）

- ☐ 学校やクラスが、児童生徒にとって落ち着ける場所にあること
- ☐ 児童生徒が主体となり、日々の授業や行事などで全員が活躍し、認められる場や機会があること
- ☐ 子どもたち同士のきずなづくり（場や機会をつくる）
- ☐ 子どもたちにとって「分かる授業」「楽しい授業」を目指すこと
- ☐ 関係する児童生徒の情報収集（引き継ぎの充実など）
- ☐ その他:

2 これまで、不登校児童生徒の対応に関わったことはありますか。

- ☐ 有
- ☐ 無



3 ご自身が教師（養護教諭含）として不登校児童生徒の対応をする際、課題だ
と思うことにチェックを入れてください。対応したことがない方は、ご自身の考
えを教えてください。（複数回答可）

- ☐ 該当児童生徒に対する学習課題の準備
- ☐ 該当児童生徒に対応するための時間の確保
- ☐ 該当児童生徒とのコミュニケーションの取り方
- ☐ 進路(進学)相談
- ☐ 保護者との連携
- ☐ その他:

4 不登校児童生徒への「初期対応」の時点で行う内容について「必要がある」
と思うものを選んでください。（複数回答可）

- ☐ 定期的な電話連絡
- ☐ 家庭訪問
- ☐ 学習課題や手紙などを届ける
- ☐ オンライン授業（授業のライブ配信）
- ☐ 別室登校（学校での個別対応）
- ☐ 放課後登校
- ☐ スクールカウンセラーや心のふれあい相談員との面談
- ☐ スクールソーシャルワーカーによる支援
- ☐ 適応指導教室などの利用
- ☐ フリースクールなど多様な学び場や機会があることを伝える
- ☐ 休み始めてから2～3週間程度は、何もせず見守る



☐ その他:

5 「中・長期化」した不登校児童生徒への対応として、「必要がある」と思うものを選んでください。（複数回答可）

- ☐ 定期的な電話連絡
- ☐ 家庭訪問
- ☐ 学習課題や手紙などを届ける
- ☐ オンライン授業（授業のライブ配信）
- ☐ 別室登校（学校での個別対応）
- ☐ 放課後登校
- ☐ スクールカウンセラーや心のふれあい相談員との面談
- ☐ スクールソーシャルワーカーによる支援
- ☐ 適応指導教室などの利用
- ☐ フリースクールなど多様な学び場や機会があることを伝える
- ☐ その他:

6 不登校児童生徒への対応として、「必要ある」と考えるものを選んでください。（複数回答可）

- ☐ 教員同士による情報交換
- ☐ 教師等が悩んだときに相談できる相手や時間の確保
- ☐ 校内におけるマニュアル等の作成・整備
- ☐ 複数の教員で支援にあたる校内体制づくり
- ☐ 別室登校等、多様な学習機会の確保
- ☐ 学習支援アプリ等の更なる充実
- ☐ その他:



7 勤務している校種を教えてください。

☐ 小学校

☐ 中学校

8 今年度末時点での年齢を教えてください。

☐ 20代

☐ 30代

☐ 40代

☐ 50代

☐ 60代

送信



練馬区の不登校児童生徒が通う民間の団体・施設に関するアンケート

ご記入にあたって

- 特に指定がない場合は、令和４年６月時点の状況についてお答えください。
- 複数の施設・場所があり、質問中に特に指定がない場合は、練馬区立小中学校に在籍している児童生徒が通っている（または通っていた）施設・場所について回答してください。
- 回答は、枠の中に文字や数字を記入するか、あてはまるものにチェックをしてください。
- お答えづらい質問には、お答えいただく必要はありません。

返送・お問い合わせ先

- 調査票ファイルに回答を入力・保存後、**6月22日（水）まで**に、記入済のファイルを練馬区立学校教育支援センターに電子メールで送付してください（郵送させていただいた団体様は返信用封筒をご利用ください）。

【返送先】練馬区立学校教育支援センター 研究相談係

【メールアドレス】 EDCENT@city.nerima.tokyo.jp

【住所】 練馬区光が丘６－４－１

【電話番号】 ０３－６３８５－９９１１（月～金 ８：３０～１７：１５）

1. 団体情報

問1 貴団体について、以下のことを教えてください。					
(フリガナ)					
施設・場所の名称					
〒					
住所① (団体の本拠地)					
〒					
住所② (練馬区の児童生徒が通っている／いた 施設・場所) ※住所①と同じであれば不要					
活動開始年月	西暦		年		月
(フリガナ)					
設置者・団体の名称					
設置者・団体の代表者名					
(フリガナ)					
ご回答者様の氏名 (所属部署) ※ご回答内容に関する確認のみに使用します					
電話番号 (ご回答者様に連絡可能な電話番号)					
メールアドレス (ご回答者様に連絡可能なメールアドレス)					
問2 貴団体の法人格として、次のうちあてはまるものをひとつ選択してください。					
☐	1 特定非営利活動法人 (NPO法人)	☐	5 1～4以外の法人 (社会福祉法人など)		
☐	2 学校法人 (準学校法人を含む)	☐	6 法人格を有しない任意団体		
☐	3 公益社団・財団法人、一般社団・財団法人	☐	7 個人		
☐	4 営利法人 (株式会社等)				
問3 貴団体が活動の情報を発信するために利用しているものをすべて選択してください。					
☐	1 ホームページ	☐	5 Instagram		
☐	2 Twitter	☐	6 YouTube		
☐	3 Facebook	☐	7 その他のSNS等		
☐	4 LINE				

2. 不登校支援に関する活動の概要

問4 貴団体の教育方針や目標について、具体的に教えてください。			
問5 不登校の児童生徒を対象にした活動内容について、貴団体で実施しているものをすべて選択してください。 ※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により現在中止しているものも含めて回答してください。			
☐	1 個別の学習	☐	10 子どもたちによるミーティング
☐	2 授業形式(講義形式)による学習	☐	11 学習成果、演奏や作品などの発表会
☐	3 児童生徒が自宅等で取り組める オンラインを活用した学習	☐	12 居場所提供
☐	4 社会体験（見学、職場体験など）	☐	13 家庭への訪問
☐	5 自然体験（自然観察、農業体験など）	☐	14 相談・カウンセリング
☐	6 調理体験（昼食づくりなど）	☐	15 受験勉強
☐	7 芸術活動（音楽、美術、工芸など）	☐	16 就労訓練
☐	8 スポーツ活動	☐	17 保護者会、親の会
☐	9 宿泊体験	☐	18 その他の特色ある活動
問6 不登校の児童生徒を対象にした学習に関して、貴団体では学習カリキュラムを決めていますか。			
☐	1 学習カリキュラムを決めている	☐	2 学習カリキュラムを決めていない
問7 不登校の児童生徒を対象にした学習に関して、使用している教材の種類をすべて選択してください。			
☐	1 教科書		
☐	2 市販の教材		
☐	3 デジタル教材や学習支援アプリなど I C Tを活用した教材		
☐	4 団体・施設またはスタッフが独自に作成・用意したもの		
☐	5 その他（右枠内に記入）		
問8 貴団体の活動形態について、あてはまるものをすべて選択してください。			
☐	1 通所型	☐	3 訪問型
☐	2 宿泊型	☐	4 オンライン

問9 週当たりの開所日数について教えてください。															
							日								
問10 貴団体が通常開所している曜日について、すべて選択してください。															
☐	1 月曜日		☐	3 水曜日		☐	5 金曜日		☐	7 日曜日					
☐	2 火曜日		☐	4 木曜日		☐	6 土曜日								
問11 1日の開所時間について教えてください。															
開所時刻				時			分	閉所時刻				時			分
問12 貴団体に特に力を入れている支援について、特にあてはまるものを 最大で3つまで 選択してください。															
☐	1 学力に対する支援														
☐	2 進学に対する支援														
☐	3 キャリア形成に対する支援														
☐	4 発達障害に対する支援														
☐	5 カウンセリング、心理面に対する支援														
☐	6 ひきこもりがちな子どもへの訪問対応														
☐	7 独自の理念や方針による特色ある教育活動														
☐	8 学校以外の居場所対応														
☐	9 その他														
☐	10 あてはまるものはない														
問13 受け入れ対象年齢について教えてください。															
下限				歳	☐	対象年齢の下限は決まっていない									
上限				歳	☐	対象年齢の上限は決まっていない									
問14 年齢以外に受け入れる子ども・家庭等の条件があれば、具体的に教えてください。															

令和4年3月時点で、受け入れていた子どもの人数について、それぞれ教えてください。

- 問15 ※②、③について、正確な人数を把握されていない場合は、「わからない」を選択してください。
「わからない」を選択された場合でも、それぞれの学年の人数について、わかる範囲で教えてください。

	① 受け入れ人数全体		② ①のうち練馬区立小中学校に在籍していた人数		③ ②のうち出席扱いとなっていた人数	
		人		人		人
	小学1年生		人		人	
小学2年生		人		人		人
小学3年生		人		人		人
小学4年生		人		人		人
小学5年生		人		人		人
小学6年生		人		人		人
中学1年生		人		人		人
中学2年生		人		人		人
中学3年生		人		人		人
その他の子ども (高校生年代以上)		人	/		/	
			☐	わからない	☐	わからない

問16 貴団体に受け入れている子どもは、平均で週に何日程度、貴団体を利用していますか。

週に	日程度
----	-----

貴団体に徴収している1か月あたりの会費（授業料）の金額について、あてはまるものをひとつ選択してください。

- 問17 ※利用する頻度によって金額が変わる場合は、問16で回答いただいた頻度で貴団体を利用した場合にかかる金額を回答してください。
※会費について補足等がある場合は、備考欄にお書きください。

☐	1 会費を徴収していない	☐	5 30,001円～40,000円
☐	2 10,000円以下	☐	6 40,001円～50,000円
☐	3 10,001円～20,000円	☐	7 50,001円以上
☐	4 20,001円～30,000円		

備考	
----	--

問18 入会金の金額を教えてください。 ※入会金を徴収していない場合は、0円と記入してください。			
			円
問19 貴団体では、会費（授業料）、入会金以外の納付金を徴収していますか。			
☐	1 会費、入会金以外の納付金がある	☐	2 会費、入会金以外の納付金はない
問20 貴団体には、会費（授業料）の減免制度がありますか。			
☐	1 会費の減免制度がある	☐	2 会費の減免制度はない
活動に関わっているスタッフの人数について、それぞれ教えてください。 問21 ※複数の施設・場所がある場合は、練馬区立小中学校に在籍している児童生徒が通っている（または通っていた）施設・場所について回答してください（以降の質問でも同様）。			
週5日以上勤務の方	有給の方		人
	無給の方		人
週5日未満勤務の方	有給の方		人
	無給の方		人
うち、学生ボランティアの人数（有給・無給にかかわらず）			人
問22 活動に関わっているスタッフについて、以下の資格をお持ちの方の人数をそれぞれ教えてください。			
1 教員免許（小・中・高）保有者			人
うち、教員経験あり			人
2 心理に関する専門的な資格保有者（臨床心理士等）			人
3 福祉に関する専門的な資格保有者（社会福祉士、精神保健福祉士等）			人
4 上記以外の専門的な資格保有者（医師、看護師等）			人
問23 貴団体には、不登校の児童生徒が利用できる常設の施設がありますか。			
☐	1 常設の施設あり（借用している場合も含む）		
☐	2 常設の施設なし（活動の際に、公共または民間の施設を利用している）		

3. 利用者の進路に関する状況

貴団体を利用していた生徒の中で、令和4年3月で中学校を卒業（義務教育を終了）した方は何人いますか。 問24 ※令和4年3月に中学校を卒業した方がいない場合は、0人と回答し、問25に進んでください。 ※人数がわからない場合は、「わからない」を選択してください。			
		人	☐ わからない
問24-1 令和4年3月で中学校を卒業（義務教育を終了）した方の中で、以下の進路に進んだ方はそれぞれ何人いましたか。			
1 全日制の高等学校		人	
2 定時制の高等学校（チャレンジスクール含む）		人	
3 通信制の高等学校（通信制サポート校含む）		人	
4 特別支援学校高等部・高等特別支援学校		人	
5 その他の学校		人	
6 就職（パートやアルバイト）		人	
7 就職（正社員）		人	
8 家業や家の手伝い		人	
9 その他		人	
10 不詳		人	
問25 貴団体を利用していた中学生の卒業（義務教育終了）後の進路選択の特徴について、具体的に教えてください。			

4. 学校や行政との連携について

問26 児童生徒の在籍校との連携について、貴団体で実施しているものをすべて選択してください。	
☐	1 通所の実績や支援の状況に関する、定期的な情報共有
☐	2 学校教員の、貴団体への定期的な訪問・見学の受け入れ
☐	3 在籍校への復帰時の児童生徒に関する情報の共有
☐	4 その他（右枠内に記入）
☐	5 上記のような連携は行っていない
【問26で「通所の実績や支援の状況に関する、定期的な情報共有をしている」と回答した場合】 問26-1 児童生徒の在籍校と行っている「通所の実績や支援の状況に関する、定期的な情報共有」について、情報共有の方法や頻度について具体的に教えてください。	
問27	貴団体が教育委員会と連携していることがあれば、連携している自治体名と連携の内容について、具体的に教えてください。
問28 学校や行政と連携を進めるうえで、必要だと思う取組があれば教えてください。	

問29 今年度、行政等から事業の委託を受けていますか。	
☐ 1 行政から事業の委託を受けている	☐ 2 行政から事業の委託を受けていない
【問29で「行政から事業の委託を受けている」と回答した場合】 問29-1 受託している事業について、委託元の自治体名（又は省庁名）や事業名、事業の概要について具体的に教えてください。 複数の事業を受託している場合は、契約金額の高い順に、最大で3つまで記入してください。	
事業1	
事業2	
事業3	

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

練馬区不登校に関する実態調査報告書

令和4年（2022年）11月

編集・発行 練馬区教育委員会事務局 教育振興部

学校教育支援センター

〒179-0072 東京都練馬区光が丘6-4-1

電話 03-6385-9911

調査協力 株式会社 浜銀総合研究所

〒220-8616 神奈川県横浜市西区みなとみらい

3-1-1 横浜銀行本店ビル

電話 045-225-2372